

厚生労働省 令和7年度介護のしごと魅力発信等事業
事業間連携等事業

報告書

令和8年3月

PwCコンサルティング合同会社

要旨

事業の目的

事業間連携等事業は、令和7年度の介護のしごと魅力発信等事業（以下「魅力発信等事業」という）の各事業区分、すなわち

- ・ 情報発信事業（全国へ向けた情報発信事業）
- ・ 情報発信事業（WEBを活用した広報事業）
- ・ 情報発信事業（介護職発信事業）

の各実施主体や「都道府県等の地域単位で実施している魅力発信に係る取組」（以下「都道府県事業」という）の実施主体を連携させ、魅力発信の効果を高めることを目的に実施する。

特に、介護職発信事業については、情報発信の部分为全国に向けた情報発信事業やWEBを活用した広報事業において実施することを念頭に置いていることから、情報発信事業者と介護職発信事業者の連携に積極的に介入し、効果的な発信ができるよう支援する。

また、アンケートやヒアリング調査を通じて、今後、魅力発信等事業においてアプローチすべき対象や効果的な発信方法について考察する。

実施概要

1. 実施内容

本事業では、主として6つの活動を実施した。①魅力発信等事業の実施主体と業界団体・職能団体が情報交換を行う「事業間連携会議」の開催、②情報発信事業の円滑な事業実施のため実務者間の調整を行う「実施主体ミーティング」の開催、③都道府県事業の実施主体等の事業をより効果的に実施するための情報共有イベント「介護のしごと魅力発信サミット」（以下「魅力発信サミット」という）の開催、④魅力発信等事業や都道府県事業のイベント情報等を関係各所に発信する「介護のしごと魅力発信等事業ニュースレター（なるほどカイゴ）」の発行、⑤情報発信事業の事業効果の測定・分析支援、⑥介護の仕事に関するアンケート調査・ヒアリング調査の6つである。

2. 考察と今後の課題

まず、アンケート調査・ヒアリング調査の結果を基に、魅力発信等事業での望ましい発信や協力体制について検討した。

介護の仕事のイメージに関するWEBモニターアンケートの結果からは、介護職自身の言葉を聞いたり、身近な人の生活が介護によって支えられていることを知ったりすることが、ポジティブなイメージの形成に効果的であることが示されている。世間一般では介護そのものや介護職との接点がない人、介護の仕事への関心や仕事内容に関する知識がない人も多いため、介護業界全体として魅力発信を推し進めていく必要があるほか、魅力発信等事業や都道府県事業において発信の回数や規模を広げていくための取組を行うことが望ましい。したがって、今後の魅力発信等事業は、介護職による発信を推進する主体と、介護職による発信を内容にあわせて適切な層にリーチさせることができる主体で連携して魅力発信を進めていく、今年度と類似の体制の継続が望ましいと考えられる。

なお、このような体制で発信・協力を進める場合、実施主体間の連携や業界団体・職能団体との関係性構築、過年度の魅力発信等事業の成果の継承に留意して進める必要がある。そのため、事業間連携等事業においては、実施主体間のコミュニケーション円滑化支援、情報発信事業が行う発信の支援の2つの方向性から、引き続き支援を行う必要があると考えられる。

次に、情報発信事業の事業効果の測定・分析支援について、今年度の取組の成果と課題について考察した。

今年度の成果として、評価の枠組みの周知や事業間連携による効果の可視化、事業効果分析に関するタイムリーな情報把握・フィードバックの実施ができたことが挙げられる。特に、各実施主体が事業内容や成果をまとめるための様式について、今年度は新たに連携による効果を記載する欄を設け、事業間連携により生まれた相乗効果等を一定程度可視化することができた。また、タイムリーな情報把握・フィードバックの実施は令和6年度の課題であったが、年度当初における事業効果分析計画・実績の提出時期の合意、令和7年度に新規参画した実施主体への個別フォロー、各実施主体の企画委員会へのオブザーブ参加により改善することができた。

一方、今年度生じた課題として、事業効果分析に係る実施主体の負荷が挙げられる。そのため、魅力発信等事業における事業効果分析の期待役割の再整理、実施主体のフォローアップ方法・伝え方における工夫、事業効果分析計画・実績記入用フォーマットの更新について、今後検討していく必要があると考えられる。

最後に、事業間連携等事業と自治体の連携に関して、連携がもたらす効果と、連携を推進するために必要と考えられる取組について考察を行った。

事業間連携等事業と自治体の連携による効果として、自治体においては（1）自治体で活用可能なコンテンツ・他自治体の好事例等の獲得、（2）自治体同士または自治体と実施主体のつながりの形成・強化、（3）自治体における魅力発信の取組の拡散といった効果があると考えられる。また、魅力発信等事業の実施主体にとっても、（4）自治体における魅力発信の取組事例やニーズの収集につながる。なお、（3）については、自治体が行う魅力発信の取組のメインターゲットはその自治体の住民であるケースが多いと考えられるため、効果は副次的なものにとどまると考えられる。

これらの効果を高めるため、今後の事業間連携等事業においては、より多くの人に情報を届けるための取組や、魅力発信サミットを具体的な連携につなげるための取組、ニュースレターへの都道府県からの情報提供を増やすための取組等の実施が有効と考えられる。

目次

要旨	i
I. 本事業の概要	1
1. 事業の背景・目的	1
(1) 事業の背景	1
(2) 事業の目的	4
2. 本事業の推進に係る会議等の設置運営	5
(1) 企画委員会の設置運営	5
(2) 評価分析 WG の設置運営	6
3. 実施事業の概要	7
(1) 各事業の連携を図る取組	7
(2) 情報発信事業の事業効果分析に関する取組	8
(3) 介護の仕事に関するアンケート調査およびヒアリング調査	8
II. 実施結果	9
1. 各事業の連携を図る取組	9
(1) 事業間連携会議の開催	9
(2) 実施主体間の連携支援	17
(3) 介護のしごと魅力発信サミットの開催	20
(4) 介護のしごと魅力発信等事業ニュースレターの発行	34
(5) 事業間連携等事業全体に関する取組評価	37
2. 情報発信事業の事業効果分析に関する取組	45
(1) 事業効果分析に関する取組内容	45
(2) 事業効果分析結果	45
3. 介護の仕事に関するアンケート調査およびヒアリング調査	68
(1) 調査概要	68
(2) 調査結果	71
(3) まとめ	121
III. 考察	125
1. 魅力発信等事業における今後の事業間連携や評価	125
(1) 魅力発信等事業での望ましい発信・協力体制	125
(2) 効果的な発信に向けた今後の事業間連携等事業の取組案	128

(3) 今後の評価のあり方	129
2. 事業間連携等事業と自治体の連携	133
(1) 事業間連携等事業と自治体の連携がもたらす効果	133
(2) 自治体との連携を更に推進するための取組案	134
IV. 取りまとめ	137
事業間連携等事業の取組	137
今後の事業間連携等事業の課題・取組案	137
付属資料1. 事業間連携等事業 ロジックモデル・評価デザイン	140
付属資料2. 事業効果分析および報告書作成のポイント解説資料（情報発信事業向け資料）	143
付属資料3. 介護のしごと魅力発信等事業ニュースレター	150
付属資料4. 「介護の仕事に関するアンケート調査」集計表	156
付属資料5. 「介護の仕事に関するヒアリング調査」ヒアリング録	196
別添資料. 情報発信事業 事業効果分析計画・結果一覧	200

I. 本事業の概要

1. 事業の背景・目的

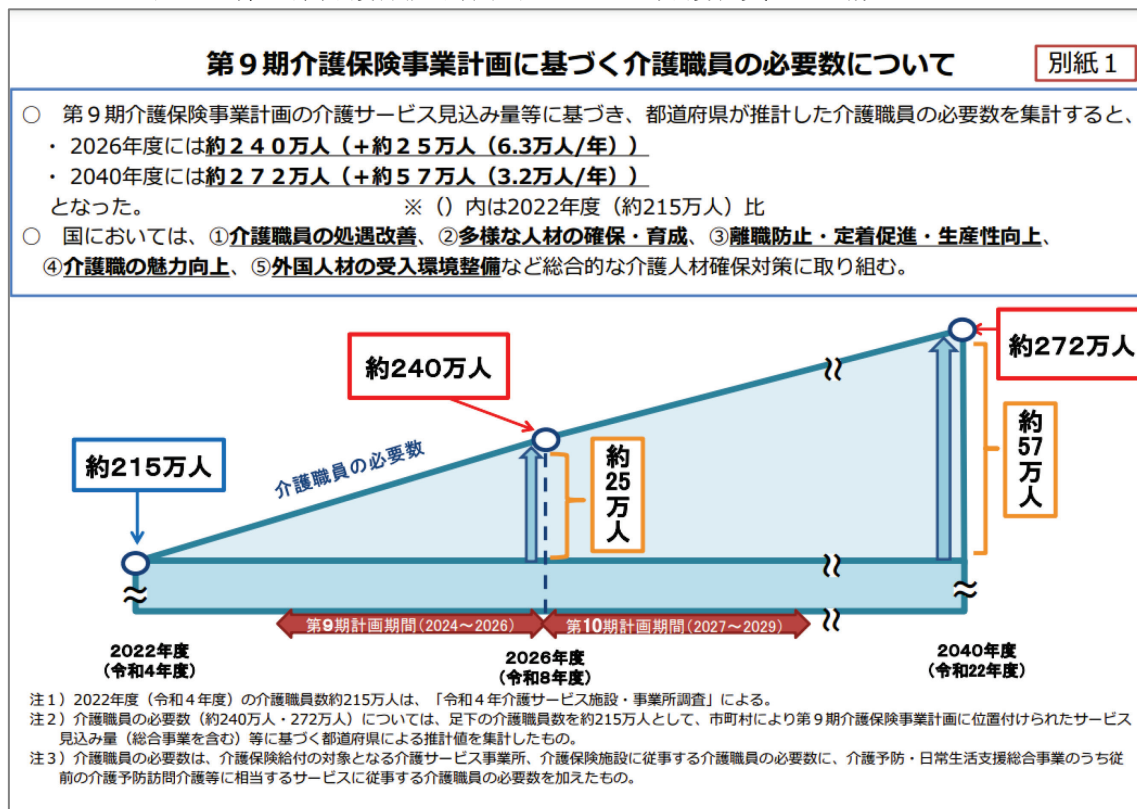
(1) 事業の背景

ア. 魅力発信等事業の実施背景

厚生労働省が令和6年7月に発表した「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」(図1)では、第9期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護職員の必要数を集計し、令和8年度には約240万人、令和22年度には約272万人の介護職員が必要となる見込みであることが示された。令和4年度時点での介護職員数は約215万人であり、将来的に上記必要数を満たすためには介護人材の確保が必要となる。

令和7年12月には「介護職員数の推移の更新(令和6年分)について」(厚生労働省)が公表された。各サービスの介護職員数は令和6年10月1日時点で、約212.6万人(対前年+487人)と集計されている¹。

図1 第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について

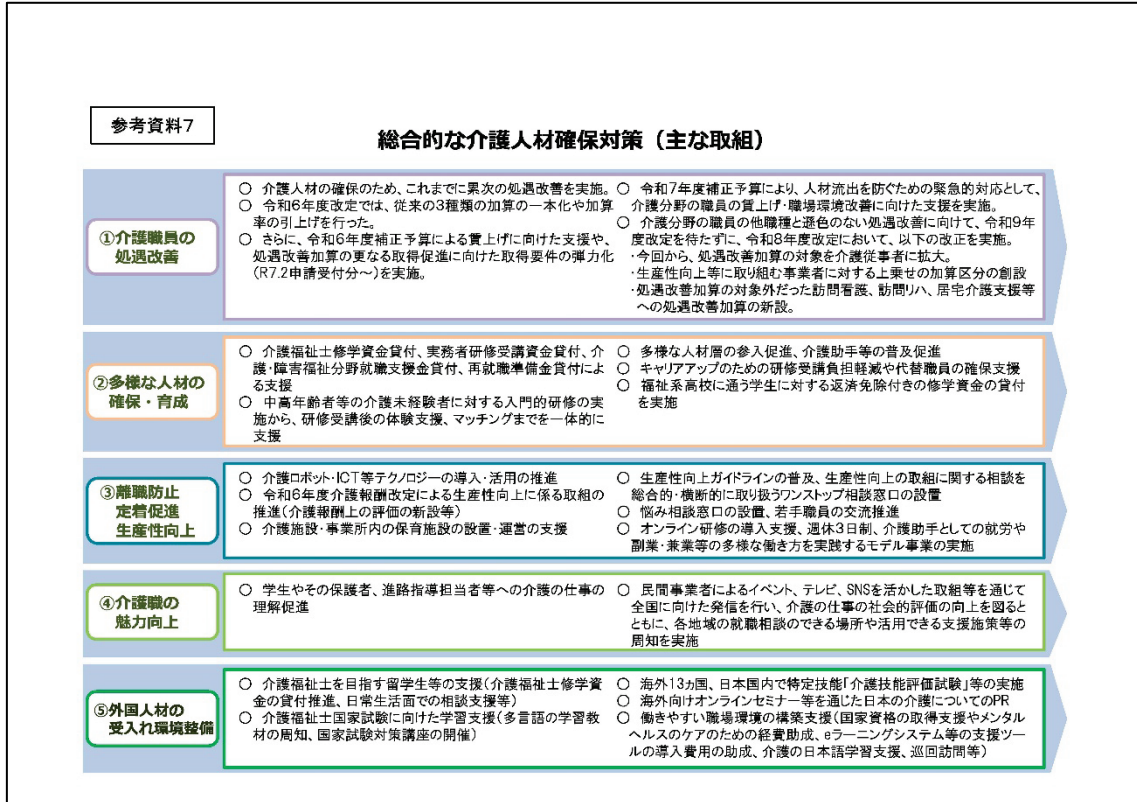


出典：厚生労働省「第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」(令和6年7月)
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_41379.html (最終閲覧：令和8年3月26日)

¹https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_67507.html (最終閲覧：令和8年3月26日)

このような状況を踏まえ、厚生労働省は図 2のとおり、「総合的な介護人材確保対策」として「①介護職員の処遇改善」、「②多様な人材の確保・育成」、「③離職防止・定着促進・生産性向上」、「④介護職の魅力向上」、「⑤外国人材の受入れ環境整備」等に取り組んでいる。

図 2 総合的な介護人材確保対策（主な取組）



出典：厚生労働省「全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料」（令和8年3月）参考資料 7
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001669801.pdf>（最終閲覧：令和8年3月26日）

厚生労働省補助事業である魅力発信等事業は、上記の「総合的な介護人材確保対策」のうち「④介護職の魅力向上」に係る取組として、イベント、テレビ、SNSを活かした取組等を通じて、全国に向けた情報発信を行い、介護の仕事の社会的評価の向上、福祉・介護の仕事の興味関心の喚起、理解促進を図り、その仕事の魅力を感じられるようにすることを目的に令和元年度より実施されてきた。

事業開始以来、魅力発信等事業は効果的な魅力発信を目指し、情報発信先となるターゲット別に事業区分が置かれるなど事業形態を更新しながら実施してきた。令和6年度には、介護職自らが主体となって介護の仕事の魅力等を発信するコンテンツの企画・制作等を行うことを目的として、新たに「情報発信事業（介護職発信事業）」の事業区分が置かれ、令和7年度も同事業区分が維持されている。令和7年度の各事業区分および各事業の主眼は以下のとおり。

① 情報発信事業（全国へ向けた情報発信事業）

多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を深めるとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、イベント、テレビ、WEB等を活かした全国的な波及効果の期待できる取組を通じて、広く国民に向けた情報発信を行う。

- 同事業区分に採択された実施主体

- ・株式会社朝日新聞社
 - ・株式会社マガジンハウス
- ② 情報発信事業（WEBを活用した広報事業）
 多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持つとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、WEB広告等を活用し、介護の日や福祉人材確保重点実施期間等の機会を捉えつつ、年間を通して広く国民に向けて広報を行う。
- 同事業区分に採択された実施主体
 - ・楽天グループ株式会社
- ③ 情報発信事業（介護職発信事業）
 多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持つとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、介護職など自らが主体となり、自らの声で介護の仕事の魅力・やりがい・誇りを発信するコンテンツの企画・制作等を行い、発信力のある①や②の事業者と連携し、広く国民に向けて広報を行う事業。
- 同事業区分に採択された実施主体
 - ・一般社団法人KAiGO PRiDE
 - ・株式会社Blanket
 - ・社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会
- ④ 事業間連携等事業
 情報発信事業の実施主体が、他の実施主体や都道府県事業との連携を図ることなどにより、魅力発信等事業の事業効果の最大化を図ることを目的とする事業。
- 同事業区分に採択された実施主体
 - ・PwCコンサルティング合同会社

イ. 事業間連携等事業の設置背景

魅力発信等事業は令和7年度で8年目²を迎えた事業であり、令和元年度以来、情報発信先となるターゲット別に事業区分が置かれるなど複数の事業により構成されてきた。

これまでの7年間で魅力発信等事業は事業内容を充実させてきたが、過年度事業においては、各事業が独立して運営され、事業区分間での魅力発信の動きの共有が十分でなく、協力が生まれにくかった等の課題があった。この課題を踏まえ、事業間連携等事業は、各事業区分の事業効果を高めるための連携を促進するため令和3年度に設置された。

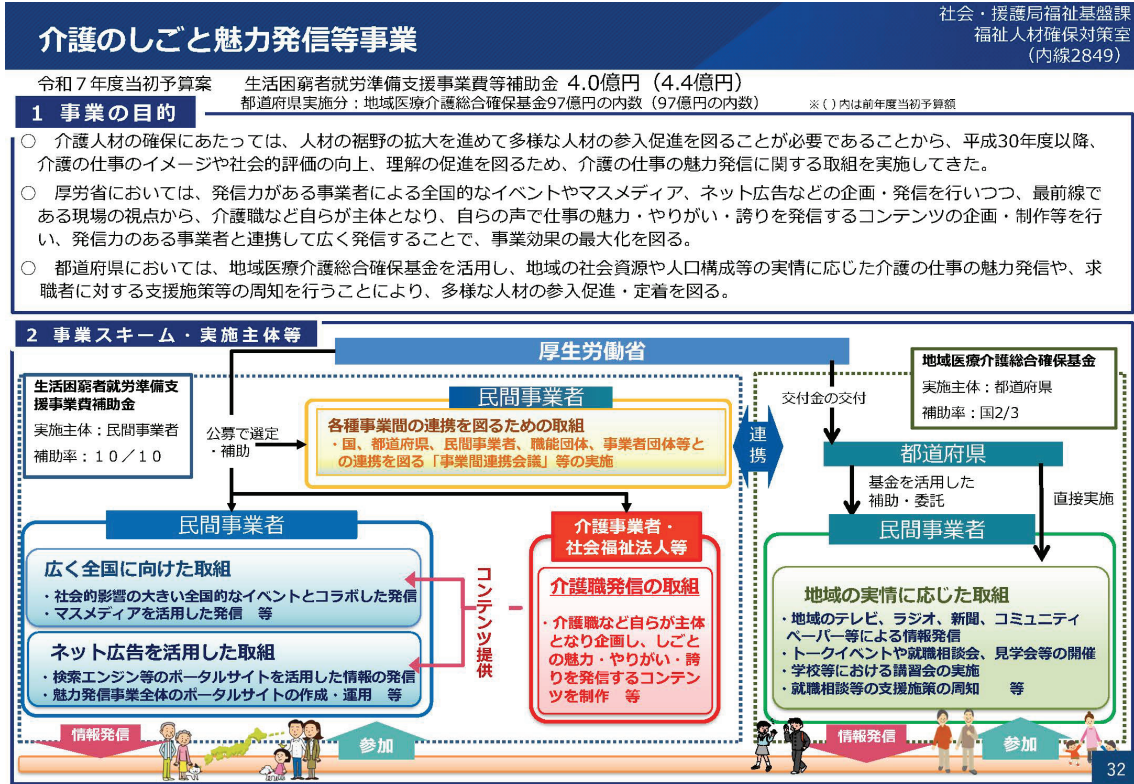
さらに令和4年度には、情報発信事業の実施主体と都道府県事業の連携を図る取組の実施も事業間連携等事業の主眼に位置づけられることとなった。過去7年間の事業の進展に伴い、魅力発信等事業では連携する範囲が「実施主体間」、「実施主体と業界団体・職能団体」、「実施主体と都道府県事業」と広がってきており、令和7年度も維持されている。

² 平成30年度の事業名は「介護職のイメージ刷新等による人材確保対策強化事業」であり、平成31/令和元年度から令和7年度までの事業名は「介護のしごと魅力発信等事業」となっている。

また、令和6年度には情報発信事業（介護職発信事業）が新たな事業区分に追加された。このことを踏まえ、情報発信事業（介護職発信事業）が発信力のある他の事業区分の実施主体と連携して広報を行うことができるよう支援を行うことが求められている。

令和7年度の魅力発信等事業の全体像は図3のとおり。

図3 令和7年度「介護のしごとと魅力発信等事業」概要



出典：令和7年度各部署の予算案の概要（社会・援護局（社会））参考資料 p.32
<https://www.mhlw.go.jp/wp/yosan/yosan/25syokanyosan/dl/gaiyo-06-2.pdf>（最終閲覧：令和8年3月26日）

（2）事業の目的

前述のとおり、魅力発信等事業は「イベント、テレビ、WEB等を活かした取組を通じて、全国に向けた情報発信を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすること」を目的に実施される。

事業間連携等事業は、魅力発信等事業全体で掲げられている上記目的の達成に資するため、情報発信事業の実施主体が、他の実施主体や都道府県事業との連携を図ることなどにより、魅力発信等事業の事業効果の最大化を図ることを目的とする。特に、介護職発信事業については、情報発信の部分年全国に向けた情報発信事業やWEBを活用した広報事業において実施することを念頭に置いていることから、情報発信事業者と介護職発信事業者の連携に積極的に介入し、効果的な発信ができるよう支援することを優先度の高い目的とする。

2. 本事業の推進に係る会議等の設置運営

本事業の推進のため、企画委員会、および評価分析に関する検討を行うワーキンググループ（以下、「評価分析WG」とする）を設置・運営した。

企画委員会は本事業全般について広く検討し、事務局に助言することを目的としている。評価分析WGは本事業のうち、評価分析の進め方について検討・助言することを目的としている。各会議の概要は表 1のとおり。

表 1 本事業推進のため設置運営した会議体

名称	開催回数	目的	内容
企画委員会	4回	<ul style="list-style-type: none"> 本事業全般について有識者による検討・事務局への助言を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数領域に関する有識者で構成する企画委員会を設置した（領域：福祉・介護人材の採用、マーケティング、福祉・介護実務、政策評価、福祉・介護行政）。 本事業の実施内容や事業報告等について広く検討・助言を行った。
評価分析WG	2回	<ul style="list-style-type: none"> 評価分析の進め方について有識者による検討・事務局への助言を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉・介護領域と政策評価に関する有識者で構成するワーキンググループを設置した（構成員は企画委員会兼務）。 評価分析の進め方、まとめ等について広く検討・助言を行った。

(1) 企画委員会の設置運営

ア. 開催目的

本事業全般について有識者により広く検討し事務局に助言することを目的として、企画委員会を開催した。企画委員会の委員構成は表 2のとおり。

表 2 企画委員会 委員名簿（五十音順、敬称略）

氏名	所属
伊藤 優子	龍谷大学短期大学部 社会福祉学科 教授
大澤 望	株式会社大沢会計&人事コンサルタント 代表取締役
梶 望	株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ EPICレコードジャパン ゼネラルマネージャー
新藤 健太	日本社会事業大学 社会福祉学部 准教授
藤野 裕子	スリーエス株式会社 介護マネージャー
松倉 和美	秋田県健康福祉部 長寿社会課 副主幹
吉岡 俊昭	公益社団法人日本介護福祉士会 常任理事

イ. 開催日時および主な議題

企画委員会は計4回開催した。開催日時および各回の主な議題は表3のとおり。

表3 企画委員会の開催日時・主な議題

回数	時期	主な議題
第1回	令和7年7月7日(月) 17:00~19:00	<ul style="list-style-type: none"> 各実施主体の主な取組・連携の見通し 「介護のしごと魅力発信サミット」の企画 事業間連携会議の運営方針・第1回議題案
第2回	令和7年9月5日(金) 17:00~19:00	<ul style="list-style-type: none"> 介護の仕事に関するアンケート・ヒアリング調査 「介護のしごと魅力発信サミット」の現況 事業間連携に関する取組状況 第1回事業間連携会議の実施報告
第3回	令和7年12月22日(月) 17:00~19:00	<ul style="list-style-type: none"> 「介護のしごと魅力発信サミット」開催報告共有・振り返り 事業間連携に関する取組状況共有 より効果的な魅力発信に向けた検討 報告書目次の検討
第4回	令和8年2月16日(月) 17:00~19:00	<ul style="list-style-type: none"> 報告書の検討

(2) 評価分析WGの設置運営

評価分析の進め方に関する助言を仰ぐことを主な目的として、政策評価に関する知見を有する学識・有識者で構成するWGを開催した。評価分析WGの委員名簿は表4、開催日時および主な議題は表5のとおり。

表4 WG委員名簿(五十音順、敬称略)

氏名	所属
大澤 望	株式会社大沢会計&人事コンサルタンツ 代表取締役
新藤 健太	日本社会事業大学 社会福祉学部 准教授
藤野 裕子	スリーエス株式会社 介護マネージャー

表5 WGの開催日時・主な議題

回数	開催日時	主な議題
第1回	令和7年9月2日(火) 14:30~16:30	<ul style="list-style-type: none"> 国事業(情報発信事業)の内容・評価に係る支援 事業間連携等事業(PwC)の評価デザイン
第2回	令和7年11月27日(木) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> 国事業(情報発信事業)の内容・評価に係る支援 介護のしごとの魅力発信等事業の戦略に関する提言 事業間連携等事業(PwC)の評価デザイン

3. 実施事業の概要

本事業では、主に「情報発信事業の実施主体間および情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組」と「情報発信事業の事業効果分析に関する取組」、「介護の仕事に関するアンケート調査およびヒアリング調査」を実施した。各取組の概要は（１）～（３）のとおり。各取組の詳細は「Ⅱ．実施結果」にて記載する。

（１）各事業の連携を図る取組

ア．事業間連携会議の開催

情報発信事業および事業間連携等事業の実施主体と、介護の仕事に係る業界団体・職能団体間での情報交換を目的として実施する会議体である。各実施主体から事業の進捗について発表を行い、事業への協力等について意見交換を行う。

各事業区分の実施主体、業界団体・職能団体、厚生労働省を主な参加者とし、事業間連携等事業の企画委員・都道府県の介護人材確保担当者等も任意で参加の上、3回(令和7年7月、令和7年11月、令和8年3月)開催した。

イ．実施主体ミーティングの開催

魅力発信等事業の実施主体間で、事業効果を高めるための相談・情報交換を目的として個別または多数にて実施する打合せである。主に事業開始時期の令和7年6月から令和7年10月にかけて、複数回開催した。

事業間連携会議は実施主体以外を含む多数の参加者で開催し、事業全般を議題とする一方、実施主体ミーティングは事業の個別具体的な事項が主な議題となる。扱われた議題は、実施主体間の連携方針のすり合わせや、各実施主体が行うこととされている事業効果の測定・評価に関するノウハウ共有などである。

ウ．魅力発信サミットの開催

都道府県事業の実施主体である自治体・民間事業者等（介護人材確保対策の担当課、都道府県事業の委託先等）を主な参加者とし、魅力発信の事例の共有等を通じて、モチベーションの向上やより効果的な魅力発信に資することを目的として実施するイベントである。また、情報発信事業の実施主体が作成コンテンツの共有等を行い、情報発信事業と都道府県事業の今後の連携のきっかけとして企画する。

都道府県事業の実施主体である自治体・民間事業者等、情報発信事業の実施主体、事業間連携等事業の企画委員、厚生労働省等を参加者として1回（令和7年10月）開催した。

エ．介護のしごと魅力発信等事業ニュースレターの発行

情報発信事業や都道府県事業等によるイベント・冊子・WEBコンテンツ等について、求職者や現在就業していない人などに広く周知することを目的として、ニュースレターを発行する。

ニュースレターは業界団体・職能団体やハローワーク、中央福祉人材センター等を主な発信先とし、9回(7月号、9月号、10月号、11月号①、11月号②、12月号、1月号、2月号、3月号)発行した。

(2) 情報発信事業の事業効果分析に関する取組

情報発信事業の実施によって得られた効果をまとめることを目的として実施する。事業関連携会議等の機会に把握した情報を基に、事業効果について分析を行った。

(3) 介護の仕事に関するアンケート調査およびヒアリング調査

介護の仕事の魅力を伝えるために効果的なアプローチを分析し、また、介護の仕事に興味・関心を持った人が入職に至るまでの過程に存在するハードル(入職阻害要因)を把握するため、例年実施してきた介護職および学生・保護者を対象としたWEBアンケート調査を今年度も実施した。また、特に入職阻害要因について、より具体的な事例を把握することを目的として、今年度は、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会の加盟校および全国福祉高等学校長会の加盟校の学生および教員を対象としたアンケート調査を実施した。

また、介護の仕事に興味・関心を持った人が入職に至るまでの過程に存在するハードル(入職阻害要因)について、定性的な情報を得るために、全国福祉高等学校長会加盟校の教員に対するヒアリングを行った。

II. 実施結果

1. 各事業の連携を図る取組

本節では事業間連携会議や実施主体の連携支援の取組結果について示す。事業間連携等事業の取組全体の総括的な結果・評価は主に実施主体および業界団体・職能団体へのアンケート結果を基に行うこととしており、本節（5）にてまとめて後述する。

（1）事業間連携会議の開催

ア. 開催目的

情報発信事業および事業間連携等事業の実施主体の活動について共有し、事業への協力等を得ることを目的として事業間連携会議を開催した。

イ. 開催結果

<開催日程および各回議題>

事業間連携会議は3回開催した。開催日時および各回の主な議題は表6のとおり。

表6 事業間連携会議の開催日時・主な議題

回数	開催日時	主な議題
第1回	令和7年7月31日(木) 13:00～15:40	<ul style="list-style-type: none">介護人材確保における魅力発信の効果および魅力発信におけるポイント自治体での魅力発信において活用できるリソース令和7年度「介護のしごと魅力発信等事業」の取組内容魅力発信に関するディスカッション
第2回	令和7年11月26日(水) ～12月5日(金) (書面開催)	<ul style="list-style-type: none">令和7年度「介護のしごと魅力発信等事業」の事業進捗の共有
第3回	令和8年3月4日(水) 16:00～17:30	<ul style="list-style-type: none">自治体での魅力発信において活用できるコンテンツ介護職等へのアンケートから見る魅力発信のポイント魅力発信に関するディスカッション

<参加者>

情報発信事業および事業間連携等事業の実施主体、介護の仕事に係る業界団体・職能団体、事業間連携等事業の企画委員、厚生労働省が参加した。さらに、各都道府県の介護人材確保対策担当者等もオブザーバー（参加任意）として参加した。主な参加者は表7および表8のとおり。

表 7 事業間連携会議 主な参加者（情報発信事業・事業間連携等事業の実施主体）

事業名	事業者名（五十音順）
情報発信事業 （全国へ向けた情報発信事業）	株式会社朝日新聞社
	株式会社マガジンハウス
情報発信事業 （WEBを活用した広報事業）	楽天グループ株式会社
情報発信事業 （介護職発信事業）	一般社団法人KAiGO PRiDE
	株式会社Blanket
	社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会
事業間連携等事業	PwCコンサルティング合同会社

表 8 事業間連携会議 主な参加者（業界団体・職能団体等）

団体名（五十音順）
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟
公益社団法人全国老人福祉施設協議会
公益社団法人全国老人保健施設協会
公益社団法人日本介護福祉士会
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
高齢者住まい事業者団体連合会
社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 福祉人材センター
社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会
全国福祉高等学校長会
厚生労働省社会・援護局 福祉基盤課

ウ. 参加者事後アンケート結果

事業間連携等会議のアウトカム達成状況や改善点等を把握するため、業界団体・職能団体およびオブザーバーとして参加した自治体職員に対してアンケート調査を実施した。

<第1回事業間連携会議>

①業界団体・職能団体

第1回事業間連携会議に出席した業界団体・職能団体のうち、6団体から回答を得た。

【国事業との連携の意向】

事業間連携会議への参加により、国事業と連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じたかを尋ねた結果は表 9のとおり。「とてもそう思う」(83.3%) が最も多く、「そう思う」(16.7%) が続いた。

表 9 国事業と連携して魅力発信に取り組みたいと感じたか

回答	回答数	割合(%)
とてもそう思う	5	83.3%
そう思う	1	16.7%
どちらともいえない	0	0.0%
そう思わない	0	0.0%
とてもそう思わない	0	0.0%
全体	6	100.0%

【国事業に関する情報共有・連携の検討】

各団体内における会議で、国事業に関する情報共有や国事業との連携に関する検討を実施したかを尋ねた結果は表 10のとおり。「実施した」(83.3%) が最も多く、「今後も実施予定はない」(16.7%) が続いた。

表 10 各団体内で、国事業に関する情報共有や連携に関する検討を実施したか

回答	回答数	割合(%)
実施した	5	83.3%
まだ実施していないが、実施予定がある	0	0.0%
今後も実施予定はない	1	16.7%
全体	6	100.0%

【今回の会議構成について】

今後の会議運営の参考のため、今回の会議構成に関する意見を尋ねた結果は表 11のとおり。「実施主体からの情報提供がまとまっていて、わかりやすかった」(100.0%) が最も多く、次いで「有意義なディスカッションができた」(83.3%) が挙げられた。

表 11 今回の会議構成について（複数回答）

回答	回答数	割合(%)
実施主体からの情報提供がまとまっていて、わかりやすかった	6	100.0%
有意義なディスカッションができた	5	83.3%
国事業との連携を検討するにあたり、関係者と顔の見える関係ができた	2	33.3%
業界/職能団体からの発言機会をもっととってほしかった	1	16.7%
実施主体からの情報提供が短く、わかりにくかった	0	0.0%
有意義なディスカッションではなかった	0	0.0%
全体	6	100.0%

また、上記回答の詳細を尋ねた結果は表 12のとおり。ディスカッションや実施主体の取組に対する意見が寄せられた。

表 12 上記設問の詳細

<p>・ディスカッションでは同じ思いを持っておられるかた、別の考えを持っておられる方色々な方の話が聞けたことがよかった。ファシリテーターのPwCの方も上手に回してくれていたと思う。都道府県の方の声がもつと聞きたかった。</p> <p>・それぞれ特色のある魅力発信</p> <p>・自治体の皆様が参加されることで施策の全体像が見えやすくなりました。実施主体様による企画は年々進化していると感じます。</p>

【今後あるとよいプログラム】

今後、どのようなプログラムがあると業界・職能団体にとって有益と感じるかを尋ねた結果は表 13のとおり。都道府県での介護のしごとの魅力発信に関する取組状況や課題感を知ることができるプログラムや、事業間のよりよい協働・役割分担ができるプログラムなどが挙げられた。

表 13 今後どのようなプログラムがあると有益と感じるか

<p>・都道府県の行政が介護の魅力発信をどのように考えて、それぞれが何をして、どんな課題感を持っているかを知れるようなプログラム</p> <p>・幼、小、中といった早い段階から介護もしくは福祉に触れ、知ることができる機会</p> <p>・介護という仕事の歴史を知るコンテンツがあれば良いと感じます。魅力発信事業のそもそもの目的は介護人材確保対策（介護保険制度の安定性・持続可能性の確保）。なぜ人材確保が必要で、これが社会課題解決につながるのか、介護という仕事の時代での移り変わり（歴史）、人口動態、高齢者の意識の変化をふまえ、どういう未来が必要だから国が主体となりこういう事業をやっていますということが、興味をもって理解できるコンテンツがあれば良いと感じています。</p> <p>・何を発信していくかが重要ではないかと思う。他の職種より、本当の介護、福祉の魅力とは何か、簡潔に表すとどういう言葉になるか。それを、いつ、誰に発信すれば、「大変」というステレオタイプイメージの広がりから、「ありかも」というイメージが広がりに変えられるか。</p> <p>・所属先でも、各団体と同様の取組をすでに行っている部分もあります。似たようなことをバラバラにやるのではなく、協働したり役割分担したい</p>

②自治体職員

第 1 回事業間連携会議にオブザーバーとして任意で出席した自治体職員のうち、12名から回答を得た³。

【魅力発信に関するヒントが得られたか】

事業間連携会議への参加により、介護人材の確保に向けた魅力発信を行う際のヒントが得られたかを尋ねた結果は表 14のとおり。「はい」（100.0%）が最も多かった。

表 14 介護人材の確保に向けた魅力発信を行う際のヒントが得られたか

回答	回答数	割合 (%)
はい	12	100.0%
いいえ	0	0.0%
全体	12	100.0%

³ なお、12名のうち1名は自治体から参加案内を受けた社会福祉協議会職員であった。

【ヒントになった内容】

事業間連携会議のプログラムの中でヒントになった内容を尋ねた結果は表 15のとおり。「介護人材確保に向けて、魅力発信をするときのポイント」(75.0%) が最も多く、「過去の「介護のしごと魅力発信等事業」の成果物のうち、活用可能な既存のコンテンツ」(58.3%) が続いた。

表 15 ヒントになった内容 (複数回答)

回答	回答数	割合(%)
介護人材確保に向けて、魅力発信をするときのポイント(メッセージや対象者)	9	75.0%
過去の「介護のしごと魅力発信等事業」の成果物(動画やWebサイトなど)のうち、活用可能な既存のコンテンツ	7	58.3%
本事業における自治体向けの取組(「魅力発信サミット」や「ニュースレター(なるほどカイゴ)」等)	4	33.3%
R7年度「介護のしごと魅力発信等事業」実施主体の取組	4	33.3%
KAiGO PRiDEアンバサダー、社会福祉HERO'Sの紹介	4	33.3%
魅力発信に関するディスカッション	1	8.3%
全体	12	100.0%

【事業間連携会議で得たヒントの活用意向】

事業間連携会議で得られたヒントを所属する自治体/法人における介護のしごとの魅力発信に取り入れたいと思うかを尋ねた結果は表 16のとおり。「思う」(41.7%) が最も多く、「とても思う」(33.3%) が続いた。

表 16 事業間連携会議で得られたヒントの活用意向

回答	回答数	割合(%)
とても思う	4	33.3%
思う	5	41.7%
どちらともいえない	3	25.0%
思わない	0	0.0%
とても思わない	0	0.0%
全体	12	100.0%

【今後あるとよいプログラム】

今後、どのようなプログラムがあると自治体にとって有益と感じるかを尋ねた結果は表 17のとおり。自治体による魅力発信の事例紹介に言及する意見が複数挙がった。

表 17 今後どのようなプログラムがあると有益と感じるか

<ul style="list-style-type: none"> ・自治体からの事例紹介(特に成果指標や成果内容) ・好事例の紹介 ・魅力発信の成功体験や事例を知りたい。 ・自治体の事例紹介、先進的に取り組む自治体のパネルディスカッション ・自治体からの好事例発表(仕様書の記載方法なども含んだ) ・自治体からの事例紹介、意見交換 ・民間企業の介護への取り組みの事例紹介

<第3回事業間連携会議>

① 業界団体・職能団体

第3回事業間連携会議に出席した業界団体・職能団体のうち、6団体から回答を得た。

【国事業との連携の意向】

事業間連携会議への参加により、国事業と連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じたかを尋ねた結果は表18のとおり。「そう思う」(66.7%)が最も多く、「とてもそう思う」「どちらともいえない」(16.7%)が続いた。

表18 国事業と連携して魅力発信に取り組みたいと感じたか

回答	回答数	割合(%)
とてもそう思う	1	16.7%
そう思う	4	66.7%
どちらともいえない	1	16.7%
そう思わない	0	0.0%
とてもそう思わない	0	0.0%
全体	6	100.0%

【今後あるとよいプログラム】

今後、どのようなプログラムがあると業界・職能団体にとって有益と感じるかを尋ねた結果は表19のとおり。介護のしごと魅力発信等事業で作成されるコンテンツに対して、ターゲットや内容に関する要望等が寄せられた。

表19 今後どのようなプログラムがあると有益と感じるか

<p>・無関心層に向けたコンテンツの充実</p> <p>・「直接関わることで魅力に感じやすい」という今回のデータに基づき、「体験型・参加型プログラム」の全国的な展開が有益であると考えます。</p> <p>幅広い層を対象としたイベントとして、例えば「最新福祉機器の体験会」や「介護のコツ伝授」「リハビリ体操やレクリエーションの体験」「驚きの進化系介護食(試食)」など、不特定多数の無関心層が気軽に触れられる「体験コンテンツの発信」で、より身近に介護を感じていただけたらと期待します。</p> <p>その上で、それらのコンテンツを各事業所が活用できるパッケージ(出前講座用ツールや動画等)にしていたければ、全国の介護老人保健施設が取り組む「地域貢献事業」ともシームレスに連動でき、地域住民というより身近な対象に対しても、より深く、一貫した魅力発信が可能になると考えます。</p> <p>また、非体験型のプログラムについても、現場で手軽に活用できることも肝要だと思います。例えば「介護による改善効果」や「利用者の喜びの声」を凝縮した短時間のショート動画や冊子など、大規模イベントから、施設内での小規模な説明会の隙間時間まで、場所、対象、時間を問わず、即効性を持って活用できるコンテンツの充実に期待します。</p> <p>・未経験の方や外国人向けの内容を期待したい</p> <p>・個社の採用サイト、個社HPを使い、「個社で働く魅力」を肉付けする情報として「介護職の魅力」をうまく活用してもらう方法を提示して、情報発信に協力していただく流れが作れないかと考えております。</p>

② 自治体職員

第3回事業間連携会議にオブザーバーとして任意で出席した自治体職員のうち、7名から回答を得た。

【魅力発信に関するヒントが得られたか】

事業間連携会議への参加により、介護人材の確保に向けた魅力発信を行う際のヒントが得られたかを尋ねた結果は表 20のとおり。「はい」(100.0%) が最も多かった。

表 20 介護人材の確保に向けた魅力発信を行う際のヒントが得られたか

回答	回答数	割合(%)
はい	7	100.0%
いいえ	0	0.0%
全体	7	100.0%

【ヒントになった内容】

事業間連携会議のプログラムの中でヒントになった内容を尋ねた結果は表 21のとおり。「自治体での魅力発信において活用できるコンテンツ」(100.0%) が最も多く、「介護職等アンケートから窺う魅力発信のポイント」(42.9%) が続いた。

表 21 ヒントになった内容 (複数回答)

回答	回答数	割合(%)
自治体での魅力発信において活用できるコンテンツ	7	100.0%
介護職等アンケートから窺う魅力発信のポイント	3	42.9%
魅力発信に関するディスカッション	1	14.3%
特になし	0	0.0%
全体	7	100.0%

【事業間連携会議で得たヒントの活用意向】

事業間連携会議で得られたヒントを所属する自治体における介護のしごとの魅力発信に取り入れたいと思うかを尋ねた結果は表 22のとおり。「思う」(57.1%) が最も多く、「どちらともいえない」(28.6%) が続いた。

表 22 事業間連携会議で得られたヒントの活用意向

回答	回答数	割合(%)
とても思う	1	14.3%
思う	4	57.1%
どちらともいえない	2	28.6%
思わない	0	0.0%
とても思わない	0	0.0%
全体	7	100.0%

【今後あるとよいプログラム】

今後、どのようなプログラムがあると自治体にとって有益と感じるかを尋ねた結果は表 23のとおり。自治体による魅力発信の事例紹介に言及する意見が複数挙がった。

表 23 今後どのようなプログラムがあると有益とを感じるか

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・コンテンツを活用した自治体の事例紹介(1~2の自治体の深掘ではなく、複数の自治体の事例を端的に紹介いただきたい)・自治体からの事例発表時間・自治体が行っている魅力発信事業の取り組みの紹介 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(2) 実施主体間の連携支援

ア. 実施した連携支援

魅力発信等事業の各実施主体が事業を円滑に進め、事業効果を高めることができるよう、以下の支援を会議や個別メール調整を通じて行った（各項末尾の括弧内は主な実施時期）。

- **事業概要説明**
本事業の全体構造・各実施主体の事業概要等の共有（事業開始当初）
- **実施主体間連携支援**
実施主体間の連携に関する提案・相談（事業開始当初、事業中盤）
- **効果測定支援**
事業の効果測定等に関する情報共有・相談（事業開始当初）
- **その他事業支援**
実施主体と業界団体・職能団体との連携支援等（不定）

イ. 実施主体ミーティングの開催

上記連携支援の一環として、魅力発信等事業の実施主体間で個別または多数にて実施する打合せを表 24 のとおり開催した。なお、事業間連携会議は実施主体以外を含む多数の参加者で開催し、事業全般を議題とする一方、実施主体ミーティングは、実務上の個別具体的な事項を主な議題とした。

表 24 実施主体ミーティングの開催日時・主な議題

開催日時	参加者 ⁴	主な議題
令和7年 6月16日（月） 15:00-16:00	楽天グループ株式会社	<ul style="list-style-type: none">• 事業計画の説明• 事業実施に関する相談
令和7年 6月25日（水） 16:00-18:00	株式会社朝日新聞社 株式会社マガジンハウス 楽天グループ株式会社 一般社団法人KAiGO PRiDE 株式会社Blanket 社会福祉法人全国社会福祉協議会・ 全国社会福祉法人経営者協議会	<ul style="list-style-type: none">• 事業間連携等事業実施主体（PwCコンサルティング）からの共有• 広報協力に係る相互発表• 連携に係る意見交換
令和7年 7月10日（木） 14:00-15:00	株式会社Blanket	<ul style="list-style-type: none">• 事業効果分析に関する相談
令和7年 7月23日（水） 16:30-17:30	社会福祉法人全国社会福祉協議会・ 全国社会福祉法人経営者協議会 厚生労働省	<ul style="list-style-type: none">• 事業効果分析フォーマットに関する相談
令和7年 7月28日（月）	楽天グループ株式会社 一般社団法人KAiGO PRiDE	<ul style="list-style-type: none">• 広告配信・効果測定調査に関する相談

⁴ PwC コンサルティング合同会社の記載は省略。

開催日時	参加者 ⁴	主な議題
15:30-16:30		
令和7年 7月29日(火) 11:00-12:00	楽天グループ株式会社 社会福祉法人全国社会福祉協議会・ 全国社会福祉法人経営者協議会	<ul style="list-style-type: none"> 広告配信・効果測定調査に関する相談
令和7年 7月29日(火) 16:00-16:45	楽天グループ株式会社 株式会社Blanket	<ul style="list-style-type: none"> 広告配信・効果測定調査に関する相談
令和7年 8月25日(月) 11:00-12:00	楽天グループ株式会社 社会福祉法人全国社会福祉協議会・ 全国社会福祉法人経営者協議会	<ul style="list-style-type: none"> 広告配信・効果測定調査に関する相談
令和7年 10月20日(月) 15:00-16:00	楽天グループ株式会社 株式会社Blanket	<ul style="list-style-type: none"> 広告配信・効果測定調査に関する相談

事業開始当初に実施した全実施主体参加のミーティングや、その後のメールを通じた連携の提案等によって、以下「ウ. 連携の実績」に見られる実施主体間の連携を支援した。また、事業効果の分析支援についても、事業開始当初に複数回、個別ミーティングの機会を持ったほか、各取組の効果測定実施前には、メールでのやり取りによって調査票の確認等を行った。

ウ. 連携の実績

当社が把握する実施主体間の連携による取組実績は表 25 に示すとおり。情報発信に関する連携は、下表以外にも各実施主体間で実施された。

広報協力やイベント登壇協力にとどまらず、作成されたコンテンツを相互に活用する、動画・記事といったコンテンツを協力して作成する等、多様な連携が見られた。

表 25 実施主体間の連携実績（令和8年3月18日時点）

実施主体名・取組名	連携先	連携内容
株式会社朝日新聞社/ ポータルサイト『これからの KAIGO』	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人KAiGO PRiDE 株式会社Blanket 	<ul style="list-style-type: none"> 2社の取組を掲載
株式会社朝日新聞社/ 小中高生向けの出張授業	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社マガジンハウス 一般社団法人KAiGO PRiDE 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社マガジンハウス作成の冊子を配布 登壇者派遣・紹介依頼 出張授業対象校の抽選で落選となった学校に対し、KAiGO PRiDEアンバサダーを紹介
株式会社朝日新聞社/ ウェビナー『次世代に伝えたい 介護・福祉の大切さと魅力』	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 登壇者派遣・紹介依頼
株式会社朝日新聞社/	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人KAiGO PRiDE 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の確認依頼

実施主体名・取組名	連携先	連携内容
小中高生向けの出張授業 マニュアル制作		
株式会社マガジンハウス/ イベント『ケアリングノーベンバー2025』	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人KAiGO PRiDE 株式会社Blanket 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 「インフォメーションコーナー」にて3社の取組等を紹介
株式会社マガジンハウス/ WEBマガジン『こここ』	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 	<ul style="list-style-type: none"> イベント「社会福祉HERO'S」の取材記事を公開
株式会社マガジンハウス/ イベント『ケアするしごとツアー』	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社Blanket 	<ul style="list-style-type: none"> ツアーのコーディネート依頼
楽天グループ株式会社/ ポータルサイト『知る。わかる。介護のしごと』	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社マガジンハウス 一般社団法人KAiGO PRiDE 株式会社Blanket 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 4社の取組を掲載
楽天グループ株式会社/ 動画『介護の仕事きっかけファイル』	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人KAiGO PRiDE 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー先の紹介依頼
楽天グループ株式会社/ 他実施主体の広告配信/効果測定サポート	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人KAiGO PRiDE 株式会社Blanket 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 3社が作成したコンテンツの広告配信/効果測定をサポート
一般社団法人KAiGO PRiDE/ KAiGO PRiDEアンバサダー研修	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社Blanket 	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社Blanketが実施する『KAiGO LEADERS SCHOOL』との合同説明会を開催
一般社団法人KAiGO PRiDE/ YouTube 動画『The VOICE of KAiGO』	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 	<ul style="list-style-type: none"> コラボ動画を作成
株式会社Blanket/ 研修『KAiGO LEADERS SCHOOL』	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社朝日新聞社 株式会社マガジンハウス 	<ul style="list-style-type: none"> 成果報告会にて、2社のアワードを設定
社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会/ イベント『学生ヒーローズ in H. C. R2025』	<ul style="list-style-type: none"> 楽天グループ株式会社 株式会社Blanket 	<ul style="list-style-type: none"> 2社の作成コンテンツ、チラシ等を配布

(3) 介護のしごと魅力発信サミットの開催

ア. 開催目的

都道府県事業の実施主体である自治体（介護人材確保対策の担当者）・民間事業者（都道府県事業の委託先等）を主な参加者とし、介護職による介護のしごとの魅力に関するプレゼンテーションや自治体における魅力発信事例の共有等を通じて、地域における効果的な魅力発信に資することを目的とした。また、情報発信事業の実施主体の制作コンテンツの共有等も行い、情報発信事業と都道府県事業の今後の連携のきっかけとすることもねらいとした。

開催概要は表 26のとおり。

表 26 魅力発信サミット 開催概要

目的	「着任初年度の自治体の介護人材確保担当者が、どうして人材確保に取り組むか、どうやって取り組むとよいかわかるようになる」をコンセプトに、下記3つの目的を設定した。 ① 介護人材確保の必要性を再確認してもらうこと ② 魅力発信に取り組むヒントを得てもらうこと ③ 介護のしごとの魅力や自治体担当者とのつながりを得てモチベーションを高めてもらうこと
参加者	<ul style="list-style-type: none">自治体で介護人材確保対策や介護の仕事の魅力発信を行う担当者自治体と連携して介護の仕事の魅力発信を行う業界団体・職能団体、社会福祉協議会、民間事業者の担当者
開催日程	令和7年10月3日（金）13:30～16:45
開催方法	ハイブリッド開催（対面かつオンライン配信）
現地会場	東京・大手町（Otemachi Oneタワー5階会議室）
申込方法	魅力発信サミットの特設サイトを設置し、特設サイト上からオンラインで申込み。オンラインでの申込みが難しい場合のみ、メールによる個別申込み。

イ. 開催結果

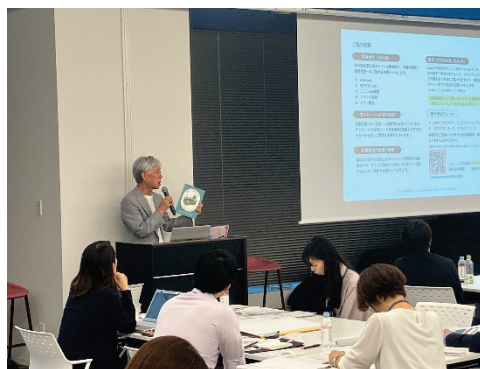
<当日の様子>

当日の参加者数は対面36名、オンライン126名だった。プログラム「介護職講演・座談会」、「自治体講演・座談会」では、対面/オンライン参加者双方から多くの質問が寄せられた。また、プログラム「参加者交流・意見交換」やプログラム前後の時間帯には、対面参加者が積極的に情報交換を行っている様子が見られた。

(講演の様子①)



(講演の様子②)



(座談会の様子①)



(座談会の様子②)



<当日プログラム・プログラムのねらい>

魅力発信サミットのプログラムは前述した目的を考慮し、表 27 のとおり構成した。

表 27 魅力発信サミット プログラム

時間	プログラム	講演者
13:30~13:45	開会あいさつ 介護人材確保の必要性	・厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室 様
13:50~14:20	介護職講演・座談会 介護職のリアルボイス 介護のしごとの魅力とは 現役介護職員(KAiGO PRiDEアンバサダー、社会福祉HERO'S)から「介護職員として働く中で感じた介護のしごとの魅力」や、「介護のしごとの魅力を広めるために必要だと思うこと」等についてお話しいたします。講演後、参加者からのご質問に回答いただく時間も設けます。	・KAiGO PRiDEアンバサダー 古森 正和 様 ・社会福祉HERO'S 田中 伸弥 様 ・座談会ファシリテーター: KAiGO PRiDE 理事 小口 貴幸 様
14:25~14:40	参加者交流・意見交換 対面参加者は会場、オンライン参加者はブレイクアウトルームにて参加者交流・意見交換の時間を設けます。(テーマ例:「自治体でどのように魅力発信の取組を検討しているか」等) ※オンライン参加者は希望者のみ	・進行:PwCコンサルティング
14:40~14:50	休憩	
14:50~15:55	自治体講演・座談会 自治体における魅力発信の取組事例の共有 自治体で魅力発信に携わる担当者様から、直近で実施した様々な魅力発信の取組、取組を行った背景や庁内での検討過程、取組のポイント等をお話しいたします。 講演後、参加者からのご質問に回答いただく時間も設けます。	・秋田県健康福祉部長寿社会課 副主幹 松倉 和美 様 ・明石市福祉局福祉政策室福祉施設支援課 課長 児玉 修一郎 様 ・青梅市 健康福祉部介護保険課 主事 溝口 雅人 様 ・進行補助:PwCコンサルティング
16:00~16:30	「介護のしごと魅力発信等事業」事業実施主体講演 自治体等が利用可能な魅力発信コンテンツの紹介 厚生労働省補助事業「介護のしごと魅力発信等事業」の事業実施主体から、自治体等の方が利用可能な魅力発信コンテンツ(制作予定を含む)等についてお知らせします。	・介護のしごと魅力発信等事業 実施団体
16:35~16:45	振り返り・全体質疑応答	・PwCコンサルティング
16:45	閉会	・PwCコンサルティング

前半のセッションでは、KAiGO PRiDEアンバサダー、または社会福祉HERO'Sとして活動している介護現場で働く2名が登壇し、「介護職員として働く中で感じた介護のしごとの魅力」や「介護のしごとの魅力を広めるために必要だと思うこと」等に関する講演を行った。講演後は一般社団法人KAiGO PRiDEの理事である小口氏をファシリテーターに迎え、登壇者2名による座談会を実施した。その後、参加者交流・意見交換の時間を設け、数名単位のグループごとに「所属の自治体が行っている魅力発信の取組」「所属の自治体以外で知っている「いいいな」と思う魅力発信の取組」について情報交換を行う場とした。

後半のセッションでは、秋田県健康福祉部長寿社会課、明石市福祉局福祉政策室福祉施設支援課、青梅市健康福祉部介護保険課より各1名、計3名が登壇し、所属の自治体における魅力発信の取組事例をテーマに講演を行った。講演では介護のしごとの魅力発信の取組のポイント、取り組みを行った背景や庁内での検討過程等に触れ、講演後は参加者から寄せられた質問を中心に座談会を行った。その後、令和7年度情報発信事業の実施主体が、利用可能な魅力発信コンテンツの周知を行った。

最後には、プログラムの振り返りと全体の質疑応答の時間を設け、参加者が疑問点を解消し更なる理解を深める場とした。

<目的達成のための取組>

開催概要に記載した3つの目的を達成するため、プログラム内外で表 28に示す取組を組み込んだ。

表 28 魅力発信サミット 目的達成のための取組

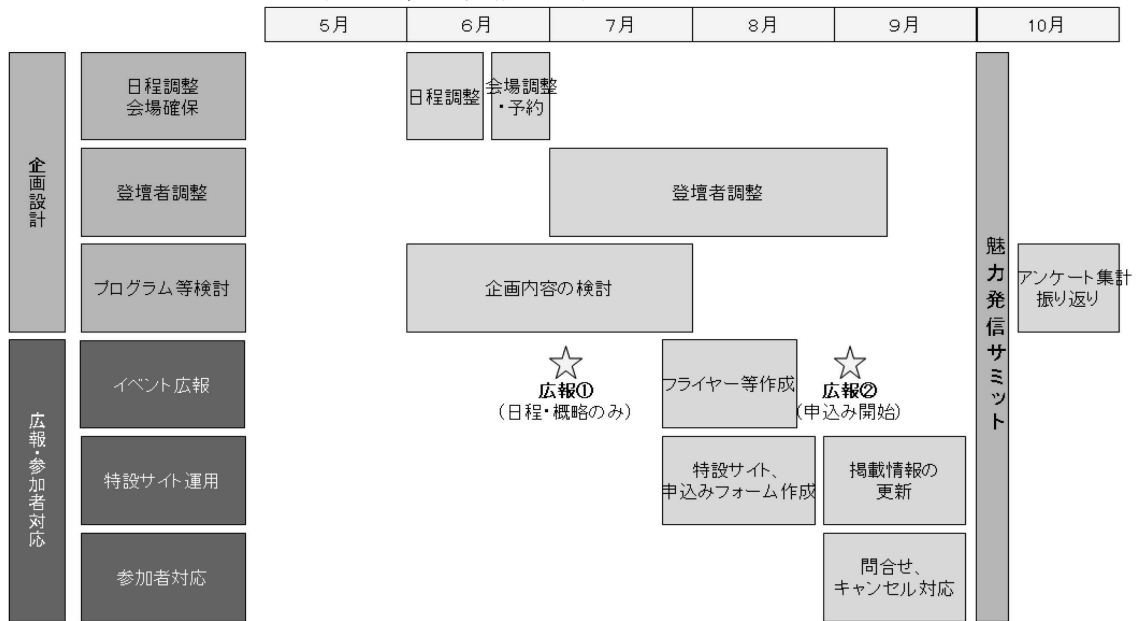
①介護人材確保の必要性を再確認してもらうこと	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭の「開会あいさつ」において、厚生労働省から、介護人材確保の現況・見通し、魅力発信に関する取組状況や期待等を共有した。
②魅力発信に取り組むヒントを得てもらうこと	<ul style="list-style-type: none"> プログラム「自治体講演・座談会」において、3自治体における魅力発信の取組事例を共有した。講演は取組に至るまでの経緯、内容および結果、取組のポイント等で構成し、参加した自治体担当者の参考となるようにした。 プログラム「国実施主体講演」では、魅力発信等事業の実施主体が作成した、自治体が利用可能な魅力発信コンテンツを紹介した。
③介護のしごとの魅力や自治体担当者とのつながりを得てモチベーションを高めてもらうこと	<ul style="list-style-type: none"> プログラム「参加者交流・意見交換」を設け、自治体担当者やその関係者、国事業実施主体の担当者等が交流する時間とした。 プログラム「介護職講演・座談会」では、現役介護職員が感じる介護の魅力等を共有し、参加者が介護のしごとの魅力を再確認する機会とした。

ウ. 開催に向けた取組

<準備～開催後対応のタイムライン>

魅力発信サミットの準備から開催後対応までのタイムラインは図 4のとおり。

図 4 魅力発信サミット タイムライン



<魅力発信サミットの周知>

以下の方法により魅力発信サミットの周知を図った。

- 都道府県・市区町村への事務連絡・フライヤーの送付（厚生労働省より連絡）
- 事業間連携会議に参加する業界団体・職能団体（計9団体）の会員向けメールマガジン、WEBサイトお知らせ欄、SNS等を通じたフライヤーの配布
- 事業間連携等事業に参画する実施主体（計6団体）による周知
- 令和6年度魅力発信サミット参加者（約50名）へのメールによる周知
- ニュースレター（なるほどカイゴ）への掲載による周知

エ. 参加者事前アンケート結果・開催前申込状況

申込時の参加者事前アンケートの主な集計結果を以下に記載する。

【申込者数（所属別）】

申込者数（所属別）は表 29のとおり。申込者211名のうち、「市区町村」が105名（49.8%）で最も多く、次に「都道府県」「民間事業者」が42名（19.9%）が続いた。

表 29 魅力発信サミット 申込者数 (所属別)

回答	回答数	割合(%)
都道府県	42	19.9%
市区町村	105	49.8%
民間事業者	42	19.9%
社会福祉協議会	15	7.1%
業界団体・職能団体	5	2.4%
上記以外	2	0.9%
全体	211	100.0%

【参加方法】

魅力発信サミットへの参加方法について尋ねた結果は表 30のとおり。申込者211名のうち、「オンライン参加」が189名（89.6%）、「対面参加」が22名（10.4%）であった。

表 30 魅力発信サミット 参加方法

回答	回答数	割合(%)
オンライン参加	189	89.6%
会場参加	22	10.4%
全体	211	100.0%

【経験年数】

介護のしごと魅力発信の経験年数を尋ねた結果は表 31のとおり。申込者211名のうち、「1年未満」が76名（36.0%）で最も多く、無回答を除けば「1年以上3年未満」が55名（26.1%）で続いた。

表 31 介護のしごと魅力発信の経験年数

回答	回答数	割合(%)
1年未満	76	36.0%
1年以上3年未満	55	26.1%
3年以上5年未満	15	7.1%
5年以上	2	0.9%
無回答	63	29.9%
全体	211	100.0%

【魅力発信サミットへの参加経験】

これまでの魅力発信サミットへの参加経験を尋ねた結果は表 32のとおり。申込者211名のうち、「初めて参加する」が143名（67.8%）で最も多く、無回答を除けば「令和6年度に参加した」が11名（5.2%）で続いた。

表 32 これまでの「魅力発信サミット」への参加経験（複数回答）

回答	回答数	割合(%)
初めて参加	143	67.8%
令和6年度に参加	11	5.2%
令和5年度に参加	7	3.3%
令和4年度に参加	2	0.9%
わからない	1	0.5%
無回答	51	24.2%
全体	211	100.0%

【本イベントで期待するプログラム】

魅力発信サミットで期待するプログラムを尋ねた結果は表 33のとおり。「自治体講演・座談会」（53.1%）が最も多く、「「介護のしごと魅力発信等事業」実施主体講演」（45.5%）が続いた。また、「介護職講演・座談会」（43.1%）にも多くの回答が集まった。

表 33 本イベントで期待するプログラム（複数回答）

回答	回答数	割合(%)
1.介護職講演・座談会	91	43.1%
2.参加者交流・意見交換	24	11.4%
3.自治体講演・座談会	112	53.1%
4.「介護のしごと魅力発信等事業」実施主体講演	96	45.5%
無回答	61	28.9%
全体	211	100.0%

オ. 参加者事後アンケート結果

【アンケート概要】

参加者アンケートの概要は図 5のとおり。アンケートは魅力発信サミット開催後、魅力発信サミット参加者を対象としてMicrosoft Formsで80名から回答を得た。集計結果の詳細は以下の各回答集計により示す。

図 5 魅力発信サミット 参加者事後アンケート概要

調査概要	回答者	サミット参加者
	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業関連携事業ロジックモデルの評価デザインで検討した「サミットで目指す直接アウトカム」達成状況を把握すること ・ 今後の介護のしごとと魅力発信等事業に関する施策検討に役立つ情報を把握すること
	回答方法	会場にてサミット開演前に紙面配布する回答用紙もしくはMicrosoft Forms
結果まとめ	回収数	80名（回収率:49.4%）（2025/10/14時点）
	結果概要	<p style="text-align: right;">※カッコ内は昨年度データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サミットの満足度:「とても満足している」「やや満足している」と回答した人の割合は計91.3% (100.0%)であった。 ・ 必要性の確認:サミット参加により介護のしごとの魅力発信の必要性の理解度が高まったと「とても感じる」「やや感じる」と回答した人の割合は計91.3%であった。 ・ モチベーションの向上:サミット参加により、介護のしごとと魅力発信に関する事業の実施モチベーションが「高まった」「やや高まった」と回答した人の割合は計92.6% (97.6%)であった。 ・ 今後の事業への活用:介護のしごとの魅力発信に関する事業を実施する上でのヒントを得られたと回答した人の割合は計91.3% (97.6%)であった。 ・ コンテンツの活用:「介護のしごとの魅力発信等事業」で作成されたコンテンツを今後の事業検討に活用したいと「とても思う」「やや思う」と回答した人の割合は計73.8% (81.0%)であった。 ・ 「特によかった」「参考になった」「今後活かしたい」と思ったプログラム:上位3つ 「自治体講演・座談会『自治体における魅力発信の取組事例の共有』」67.5%、 「介護職講演・座談会『介護職のリアルボイス 介護のしごとの魅力とは』」53.8%、 「国事業実施主体講演『自治体等が利用可能な魅力発信コンテンツの紹介』」25.0% ・ その他感想では、「介護のしごとの魅力発信方法や、利用可能なコンテンツの紹介など、大変参考になった。」という声や、「意見交換の時間が短いように感じた」というプログラムに関する意見などが聞かれた。

【回答者数（所属別）】

所属別回答者数は表 34のとおり。回答者全体では「市区町村」（40.0%）が最も多く、次に「都道府県」（26.3%）が続いた。

表 34 魅力発信サミット 回答者所属

回答	回答数	割合(%)
市区町村	32	40.0%
都道府県	21	26.3%
民間事業者	19	23.8%
社会福祉協議会	8	10.0%
業界団体・職能団体	0	0.0%
全体	80	100.0%

【満足度】

魅力発信サミットの満足度について尋ねた結果は表 35のとおり。「やや満足している」（48.8%）が最も多く、「とても満足している」（42.5%）が続いた（満足度の上位2項目計91.3%）。

表 35 魅力発信サミット 満足度 (参加者)

回答	回答数	割合(%)
とても満足している	34	42.5%
やや満足している	39	48.8%
どちらでもない	6	7.5%
あまり満足していない	1	1.3%
満足していない	0	0.0%
全体	80	100.0%

【「特によかった」「参考になった」「今後活かしたい」と思ったプログラム】

「特によかった」「参考になった」「今後活かしたい」と思ったプログラムについて尋ねた結果は表 36のとおり。回答者全体では「自治体講演・座談会『自治体における魅力発信の取組事例の共有』」(67.5%)が最も多く、次いで「介護職講演・座談会『介護職のリアルボイス 介護のしごとの魅力とは』」(53.8%)が挙げられた。

表 36 「特によかった」「参考になった」と思ったプログラム (複数回答。最大2つまで)

回答	回答数	割合(%)
厚生労働省あいさつ・行政説明	6	7.5%
介護職講演・座談会「介護職のリアルボイス 介護のしごとの魅力とは」	43	53.8%
参加者交流・意見交換	10	12.5%
自治体講演・座談会「自治体における魅力発信の取組事例の共有」	54	67.5%
国事業実施主体講演「自治体等が利用可能な魅力発信コンテンツの紹介」	20	25.0%
全体	80	100.0%

【魅力発信の必要性に対する理解度の高まり】

魅力発信サミット参加により、介護の魅力発信の必要性に対する理解度が高まったと感じるかを尋ねた結果は表 37のとおり。「やや感じる」(50.0%)が最も多く、「とても高まった」(41.3%)、「どちらでもない」(8.8%)が続いた。また、自治体からの参加者(53名)では、回答者のうち21名が「とても感じる」(39.6%)、28名が「やや感じる」(52.8%)と回答した。

表 37 魅力発信の必要性に対する理解度は高まったと感じるか

回答	回答数	割合(%)
とても感じる	33	41.3%
やや感じる	40	50.0%
どちらでもない	7	8.8%
あまり感じない	0	0.0%
全く感じない	0	0.0%
全体	80	100.0%

【魅力発信に関する事業の実施に関するモチベーションの高まり】

魅力発信サミット参加により、魅力発信に関する事業の実施に関するモチベーションが高まったかを尋ねた結果は表 38のとおり。「やや高まった」(56.3%) が最も多く、「とても高まった」(36.3%)、「どちらでもない」(7.5%) が続いた。また、自治体からの参加者(53名)では、回答者のうち19名が「とても高まった」(35.8%)、31名が「やや高まった」(58.5%)と回答した。

表 38 魅力発信に関する事業の実施に関するモチベーションが高まったと感じるか

回答	回答数	割合(%)
とても高まった	29	36.3%
やや高まった	45	56.3%
どちらでもない	6	7.5%
あまり高まらなかった	0	0.0%
全く高まらなかった	0	0.0%
全体	80	100.0%

【魅力発信に関するヒントが得られたか】

魅力発信サミット参加により、介護の仕事の魅力発信に関する事業に取り組む上でのヒントを得られたかを尋ねた結果は表 39のとおり。回答者全体では「はい」が91.3%を占めた。また、自治体からの参加者(53名)では、回答者のうち50名が「はい」(94.3%)と回答した。

表 39 魅力発信に関する事業に取り組む上でのヒントが得られたか

回答	回答数	割合(%)
はい(得られた)	73	91.3%
いいえ(得られなかった)	7	8.8%
全体	80	100.0%

【魅力発信等事業のコンテンツ情報の今後の活用意向】

「介護のしごと魅力発信等事業」で作成されたコンテンツを、今後の事業検討に活用したいと思うかを尋ねた結果は表 40のとおり。「やや思う」(38.8%) が最も多く、「とても思う」(35.0%) が続いた。また、自治体からの参加者(53名)では、回答者のうち17名が「とても思う」(32.1%)、22名が「やや思う」(41.5%)と回答した。

表 40 国事業で作成されたコンテンツを、今後の事業検討に活用したいと思うか

回答	回答数	割合(%)
とても思う	28	35.0%
やや思う	31	38.8%
どちらでもない	20	25.0%
あまり思わない	1	1.3%
まったく思わない	0	0.0%
全体	80	100.0%

【魅力発信サミットで得たヒントやつながりの活用意向】

今後、本サミットで得たヒントや、つながりを事業に活用しようと思うかを尋ねた結果は表 41のとおり。「やや思う」(48.8%) が最も多く、「とても思う」(42.5%) が続いた。また、自治体からの参加者(53名)では、回答者のうち19名が「とても思う」(35.8%)、29名が「やや思う」(54.7%) と回答した。

表 41 今後、本サミットで得たヒントや、つながりを事業に活用しようと思うか

回答	回答数	割合(%)
とても思う	34	42.5%
やや思う	39	48.8%
どちらでもない	7	8.8%
あまり思わない	0	0.0%
まったく思わない	0	0.0%
全体	80	100.0%

【今後のイベントに期待するプログラム】

介護のしごとの魅力発信をよりよいものにするためには、今後、魅力発信サミットのようなイベントにおいて、どのようなプログラムがあるとよいかについて尋ねた結果は表 42のとおり。「【方法の紹介】成果をあげるための広報・情報発信の方法やアイデア」(71.3%) が最も多く、「【自治体の取組事例紹介】限られた予算の中で成果をだした事例」(40.0%) が続いた。

表 42 介護のしごとの魅力発信をよりよいものにするため、今後、本サミットのようなイベントにおいて、どのようなプログラムがあるとよいか(複数回答。最大3つまで)

回答	回答数	割合(%)
【方法の紹介】成果をあげるための広報・情報発信の方法やアイデア	57	71.3%
【自治体の取組事例紹介】限られた予算の中で成果をだした事例	32	40.0%
【方法の紹介】「事業成果があがっている状態」の定義・設定のしかた	29	36.3%
【方法の紹介】前年度事業の振り返りや分析結果を活かして事業計画をする方法	24	30.0%
【方法の紹介】解決すべき課題を特定する方法	22	27.5%
【自治体の取組事例紹介】事業の委託先を新たに声掛けした事例	21	26.3%
【自治体の取組事例紹介】事業の委託先と長期契約して効果があがった事例	10	12.5%
全体	80	100.0%

【その他意見・感想】

今後の魅力発信サミットの内容・運営検討につながる意見や感想は表 43に抜粋したとおり。「介護のしごとの魅力発信方法や利用可能なコンテンツについて知ることができ、大変

参考になった」や「グループワークや参加者交流の時間がより長い方が良い」などが挙げられた。

表 43 魅力発信サミットに関する主な意見・感想（自由記述）

○内容について
・介護のしごとの魅力発信方法や、利用可能なコンテンツの紹介など、大変参考になった。
・非常に開催価値のあるサミットだと思いますので、一つ一つのプログラムの持ち時間を確保してあげられれば良いと思います。
○今後に向けた学習の意欲
・地域やサービスの種別によって抱えている課題は異なると思うので、現場の声を積極的に聞き入れ、的確にニーズを把握していきたいと思いました。
・介護の魅力をもっと感じられるように学びを深めたいと思いました。ありがとうございました。
○次回への期待
・事業実施主体の民間が国や自治体の課題や動きを把握して、事業提案し伴走できるのが理想だと思うので、このような機会や勉強会のような機会も欲しいと思いました。ありがとうございました。
・グループワークや参加者交流の時間がもう少し長いと良いと思います。座談会形式での質疑応答も大変参考になりましたが、自分の自治体の状況を詳しく話しながらグループで意見交換ができると、具体的な実行に向けて参考になると思います。

カ. 情報発信事業の実施主体に対するアンケート結果

魅力発信サミット開催後、魅力発信サミットに登壇した魅力発信等事業の実施主体5団体（株式会社朝日新聞社、株式会社マガジンハウス、楽天グループ株式会社、一般社団法人 KAiGO PRiDE、株式会社 Blanket）を対象にアンケートを実施し、4団体から回答を得た。集計結果の詳細を以下に示す。

【取材先等となる自治体や事業所の情報を得られたか】

サミットの登壇・名刺交換等を通じて、記事・取材先・イベント登壇依頼候補等となりうる自治体や介護事業所を知ることができたかについて尋ねた結果は表 44のとおり。「やや知ることができた」(75.0%) が3団体から回答があり、「よく知ることができた」(25.0%) が1団体から回答があった。

表 44 記事・取材先・イベント登壇依頼候補等となりうる自治体や介護事業所を知ることができたか

回答	回答数	割合(%)
よく知ることができた	1	25.0%
やや知ることができた	3	75.0%
どちらとも言えない	0	0.0%
あまり知ることができなかった	0	0.0%
まったく知ることができなかった	0	0.0%
全体	4	100.0%

【参加して良かったこと】

介護のしごと魅力発信サミットで得られたものについて具体的なエピソードを尋ねた結果は表 45のとおり。「自治体担当者と直接会話し取組や課題を知ることができたこと」や「自社の取組の実践の場となったうえ、自治体担当者への周知もできたこと」などが挙げられた。

表 45 介護のしごと魅力発信サミットで得られたもの（自由記述）

<p>・直接会場に行くことで、今までオンラインでしか交流できなかった同事業者の方とご挨拶できたり、自治体の方たちとの交流がもてて、課題感なども共有することができてよかったです。</p> <p>・自治体の取り組みや課題が伺えたこと。本事業の説明ができたこと。</p> <p>・事業者目線、自治体目線、従事者目線の様々な目線で現在の課題感や、取り組んでいる内容を学べてことがとてもよかったです。</p> <p>サミットから、都道府県のみではなく市区町村からもポータルサイトへの掲載依頼等をいただいております。</p> <p>・KAiGO PRiDEアンバサダーにとって「活躍の場」の一つとなり、本人にとっても活動へのモチベーションがアップする非常に良い機会になった点。また、アンバサダーの存在を自治体担当者に認知いただいた点。</p>

【その他意見・感想】

その他意見や感想について尋ねた結果は、表 46のとおり。「取組を行う中で得られた所感を自治体担当者と実施主体という垣根を越えて話すことができた」や「介護のしごとの魅力発信において、発信元となる介護職に焦点を当てたことは大変良かった」などが挙げられた。

表 46 その他意見・感想（自由記述）

<p>・ワークショップの時間が、私のテーブルはたまたま自治体の方が1名しかいなかったもので、話題の広げ方が難しかったですが、少しテーマと脱線しながら取組みの中で思っていることを自治体や事業者の垣根を越えて話せたように感じます。最後の名刺交換の時間が、一番盛り上がった気がしました。発表を双方聞いてからの交流がいいのですね。ありがとうございました。</p> <p>・自治体担当部署のリストアドレスなどまとめていただけると、一斉連絡、個別連絡などに重宝するかと。</p> <p>・毎回ですが複雑な運営大変お疲れ様でございます。前述の内容とも重複しますが、介護職魅力発信領域において、その発信元(介護職)により一層フォーカスを当てていただいたことは大変良かったと感じています。私が参加したテーブルでも「(古森さんに対して)大変素晴らしい内容だった」という声があり、本人にも伝えたと喜んでおりました。自治体の中には「ただでさえ忙しい介護職をどう魅力発信に巻き込めばいいのか」という悩みもあると認識しています。そういった中で、関わり方や考え方の一つの切り口を示せた点では、非常に価値のあるものだったのではないかと思います。</p>

キ. 取組の評価

魅力発信サミットのアウトカム目標は本事業の開始時に、評価指標をサミットに参加した自治体職員や事業の実施主体に対するアンケート結果に置くことで設定した。本項オ・カに示したアンケート結果を踏まえた評価は表 47のとおり。結論として、ロジックモデル検討時に設定した目標は、国実施主体と都道府県の連携に関するアウトカム目標 1 件を除いては、すべて達成することができた。各指標の達成・未達要因は表 47の最右列を参照されたい。

未達となったアウトカム目標は、今年度より中間アウトカム目標として設定した「国事業の実施主体につき 1 件以上、オウンドメディアでの記事・取材先として都道府県を取り上げ

ること」であった。参加者交流等において、国事業の実施主体と自治体職員の交流は見られ、直接アウトカムである「オウンドメディアでの記事候補・取材先候補等として都道府県の取組を知ること」は達成できたものの、国事業の実施主体のコンテンツ制作に係るスケジュールが魅力発信サミット以後では限られていたことも影響し、本項目は未達となったと考えられる。

魅力発信サミットを含む、自治体同士や自治体と実施主体のつながりの形成・強化に向けた取組の改善策については、Ⅲ章の考察に記載する。

表 47 魅力発信サミット 目標達成状況

アウトプット・アウトカム指標		ロジックモデルでの目標値	結果	評価(凡例 ○:達成 ▲:未達)
アウトプット	開催回数	1回	1回	○
	参加者数	140人	162名	○
アウトカム	聴講者(自治体職員)が介護のしごとの魅力発信に取り組む必要性を再確認すること。	アンケート回答者(自治体職員)の70%以上がサミットへの参加によって「介護のしごとの魅力発信」に取り組む必要性を「再確認できた」と回答すること。	介護の魅力発信の必要性に対する理解度が高まったと感じるか。 →上位2項目…92.5%	○
	聴講者(自治体職員)の介護のしごとの魅力発信に係る事業の実施に向けたモチベーションが高まること。	アンケート回答者(自治体職員)の70%以上がサミットへの参加によってモチベーションが「とても高まった」「やや高まった」と回答すること。	魅力発信に関する事業の実施に関するモチベーションが高まったか。 →上位2項目…94.3%	○
	聴講者(自治体職員)が他自治体の取り組みや介護職による現場の声等に触れることで、所属自治体の事業計画立案に役立つヒントを得ること。	アンケート回答者(自治体職員)の70%以上がサミットへの参加によって「介護のしごとの魅力発信」に係る事業計画立案に役立つヒントを「得られた」と回答すること。	介護の仕事の魅力発信に関する事業に取り組む上でのヒントを得られたか。 →得られた…94.3%	○
	聴講者(自治体職員)が国事業のコンテンツ・媒体を活用する方法が分かること。	アンケート回答者(自治体職員)の70%以上が国事業で作成されたコンテンツを、今後の事業検討に活用したいと「とても思う」「やや思う」と回答すること。	「介護のしごと魅力発信等事業」で作成されたコンテンツを、今後の事業検討に活用したいと思うか。 →上位2項目…73.6%	○
	聴講者(自治体職員)がサミットで得たヒントや繋がりを活用し、毎年の都道府県事業の企画・立案に反映すること。	アンケート回答者(自治体職員)の70%以上がサミットで得たヒントや繋がりを活用し、来年度以降の都道府県事業の企画・立案に反映したいと思うかという設問に対し、「とても思う」「やや思う」と回答すること。	今後、本サミットで得たヒントや、つながりを事業に活用しようと思うか。 →上位2項目…90.6%	○
	国事業の実施主体がオウンドメディアでの記事候補・取材先候補等として都道府県の取組を知ること。	アンケート回答者(国事業の実施主体)の70%以上が、オウンドメディアでの記事候補・取材先候補等として都道府県の取組を知ることができた」と回答すること。	サミットの登壇・名刺交換等を通じて、記事・取材先・イベント登壇依頼候補等となりうる自治体や介護事業所を知ることができたか。 →上位2項目…100%	○
	国事業の実施主体がオウンドメディアでの記事・取材先として都道府県を取り上げること。	各国事業の実施主体につき1件以上、オウンドメディアでの記事・取材先として都道府県を取り上げること。	6事業者中1事業者が、1件以上オウンドメディアでの記事・取材先として都道府県を取り上げた。	▲

(4) 介護のしごと魅力発信等事業ニュースレターの発行

ア. 実施目的

情報発信事業および都道府県事業が実施するイベント・冊子・WEBコンテンツの情報を実施主体および業界団体・職能団体、またB to Cとして求職者や現在就業していない人などに広く周知することを目的に介護のしごと魅力発信等事業ニュースレター（以下「ニュースレター」という）を発行する。

ニュースレターに関する基本情報は表 48のとおり。

表 48 ニュースレター基本情報

目的	情報発信事業および都道府県事業が実施するイベント・冊子・WEBコンテンツの情報を周知すること。
発信先	<ul style="list-style-type: none">厚生労働省WEBサイト情報発信事業の実施主体業界団体・職能団体およびその構成団体全国のハローワーク都道府県および市区町村（厚生労働省経由にて周知）全国の福祉人材センター（都道府県・市区町村経由にて周知）
頻度	<ul style="list-style-type: none">1か月に1回程度発行
掲載内容	<ul style="list-style-type: none">ニュースレター発行日から向こう1～2か月のイベント情報直近のWEBコンテンツの更新情報過去に作成済みのコンテンツ
形式	A4 1～3枚程度の分量のPDFファイルを配布。発信先にて印刷しての周知も可能。

イ. 実施結果

<発行実績>

ニュースレターは全9回（7月号、9月号、10月号、11月前半号、11月後半号、12月号、1月号、2月号、3月号）発行した。具体的な紙面例は図 6のとおり。

作成した各号の紙面は付属資料3を参照されたい。また、紙面は厚生労働省のWEBサイトでも閲覧可能である。⁵

⁵ https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_59890.html（最終閲覧：令和8年3月26日）

図 6 介護のしごと魅力発信等事業ニュースレター10月号



＜準備から発行までの日程＞

ニュースレター発行までに以下①～③の行程を行った。発行までのおおよそのスケジュールは図 7のとおり。

① 【掲載内容の募集】

情報発信事業の実施主体および都道府県から、オンラインフォームで掲載を希望する取組を募集。都道府県には、厚生労働省からメールにてニュースレターを送付する際、同フォームにより情報登録が可能であることの周知を図った。情報発信事業の実施主体には、事業間連携等事業の実施主体からメールにて情報登録を依頼した。

② 【紙面案の作成・修正】

事業間連携等事業の実施主体にてニュースレター紙面案を作成し、掲載内容に係る各実施主体、都道府県に内容確認を依頼。適宜修正を行う。

③ 【最終確認・ニュースレター発行】

厚生労働省に内容確認および確認後の関係者へのニュースレター送信を依頼。各実施主体や業界団体・職能団体に対しては事業間連携等事業の実施主体から送付。

図 7 ニュースレター発行までのスケジュール

	第1週	第2週	第3週	第4週
① 掲載内容の募集	←————→			
② 紙面案の作成・修正		←————→		
③ 最終確認・ニュースレター発行			←————→	

<周知方法>

ニュースレターは、魅力発信等事業の実施主体や業界団体・職能団体、厚生労働省に送付し、それぞれ周知を依頼した。

実施主体および業界団体・職能団体には、各企業・団体が持つ会員やコミュニティ向けのメールマガジンやWEBサイト、SNS、構成団体への展開等により周知を依頼した。

厚生労働省には、公式WEBサイトおよび公式SNSアカウントへの掲載により周知を依頼した。また、都道府県の介護人材確保対策担当部署、福祉人材センターおよび全国のハローワークへの周知も依頼した。

(5) 事業間連携等事業全体に関する取組評価

ア. 情報発信事業の実施主体および業界団体・職能団体に対するアンケート結果

各主体の連携状況、事業間連携等事業の改善点等を把握するため、情報発信事業の実施主体および業界団体・職能団体に対してアンケート調査を実施し、すべての実施主体（6団体）、業界団体・職能団体のうち8団体から回答を得た。

<実施主体アンケート>

【ニュースレターを通じた取組の把握】

ニュースレター「なるほどカイゴ」を通じて、他の実施主体や地方自治体の取組を把握することができたかについて尋ねた結果は表 49のとおり。「とてもそう思う」は4団体（66.7%）、「ややそう思う」は2団体（33.3%）から回答があった。

表 49 ニュースレターを通じて、他の実施主体や地方自治体の取組を把握できたか

回答	回答数(人)	割合(%)
とてもそう思う	4	66.7%
ややそう思う	2	33.3%
どちらとも言えない	0	0.0%
あまりそう思わない	0	0.0%
全くそう思わない	0	0.0%
全体	6	100.0%

【ニュースレターで得られたヒントの活用意向】

ニュースレター「なるほどカイゴ」から得られたヒントを、毎年の介護のしごと魅力発信の企画・立案に反映したいと思うかについて尋ねた結果は表 50のとおり。「とてもそう思う」は2団体（33.3%）、「ややそう思う」は4団体（66.7%）から回答があった。

表 50 ニュースレターから得られたヒントを企画・立案に反映したいと思うか

回答	回答数(人)	割合(%)
とてもそう思う	2	33.3%
ややそう思う	4	66.7%
どちらとも言えない	0	0.0%
あまりそう思わない	0	0.0%
全くそう思わない	0	0.0%
全体	6	100.0%

【評価分析フォーマットの改善点】

事業効果分析フォーマットを実施主体の活動の振り返りに活用しやすくするため・記入の負担を抑えるために、改善できそうな点について尋ねた結果は表 51のとおり。項目の多さや、記入のしづらさに関する指摘が挙げられた。

表 51 事業効果分析フォーマットの改善点

<ul style="list-style-type: none">・PowerPoint等で各社フォーマットが統一され、各事業者の目標やKPIが簡単にわかる表等があればコミュニケーションがより取りやすくなると感じました。・記入項目が過度に細分化されているように感じた。特にアウトプットとアウトカムとの差異が不明瞭であり記入しづらかった。全体的に記入内容を簡素化いただきたい。・背景からアウトカムまで一覧で確認できることで効果分析について整理しやすいが、はじめて記入しているときは一覧に情報が多くて入力するとき戸惑った。表示固定すると表示範囲が狭くなってしまって記入が難しい。ただ、10行目の記載指示については記入しながら確認できるので助かった。なくしていくのが有効とも言い切れないが、タブを分けるなどの工夫で表示範囲が広がれば嬉しい。・内容の部分ではないのですが、Excelで入力項目が多く、行や列が多すぎて使いづらい面があります。

【事業効果分析に関する支援としてあったらよいもの】

事業効果分析に関する支援としてあったらよいものを尋ねた結果は表 52のとおり。

表 52 事業効果分析に関する支援としてあったらよいもの

<ul style="list-style-type: none">・複数の事業を並行して進めていることもあり、都度充実した効果測定を行うことに難しさを感じた。動画コンテンツ等は年度末に各実施事業者が制作したものを集約し、一括でアンケートを実施するといった対応をいただくと、実施事業者・連携先の双方が都度対応する負担を減らすことができるのではないかと考える。本事業の予算が毎年1割程度削減されているなかにおいて、事業効果分析に要する費用・業務負担を含めて、より適正かつ効果的な事業実施を検討いただきたい。・現在も留意点、確認点などをご指摘いただいているので、引き続きご支援いただければ。

【必要な支援を受けることができたか】

事業間連携等事業によって必要な支援を受けることができたと感じるかについて尋ねた結果は表 53のとおり。「とてもそう思う」は3団体 (50.0%)、「ややそう思う」は3団体 (50.0%) から回答があった。

必要な支援と感じたものとしては、ニュースレターを通じた取組の周知、事業間連携会議や魅力発信サミット等他の実施主体や自治体の取組を知る機会の提供、効果分析フォーマットの整備等が挙げられた。また、ニュースレターを通じたコンテンツの周知により、自治体との連携につながった事例も寄せられた。

一方で、更に必要な支援として、魅力発信等事業で生まれたコンテンツ等の広報における更なる連携や、実施主体と自治体の連携支援等があるとよいとの回答があった。

表 53 事業間連携等事業によって必要な支援を受けることができたと感じるか

回答	回答数(人)	割合(%)
とてもそう思う	3	50.0%
ややそう思う	3	50.0%
どちらとも言えない	0	0.0%
あまりそう思わない	0	0.0%
全くそう思わない	0	0.0%
全体	6	100.0%

【業界団体・職能団体との協議・相談の有無】

「業界団体・職能団体や地方自治体との間で、介護のしごとの魅力発信に関連する協議や相談を行ったか」について尋ねた結果は表 54のとおり。「1件以上協議や相談を行った」は5団体（83.3%）、「協議や相談を行っていない」は1団体（16.7%）から回答があった。

具体的な協議や相談の内容としては、業界団体・職能団体に対する周知協力依頼や講師派遣依頼、地方自治体の取組の周知協力といった内容が挙げられた。

表 54 業界団体・職能団体や地方自治体と、協議や相談を行ったか

回答	回答数(人)	割合(%)
1件以上協議や相談を行った	5	83.3%
協議や相談は行っていない	1	16.7%
全体	6	100.0%

【事業間連携等事業による事業効果の向上】

事業間連携等事業の働きにより、事業効果が向上したと感じるかを尋ねた結果は表 55のとおり。「そう思う」は2団体（33.3%）、「ややそう思う」は3団体（50.0%）、「どちらとも言えない」は1団体（16.7%）から回答があった。

どのような働きにより、どの部分の事業効果が向上したと感じるかについては、ニュースレターを通じて取組が自治体職員に伝わったことにより事業推進につながった、効果分析支援により効果分析の解像度が上がったといった意見が寄せられた。

表 55 事業間連携等事業の働きによって事業効果が向上したと感じるか

回答	回答数(人)	割合(%)
とてもそう思う	2	33.3%
ややそう思う	3	50.0%
どちらとも言えない	1	16.7%
あまりそう思わない	0	0.0%
全くそう思わない	0	0.0%
全体	6	100.0%

<業界団体・職能団体アンケート>

【ニュースレターを通じた取組の把握】

ニュースレター「なるほどカイゴ」を通じて、実施主体や地方自治体の取組を把握することができたかについて尋ねた結果は表 56のとおり。「とてもそう思う」は3団体 (37.5%)、「ややそう思う」は3団体 (37.5%) から回答があった。

表 56 ニュースレターを通じて、実施主体や地方自治体の取組を把握できたか

回答	回答数(人)	割合(%)
とてもそう思う	3	37.5%
ややそう思う	3	37.5%
どちらとも言えない	2	25.0%
あまりそう思わない	0	0.0%
全くそう思わない	0	0.0%
全体	8	100.0%

【ニュースレターで得られたヒントの活用意向】

ニュースレター「なるほどカイゴ」から得られたヒントを、毎年の介護のしごと魅力発信の企画・立案に反映したいと思うかについて尋ねた結果は表 57のとおり。「とてもそう思う」は2団体 (25.0%)、「ややそう思う」は2団体 (25.0%) から回答があった。

表 57 ニュースレターから得られたヒントを企画・立案に反映したいと思うか

回答	回答数(人)	割合(%)
とてもそう思う	2	25.0%
ややそう思う	2	25.0%
どちらとも言えない	4	50.0%
あまりそう思わない	0	0.0%
全くそう思わない	0	0.0%
全体	8	100.0%

【国事業と連携した魅力発信への取組】

事業間連携等事業やニュースレターなどを通じて、国事業と連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じたかについて尋ねた結果は表 58のとおり。「とてもそう思う」は3団体 (37.5%)、「ややそう思う」は4団体 (50.0%) から回答があった。

表 58 国事業と連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じたか

回答	回答数(人)	割合(%)
とてもそう思う	3	37.5%
ややそう思う	4	50.0%
どちらとも言えない	1	12.5%
あまりそう思わない	0	0.0%
全くそう思わない	0	0.0%
全体	8	100.0%

【国事業の情報共有や国事業との連携の検討実施有無】

団体内において、国事業に関する情報共有や国事業との連携に関する検討を実施したかについて尋ねた結果は表 59のとおり。「実施した」が4団体（50.0%）、「まだ実施していないが、今後実施予定がある」が2団体（25.0%）から回答があった。

表 59 国事業に関する情報共有や国事業との連携に関する検討を実施したか

回答	回答数(人)	割合(%)
実施した	4	50.0%
まだ実施していないが、実施予定がある	2	25.0%
実施しておらず、今後も実施予定はない	0	0.0%
検討中	2	25.0%
全体	8	100.0%

【国事業関係者との関係構築】

国事業と連携した介護のしごと魅力発信を検討するにあたり、関係者と顔の見える関係ができたかについて尋ねた結果は表 60のとおり。「できた」が4団体（50.0%）、「できていない」が4団体（50.0%）から回答があった。

表 60 国事業と連携した魅力発信の検討にあたり、関係者と顔の見える関係ができたか

回答	回答数(人)	割合(%)
できた	4	50.0%
できていない	4	50.0%
全体	8	100.0%

【実施主体との協議・相談の有無】

実施主体との間で、介護のしごとの魅力発信に関連する協議や相談を行ったかについて尋ねた結果は表 61のとおり。「1件以上協議や相談を行った」は5団体（62.5%）、「協議や相談は行っていない」は3団体（37.5%）から回答があった。

具体的な協議や相談の内容としては、実施主体の取組への周知協力や講師派遣、業界団体・職能団体の実施するセミナーへの実施主体関係者の参加といった内容が挙げられた。

表 61 実施主体との間で、介護のしごとの魅力発信に関連する協議や相談を行ったか

回答	回答数(人)	割合(%)
1件以上協議や相談を行った	5	62.5%
協議や相談は行っていない	3	37.5%
全体	8	100.0%

【事業間連携等事業の働きによる事業効果の向上】

事業間連携等事業の働きにより、魅力発信等事業全体の事業効果が向上したと感じるかについて尋ねた結果は表 62のとおり。「ややそう思う」は3団体（37.5%）から回答があった。

どのような点で貢献があったと感じるかについて尋ねた結果、魅力発信等事業の取組が可視化されることにより業界団体・職能団体が参加可能な取組を把握することができたといった意見が寄せられた。

表 62 事業間連携等事業により、魅力発信等事業全体の事業効果が向上したと感じるか

回答	回答数(人)	割合(%)
とてもそう思う	0	0.0%
ややそう思う	3	37.5%
どちらとも言えない	5	62.5%
あまりそう思わない	0	0.0%
全くそう思わない	0	0.0%
全体	8	100.0%

【魅力発信等事業全体・事業間連携等事業への意見・感想】

そのほか、魅力発信等事業全体または事業間連携等事業の取組への意見・感想・今後期待したいこと等について尋ねた結果は表 63のとおり。魅力発信等事業実施主体間や自治体とのより一層の連携や、魅力発信等事業の取組を一括で掲載したポータルサイト等を求める声が挙がった。

表 63 その他の意見・感想

<ul style="list-style-type: none"> ・各事業の情報共有にとどまらず、横ぐしをさせるような展開があると、さらに効果的かと思います。 ・魅力発信事業そのものの範疇を超えるかもしれませんが、本事業は単なる魅力発信にとどまらず、今後拡大する介護人材需給ギャップへの対策の一環として、国が描くロードマップの中で明確に位置付けたいと期待しています。 ・事業自体は着実に普及してきており、地域の魅力発信に対する意識も高まっていると感じています。一方で、都道府県によって取り組みの濃淡に差があり、全国的な底上げという観点ではまだ課題が残っているようにも思います。 今後は、文部科学省や都道府県教育委員会など、教育分野の組織とも連携できる仕組みを構築することが、より広い層に事業の価値を届けるうえで有効ではないかと考えます。特に、学校現場で福祉の授業を当たり前を実施するなど、介護福祉士の活躍の場を広げる取り組みが進むことで、地域への魅力発信が持続的に広がる基盤づくりにつながると期待しています。 ・多様な取り組みがある一方、情報が分散する印象もある。情報をポータルサイトに一括掲載等ではできると周知もしやすいと感じる(そこを見れば全ての情報が閲覧できる等)会議資料が毎回添付で複数通になるので、クラウドの活用があると、より管理しやすいと感じる。最後に、関係団体及び事務局のみなさまの事業のご尽力に、深く敬服いたします。 ・はじめの会議の際にも発言させていただきましたが、もう一度介護の魅力とは何かということを考えることも必要なのではないかと感じる。 一部の地域での取り組みが多く、全国各地域に入り込んでいける企画がほしい。 ・技能五輪に介護分野が加わったことも踏まえ、今後さらに多くの方に介護職の魅力が伝わることを期待しています。

イ. 取組の評価

ロジックモデルで設定した各取組（魅力発信サミットを除く。以下本項において同じ）のアウトカム目標、および各取組のアンケート結果等を並べ、評価を行った。各取組の評価は表 64のとおり。なお、魅力発信サミットの評価は本節（3）キに記載している。

結論として、ロジックモデルにおいて設定した目標はほぼ達成することができた。評価の理由の主なものを以下に記載するが、詳細は下表最右列の評価部分も参照されたい。

アウトプット目標については、実施主体ミーティングの開催回数のみ目標未達であった。背景として、今年度は全実施主体に向けたコンタクトを事業開始当初・期中の2回行い、年度末の成果確認は効果分析フォーマットの回収を通じて行ったこと、また令和6年度に引き続き採択された実施主体では、事業や評価分析等の説明の必要性が少なかったことも影響し、一部実施主体に対するコンタクト回数が目標値の3回未満となった。

また、アウトカム目標については、魅力発信等事業の実施主体の支援ニーズが満たされること、自治体が介護のしごとの魅力発信の実施に役立つヒントを得ること、魅力発信等事業の実施主体と業界団体・職能団体・自治体が連携に向けた協議や相談を行うこと等を設定した。

今年度の事業間連携等事業においては、魅力発信等事業の実施主体に対してはニュースレターを通じた周知支援や連携支援等、自治体職員に対しては魅力発信サミットや事業間連携会議における情報提供等を行った。

その結果、ほとんどすべてのアウトカム目標を達成することができたが、「業界団体・職能団体が、国事業の実施主体と顔の見える関係ができること」に関する目標が唯一未達であった。これには事業間連携会議全3回のうち、1回を書面としたこと、およびオンラインのみでの開催であった点が影響した可能性がある。

しかしながら、実施主体との間で協議や相談を行った業界団体・職能団体の割合は、令和6年度は25.0%（8団体中2団体）にとどまっていたところ、今年度は62.5%（8団体中5団体）まで伸びており、業界団体・職能団体と国事業の実施主体の連携は昨年度よりも進んでいるといえる。これには、事業開始当初に実施した実施主体ミーティングから業界団体・職能団体の持つ広報媒体およびその窓口を案内していた点や、令和6年度に引き続いての実施主体が昨年度の経験を活かして当初企画段階から業界団体・職能団体との連携を組み込んでいたことが影響していると考えられる。

表 64 魅力発信サミット以外の事業間連携等事業の目標達成状況

	アウトプット・アウトカム指標	ロジックモデルでの目標値	結果	評価(凡例 ○:達成 ▲:未達)		
アウトプット	事業間連携会議開催回数	3回	3回	○	•当初の予定どおり、事業計画の報告、事業成果の中間報告、事業成果の最終報告を内容として3回開催することができた。	
	実施主体ミーティング開催回数	1社当たり3回 ※形式に拘らず、メールによるコンタクトも回数に含むものとする	株式会社朝日新聞社:3回 株式会社マガジハウス:2回 楽天グループ株式会社:9回 一般社団法人KAIGO PRIDE:3回 株式会社Blanket:4回 株式会社Elanet:6回	▲	•事業開始時期に全実施主体が集まるミーティングを実施し、その後もメールを通じた追加の連携提案等を行った。 •全実施主体に向けたコンタクトはキックオフ・期中の2回であり、年度末の成果確認は効果分析フォーマットの回収を通じて行ったため、一部実施主体に対するコンタクト回数が3回未満となった。	
	ニュースレター発行回数	6回	9回	○	•当初の予定よりも早く発行を開始し、年度末にも追加で3月号を発行したため、目標値よりも多い発行回数となった。	
アウトカム	事業間連携会議	国事業の実施主体のニーズに基づき、連携支援が提供されること。 ※実施主体ミーティングと合わせて達成を目指す	アンケート回答者(国事業の実施主体)の80%以上が、事業間連携等事業によって、必要な支援を受けることができたかどうか。 →「上位2項目…100.0%」	○	•各実施主体の取組の周知や連携支援、効果分析支援等により、各実施主体の支援ニーズを満たすことができたと考えられる。	
	介護職発信事業が制作したコンテンツが、情報発信事業各社のコンテンツと合わせて全国に発信されること。 ※実施主体ミーティングと合わせて達成を目指す	各介護職発信事業者につき1件以上、情報発信事業のコンテンツと合わせたコンテンツ周知が行われること。	介護職発信事業者3社中3社が、情報発信事業のコンテンツと合わせた周知を1件以上実施した。	○	•事業開始当初及び事業中盤に実施した実施主体間の連携に関する提案・相談により、実施主体間の連携に貢献することができたと考えられる。	
	業界団体・職能団体が国事業とも連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じること。	アンケート回答者(業界団体・職能団体)の70%以上が、国事業とも連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じたこと。	実施主体と連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じたか。 →「上位2項目…87.5%」	○	•事業間連携会議における国事業からの発表やニュースレターを通じて、業界団体・職能団体が国事業の取組を十分に理解することができたと考えられる。 •業界団体・職能団体が国事業の取組を理解できたことにより、国事業との連携に対する意欲が高まり、具体的な検討に結びついたと思われる。	
	業界団体・職能団体が国事業と連携して介護のしごとの魅力発信に向けて、具体的な実施イメージを持つこと。	アンケート回答者(業界団体・職能団体)の70%以上が、各団体内における会議で、国事業に関する情報共有や国事業との連携に関する検討を「実施した」「まだ実施していないが、実施予定がある」と回答すること。	関係者と顔の見える関係ができたか。 →「できた」…50.0%	▲	•事業間連携会議における業界団体・職能団体と実施主体の交流時間が限られていたことから、顔の見える関係構築までには至らなかった団体もあったと考えられる。	
	自治体が介護のしごとの魅力発信の実施に役立つヒントを得ること。	アンケート回答者(自治体)の80%以上が、介護のしごとの魅力発信の実施に役立つヒントを「得た」と回答すること。	介護人材の確保に向けた魅力発信を行う際のヒントが得られたか。 →「はい」…100.0% (第1回・第3回の合計)	○	•魅力発信におけるポイントや活用可能なコンテンツ等、自治体における取組の検討に役立つ情報を提供することができたと考えられる。	
	自治体が事業間連携会議で得たヒントを所属自治体の介護のしごとの魅力発信に取り入れること。	アンケート回答者(自治体)のうち70%以上が、事業間連携会議で得たヒントを所属自治体の魅力発信に取り入れたいと「とても思う」「思う」と回答すること。	事業間連携会議で得られたヒントを所属する自治体/法人における介護のしごとの魅力発信に取り入れたいと思うか。 →「上位2項目…73.7%」 (第1回・第3回の合計)	○	•事業開始当初における実施主体への「業界団体・職能団体が持つ広報媒体リスト」配布等により、協議や相談が行いやすくなったと思われる。	
	国事業の実施主体と業界団体・職能団体・自治体が、介護のしごとの魅力発信を実施するための協議や相談をすること。	アンケート回答者(国事業の実施主体)の60%以上が、業界団体・職能団体・自治体と協議や相談を「した」と回答すること。	業界団体・職能団体や地方自治体との間で、介護のしごとの魅力発信に関連する協議や相談を行ったか。 →「1件以上協議や相談を行った」…83.3%	○	•実施主体からは、ニュースレターを通じた周知支援や効果分析支援により、事業効果が向上したと感じるの声を挙げた。 •一方、業界団体・職能団体単体では上位2項目の割合が37.5%に留まった。アンケートの自由記述では、情報共有に留まらず更なる連携を求める声も挙がった。	
	事業間連携により事業効果が向上すること(=事業実施主体による介護のしごとの魅力発信が、広報の強化/優良な取材先の獲得/同一ターゲットへの相互の働きかけ等により、効果的になること)。 ※実施主体ミーティングと合わせて達成を目指す	アンケート回答者(国事業の実施主体、業界団体・職能団体)の50%以上が、事業間連携の働きにより、事業効果が向上したと「思う」「やや思う」と回答すること。	事業間連携等事業の働きにより、事業効果が向上したと感じるか。 →「上位2項目…57.1%」 (国事業の実施主体:83.3% 業界団体・職能団体:37.5%)	○	•都道府県の取組の紹介等、実施主体の取組検討に資する情報を提供することができたと考えられる。 •一方、業界団体・職能団体単体では上位2項目の割合が50.0%に留まった。業界団体・職能団体においては、ニュースレターを通じて得られる情報の活用イメージが湧きにくかったものと思われる。	
	ニュースレター	国事業の実施主体と業界団体・職能団体・自治体が、他の実施主体や自治体の取り組みを把握すること。	アンケート回答者(国事業の実施主体、業界団体・職能団体)の70%以上が、ニュースレターを通じて他の実施主体や自治体の取組を「把握することができた」と回答すること。	ニュースレター「なるほどカイゴ」を通じて、他の実施主体や地方自治体の取組を把握することができたか。 →「上位2項目…85.7%」 (国事業の実施主体:100.0% 業界団体・職能団体:75.0%)	○	•都道府県の取組の紹介等、実施主体の取組検討に資する情報を提供することができたと考えられる。 •一方、業界団体・職能団体単体では上位2項目の割合が50.0%に留まった。業界団体・職能団体においては、ニュースレターを通じて得られる情報の活用イメージが湧きにくかったものと思われる。
	国事業の実施主体と業界団体・職能団体・自治体が、ニュースレターを見て得た介護のしごとの魅力発信の手法や活用可能なコンテンツのヒントを活用し、毎年の魅力発信の企画・立案に反映すること。また、記事取材先とすること。	「ニュースレターから介護のしごとの魅力発信を行う手法や活用できるコンテンツのヒントを得られた」と回答した回答者のうち70%以上が、ニュースレターから得られたヒントを「魅力発信の企画・立案に反映したい」と回答すること。	ニュースレター「なるほどカイゴ」から得られたヒントを、毎年の介護のしごとの魅力発信の企画・立案に反映したいと思うか。 →「上位2項目…71.4%」 (国事業の実施主体:100.0% 業界団体・職能団体:50.0%)	○	•都道府県の取組の紹介等、実施主体の取組検討に資する情報を提供することができたと考えられる。 •一方、業界団体・職能団体単体では上位2項目の割合が50.0%に留まった。業界団体・職能団体においては、ニュースレターを通じて得られる情報の活用イメージが湧きにくかったものと思われる。	

2. 情報発信事業の事業効果分析に関する取組

(1) 事業効果分析に関する取組内容

情報発信事業では各自の実施事業に対して事業効果分析（自己評価）を行うことが実施要綱で定められている。事業間連携等事業では、魅力発信等事業全体の事業効果を取りまとめること、それに向けた情報発信事業が行う事業効果分析の質の向上を目的として、以下の取組を行った。

ア. 事業効果分析フォーマットの更新

情報発信事業の各実施主体の成果を俯瞰するためには、統一された様式を基に成果を確認し、評価することが望ましい。そのため、事業間連携等事業から情報発信事業の各実施主体に対して、事業内容や成果をまとめるための様式（事業効果分析計画・実績記入用フォーマット）を提供することにより、各実施主体の実施事業の成果・今後の課題などを整理し、評価を行うための枠組み作りを行った。令和6年度からの主な変更点は、①（過年度からの継続事業の場合）「過年度の振り返りと活用方法」、②「他実施主体や業界・職能団体等との連携による相乗効果」、③今年度事業において作成したコンテンツの利用可否・利用範囲・留意事項等を整理する「二次利用可能なコンテンツと利用範囲」を記載する欄の新設である。

イ. 事業効果分析に係る説明資料の作成、説明会の開催

各実施主体による事業効果の分析等を支援するため、事業効果分析および報告書作成のポイントを解説した資料を作成・展開した（付属資料2）。また、実施主体向けの説明会を6月に実施し、事業効果分析を依頼している背景、その実施方法・ポイント、報告書に記載すべき項目、事業効果分析フォーマットの提出スケジュールについて説明した。

(2) 事業効果分析結果

ア. 事業の構造

令和7年度事業は昨年度事業に引き続き、「イベント、テレビ、WEB等を活かした取組等を通じて、全国に向けた情報発信を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすること」を目的として実施されている。

魅力発信等事業は事業内容によって情報発信事業と事業間連携等事業の2つに分かれており、さらに情報発信事業は①全国へ向けた情報発信事業と②WEBを活用した広報事業、そして③介護職発信事業の3つに分かれている。①全国に向けた情報発信事業は「イベント、テレビ、WEB等を活かした全国的な波及効果の期待できる取組を通じて、広く国民に向けた情報発信を行う事業」であり、②WEBを活用した広報事業は「WEB広告等を活用し、介護の日や福祉人材確保重点実施期間等の機会を捉えつつ、年間を通して広く国民に向けて広報を行う事業」、③介護職発信事業は「介護職など自らが主体となり、自らの声で介護の仕事の

魅力・やりがい・誇りを発信するコンテンツの企画・制作等を行い、発信力のある①や②の事業者と連携し、広く国民に向けて広報を行う事業」である。

魅力発信等事業の事業構造は表 65のとおり。事業間連携等事業は令和6年度と基本的に同様の内容であり、魅力発信等事業の実施主体間の連携や事業効果分析の支援だけでなく、都道府県との連携に係る取組が引き続き実施されている。

表 65 令和7年度魅力発信等事業の事業構造

#	事業名	実施主体名	事業目的(概要) ※実施要綱内の「事業区分及び各事業の主眼」より転載。
1-1	情報発信事業 (全国へ向けた情報発信)	(株)朝日新聞社	<ul style="list-style-type: none"> 多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を深めるとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、イベント、テレビ、WEB等を活かした全国的な波及効果の期待できる取組を通じて、広く国民に向けた情報発信を行う事業。
1-2		(株)マガジンハウス	
2	情報発信事業 (WEBを活用した広報事業)	楽天グループ(株)	<ul style="list-style-type: none"> 多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持つとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、WEB広告等を活用し、介護の日や福祉人材確保重点実施期間等の機会を捉えつつ、年間を通して広く国民に向けて広報を行う事業。
3-1	情報発信事業 (介護職発信事業)	(一社)KAIGO PRIDE	<ul style="list-style-type: none"> 多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持つとともに、その仕事の魅力を感じてもらえるよう、介護職など自らが主体となり、自らの声で介護の仕事の魅力・やりがい・誇りを発信するコンテンツの企画・制作等を行い、発信力のある1や2の事業者と連携し、広く国民に向けて広報を行う事業。
3-2		(株)Blanket	
3-3		(福) 全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経 営者協議会	
4	事業間連携等事業	PwCコンサルティング (同)	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業の実施主体が、他の実施主体や「都道府県等の地域単位で実施している魅力発信に係る取組」(以下「都道府県事業」という。)との連携を図ることなどにより、「介護のしごと魅力発信等事業」の事業効果の最大化を図ることを目的とする事業。

イ. 情報発信の全体像

魅力発信等事業(情報発信事業)における情報発信の方法を整理した結果は表 66のとおり。イベント開催やWEB(サイト、記事、動画)での情報発信を行っている実施主体が多く、朝日新聞社と楽天グループは介護にまつわるポータルサイトを作成している(過年度事業で開設したサイトのアップデートを含む)。また、全国へ向けた情報発信事業の実施主体は新聞社および出版社であるため、各社の既存媒体を活かし、新聞や雑誌での情報発信が行われている。

表 66 令和 6 年度魅力発信等事業における情報発信の方法

#	事業名	イベント	TV・ラジオ	新聞・雑誌	WEBサイト・記事	動画	SNS	その他	主な活動
全国へ向けた情報発信	(株)朝日新聞社	◎ 9回 (出張発表)	—	◎ 新聞掲載 新聞告知	○ ポータルサイト 記事6本	◎ 3本	○ 各種広報	○ 冊子配布	<ul style="list-style-type: none"> ・ [イベント] 出張発表 ・ [冊子]「サバイバル」を活用した冊子 ・ [マニュアル]出張発表マニュアル ・ [WEB記事・動画]教員プラトフォーム「先生コネクト」教職員向けウェビナー ・ [WEB記事・動画]YouTube「カビ」 ・ [WEB記事・動画]ドットコムウェビナー
	(株)マガシハウス	◎ 5回 (ことば展1回、 クアアするしことば 展4回)	—	◎ 雑誌3回 (anan, POPEYE, anan × POPEYE × こ ここ雑誌)	◎ 記事19本	○ 3本	○ 各種広報	◎/○ 冊子配布 プレスリリース	<ul style="list-style-type: none"> ・ [イベント]「わたしの暮らし」をノックすることは展、VR認知症体験会 ・ [イベント]クアアするしことば展 ・ [雑誌]anan, POPEYE付特集企画 ・ [WEB動画]POPEYE特集企画 ・ [WEB記事]「こここ」での連載 ・ [冊子]小学生向け冊子活用マニュアル
WEBを活用した情報発信	楽天グループ(株)	—	—	—	◎ ポータルサイト コンテンツ4本以上 NEWS掲載3本	◎ 4本	◎ デジタル広告	◎ デジタル広告 (バナー8本以上、うち介 護職発信事業コンテンツ 7本)	<ul style="list-style-type: none"> ・ [WEB記事]ポータルサイト運営 ・ [WEB記事]人気漫画家タイアップ ・ [WEB動画]職種別向け動画コンテンツ ・ [WEB広告]介護職発信事業者連携
介護職発信	一般社団法人 KAIGO PRIDE	◎ 動画9回 オンライン2回 (学生)	—	—	—	◎ 11本 (1-2週配信10本、 ショートムービー1本) ※オンライン配信 追加予定	○ 各種広報	◎/○ 4回 (チャプター発信1回、 速報発信3回、 速報発信+出張発表、イ ベント出張等の総計)33 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ [イベント]アンバサダーの養成(個人・チーム・学生) ・ [WEB動画]アンバサダーワークショップ ・ [WEB動画]アンバサダーコミュニティ形成(地域チャプター) ・ [イベント]アンバサダー連携発信 ・ [イベント]ショートムービー制作
	(株)Blanket	◎ 16回 (5回/各3講座、 成果報告会1 回)	—	—	◎ ポータル3本 (ライティング、集づく り)受講生成果物発信 WEBサイト)	◎ 16本 (各種講座のアーカイブ 配信5回/3講座、成果報 告会1本)	○ YouTube再生リ スト1本 各種広報	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ [イベント]KAIGO LEADERS SCHOOL (発信スキル向上のための3講座：SNS、ライティング、集づく) ・ [WEBサイト]受講生成果物発信WEBサイト ・ [イベント]成果報告会(KAIGO LEADERS AWARD)
	社会福祉法人 全国社会福祉 協議会 全国社会福祉 法人経営者協 議会	◎ 3回	—	○ イベントのメディア 露出	—	◎ 3本 ※イベントのオンライン配 信追加予定	○ 各種広報	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ [イベント]HERO'S TOKYO、学生HERO'S、地方版HERO'S ・ [WEB動画]密着ドキュメンタリー

※◎…実施した活動のうち、事業の中心を担うもの。○…左記「◎」の活動に付随して実施した活動。

ウ. 各実施主体の活動に関する総括

①株式会社朝日新聞社（全国へ向けた情報発信事業）

株式会社朝日新聞社の取組概要は別添資料（弊社ホームページに掲載）のとおり。

事業の方針

同社は過去数年間にわたって魅力発信等事業に参画し、「これからのKAIGO」プロジェクトを継続的に実施している。昨年度は、将来の介護人材を担う「こども（次世代）」への関心喚起を中心に据えて事業を展開していたが、今年度は、こどもに加え、進路や職業観の形成に影響を与える「保護者・教職員」もメインターゲットとして設定し、30～50代の「ミドル層」をサブターゲットとして位置付けた。これらの多層的なターゲットに合わせた施策で、介護の仕事の魅力ややりがいを発信し、介護が将来の職業選択肢の一つになることを目指した。

事業の全体像（活動の軸）

本事業は、「学校・教育現場への情報発信」、「メディアを利用したコンテンツの情報発信」、「介護の仕事の魅力発信を支える基盤整備」の3つを主軸に各活動が実施された。「学校・教育現場への情報発信」では、出張授業、大人気シリーズ漫画「サバイバル」を活用した小学生向けオリジナル冊子の制作・配布を行った。「メディアを利用した情報発信」では、メインターゲットを対象に出張授業の採録の朝日小学生新聞・中高生新聞への掲載、朝日新聞社の教員向けサイト「先生コネクト」でのセミナー開催、技能五輪全国大会の動画施策の掲載（YouTube「ブカピ」）、サブターゲットを対象にオンラインセミナーを実施した。「介護現場での発信を支える基盤整備」としては、小中高向け出張授業マニュアル作成など、現場側の発信力向上を支援する材料を作成した。

また、ターゲット別に期待する意識変化を明確に設定した。具体的には、小中高生である「こども（次世代）」は「ケアのこころ」や「助け合いのこころ」を育てること、「保護者・教職員」は「こどもや生徒を応援できること」、（保護者については）即戦力となり得るミドル層として「自らもキャリアチャレンジすること」、「ミドル層」は「スキルや経験を活かすこと」や「柔軟な働き方への理解促進」を目指す設計とした。

実施主体の強みを活かした特筆すべき点

同社の取組の特色は、同社が有する教育・メディア領域の豊富なアセットを、ターゲットごとの特性に応じて効果的に活用している点である。小学生向けには、大人気シリーズ漫画や介護ロボット技術など、関心の高い切り口を活用し、介護に接点のない層でも、知的好奇心を刺激して関心を喚起する工夫がみられた。高校生向けには、技能五輪をテーマとした高校生取材動画を制作し、同世代への共感を喚起するストーリー性のある情報発信を行った。教職員向けには、同社が運営するプラットフォーム「先生コネクト」を活用し、教育現場のニーズに沿ったコンテンツ提供が行われた。また、今年度は昨年度の課題を踏まえた改善も図られた。出張授業では、授業中の写真・動画を参加者同意取得の上で学校へ共有し、授業に同席できなかった保護者にも情報が届くようにした。

これらの取組は、同社が持つ教育領域でのネットワーク、全国規模のメディア露出力、大人気シリーズ漫画との連携力といった強みを最大限活用して実現されたものである。新聞、

WEB、動画、教育向けプラットフォームなどの媒体を横断した多面的なアプローチにより、ターゲットリーチの幅を広げている点も特色である。例えば、朝日小学生新聞は母親の約85%が子どもと一緒に読んでいとされ、教職員にも接触する媒体特性を有しており、子ども、保護者・教職員への情報波及がしやすい構造となっている。

ターゲットへのリーチ状況

子ども（次世代）、保護者・教職員、若年層、ミドル層といった想定ターゲットごとに接点となる媒体や手法を計画し、それぞれに適した形で情報発信が行われた。学校現場では、全国9校（小学校5校・中学校3校・高校1校）での出張授業の採録を朝日小学生新聞（105,284部）および中高生新聞（47,926部）に掲載することで、小中学生・高校生に加え保護者・教職員へもリーチした。

加えて、保護者への間接的な接点強化として、授業中の写真や動画を個人情報に係る同意を得たうえですべての学校へ提供し、授業に同席できなかった保護者の閲覧機会を創出する工夫が行われた。一方、80件超あった出張授業への応募で落選してしまった学校へのフォローは課題として残った。

また、小学生向けオリジナル冊子は朝日小学生新聞で配布先の募集を行い、応募のあった先着8校に対して計10,251冊を配布した。若年層にはYouTube「ブカピ」を活用した動画施策、教職員・ミドル層にはウェビナーや動画等を組み合わせた施策を行うなど、各ターゲットに対し適切な媒体を通じたリーチ設計がなされた（目標再生回数は3月末に達成見込み）。

計画に照らした進行状況の結果（アウトプット）

本事業は、上記3つの軸に沿っておおむね計画どおり実施された。出張授業は計画どおり9回実施し、参加者数は900～1,000人規模で集計中（3月15日時点）である。朝日小学生新聞は105,284部で採録掲載を行い、中高生新聞は47,926部への掲載を3月末に予定している。

小学生向けオリジナル冊子は計画どおり約1万部作成・配布したほか、ポータルサイトに閲覧用として掲載するなど、配布後の接点を広げる取り組みも行われた。

出張授業マニュアルは、活用に向けた展開団体数「50以上」を目標に掲げたが、事業計画の遅れにより、3月末の展開を予定している。

若年層向けYouTube「ブカピ」を活用した動画施策について、動画は完成・公開されている。目標値（再生回数7万回、SNS拡散200～300万インプレッション）に対する結果測定（再生回数等の集計および動画視聴者へのブランドリフト調査等）は進行中である。教職員向け・ミドル層向け施策についても、動画の公開・ウェビナーの実施とそれぞれのタイアップ記事の公開は完了しており、各施策の目標値（動画再生7万回程）に対する到達状況は集計中である。いずれの再生回数も3月末に達成見込みである。

成果（アウトカム）

出張授業の小学生向けのアウトカム（「介護」や「介護の仕事」への興味・関心の向上）ならびに小学生の教職員・保護者のアウトカム（「介護の仕事」を子どもに勧めたいと思った割合）を把握するためのアンケートは、現在集計中である。なお、授業中の積極的な参加や学校側の好意的な反応、さらに、出張授業を受けて介護福祉士を目指すことを希望する中

学生が複数名認められたことから、授業を通じて一定の興味・関心の喚起や理解促進がなされたと期待される。

小学生向けオリジナル冊子については、大人気シリーズ漫画とのタイアップで知的好奇心を刺激できた一方、学校への配布後に「実際にどのように使われたか」を把握するフィードバックが得にくい点が課題として認識されており、今後は活用実態を把握する仕組み（ヒアリング等）の検討が必要とされている。

出張授業マニュアルについては、過年度アンケート結果を踏まえ、内容のリアリティが同社企画委員に評価された。しかし、学校ごとに授業を担う講師が異なるため、授業運用にばらつきが生じ得る可能性が懸念されており、展開後の反響把握が今後の課題とされている。

YouTube「ブカピ」を活用した動画施策および教職員・ミドル層向け施策については、アウトカム（「介護の仕事」のイメージアップの向上）を把握するためのアンケート調査は集計中である。同社企画委員より、YouTube「ブカピ」を活用した動画施策については、技能五輪を切り口とした点が評価される一方、若年層向けにはより身近なテーマ設定とする余地も指摘された。教員向け動画については、教員が介護・福祉に関する専門知識を適切に伝えられない現状に対するインプット機会として意義が認められた。今後の改善点としては、教材活用後の生徒の反応まで考慮した議論の深化が挙げられた。ミドル層向けウェビナーについては、ひとり親への訴求が評価され、キャリア・働き方の具体例の提示ができた一方、地域での活動貢献の言及を厚くする余地があるとの指摘が挙げられた。

他実施主体や関連団体との連携

介護職発信事業の実施主体や業界団体、教育関係者との連携を通じて、講師の派遣や教材動画素材の提供協力等が行われた。具体的には、出張授業では介護職発信事業の採択団体や高齢者住まい事業者団体連合会から紹介された講師の派遣、株式会社マガジンハウスが制作した冊子の配布が実施された。YouTube「ブカピ」を活用した動画施策では、全国福祉高等学校長会による取材対象者（生徒）の紹介、シルバーサービス振興会による素材・資料提供が行われた。さらに、ミドル層向けウェビナーでは全国社会福祉協議会による出演者紹介が行われた。

今後の魅力発信等事業に活かせる点

出張授業、朝日小学生新聞・中高生新聞、人気コンテンツとのタイアップ等を通じて、介護の仕事の魅力を「教育」や「キャリア形成」といった文脈の中に位置づけることで、介護職と日常的に接点のない層にも自然に関心を喚起できた。特に、技術・ロボットや部活動など、ターゲットがもともと関心を持つテーマと介護を接続する手法は、媒体・ブランドの種類に依存せず、テーマ設定や切り口の工夫として応用可能であることが示唆される。また、小中高生、保護者・教職員、若年層、ミドル層とターゲットを明確に分け、それぞれに応じて媒体や内容を使い分けることで、発達段階や関心度に即した訴求が可能となっている点は、事業設計を検討するうえで参考となる。

また、こども（次世代）の保護者層など一部のターゲットについては、学校や媒体を介した間接的な接触が中心となる構造であるため、より直接的な接点づくりにより、リーチの程度を深めるための施策検討が必要である。

②株式会社マガジンハウス（全国へ向けた情報発信事業）

株式会社マガジンハウスの取組概要は別添資料（弊社ホームページに掲載）のとおり。

事業の方針

同社は過去数年間にわたって魅力発信等事業に参画している。昨年度同様、若年層（10～30代）を中心とする介護・福祉の仕事に無（未）関心層を主な対象に、雑誌・WEB・SNS・イベントといった媒体の幅広さと編集力を活かし、介護の仕事の魅力の認知拡大・関心喚起・理解促進を図った。また、進路・職業選択を具体的に決める前段階のプレ若年層（小学生）をサブ対象とし、介護の仕事にまつわる冊子の普及を通じて早期接触の機会創出を狙った。また、介護職がSDGsや災害対応等の社会課題の解決にも資する、希望ややりがいを持てる仕事である点を意識したコンテンツ制作および全国へ向けた広範な発信を事業の実施方針とし、不足する介護人材のすそ野拡大に寄与することを目指した。

事業の全体像（活動の軸）

本事業は、雑誌・WEB・SNS・動画・イベント・冊子といった複数媒体を横断的に活用した情報発信で構成されている。昨年度に続き、若年層の認知度が高い雑誌「anan」「POPEYE」、福祉に特化したWEBマガジン「ここに」への特集・連載記事の掲載、ケアリングノーベンパー（主催：株式会社散歩社）とコラボした「ケアにまつわる連携体験型イベント」や、体験・交流イベント「ケアするしごとツアー」の開催、同社の「介護のしごと」の取組に関するプレスリリース配信を実施した。加えて、今年度は新たに、「POPEYE」の本誌取材記事の動画制作とWEB・SNS配信、「anan×POPEYE×ここに」連携冊子の制作と全国書店での配布を行った。また、昨年度制作した小学生向け冊子「幸せに生きるって、どういうこと？知っておきたい『介護』のしくみと仕事」の活用マニュアルを制作し、幅広く普及されるための仕組みを構築した。

実施主体の強みを活かした特筆すべき点

若年層に対して高いリーチ力を持つメディアを複数有する強みを活かし、「介護・福祉」を社会課題として正面から訴求するのではなく、読者の日常や関心領域に自然と接触する形で提示している点に特色がある。また、介護・福祉の仕事に無関心な層に対して、記事による「認知」「興味・関心」から、イベント・体験機会による「理解促進」へと段階的に接続する導線を構築し、単発的な情報接触にとどまらない発信構造としている。

ターゲットへのリーチ状況

雑誌「anan」「POPEYE」の本誌・WEB記事に加え、「POPEYE」のSNS動画、WEBマガジン「ここに」連載、「anan×POPEYE×ここに」連携冊子のイベントや全国書店での配布、体験・交流イベントの開催等や、これらの複数媒体を連動させた相互送客を通じて、介護・福祉の仕事に無関心な若年層を中心に幅広い接触機会を確保した。

「ケアするしごとツアー」の参加者については、昨年度、想定ターゲット層（介護・福祉の仕事に関心のある方、介護従事者以外の若年層）のうち、介護従事者以外の若年層へのリーチが課題として挙げられていた。そうした層への接点拡大のため、日本ソーシャルワーク教育学校連盟および全国福祉高等学校長会の2団体にチラシ等の情報提供、ツアー開催地周辺の福祉系学校に直接アプローチを行ったほか、「anan」特集記事の中でツアー

に関するお知らせを掲載する等の広報も行った。その結果、全4回開催したツアーのうち、参加者の半数以上が介護従事者以外である回もみられた（第1回：63.7%、第3回：66.7%）。小学生向け冊子の普及のために開催した読書会では、こどもと接点のある幅広い年代・職種（会社員、書店員、ライター、フリーランスなど）へのリーチがみられた。

計画に照らした進行状況の結果（アウトプット）

雑誌「anan」「POPEYE」の本誌・WEB記事は、いずれも予定通り掲載・発売され、本誌発行部数は計画値（「anan」：147,000部、「POPEYE」：75,000部）を上回り、「anan」は158,958部、「POPEYE」は75,667部となった。「POPEYE」の本誌取材内容をもとにした動画制作とWEB・SNS配信においては、3本の動画を作成し、再生回数は603,000回（3月23日時点）（目標450,000回／3本合計）であった。また、「anan×POPEYE×こここ」連携冊子は予定通り10,000部を展示・トークイベントや全国の書店で配布した。

「ケアにまつわる連携体験型イベント」においては、トークイベントは対面参加者30名（オンライン参加者約100名）（目標40名）、演劇ワークショップは参加者33名（目標40名）であった。一方、あわせて実施した「“わたしの暮らし”をノックすることば展」（以下「ことば展」）（内）には約3,858名（目標1,000名）、VR体験には249名（目標60名）が参加するなど、目標を上回る集客があった。また、「ケアするしごとツアー」については、全4回実施し、計52名（目標45名）が参加した。

小学生向け冊子の普及に関しては、外部向けに利用可能な、冊子を効果的に説明するためのマニュアルデータを制作し、オンライン読書会を1回開催し、9名が参加した。

WEB記事は、計画より多い計19本（目標17本：anan 3本、POPEYE 3本、こここ11本）を掲載し、プレスリリースは予定通り、計3回の配信を予定（2回配信済。残り1回は3月27日に配信予定）している。既に完了している2回の配信で、転載メディア数は82メディア（目標60メディア／3回）となった。

成果（アウトカム）

記事掲載の評価に関しては、昨年度の課題となった「媒体特性上、効果測定が難しい」という点を踏まえ、雑誌・イベントで二次元コード等を用いたアンケート調査を実施し、読前後／参加前後の介護の仕事に対する印象変化を定量的（10段階評価）に把握し、変容率+2.0pを目標とした。その結果、いずれの媒体においても、介護の仕事に対する印象の改善が確認され、一定の成果が得られた。

表 67 各種雑誌・web記事等のアウトカム結果

	anan雑誌	POPEYE雑誌	こここ連載
アンケート回収数	185（目標200）	168（目標100）	80（目標80）
購読前後の介護の仕事に対する印象変化（10段階評価）	+0.5pt（目標+2.0）	+0.51pt（目標+2.0）	+1.58pt（目標+2.0）

体験型イベントについても、同様に参加前後の介護の仕事に対する印象変化を測定した結果（目標変容率+2.0pt）、すべてのイベントにおいてプラスの効果が確認された。具体的には、ことば展（内）で+1.33pt、トークイベントで+0.95pt、VR体験で+0.51pt、演劇ワークショップで+1.52ptとなった。なお、アンケート回収数を確保するために、会場スタッフの配置やノベルティの配布等のインセンティブの工夫が行われた。

「ケアするしごとツアー」では、参加者全53名を対象に同様のアンケートを実施し、介護の仕事に対する印象変化は+1.88pt（目標+2.5pt）となった。

小学生向け冊子の活用については、読書会後アンケート（n=9）における活用意向は100%（目標80%以上）となり、参加者の介護の仕事に対する意義・魅力についての理解が深まったことが示唆される。

他実施主体や関連団体との連携

介護職発信事業のコンテンツについて、WEBマガジン「こここ」ニュース&トピックスへの掲載、「anan×POPEYE×こここ」連携冊子への掲載、「ケアにまつわる連携体験型イベント」でのパネル展示および配布物の設置などを行い、同社がターゲットとする層への広報に寄与した。また、一般社団法人KAiGO PRiDEによる映画上映会、社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会によるイベント等、介護職発信事業への「anan×POPEYE×こここ」連携冊子の提供も行った。さらに、「ケアするしごとツアー」においては、株式会社Blanketとの連携により、コンテンツの質と情報発信力の相乗効果、無関心層への訴求を図った。

今後の魅力発信等事業に活かせる点

雑誌「anan」「POPEYE」やWEBマガジン「こここ」等において、現場で働く介護職の声を読者の関心や感情に届く文脈へと編集する力を活かし、紙面・WEB・SNS・イベントを横断して展開したことで、介護・福祉に無関心な若年層との接触機会を広く創出できた点は示唆に富む。また、記事・動画による関心喚起を起点に、連載・冊子・イベント・体験ツアーへとつなぐ動線設計は、単発的な情報提供にとどまらず、理解深化へ導く手法として、他事業にも応用可能であると考えられる。

③楽天グループ株式会社（WEBを活用した広報事業）

楽天グループ株式会社の取組概要は別添資料（弊社ホームページに掲載）のとおり。

事業の方針

同社は情報発信事業（WEBを活用した広報事業）として、複数年度にわたり魅力発信等事業に参画している。昨年度に続き、介護の仕事魅力発信ポータルサイトの制作・運用およびコンテンツ拡充、動画コンテンツの制作・配信、WEB・デジタル広告の配信等を組み合わせた情報発信を通じて、介護の仕事に関する認知・関心の入口を広げ、理解促進から就業検討につながる意識変容を段階的に促すことを目的に事業を実施した。

今年度は、若者層・転職・就職層、子育てを終えた層、保護者層等の幅広い層を基本ターゲットとしつつ、入職へのリードタイムが短い層を想定した重点セグメント（例：30代以上、介護接点あり、年収レンジ等）を設定し、より行動変容に重点を置いた。

事業の全体像（活動の軸）

本事業は、昨年度も運用した「介護の仕事魅力発信ポータル『知る。わかる。介護のしごと』のリニューアル・運用」、「動画コンテンツ制作・配信」、「ポータル・動画双方に対するデジタル広告運用」、「介護職発信事業者との連携支援」の4要素で構成される。

実施主体の強みを活かした特筆すべき点

楽天会員ID・購買等のデータを活用した細かなターゲット設計により、認知獲得（広告）から理解促進（ポータル・動画）までを一気通貫で設計している点が特徴である。また、昨年度の検証を踏まえ、就業意向の向上に資するコンテンツ開発や重点セグメント特化型の動画制作・配信を行い、広告素材も過去2年の効果測定・分析結果を根拠に内容を変更した。加えて、介護職発信事業者のコンテンツの広告配信支援と調査支援を実施し、事業間連携の強化と効果の可視化に寄与した。

ターゲットへのリーチ状況

重点セグメント（例：30代以上、介護接点あり、年収レンジ等）への配信、ユーザーインターフェイス上のパソコン/スマートフォンの挙動整理、ターゲット層の欲しい情報が見やすい設計、介護職発信事業や都道府県事業の情報発信の強化、就業検討度を高めるコンテンツの新規開発により、ポータルサイトは232万PV・180万UU、動画広告は316万回再生と、目標値を大幅に上回った（表 68）。男女比もおおむね均等で、幅広い年齢層（18-24歳：8%、25-34歳：21%、35-44歳：27%、45-54歳：26%、55-64歳：10%、65歳-：8%）へのリーチや、リピーターの高いエンゲージメントを獲得した。

計画に照らした進行状況の結果（アウトプット）

今年度に計画していた主要なアウトプット目標は計画どおり達成された。具体的には、介護の仕事魅力発信ポータル『知る。わかる。介護のしごと』では、就業検討度を高める新規コンテンツとして、介護職の一日、就職方法、資格とキャリアパス、給与などをテーマとする4コンテンツ以上の掲載と、39件のNEWS掲載を行った（目標3コンテンツ）。動画コンテンツについては本編4本（目標4本）を作成し、デジタル広告運用については、ポータルサイト告知用バナーを8本以上（目標6本以上）作成した。介護職発信事業者との連携支援と

して、コンテンツの広告配信サポートは合計7本（KAiGO PRiDE 1本、全国社会福祉協議会5本、Blanket 1本）実施し、目標（各社1-2本）を上回った。

成果（アウトカム）

アクセス解析（Google Analytics 4、Rakuten Analytics Tracker等）によりポータル接触状況（PV、UU、下層ページ滞在時間、コンテンツの閲覧・ダウンロード等）を把握し、アウトカムを測定した。また、楽天インサイト会員を対象とした定量調査（楽天IDを活用した接触者調査。N=1,800）により、情報接触者が考える介護の仕事の魅力度・理解度・就業意向等の昨対比や、情報接触前後の介護の仕事の魅力度合の差分を検証した（表 68）。

ポータル運用の実績（3月10日時点）としては、計画を上回るPV（232万回）・訪問者数（180万UU）を確保し、漫画コンテンツは2.4万PV・14,127ダウンロード、下層コンテンツの平均滞在時間は130秒となった。重点セグメントの細分化とそれらに沿ったコンテンツ提供、ターゲット別に訴求内容を検討した広告運用等が目標値の到達に寄与したと考えられる。また、他実施主体および都道府県との連携によって、NEWS掲載数・クリック数が伸長した可能性もある。接触者の介護の仕事に対する魅力度・就業意向については、それぞれ昨対比+9.4pt・+10.2pt（ともに目標+5.0pt）となった。

動画コンテンツは、転職者インタビュー4本の総再生回数が合計316万回となり（計画100万回）、視聴維持率は7割とされている。動画コンテンツ視聴前後の介護の仕事に対する魅力度差分は、全体では+4.7pt（目標+5.0pt）にとどまったが、「若者層」の内「高校生」では+14.0pt、「就職・転職活動中」のうち「男性20代」では+9.0ptと変化がみられた。

表 68 アウトカムの測定結果

区分	指標（アウトカム）	目標（計画）	実績（3月10日時点）
ポータル運用+ デジタル広告配 信	PV数	100万回	232万回
	訪問者数（UU）	50万UU	180万UU
	下層コンテンツ平均滞在 時間	100秒	130秒
	漫画コンテンツPV	2万PV	2.4万PV
	漫画コンテンツDL	5,000DL	14,127DL
	介護の仕事の ① 魅力度 ② 就業意向	昨対比+5.0pt	① +9.4pt ② +10.2pt
動画配信+デジ タル広告配信	再生回数（4本合計）	100万回	316万回
	視聴維持率	—	7割
	コンテンツ視聴前後の介 護の仕事の魅力度合の 差分	+5.0pt	+4.7pt ※「若者層」のうち「高校生」： +14.0pt

区分	指標（アウトカム）	目標（計画）	実績（3月10日時点）
			※「就職・転職活動中」のうち「男性20代」：+9.0pt
介護職発信事業連携	一般社団法人KAiGO PRiDE 動画コンテンツ再生回数	566,667回	124万回
	社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 動画コンテンツ再生回数	346,476回(5本合計)	153万回
	株式会社Blanket WEBサイトPV数	113,333クリック	91万PV

他実施主体や関連団体との連携

本事業では、介護職発信事業者や都道府県等が発信する情報をポータルサイトに集約・掲載し、関連コンテンツへの流入拡大を図った。他実施主体や都道府県との連携の結果、NEWS掲載数・NEWSクリック数が伸長し、下層ページでは都道府県の紹介ページが最もクリックされた。また、NEWSを通じた広報支援により、一般社団法人KAiGO PRiDEの記事のイベント数が6,000回を超えるなど、エンゲージメント向上につながる動きが確認された。

動画コンテンツでは、介護職発信事業者の推薦により出演者を選定し、現場の声を反映した内容とした。視聴維持率は7割を記録しており、タレント等を活用しない現場起点のコンテンツが関心を集める可能性が示唆される。こうした連携は、各団体における介護職の発信機会の拡大や、関連コンテンツ・イベントなどへの流入増加につながり得る取組と言える。

今後の魅力発信等事業に活かせる点

重点ターゲットを精緻に設定し、当該層に訴求する広告発信、情報集約拠点（ポータルサイト等）における理解促進、アンケート調査による効果検証を一气通貫で実施する設計は、Evidence-Based Policy Making（EBPM）の観点から、魅力発信の効果を可視化し改善につなげるために有効であることが示唆される。特に、介護職発信事業者等への広告配信支援と効果測定支援を組み合わせる枠組みは、実施主体間の連携を協力依頼にとどめず、発信力の底上げや連携効果の可視化につなげる好事例となり得る。

また、他実施主体・都道府県等が発信する情報を集約することによる相互送客（他コンテンツへの流入など）が見られた。なお、連携にあたっては、掲載数・流入数・クリック数等の指標を事前に整理し、連携効果を可視化できる運用とすることが重要である。

④ 一般社団法人KAiGO PRiDE（介護職発信事業）

一般社団法人KAiGO PRiDEの取組概要は別添資料（弊社ホームページに掲載）のとおり。

事業の方針

情報発信事業（介護職発信事業）において、同法人は令和6年度に続き2度目の採択である。同法人は、現役介護職が自らの声で介護の魅力を発信できるようになることを重視し、KAiGO PRiDEアンバサダー（以下「アンバサダー」）の育成と、育成後の発信機会の創出を組み合わせた事業を実施した。

魅力発信等事業で設定されているアウトカム（認知向上、興味・関心喚起、理解促進、社会的評価の向上）に加え、独自アウトカムとして、令和6年度から「介護の仕事に対して介護職自身の自己評価が高まること（セルフリスペクト）」を設定している。さらに令和7年度からは、「介護職が安心して発信できる環境がある」を新たに設定した。発信手段においても、連携発信、ショートムービー制作・上映など、多様な手段を追加し、事業の対象を介護職だけでなく、介護の仕事に対して無関心な層を含む幅広い層へと広げた。

事業の全体像（活動の軸）

本事業は、主に「アンバサダー育成（個人・チーム・学生）」、「アンバサダーによる連携発信活動」、「継続的発信を支える基盤形成」、「映像コンテンツ」の4つの活動で構成される。

今年度は、「職場の理解や協力が得られず活動が継続しづらい」というアンバサダーの声をもとに、これまでの個人参加枠に加えて、同一法人・同一事業所などから複数名での参加を促すチーム参加枠を新設した。また、介護職への進路選択や職業定着に寄与することをねらいに学生枠を新設した。あわせて、これまでに養成したアンバサダーによる自治体・教育機関・業界団体等との連携発信（出前講座、イベント出演、コンテンツ制作協力等）を実施し、発信機会の拡大を図った。

また、全国8地域で「チャプター」（アンバサダー同士のコミュニティ）を設置して、発信意欲の維持・促進に取り組んだ。これは、地域での魅力発信活動を支える基盤となっている。

令和6年度からの継続事業であるオンライントークプラットフォームでは、アンバサダーが等身大で語るライブ配信・アーカイブ型コンテンツを作成した。ライブ配信のテーマはSDGs、ICT活用、災害対応、外国人介護人材など幅広く、聞き手が惹きつけられる内容となるような工夫がされた。

さらに、アンバサダー等の実話をもとに20分程度のショートムービーを制作し、商業施設等での上映イベントとアンバサダーによるトークショーを組み合わせ、「映画+対話」により理解・共感を深める設計とした。ショートムービーは、YouTube等にてオンライン公開もされた。

実施主体の強みを活かした特筆すべき点

全国に広がるアンバサダーネットワークと、自治体・教育機関・業界団体等多様なステークホルダーとの接点を基盤に、「発信者の育成」「発信機会の提供」「発信者の継続的支援」を一体的に行っている点に強みがある。さらに、現役介護職（アンバサダー）の「リアルな

声」を核に、全国へ介護の魅力を届けるための発信経路を多層的に設計している点に特色がある。具体的には、自治体・教育機関・業界団体等との連携を通じた出前講座やイベント出演等（連携発信活動）、YouTube等を用いた継続的なオンライン配信（オンライントークプラットフォーム）、共感を喚起しやすい映像コンテンツ（ショートムービー）の制作・WEB公開、商業施設等での上映とアンバサダーによるトークを組み合わせた対面イベント展開を組み合わせ、オンライン・オフライン双方で接触機会を確保している。

ターゲットへのリーチ状況

厚生労働省・自治体・業界団体経由の周知に加え、多様な広報媒体（ニューズレター誌面、公式WEB/SNS等）や既存アンバサダー・今年度新規に設置したチャプターによる呼びかけを組み合わせることで、各活動において想定していたターゲット層へのリーチを確保している。特に、アンバサダーによる連携発信活動については、他実施主体からの協力依頼や自治体からのリクエストに応える形での出前講座やコンテンツへの出演等の実施により、年代・地域・分野を超えたターゲットへのリーチが創出された。さらに、映像コンテンツ（ショートムービー）のオンライン配信においては、オンライン公開・SNSでの拡散・他実施主体との連携広報により、対象としていた「介護業界に対して距離を感じている一般層や、介護職への理解・関心が浅い若年層」にも接点を拡張できたと考えられる。

計画に照らした進行状況の結果（アウトプット）

アウトプットについては、アンバサダー育成（個人・チーム）や連携発信活動、チャプター設置などで、当初想定を上回る実績が複数確認された。特に、アンバサダー育成（個人）に関しては、定員を上回る応募があった。参加できなかった応募者からの要望を踏まえ、追加でオンライン配信を実施することになった。

表 69 アンバサダー育成（個人・チーム・学生）研修におけるアウトプット結果

	養成人数・チーム数	実施回数
アンバサダー育成（個人）	養成人数148名 （目標100名）	実施地域9か所 （目標7か所）
アンバサダー育成（チーム）	養成グループ34チーム （目標30チーム）	—
アンバサダー育成（学生）	養成人数44名 （目標30名）	3回 （目標5回）

アンバサダー育成（学生）に関しては、応募状況を踏まえ、当初想定していた回数（5回）から見直し、3回となったが、養成人数は目標を上回っている。オンライントークプラットフォームについては、ライブ配信数やライブ視聴者数は確保されている。ショートムービーの上映会は19か所（目標3か所）で実施され、オンライン配信においては、SNSによる拡散や他業界団体との協働の効果もあり、10万回視聴を目標としていたところ、125万回（1月29日時点）と目標を大幅に上回った。ショートムービーを共通ツールに、他業界団体や関係

機関との連携が広がり、研修・イベント・教育現場などで上映やトークが実施されたことや、地域ごとに自主上映が展開され、継続的かつ横断的な広報がされたことが視聴数増加へとつながった可能性がある。

成果（アウトカム）

昨年度は、いずれの活動においても現役介護職を対象に「介護の仕事に対して介護職自身の自己評価が高まること（セルフリスペクト）」をアウトカムとして設定していたが、今年度は、現役介護職だけでなく、介護業界に距離を感じている一般層へと接点を広げ、「介護の仕事内容に興味・関心を持つ人が増える」や「介護の仕事について理解する人が増える」こともアウトカムとして設定した。

アンバサダー育成（個人）では、研修前後のアンケート（n=148）により、①情報発信ノウハウの理解向上、②情報発信意欲の向上、③仕事への誇りの向上を測定した。結果は下表のとおりで、いずれも研修後に大きく上昇している。本研修は発信に不安を抱える介護職を対象として募集しており、研修が参加者の意識変容につながったことが読み取れる。

表 70 アンバサダー育成（個人）研修におけるアウトカムの測定結果

アウトカムの内容・指標	目標	測定結果 ⁶
① 情報発信ノウハウの理解向上 （介護の魅力を発信する方法を把握している人の割合）	40.0pt 上昇	65.5ポイント上昇 （27.7%→93.2%）
② 情報発信意欲の向上 （自分で介護の魅力を発信していきたいと感じている人の割合）	5.0pt 上昇	13.5ポイント上昇 （81.7%→95.2%）
③ 仕事への誇りの向上 （自身の職業に「誇り」や「プライド」を感じている人の割合）	5.0pt 上昇	3.9ポイント上昇 （84.5%→96.6%）

連携発信活動とオンラインプラットフォームにおいては、参加したアンバサダーに対して介護の職業への「誇り」や「プライド」を問う設問に対して、100%（目標70%）が肯定的（5段階評価のうち「4」または「5」と回答）な回答をした。さらに、チャプターに参画したアンバサダーに対して、活動参画への安心感と情報発信意欲を問う設問においては、それぞれ73.8%（目標70%）と61.9%（目標60%）が肯定的（5段階評価のうち「4」または「5」と回答）な回答をした。これらのことから、目標としていたアンバサダーの自己評価の高まり（セルフリスペクト）、ならびに安心して発信する環境づくりに寄与したと考える。

映像コンテンツ（ショートムービー）では、楽天グループ株式会社による介護の仕事に対する効果検証（n=200）の結果、若年層を中心に全体の魅力度が17.0pt、就業意向は2.5pt向上した。また、印象評価においては、「介護の現場にもっと支援が必要だと感じた」が62.0%と最も多く、「人に寄り添う姿勢の優しさや思いやりの大切さを再認識した」（61.5%）、「介護の社会的意義がよく伝わってきた」（59.5%）が続き、介護の仕事に興味・関心を持つ人だけでなく、社会的評価を高める（イメージアップ）ことにも寄与した。

⁶ ①②③の各設問について事前/事後アンケートの両方に回答した人を対象として算出。

他実施主体や関連団体との連携

アンバサダー育成研修の受講生募集について、厚生労働省・自治体・業界団体・職能団体を通じた募集周知に加え、株式会社Blanketと合同説明会を実施し、事業間の位置づけや参加対象の整理を図ったことで、集客における相乗効果が得られた。また、アンバサダーによる連携発信活動においては、楽天グループ株式会社および株式会社朝日新聞社の取組に協力し、コンテンツへの出演や学校での出張授業等を実施したほか、要望があった自治体と連携して出前講座等を行い、発信機会を創出した。オンライントークプラットフォームについても、事業間連携等事業のニュースレターや楽天グループ株式会社のポータルサイトでの告知協力、他介護職発信事業者とのコラボ配信（2回）など、外部チャネルを活用した周知・連携を進めた。

今後の魅力発信等事業に活かせる点

各種活動において、厚生労働省、自治体、関係団体、魅力発信等事業の採択団体が運営する媒体（ニュースレター、WEB/SNS、既存アンバサダー・チャプターによる呼びかけ等）を組み合わせることで、想定以上のアウトプットを得られており、多様なチャネルを通じた募集が有効であることが示唆された。

⑤ 株式会社Blanket（介護職発信事業）

株式会社Blanketの取組概要は別添資料（弊社ホームページに掲載）のとおり。

事業の方針

同社は今年度、初めて介護職発信事業者として採択された。同社は「介護の仕事の魅力発信においては、マスメディアによる一方向の情報発信だけでなく、介護職一人ひとりが自らの周囲に向けて等身大の言葉で発信することが重要である」と捉えている。「信頼関係の中で届けられる個人の発信は、共感や行動につながりやすく、ゆるやかでありながら着実に広がっていく」という考え方のもと、介護職自身がその魅力を言語化し、自らの言葉で発信できる人材を育成することを目的に、「KAIGO LEADERS SCHOOL」を開講した。受講者である介護職をメインターゲットに、介護の仕事に対する自己評価（セルフリスペクト）の向上を主要なアウトカムに設定した。加えて、受講生が制作した成果物を介護職以外の層（主に学生・若年層）にも届けるため、成果物発信WEBサイトを作成し、介護の仕事の多様なあり方に触れる接点を広げることを目指した。

事業の全体像（活動の軸）

本事業は、「SNS・ライティング・場づくり等の発信スキルを習得する講座」、「成果物を共有する成果報告会」、「成果発信WEBサイトの運営」の3軸で構成され、発信力の育成から成果の可視化までを一体的に設計している。各講座では、介護職が自身の経験や想いを動画・記事・企画として形にし、発信につなげるための実践的な機会を提供した。

成果物発信WEBサイトにおいては、受講生の成果物（ショート動画・記事・地域での実践活動等）を掲載し、サイトの訪問者が投票できる仕組みを作った。そのうえで、成果報告会（KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD）で成果物を表彰した。これにより、一般層・若者層を含む幅広い層が介護の仕事に関する情報に触れる接点を創出した。

実施主体の強みを活かした特筆すべき点

介護職によるコミュニティ（KAIGO LEADERS）と、自治体・業界団体等の多様なステークホルダーとの接点を基盤に、介護職が語る介護の仕事の魅力を、SNS（動画）・ライティング（文章）・場づくり（実践）といった発信手段ごとに整理し、それぞれの方法で、学習・制作・発信までを一連の流れとして設計している点に特色がある。受講者の作成した動画・記事・実践レポート等の具体的な成果物が外部に提示される構造となっており、介護の仕事の魅力を多様な切り口で発信することを可能にした。

さらに、成果物発信WEBサイトや成果報告会（KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD）を通じ、受講者の成果物を集約して発信するだけでなく、投票・応援等の参加要素を組み込むことで、閲覧者が能動的にコンテンツに関与しやすい動線を整備している点も特筆すべきである。

ターゲットへのリーチ状況

「KAIGO LEADERS SCHOOL」の各種講座では、SNS／メルマガ／WEB等の自社発信に加え、オンライン募集説明会の複数回実施や、業界団体・他実施主体と連携した周知を組み合わせることで、主なターゲットとしていた介護職（法人参加・個人参加）の受講申込を広く獲得した。講座によって法人経由の申込が多い講座（SNS講座：法人経由35名／個人15名）、個人経

由が多い講座（ライティング講座：法人経由18名／個人32名）の差がみられ、複数経路からの流入がうかがえる。

「成果報告会（KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD）」に関しては、講座期間中から開催予告を行ったことで受講生の関心を高め、離脱者を除く95名の受講生のうち77名（オンライン40名、対面37名）が参加した。一般参加者への集客には一定の難しさが見られたものの、対面24名、オンライン76名の参加があり、受講生・外部双方への発信の場として一定の広がり確保した。

「成果物発信WEBサイト（特設サイト）」に関しては、Google Analyticsの仕様上、サイト訪問者の属性等（年齢など）の把握には制約があったものの、楽天グループ株式会社との広告連携により、後述するとおり、サイト訪問者数およびサイト内ページPV数はいずれも目標値を大きく上回る（それぞれ約40倍、約60倍）実績を確保した。

加えて、「KAIGO LEADERS SCHOOL」の各種講座のアーカイブ配信（3月末までを予定）や、「成果報告会（KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD）」開催後の株式会社朝日新聞社および株式会社マガジンハウスの運営サイトにおける、受賞者紹介やイベントレポートの掲載（予定）など、講座・イベント当日の発信にとどまらない継続的な認知拡大につながる取組を進めている。

計画に照らした進行状況の結果（アウトプット）

SNS・ライティング講座では申込が定員に達した一方、場づくり講座はテーマの難しさや参加にあたっての負荷が読めないことが障壁となり、目標受講生数未達となった（表 71）。スケジュールにとらわれず受講できる「アーカイブ講座」は307名の参加があり、柔軟な受講形態に対するニーズの高さが確認された。また、講座は計画通りの回数（各講座5回）を開催できた一方で、受講生による成果物提出件数は、目標値に届かず、受講生離脱率（最終課題未提出者を離脱として算出）は約24～38%と想定より高かった。

表 71 KAIGO LEADERS SCHOOL講座受講結果

	SNS講座	ライティング講座	場づくり講座
受講申込（定員）	50名（定員50名）	50名（定員50名）	38名（定員50名）
成果物提出件数	31件（目標50件）	38件（目標50件）	2件（目標50件）
離脱率 *最終課題未提出者を“離脱”として算出	38%：19名離脱 （目標10%未満）	24%：12名離脱 （目標10%未満）	32%：12名離脱 （目標10%未満）

離脱率が高くなった要因として、本業の介護職業務と並行して課題に対応することの負担、慣れない制作への心理的・技術的負担、申込時の期待値と実態のギャップ（「講義を聴く目的」で申し込んだが、開講後に課題提出が必要と認識して離脱したケース）等が考えられる。一方、場づくり講座がSNS講座に比べて離脱率を抑えられた理由としては、オープンチャット等を設置して講座内交流の主体性を引き出し、活発化させたことが挙げられる。

成果報告会（KAIGO LEADERS AWARD）には、対面61名（目標120名）、オンライン116名（目標250名）が参加し、アーカイブ視聴回数は169回であった。また、メディア4媒体（目標3媒体）からの発信があった。成果物発信WEBサイトについては、93件（目標150件）の受講生による成果物（動画・記事・場づくりレポート）が掲載された。

成果（アウトカム）

講座受講者アンケートで「発信への心理的ハードルの低下」「介護職であることの誇り（自己肯定感）の向上」「今後の仕事や発信に活かせる知識やスキル（学び）の向上」等を把握した（表72）。受講によって「発信への心理的ハードルが下がった」と回答した受講者の割合はおおむね達成、「介護職であることの誇り（自己肯定感）が高まった」、「今後の仕事や発信に活かせるような学びがあった」と回答した受講者の割合は目標値を達成した。特に、知識・スキル面での学びの獲得については、各講座で「学びがあった」と回答した受講者の割合が100%と、高い水準だった。

表 72 KAIGO LEADERS SCHOOL講座受講者アンケート結果

	SNS講座	ライティング講座	場づくり講座
講座受講における「発信することに対する心理的ハードル」の変化（10段階評価） ※1(大きく上がった)～10(大きく下がった)の10段階中6～10と回答した割合	73% (目標：80%)	80% (目標：80%)	93% (目標：80%)
介護職である事の誇り（自己肯定感）の向上（10段階評価） ※1(向上していない)～10(向上した)の10段階中8～10と回答した割合	73% (目標：60%)	68% (目標：60%)	80% (目標：60%)
今後の仕事や発信に活かせる知識やスキル・学びの向上 (Q: 今後の仕事や発信に活かせるような学びはありましたか？[はい・どちらでもない・いいえ])*「はい」と回答した割合	100% (目標：70%)	100% (目標：70%)	100% (目標：70%)

「成果報告会（KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD）」に参加した受講生（介護職）を対象に、介護職として働き続けることへの自信の高まりについてアンケート調査を行ったところ、回答者（n=32）の91%（目標60%）が5段階評価（1（高まらなかった）～5（高まった））において「4」または「5」と回答し、自己評価（セルフリスペクト）が高まったことがうかがえる。また、報告会参加後の一般参加者に対する、「①介護の仕事の前向きな一面を感じることができたか」、「②介護の仕事の社会的意義について理解が深まったか」という設問においては、回答者（n=9）の100%（目標①60%、②70%）が5段階評価（①1（そう思わない）～

5 (そう思う)、②1 (深まらなかった)～5 (深まった)) において「4」または「5」と回答し、福祉・介護に関する社会的評価が高まる (イメージアップ) に寄与した。

「成果物発信WEBサイト」については、楽天グループ株式会社との広告連携等により、サイト訪問者数は約40万8千人 (目標1万人)、投票ページの閲覧回数は約61万8千PV (目標1万PV) に達し、当初目標を大きく上回るリーチを実現した。投票数も2,264票 (広告表示回数: 25,542,239回、クリック回数: 917,682回 (クリック率: 3.59%)) を獲得し、介護に関心の薄い層を含め、新たに介護の仕事に関する情報に触れた人が一定確保されたと考えられる。また、受講生にとっても、自身の成果物が社会に届く体験が、発信意欲やモチベーション向上につながったことが示唆される。また、楽天グループ株式会社による介護の仕事に対する効果検証 (n=200) の結果、WEBサイト閲覧前後で、全体での魅力度は5.0pt向上 (12.5%)、理解度は29.0pt向上 (37.5%) した一方、「WEBサイト閲覧後に何も行動を起こさない」層が72%と行動変容が課題となった。この結果は、広く情報を届けるだけでは行動につながりにくい可能性を示唆している。一方で、本事業においては、SNS講座では58%、ライティング講座では95%の受講生が個人または法人アカウントでの発信に、場づくり講座では75%の受講生が地域の人との関係を結ぶ場の実践に取り組む予定であり、介護職自身による等身大の発信や行動が着実に生まれていることが確認された。今後は、こうした個人の発信と広域的な情報発信を組み合わせることで、より効果的な魅力発信が求められる。

他実施主体や関連団体との連携

KAIGO LEADERS SCHOOLの受講生募集について、厚生労働省・自治体・業界団体・職能団体を通じた周知に加え、一般社団法人KAiGO PRiDEと合同説明会を実施し、事業間の位置づけや参加対象の整理を図ったことで、相乗効果が生まれた。成果報告会 (KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD) および成果発信WEBサイトにおいては、楽天グループ株式会社および株式会社マガジンハウスに広報協力を依頼し、認知度・PV数の上昇につなげた。

今後の魅力発信等事業に活かせる点

募集・周知について、「法人経由／個人経由」「自社発信／連携発信」を組み合わせることで一定の申込獲得につながることが示唆された。

講座設計については、受講者が期待する内容 (聴講中心) と、実施の内容 (制作・発信までの実践) とのギャップが離脱の一因となり得ることが示唆された。連続講座を実施する際には、申込時点で課題内容・負荷 (作業量・必要時間など) をより明確に提示するとともに、受講者が実践を継続できるような工夫を行えるとよいと考えられる。

本事業を通じて、介護職自身による等身大の発信は、発信者の自己評価 (セルフリスペクト) を高め、介護職ではない人にとっても共感につながる有効なアプローチであることが示唆された。今後は、共感を行動につなげていくために、個人の発信を起点とした魅力発信のあり方を、他事業への展開も含めて検討していくことが有効である。

⑥ 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会（介護職発信事業）

社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会の取組概要は別添資料（弊社ホームページに掲載）のとおり。

事業の方針

同団体は、過去に事業間連携会議のオブザーバーとして魅力発信等事業に関与していたが、令和6年度より介護職発信事業に参画し、今年度は2度目の採択である。次世代を担う10代後半から20代前半の学生等の「若者層」のうち、「介護職無関心層」と「介護職ネガティブイメージ層」を主なターゲットに、現場職員・法人経営者等の現場目線を活かして、介護・福祉の仕事の専門性や社会的意義の発信を通じて、介護職に対する固定的・ネガティブイメージの刷新と、認知拡大を目指した。

事業の全体像（活動の軸）

本事業は、「動画コンテンツの制作・発信」と「イベント」の2軸で構成される。

「動画コンテンツの制作・発信」では、昨年度に引き続き能登半島地震の復興支援における介護・福祉職員の実践を扱ったドキュメンタリー動画（輪島市／穴水町）を制作・配信し、学生等（高校生・大学生・専門学校生等）を中心に、介護・福祉の専門性理解や魅力認知の向上を促す取組として展開した。加えて、企画委員会等において「現場から伝えたい魅力」を整理したうえで、介護・福祉に接点のない層にも届きやすい内容をテーマ（「資格なしからでもOK」「5割が残業ゼロ」等）とするショート動画を制作・配信し、関心喚起を図った。

「イベント」では、昨年度同様、社会福祉HERO'Sを開催し、オンライン配信を組み合わせ、介護・福祉の新たな関心層への浸透の幅を広げる工夫が行われた。今年度の新規活動として、国際福祉機器展（H.C.R.2025）における「社会福祉学生ヒーローズ」（以下、「学生ヒーローズ」）を開催し、学生によるプレゼンテーションおよびパネルトークを実施し、同世代への波及を狙った。さらに、地方イベント（なごや介護の日フェア2025）と連動した「地方版HERO'S」においても「社会福祉学生ヒーローズスピーチチェンジ！inなごや」を開催し、福祉を学ぶ高校生等が、自ら感じた福祉の魅力を地域の同世代に対して発信した。

実施主体の強みを活かした特筆すべき点

全国の社会福祉法人を会員とする同団体の強みを活かし、現場で実際に行われている取組や支援の様子を素材として、「動画」と「イベント」を組み合わせた発信を行い、若年層を中心に接触機会の拡大を図った点が特色である。特に、能登半島地震の復興支援を扱ったドキュメンタリー等は、社会的に関心の高いテーマを取り上げることで、介護・福祉職の専門性や役割、仕事のやりがいを具体的かつイメージしやすく伝える内容となっている。

ターゲットへのリーチ状況

「動画コンテンツ」においては、主なターゲットである「就職を検討する学生」である若年層（18～24歳）への到達が確認された。能登復興支援ドキュメンタリーに関して、若年層の割合は輪島市の動画では総再生約40万回の約82%、穴水町の動画では総再生約82万回の約72%に達した（3月18日時点）。ショート動画（3本）の視聴者内訳は、18～24歳が約30%、25～34歳が約60%で、学生・求職層への一定程度のリーチが示唆された。「イベント」では、学生ヒーローズのアンケート回答者23名中22名が学生、地方版HERO'Sでは福祉を学ぶ高校

生103名が来場しており、主なターゲットである「若年・介護職関心層」への接触が確認された。社会福祉HERO' S本体は会場80名に加え配信（最大同時接続160名）を実施し、オンラインも含めた接点を確保したほか、ネットニュースや新聞への掲載を通して、幅広い年代層へリーチした。

計画に照らした進行状況の結果（アウトプット）

「動画コンテンツ」は総じて視聴回数が目標を上回る成果が確認されるとともに、「イベント」についても各活動が着実に実施された。

「動画コンテンツ」の視聴回数（表 73）をみると、能登半島復興支援を扱ったドキュメンタリーでは、輪島市が予告編171回・本編405,280回、穴水町が予告編827,306回・本編365回（いずれも3月18日時点）となり、輪島市本編および穴水町予告編で目標（各18万回）を大幅に上回った（輪島市は本編、穴水町は予告編の広告を配信しており、いずれも広告を配信した方の再生回数が多くなっている）。

加えて、現場目線で伝えたいポイントを絞ったショート動画を3本制作し、各動画は約14万回視聴（「資格なしからでもOK」147,228回、「5割が残業ゼロ」139,095回、「機会や仲間に頼れる現場」142,245回）、3本で延べ約43万回再生に至った（目標18万回／3本）。

表 73 各動画コンテンツの視聴回数（3月18日時点）

	能登半島復興支援ドキュメンタリー(輪島市)	能登半島復興支援ドキュメンタリー(穴水町)	ショート動画
視聴回数	予告編：171回 本編：405,280回 (目標18万回)	予告編：827,306回 本編：365回 (目標18万回)	① 資格なしからでもOK：147,228回 ② 5割が残業ゼロ：139,095回 ③ 機会や仲間に頼れる現場：142,245回 (目標18万回／3本)

一方、「イベント」については、学生ヒーローズにおいて参加者約80名、アンケート回答者数23名（配布70名）を記録した。地方版HERO' Sでは、ステージ観覧者約150名（目標160名）、アンケート回答者数103名（目標145名）となり、一定のリーチを確保した。社会福祉HERO' Sについては、会場来場80名（目標100名）、配信は最大同時接続160名（目標300名）となり、会場およびオンラインを通じた発信を行った。

成果（アウトカム）

「動画コンテンツ」については、楽天グループ株式会社による介護の仕事に対する効果検証(n=200)の結果、動画視聴後、全体での魅力度は10.0pt向上（24.0%）、理解度は37.5pt向上（46.5%）した。また、ネガティブなイメージの解消（「介護職は他の職業に比べて給与が低い印象」(-16.0pt)、「肉体的（夜勤など）にも精神的にも負担が大きい印象」(-14.5pt)、

「体力的にハードで、特に身体介助が難しい印象」(-13.5pt))に寄与し、同団体の事業方針にかかげる「「介護職に対する固定的・ネガティブイメージの刷新」に合致している。

「イベント」においては、各イベントのアンケート結果から、参加・視聴を通じて、介護・福祉の仕事に対する魅力やイメージの向上が一定程度うかがわれた。社会福祉HERO'Sでは、観覧前後に「介護・福祉の仕事に感じている魅力度（10段階評価）」を調査（n=23）し、観覧前／後の平均が7.75／8.52と増加した（目標：観覧後7.0以上）。また、地方版HERO'Sならびに社会福祉HERO'Sにおいては、参加後に「介護・福祉の仕事に対するイメージの向上（10段階評価）」を調査（地方版HERO'S:n=103、社会福祉HERO'S:n=19）したところ、それぞれ平均が8.50／8.63といずれも目標（7.0以上）を到達した。また、学生ヒーローズにおいては、会場内で「ふくしの魅力発見ゾーン」を設け、他実施主体が実施するイベント等のチラシ配布を行い、相互周知を図った。

他実施主体や関連団体との連携

動画コンテンツやイベントの周知のために他実施主体と連携を図った。また、社会福祉学生ヒーローズを開催した国際福祉機器展（H.C.R.2025）開催中に、「ふくしの魅力発見ゾーン」を設置し、他実施主体の情報発信を行い、情報のリーチ拡大へとつなげた。

今後の魅力発信等事業に活かせる点

能登半島地震の復興支援や災害対応といった、若年層の関心が高い社会課題を切り口に、介護・福祉職の専門性や実践をドキュメンタリーとして描いた動画は、想定を上回る再生回数を記録した。特に視聴者に占める18～24歳の割合が高く、介護・福祉職の高い専門性に焦点をあて、社会課題と結びつけたテーマ設定が動画の視聴拡大に寄与した可能性があると考えられる。

3. 介護の仕事に関するアンケート調査およびヒアリング調査

(1) 調査概要

①アンケート調査

介護の仕事の魅力を伝えるために効果的なアプローチを分析し、また、介護の仕事に興味・関心を持った人が入職に至るまでの過程に存在するハードル（入職阻害要因）を把握するため、例年実施してきた介護職および学生・保護者を対象としたWEBアンケート調査（以下「WEBモニター調査」という）を今年度も実施した。なお、本調査は令和4年度から実施している調査で、実施年度ごとの課題意識を踏まえて設問を加除している。

また、WEBモニター調査に加えて、特に入職阻害要因について、より具体的な事例を把握することを目的として、日本介護福祉士養成施設協会の加盟校および全国福祉高等学校長会の加盟校の教員および学生・生徒を対象としたアンケート調査（以下「学校調査」という）も今年度は新規に実施した。2つのアンケート調査の実施概要は表74および表75のとおりである。

表 74 WEBモニター調査 実施概要

実施目的		<ul style="list-style-type: none"> 介護の仕事の魅力を伝えるために効果的なアプローチを分析すること 介護の仕事に興味・関心を持った人が入職に至るまでの過程に存在するハードル（入職阻害要因）を把握すること
調査方法		<ul style="list-style-type: none"> WEBアンケート調査
調査対象	スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"> 調査会社に登録しているモニター（36,011人）
	本調査	<ul style="list-style-type: none"> 介護職（902人） ※回答時点で「現在、介護をしている」と回答された方。 学生（459人） ※回答時点の職業について「学生」と回答された方。 保護者（500人） ※回答時点で「就職前の子どもが1人以上いる」と回答された方。
調査時期		<ul style="list-style-type: none"> 令和7年11月～12月
主な調査項目	スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"> 職業、年齢、子どもの有無 介護との関わり 介護の仕事に対するポジティブ/ネガティブなイメージ
	介護職	<ul style="list-style-type: none"> 勤続年数、雇用形態、勤務している事業所の種類、業務内容、保有資格 介護の仕事のイメージ 介護の仕事を選じた理由、介護の仕事をしている中で「良かった」と感じる事 介護の仕事に就いていることを誇りに感じるか 介護の仕事に就くことを誰かに相談したことがあるか、そのときの相手の反応
	学生	<ul style="list-style-type: none"> 介護の仕事について、どれくらい知っているか 介護の仕事に対するイメージ 就職先として考えている業界・興味がある業界、就職先選びの際に重視すること

		<ul style="list-style-type: none"> ・（介護の仕事に就きたいと考えている/考えたことがある場合）介護の仕事に就きたいと思っていることを誰かに相談したことがあるか、そのときの相手の反応
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の仕事について、どれくらい知っているか ・ 介護の仕事に対するイメージ、良いイメージの形成に影響を与えたもの ・ 子どもに就職して欲しい業界 ・ 子どもが就職する際に気になること（上位3つ） ・ 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するか

表 75 学校調査 実施概要

実施目的		<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の仕事の魅力を伝えるために効果的なアプローチを分析すること
調査方法		<ul style="list-style-type: none"> ・ WEBアンケート調査
調査対象		<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本介護福祉士養成施設協会加盟校で介護福祉士養成課程の授業を受け持つ教員（55人） ・ 全国福祉高等学校長会加盟校で教科福祉の授業を受け持つ教員（83人） <p>【学生・生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本介護福祉士養成施設協会加盟校で介護福祉を学ぶ学生（310人） ・ 全国福祉高等学校長会加盟校で介護福祉を学ぶ生徒（943人）
調査時期		<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年12月
主な調査項目	教員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在勤めている学校の種類、教員としての経験年数、介護の仕事への就職経験有無 ・ 介護の仕事の魅力だと感じる点、その中で特に学生・生徒に響いている点 ・ 介護の仕事に向いている人はどのような人か ・ 学生・生徒が介護業界に就職する場合に、心配していること・懸念していること
	学生・生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在通っている学校の種類、学年、卒業後の進路 ・ 将来したい仕事に介護の仕事が入っているか、介護の仕事以外にしてみたい仕事 ・ 介護の道に進むことについて誰かに相談したことがあるか、そのときの相手の反応、相談したことで気持ちが変わったか

②ヒアリング調査

介護の仕事の魅力発信に向けた効果的な施策を検討するために、教育現場の実態と課題を定性的に把握するために、全国福祉高等学校長会加盟校の教員に対するヒアリングを行った。ヒアリング調査の実施概要は表 76のとおりである。

表 76 ヒアリング調査 実施概要

実施目的	<ul style="list-style-type: none">介護の仕事の魅力発信に向けた効果的な施策を検討するために、教育現場の実態と課題を定性的に把握すること
調査方法	<ul style="list-style-type: none">ヒアリング調査（対面）
調査対象	<ul style="list-style-type: none">全国福祉高等学校長会加盟校の教員（1名）
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">【1. アンケート調査結果に対するご所感】【2. 教育現場の実態と課題】生徒と保護者の介護職に対する理解介護職への理解を進めるための施策 等

(2) 調査結果

アンケート調査とヒアリング調査の結果について、「介護の仕事のイメージ」「介護の仕事の魅力をお届ける対象」「介護職のセルフプライド」「介護の仕事の魅力を発信することによる影響」の観点から分析を行う。本項目では主要な集計結果のみを紹介しており、全設問の集計表およびヒアリング録は報告書の付属資料4.「介護の仕事に関するアンケート調査」集計表、付属資料5.「介護の仕事に関するヒアリング調査」ヒアリング録に収録している。

なお、アンケート調査のうち今年度の新設の調査項目は、見出しに「※今年度新規」と記載することとする。

また、WEBモニター調査のうち、過年度にも同様の設問を設けている項目は、令和5年度および令和6年度の回答結果についても併せて掲載している。今年度の新設項目で、過年度の結果がない場合は、「N/A」と記載している。

また、WEBモニター調査および学校調査の双方で学生・生徒を対象とした調査を行っているが、以降の見出しおよび図表タイトル内では、WEBモニター調査の学生を対象とした調査を「学生（WEB）」と、学校調査の学生・生徒を対象とした調査を「学生・生徒（学校）」と記載することとする。なお、WEBモニター調査のうち学生を対象とした調査と学校調査にて、一部共通の調査項目を設定しているが、学校調査の設問では、外国人留学生や高校生が回答対象者となることに留意した結果、調査項目の表現ぶりが異なっている場合がある。

学校調査の集計表では、日本介護福祉士養成施設協会加盟校の教員や学生からの回答は、表頭に「養成校」と、全国福祉高等学校長会加盟校の教員や生徒からの回答は、表頭に「高校福祉」と記載している。

ア. 介護の仕事のイメージ

<アンケート調査>

①介護の仕事に対するポジティブ/ネガティブなイメージ【SCR調査⁷⁾】

介護の仕事に対するイメージについて、SCR調査でポジティブなイメージを尋ねたところ、「ポジティブなイメージは特にない」が38.5%と最も多く選択されており、次いで「社会的意義が大きい（社会の役に立つことができる）」が37.3%であった。また、年齢が高いほど、ポジティブなイメージに「社会的意義が大きい（社会の役に立つことができる）」を選んでいる割合が高くなっていた。

表 77 介護の仕事に対するポジティブなイメージ【SCR調査】 ※今年度新規

Q4 (ポジティブなイメージ)	N	%
1 社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)	13,448	37.3
2 社会的評価が高い	3,266	9.1
3 やりがいがある	3,149	8.7
4 かつこいい	903	2.5
5 クリエイティブである	670	1.9
6 仕事内容が楽しい	582	1.6
7 資格や専門知識を活かしやすい	2,993	8.3
8 昇進やキャリアアップの機会が多い	505	1.4
9 未経験でも始められる	2,932	8.1
10 雇用が安定している	2,212	6.1
11 職場の人間関係が良い	397	1.1
12 給与が良い	593	1.6
13 勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	510	1.4
14 ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	1,077	3.0
15 業界の成長性・将来性がある	1,715	4.8
16 家族に介護が必要になったときに頼りたい	9,961	27.7
17 その他	274	0.8
18 ポジティブなイメージは特にない	13,879	38.5
全体	36,011	100.0

表 78 年齢別 介護の仕事に対するポジティブなイメージ【SCR調査】 ※今年度新規

	全体 (N)	社会的 意義が大きい (社会の役に立つ ことができる)	社会的 評価が高い	やりが いがある	かつ こいい	ク リ エ イ テ ィ ブ で あ る	仕 事 内 容 が 楽 し い	資 格 や 専 門 知 識 を 活 か し や す い	昇 進 や キ ャ リ ア ア ッ プ の 機 会 が 多 い	未 経 験 で も 始 め ら れ る	雇 用 が 安 定 し て い る	職 場 の 人 間 関 係 が 良 い	給 与 が 良 い	勤 務 日 や 勤 務 時 間 に 融 通 が 利 き や す い	生 産 性 向 上 に 取 り 組 ん で い る	I C T や ロ ボ ット な ど の 導 入 と い っ た	業 界 の 成 長 性 ・ 将 来 性 が あ る	頼 り た い	家 族 に 介 護 が 必 要 に な っ た と き に	そ の 他	ポ ジ テ ィ ブ な イ メ ー ジ は 特 に な い
全体(N)	36,011	37.3	9.1	8.7	2.5	1.9	1.6	8.3	1.4	8.1	6.1	1.1	1.6	1.4	3.0	4.8	27.7	0.8	38.5		
15歳未満	29	27.6	13.8	13.8	3.4	6.9	3.4	6.9	0.0	3.4	6.9	3.4	0.0	0.0	3.4	10.3	20.7	0.0	34.5		
15歳～19歳	340	22.6	7.9	15.6	8.5	5.0	4.1	9.7	2.1	6.2	3.8	1.5	2.9	1.5	2.4	4.4	18.2	0.3	39.4		
20歳～29歳	2,583	20.0	8.9	10.7	5.9	4.5	3.6	6.9	2.8	5.7	3.7	1.7	2.4	2.0	3.4	4.1	14.8	0.2	49.1		
30歳～39歳	5,409	26.8	8.2	10.7	4.7	3.1	2.9	7.5	2.1	9.3	5.9	1.3	1.9	1.7	2.8	4.4	19.1	0.5	46.3		
40歳～49歳	7,616	33.0	8.8	9.1	3.1	2.0	2.0	8.4	1.6	8.9	6.8	1.1	1.9	1.2	2.4	4.7	24.4	0.5	41.8		
50歳～59歳	9,552	40.3	8.9	7.7	1.6	1.1	1.1	8.6	1.1	8.0	6.7	0.8	1.8	1.2	2.1	4.5	29.7	0.8	36.7		
60歳以上	10,482	48.0	9.9	7.7	0.7	1.0	0.6	8.7	0.8	7.8	5.9	1.0	1.0	1.5	4.3	5.4	36.1	1.2	31.2		

⁷⁾ 見出しおよび図表タイトルでは、「スクリーニング調査」を「SCR調査」と記載。次ページ以降も同様。

これに対し、ネガティブなイメージを尋ねた結果では、「体力的負担が大きい」が56.7%、「給与が低い」が48.3%、「精神的負担が大きい」が47.8%であった。また、年齢が高いほどネガティブなイメージに「社会的評価が低い」を選んでいる割合も高くなっていった。

表 79 介護の仕事に対するネガティブなイメージ【SCR調査】 ※今年度新規

Q5 介護の仕事に対するイメージを教えてください。 (ネガティブなイメージ)	N	%
1 社会的意義が小さい(社会の役に立つことができない)	1,014	2.8
2 社会的評価が低い	9,408	26.1
3 やりがいが無い	2,319	6.4
4 仕事内容が楽しくない	6,378	17.7
5 専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	1,235	3.4
6 昇進やキャリアアップの機会が少ない	3,681	10.2
7 未経験で就職するにはハードルが高い	4,198	11.7
8 雇用が安定していない	2,972	8.3
9 職場の人間関係が悪い	4,315	12.0
10 体力的負担が大きい	20,420	56.7
11 精神的負担が大きい	17,206	47.8
12 給与が低い	17,411	48.3
13 勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	6,597	18.3
14 ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	1,974	5.5
15 業界の成長性・将来性がない	1,553	4.3
16 その他	146	0.4
17 ネガティブなイメージは特にない	7,154	19.9
全体	36,011	100.0

表 80 年齢別 介護の仕事に対するネガティブなイメージ【SCR調査】 ※今年度新規

	全体 (N)	社会的意義が小さい (社会の役に立つことができない)	社会的評価が低い	やりがいが無い	仕事内容が楽しくない	専門性が身につかない (誰にでもできる仕事である)	昇進やキャリアアップの機会が少ない	未経験で就職するにはハードルが高い	雇用が安定していない	職場の人間関係が悪い	体力的負担が大きい	精神的負担が大きい	給与が低い	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	ICTやロボットなどが活用されていない (ICT導入が遅い)	業界の成長性・将来性がない	その他	ネガティブなイメージは特にない
全体(N)	36,011	2.8	26.1	6.4	17.7	3.4	10.2	11.7	8.3	12.0	56.7	47.8	48.3	18.3	5.5	4.3	0.4	19.9
15歳未満	29	6.9	24.1	13.8	27.6	10.3	13.8	3.4	10.3	17.2	44.8	37.9	24.1	24.1	10.3	10.3	0.0	27.6
15歳～19歳	340	2.4	12.9	10.9	22.6	7.9	10.6	11.2	9.1	9.1	42.6	38.8	27.6	10.0	2.6	4.7	0.0	23.2
20歳～29歳	2,583	4.0	14.5	9.3	16.3	6.6	7.5	7.7	7.1	9.4	34.9	31.5	29.2	11.6	4.5	4.3	0.2	33.5
30歳～39歳	5,409	3.8	21.3	8.7	19.2	5.4	10.3	9.7	7.3	13.8	48.8	43.6	42.4	16.3	5.1	5.4	0.3	25.8
40歳～49歳	7,616	3.0	24.1	7.6	18.6	3.8	10.1	11.1	7.3	14.5	56.3	49.1	48.0	18.2	5.1	4.6	0.4	20.5
50歳～59歳	9,552	2.4	27.6	5.4	17.0	2.4	9.6	12.1	8.6	13.2	60.1	51.4	51.3	19.8	5.3	3.7	0.5	17.4
60歳以上	10,482	2.2	32.0	4.5	17.1	2.1	11.5	13.7	9.3	8.8	63.9	50.0	54.4	20.0	6.4	4.0	0.5	15.1

②介護の仕事に対するポジティブ/ネガティブなイメージ【介護職、学生（WEB）、保護者】

介護職自身の介護の仕事に対するイメージは、ポジティブなイメージでは「社会的意義が大きい（社会の役に立つことができる）」が最も多く41.2%、次いで「やりがいがある」が29.2%であるなど、SCR調査の回答よりも、具体的なポジティブなイメージが選択されている割合が高く、また、特に社会的意義を感じていることがわかった。一方で、ネガティブなイメージについてみると、「給与が低い」が57.5%、「体力的負担が大きい」が50.6%、「精神的負担が大きい」が43.8%、「社会的評価が低い」が40.7%であるなど、SCR調査と同様に具体かつ強固なネガティブなイメージを持っていることがうかがえる。

表 81 介護の仕事に対するポジティブなイメージ【介護職】 ※今年度新規

SCR4	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ポジティブなイメージ)	R7 (Q4)	R6	R5
1	社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)	41.2	N/A	N/A
2	社会的評価が高い	14.3	N/A	N/A
3	やりがいがある	29.2	N/A	N/A
4	カッコいい	7.0	N/A	N/A
5	クリエイティブである	6.9	N/A	N/A
6	仕事内容が楽しい	11.1	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かしやすい	19.2	N/A	N/A
8	昇進やキャリアアップの機会が多い	5.2	N/A	N/A
9	未経験でも始められる	22.2	N/A	N/A
10	雇用が安定している	16.6	N/A	N/A
11	職場の人間関係が良い	7.5	N/A	N/A
12	給与が良い	3.7	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	10.1	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	6.2	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がある	6.7	N/A	N/A
16	家族に介護が必要になったときに頼りたい	19.1	N/A	N/A
17	その他	0.9	N/A	N/A
18	ポジティブなイメージは特にない	20.6	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

表 82 介護の仕事に対するネガティブなイメージ【介護職】 ※今年度新規

SCR5	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ネガティブなイメージ)	R7 (Q5)	R6	R5
1	社会的意義が小さい(社会の役に立つことができない)	13.3	N/A	N/A
2	社会的評価が低い	40.7	N/A	N/A
3	やりがいがない	14.4	N/A	N/A
4	仕事内容が楽しくない	19.8	N/A	N/A
5	専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	10.3	N/A	N/A
6	昇進やキャリアアップの機会が少ない	17.1	N/A	N/A
7	未経験で就職するにはハードルが高い	10.0	N/A	N/A
8	雇用が安定していない	11.6	N/A	N/A
9	職場の人間関係が悪い	22.5	N/A	N/A
10	体力的負担が大きい	50.6	N/A	N/A
11	精神的負担が大きい	43.8	N/A	N/A
12	給与が低い	57.5	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	19.1	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	10.1	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がない	12.2	N/A	N/A
16	その他	1.0	N/A	N/A
17	ネガティブなイメージは特にない	7.8	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

表 83 介護の仕事に対するイメージ（5件法）【介護職】

Q24	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R7 全体 (Q24)	1	2	3	4	5	無回答
			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	
Q24S1	社会的意義の大きさ(社会の役に立つことができる)	901	25.1	36.1	22.9	2.7	0.4	12.9
Q24S2	社会的評価の高さ	901	12.0	25.9	24.4	14.8	10.1	12.9
Q24S3	やりがいの大きさ	901	16.2	32.9	28.5	6.9	2.7	12.9
Q24S4	かっこよさ	901	7.2	16.5	32.6	19.4	11.3	12.9
Q24S5	クリエイティブさ	901	7.5	17.9	35.1	16.9	9.8	12.9
Q24S6	仕事内容の楽しさ	901	9.2	24.6	32.1	14.4	6.8	12.9
Q24S7	資格や専門知識の活かしやすさ	901	14.4	36.2	29.2	6.0	1.3	12.9
Q24S8	昇進やキャリアアップの機会の多さ	901	9.3	22.9	35.0	13.3	6.7	12.9
Q24S9	未経験での始めやすさ	901	17.6	33.2	27.9	6.2	2.2	12.9
Q24S10	雇用の安定について	901	15.8	31.9	30.0	7.2	2.3	12.9
Q24S11	職場の人間関係について	901	9.9	22.9	35.0	12.9	6.5	12.9
Q24S12	体力的負担について	901	9.1	17.9	22.9	21.5	15.8	12.9
Q24S13	精神的負担について	901	8.7	17.4	26.0	20.2	14.9	12.9
Q24S14	給与について	901	5.8	20.0	23.8	18.3	19.3	12.9
Q24S15	勤務日や勤務時間に融通の利きやすさ	901	10.7	29.4	32.0	10.4	4.7	12.9
-	働きやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S16	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上への取組	901	6.4	18.1	36.5	15.8	10.3	12.9
Q24S17	業界の成長性・将来性	901	7.2	27.3	36.5	10.7	5.4	12.9

Q24	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R6 全体 (Q27)	1	2	3	4	5	R5 全体 (Q26)	1	2	3	4	5
			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い		とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い
Q24S1	社会的意義の大きさ(社会の役に立つことができる)	1,000	17.5	37.7	37.7	4.4	2.7	1,000	20.6	36.1	36.3	4.4	2.6
Q24S2	社会的評価の高さ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S3	やりがいの大きさ	1,000	16.6	38.7	35.0	6.7	3.0	1,000	18.4	37.8	35.5	4.5	3.8
Q24S4	かっこよさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S5	クリエイティブさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S6	仕事内容の楽しさ	1,000	12.7	30.7	42.0	9.5	5.1	1,000	12.7	31.1	41.3	9.1	5.8
Q24S7	資格や専門知識の活かしやすさ	1,000	12.9	36.3	40.9	6.9	3.0	1,000	15.4	35.1	40.8	5.9	2.8
Q24S8	昇進やキャリアアップの機会の多さ	1,000	9.8	23.5	47.8	13.1	5.8	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S9	未経験での始めやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S10	雇用の安定について	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S11	職場の人間関係について	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S12	体力的負担について	1,000	8.9	22.4	36.7	19.1	12.9	1,000	10.9	22.7	36.4	16.7	13.3
Q24S13	精神的負担について	1,000	8.5	22.3	37.5	19.1	12.6	1,000	10.1	22.0	36.8	18.4	12.7
Q24S14	給与について	1,000	7.6	21.2	38.3	20.9	12.0	1,000	8.9	23.3	37.5	16.9	13.4
Q24S15	勤務日や勤務時間に融通の利きやすさ	1,000	11.6	31.8	42.1	9.5	5.0	1,000	12.9	32.7	38.3	9.6	6.5
-	働きやすさ	1,000	10.0	30.7	44.2	10.1	5.0	1,000	12.6	31.1	41.8	8.3	6.4
Q24S16	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上への取組	1,000	8.9	15.6	45.6	16.7	15.2	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q24S17	業界の成長性・将来性	1,000	11.0	25.9	46.2	11.4	5.5	1,000	12.5	30.4	43.7	7.6	5.8

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度の調査結果、下段には令和6年度および令和5年度の調査結果を掲載している。

また、学生（WEB）の介護の仕事に対するイメージは、ポジティブなイメージでは「ポジティブなイメージは特にない」が最も多く 42.3%で、ネガティブなイメージでは「体力的負担が大きい」が 38.6%、「精神的負担が大きい」が 34.2%、「給与が低い」が 27.9%である。

表 84 介護の仕事に対するポジティブなイメージ【学生（WEB）】
※今年度新規

SCR 4	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ポジティブなイメージ)	R7 (Q4)	R6	R5
1	社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)	22.7	N/A	N/A
2	社会的評価が高い	9.8	N/A	N/A
3	やりがいがある	12.4	N/A	N/A
4	かっこいい	6.1	N/A	N/A
5	クリエイティブである	5.4	N/A	N/A
6	仕事内容が楽しい	3.3	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かしやすい	9.8	N/A	N/A
8	昇進やキャリアアップの機会が多い	4.1	N/A	N/A
9	未経験でも始められる	6.5	N/A	N/A
10	雇用が安定している	4.6	N/A	N/A
11	職場の人間関係が良い	2.0	N/A	N/A
12	給与が良い	3.3	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	2.2	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	4.8	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がある	5.9	N/A	N/A
16	家族に介護が必要になったときに頼りたい	16.3	N/A	N/A
17	その他	-	N/A	N/A
18	ポジティブなイメージは特にない	42.3	N/A	N/A
	全体	459	N/A	N/A

表 85 介護の仕事に対するネガティブなイメージ【学生（WEB）】
※今年度新規

SCR 5	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ネガティブなイメージ)	R7 (Q5)	R6	R5
1	社会的意義が小さい(社会の役に立つことができない)	3.1	N/A	N/A
2	社会的評価が低い	14.4	N/A	N/A
3	やりがいがない	9.4	N/A	N/A
4	仕事内容が楽しくない	19.2	N/A	N/A
5	専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	6.1	N/A	N/A
6	昇進やキャリアアップの機会が少ない	9.8	N/A	N/A
7	未経験で就職するにはハードルが高い	10.0	N/A	N/A
8	雇用が安定していない	10.2	N/A	N/A
9	職場の人間関係が悪い	9.2	N/A	N/A
10	体力的負担が大きい	38.6	N/A	N/A
11	精神的負担が大きい	34.2	N/A	N/A
12	給与が低い	27.9	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	10.0	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	3.7	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がない	5.2	N/A	N/A
16	その他	-	N/A	N/A
17	ネガティブなイメージは特にない	27.7	N/A	N/A
	全体	459	N/A	N/A

また、保護者の介護の仕事に対するイメージは、ポジティブなイメージでは「ポジティブなイメージは特にはない」が最も多く41.8%で、次いで「社会的意義が大きい（社会の役に立つことができる）」が34.8%である。ネガティブなイメージでは「体力的負担が大きい」が51.2%、「給与が低い」が45.4%、「精神的負担が大きい」が40.6%であった。

表 86 介護の仕事に対するポジティブなイメージ【保護者】 ※今年度新規

SCR4	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ポジティブなイメージ)	R7 (Q4)	R6	R5
1	社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)	34.8	N/A	N/A
2	社会的評価が高い	9.0	N/A	N/A
3	やりがいがある	9.2	N/A	N/A
4	カッコいい	3.4	N/A	N/A
5	クリエイティブである	2.2	N/A	N/A
6	仕事内容が楽しい	2.6	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かしやすい	9.4	N/A	N/A
8	昇進やキャリアアップの機会が多い	1.6	N/A	N/A
9	未経験でも始められる	9.2	N/A	N/A
10	雇用が安定している	5.2	N/A	N/A
11	職場の人間関係が良い	0.8	N/A	N/A
12	給与が良い	1.8	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	1.6	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	1.6	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がある	4.8	N/A	N/A
16	家族に介護が必要になったときに頼りたい	23.4	N/A	N/A
17	その他	0.6	N/A	N/A
18	ポジティブなイメージは特にはない	41.8	N/A	N/A
	全体	500	N/A	N/A

表 87 介護の仕事に対するネガティブなイメージ【保護者】 ※今年度新規

SCR5	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ネガティブなイメージ)	R7 (Q5)	R6	R5
1	社会的意義が小さい(社会の役に立つことができない)	3.2	N/A	N/A
2	社会的評価が低い	24.4	N/A	N/A
3	やりがいがない	7.4	N/A	N/A
4	仕事内容が楽しくない	16.8	N/A	N/A
5	専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	5.4	N/A	N/A
6	昇進やキャリアアップの機会が少ない	9.0	N/A	N/A
7	未経験で就職するにはハードルが高い	9.8	N/A	N/A
8	雇用が安定していない	7.6	N/A	N/A
9	職場の人間関係が悪い	10.8	N/A	N/A
10	体力的負担が大きい	51.2	N/A	N/A
11	精神的負担が大きい	40.6	N/A	N/A
12	給与が低い	45.4	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	18.2	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	4.2	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がない	2.0	N/A	N/A
16	その他	0.2	N/A	N/A
17	ネガティブなイメージは特にはない	23.0	N/A	N/A
	全体	500	N/A	N/A

③介護の仕事を就職先として魅力的だと思うかどうか【学生（WEB）、学生・生徒（学校）、保護者】

介護の仕事を就職先として魅力的だと思うと回答した人は、学生（WEB）で17.6%（前回比+2.0pt）であるのに対し、学生・生徒（学校）では62.4%である。

また、保護者では7.4%（前回比+0.2pt）にとどまる。

表 88 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか【学生（WEB）】

Q16	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	R7 (Q16)	R6 (Q13)	R5 (Q13)
1	思う	17.6	15.6	19.0
2	思わない	53.4	51.8	45.0
3	どちらともいえない	29.0	32.6	36.0
	全体	459	500	500

表 89 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか【学生・生徒（学校）】

※今年度新規

Q12	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	全体	養成校	高校福祉
1.	思う	62.4	65.2	61.5
2.	思わない	6.8	6.1	7.0
3.	どちらともいえない	29.9	28.1	30.5
4.	無回答	0.9	0.6	1.0
	全体（n数）	1,253	310	943

表 90 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか【保護者】

Q8	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	R7 %	R5 (Q10)	R5 (Q10)
1	思う	7.4	7.2	8.4
2	思わない	60.4	58.6	54.6
3	どちらともいえない	32.2	34.2	37.0
	全体	500	500	500

介護の仕事を就職先として魅力的だと思うと回答した学生（WEB）、保護者に対して、その理由を尋ねたところ、主に以下の回答があった。

表 91 介護の仕事を就職先として魅力的だと思う理由【学生（WEB）】
（実際の回答の一部を掲載）

<p>【社会の役に立つ、社会的意義がある】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ ほかの人の役に立つことができるところが魅力的だと思ったから➤ やりがいを感じられそう➤ 高齢者の方々の笑顔を毎日見ることができるから➤ 使命がある <p>【仕事のニーズがある】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 求人数が多いこと➤ 高齢化が進み、絶対的に介護職は必要不可欠になると思うから➤ 無くなることのない職業で需要が高いから <p>【キャリアアップできる】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 将来性がある。キャリアアップしやすい。

表 92 介護の仕事を就職先として魅力的だと思う理由【保護者】
（実際の回答の一部を掲載）

<p>【社会の役に立つ、社会的意義がある】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 人のためになるから➤ 社会貢献したい➤ やりがいがあるし、家族の介護にも役に立ちそうだから <p>【仕事のニーズがある】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 求人が多いから➤ 雇用の流動性が高い➤ 必ず必要な仕事だと思うから➤ 需要が高まるばかりだから➤ これからの時代には欠かせない

※学生・生徒（学校）では、介護の仕事を就職先として魅力的だと思う理由を尋ねる設問を設けていなかったため、掲載無し

④教員が介護の仕事の魅力だと感じる点や、学生に響いていると感じること【教員】

教員が介護の仕事の魅力だと感じる点や、介護の仕事の魅力として学生に響いていると感じることとしては、主に以下のようなことが挙げられている。

表 93 教員が介護の仕事の魅力だと感じる点や、
介護の仕事の魅力として学生に響いていると感じること【教員】
(実際の回答の一部を掲載) ※今年度新規

【利用者に寄り添えること】

- 介護の魅力は、利用者のために、学び続けながら試行錯誤し、自身やチームで考えたケアが利用者の生活を充実させることにつながり、笑顔を見ることができること。考えて創造し実践する過程として「介護過程」の内容やそれを実習で展開することで、学生に響いていると感じている。
- 個々の利用者について理解を深め、その人に合った支援を行うことで利用者の生活のQOLが向上していることが実感できたときに、やりがいを感じるができる仕事だと思う。
- 利用者ひとりひとりごとにたどり着く支援が異なり、とてもクリエイティブで、それを一緒に創っていけるところが介護の魅力だと思います。
- 魅力は自分の一言で、自分の表情やちょっとした仕草で周りの方を幸せにできることです。技術や知識はもちろんですが、それよりも大切なことは介護者の人間性です。人としての魅力が介護の仕事では、影響力が大きいです。そこが特に留学生については、笑顔や素直さ、優しさなど、言葉では伝えきれない部分でもきちんと相手に伝わっていることが学生たちは介護楽しいと思っているようです。

【利用者と気持ちが通じ合うこと】

- 言葉以外のアプローチで気持ちが伝わったと感じた瞬間は忘れられない。動けないはずの体を動かそうとしながら「ありがとう」と言われたときは鳥肌が立った。それは経験談として学生にも伝えている。

【人の幸せ・尊厳について考えられること】

- 人の尊厳を守れるということ。人生の最後にどう過ごすのかを考え、支えられるところ。
- 学生たちは、ご利用者の生活を部分的（パーツ）ではなく全体（サークル）で支援できることに魅力を感じているようである。人々のQOLや豊かさに重点を置く学生が多いため、生活全体を支援することができる介護福祉士の仕事に誇りを持っているようだ。

【スキルやキャリアの向上】

- 介護福祉士国家資格を取得し、将来の生活設計を築けるよう「介護技術」のスキルアップを常に心がけてほしい。

⑤将来の就職先について【学生（WEB）、学生・生徒（学校）】

将来の就職先について、学生（WEB）で「検討したことがある」と回答した人は51.6%であり、検討したことがある場合に「現在の就職先候補に「介護の仕事」が入っている」と回答した人は11.4%である。また、「現在の就職先候補に「介護の仕事」は入っていないが、過去に「介護の仕事」を就職先候補として考えたことがある」と回答した人は22.8%である。

表 94 将来の就職先について検討したことがあるか【学生（WEB）】
※今年度新規

Q4	将来の就職先について検討したことがありますか。	R7 (Q4)	R6	R5
1	検討したことがある	51.6	N/A	N/A
2	検討したことがない	48.4	N/A	N/A
	全体	459	N/A	N/A

表 95 将来の就職先の候補に介護の仕事が入っているか【学生（WEB）】
※今年度新規

Q5	検討したことがある場合、就職先の候補に介護の仕事は入っていますか。	R7 (Q5)	R6	R5
1	現在の就職先候補に「介護の仕事」が入っている	11.4	N/A	N/A
2	現在の就職先候補に「介護の仕事」は入っていないが、過去に「介護の仕事」を就職先候補として考えたことがある	22.8	N/A	N/A
3	現在の就職先候補に「介護の仕事」は入っておらず、過去に「介護の仕事」を就職先候補として考えたこともない	65.8	N/A	N/A
	全体	237	N/A	N/A

表 96 就職先として考えている業界・興味がある業界【学生（WEB）】

Q6	「介護の仕事」以外に、就職先として考えている業界・興味がある業界を教えてください。	R7 (Q6)	R6 (Q5)	R5 (Q4)
1	福祉（介護の仕事以外）	13.5	16.2	13.4
2	医療	19.4	N/A	N/A
3	農業、林業、漁業	3.8	4.4	2.2
4	鉱業、採石業、砂利採取業	N/A	2.4	0.8
5	建設業	5.1	2.0	2.2
6	製造業（メーカー）	11.0	4.8	6.8
7	電気・ガス・熱供給・水道業	3.4	1.2	2.0
8	情報通信業（通信・インターネット、メディア、情報サービスなど）	13.5	6.8	5.2
9	運輸業（鉄道、バス・タクシー、トラックなど）、郵便業	2.1	3.4	1.8
10	金融業、保険業	8.4	4.0	3.8
11	不動産業、物品賃貸業	4.6	2.2	1.2
12	教育、学習支援業	11.0	8.6	7.4
13	保安の職業（自衛官・警察官・消防員や警備など）	3.0	N/A	N/A
14	販売業（アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス）	6.8	4.4	3.2
15	飲食サービス業、宿泊業	9.7	4.6	4.0
16	生活関連サービス業、娯楽業（クリーニング、理美容、旅行業など）	8.0	3.2	3.6
17	専門・技術サービス業、学術研究（法律、会計、デザイン事務所など）	13.1	5.0	3.6
18	複合サービス事業（郵便局、農業協同組合など）	N/A	2.8	2.4
19	サービス業（他に分類されるものを除く）（廃棄物処理業、自動車整備業など）	6.8	8.4	7.0
20	公務（他に分類されるものを除く）	15.2	10.0	8.8
21	その他	5.1	3.0	3.8
22	就職先候補として考えているのは「介護の仕事」のみ	8.4	N/A	N/A
	全体	237	500	500

表 97 就職先の候補に介護の仕事が入っているか否か別
就職先として考えている業界・興味がある業界【学生（WEB）】

全体		Q6. 「介護の仕事」以外に、就職先として考えている業界・興味がある業界																				
		福祉（介護の仕事以外）	医療	農業、林業、漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業（メーカー）	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業（通信・インターネット、メディア、情報サービスなど）	運輸業（鉄道、バス・タクシー、トラックなど）、郵便業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	教育、学習支援業	保安の職業（自衛官・警察官・消防員や警備など）	販売業（アパレルなど小売店やパートでの販売やセールス）	飲食サービス業、宿泊業	生活関連サービス業、娯楽業（クリーニング、理美容、旅行業など）	専門・技術サービス業、学術研究（法律、会計、デザイン事務所など）	複合サービス事業（郵便局、農業協同組合など）	サービス業（他に分類されるものを除く） （廃棄物処理業、自動車整備業など）	公務（他に分類されるものを除く）	
全体		407	32	46	9	12	26	8	32	5	20	11	26	7	16	23	19	31	16	36	12	20
Q5. 就職先の候補に介護の仕事が入っていますか。	現在の就職先候補に「介護の仕事」が入っている	62	22.6	11.3	4.8	3.2	1.6	3.2	4.8	3.2	4.8	1.6	4.8	3.2	3.2	4.8	1.6	4.8	6.5	0.0	6.5	
	現在の就職先候補に「介護の仕事」は入っていないが、過去に「介護の仕事」を就職先候補として考えたことがある	100	12.0	15.0	2.0	4.0	4.0	4.0	10.0	2.0	3.0	2.0	6.0	2.0	4.0	8.0	5.0	4.0	6.0	4.0	0.0	3.0
	現在の就職先候補に「介護の仕事」は入っておらず、過去に「介護の仕事」を就職先候補として考えたこともない	245	2.4	9.8	1.6	2.4	8.6	0.8	8.2	0.0	6.1	2.4	7.8	0.8	4.1	5.3	4.5	10.6	2.9	11.4	4.9	5.3

その一方で、学生・生徒（学校）では、将来どのような仕事をしたいか「考えたことがある」と回答した88.1%の人に対し、将来したい仕事の中に、「介護の仕事」が入っているか尋ねたところ、「将来したい仕事の中に、「介護の仕事」が入っている」と回答した人は47.8%に及ぶ。その一方で、「将来したい仕事の中に、いまは「介護の仕事」は入っていないが、以前は「介護の仕事」をしたいと考えていたことがある」と回答し、介護の仕事をしたことがあるものの、進路を変更した人も21.4%いることがわかった。また、「将来したい仕事の中に、「介護の仕事」は入っていないし、いままで「介護の仕事」をしたいと考えたことはない」は18.6%で、介護福祉を学ぶ学生・生徒の中に、介護の仕事をしたことがない学生・生徒が含まれることもわかった。それぞれの選択肢を選んだ理由は、表102～表104に掲載のとおりである。

表 98 学校を卒業したあとの進路【学生・生徒（学校）】
※今年度新規

Q7 学校を卒業したあと、どうしたいですか。	全体	養成校	高校福祉
1. 働く	47.0	88.7	33.3
2. 学校で勉強を続ける	34.2	3.5	44.2
3. 迷っている・考えたことがない	14.8	7.1	17.3
4. その他	3.8	0.6	4.9
5. 無回答	0.2	0.0	0.3
全体（n数）	1,253	310	943

表 99 将来、どのような仕事をしたいか考えたことがあるか【学生・生徒（学校）】
※今年度新規

Q8 将来、どのような仕事をしたいか考えたことがありますか。	全体	養成校	高校福祉
1. 考えたことがある	88.1	86.1	88.8
2. 考えたことがない	11.8	13.9	11.1
3. 無回答	0.1	0.0	0.1
全体（n数）	1,253	310	943

表 100 将来したい仕事の中に、「介護の仕事」が入っているか【学生・生徒（学校）】
※今年度新規

Q9 将来したい仕事の中に、「介護の仕事」は入っていますか。	全体	養成校	高校福祉
1. 将来したい仕事の中に、「介護の仕事」が入っている	47.8	71.3	40.1
2. 将来したい仕事の中に、いまは「介護の仕事」は入っていないが、以前は「介護の仕事」をしたいと考えていたことがある	21.4	9.0	25.5
3. 将来したい仕事の中に、「介護の仕事」は入っていないし、いままで「介護の仕事」をしたいと考えたことはない	18.6	5.5	22.9
4. 無回答	0.3	0.3	0.3
全体（n数）	1,104	267	837

表 101 「介護の仕事」以外に、将来してみたい仕事【学生・生徒（学校）】
※今年度新規

Q11 「介護の仕事」以外に、将来してみたい仕事はありますか。	全体	養成校	高校福祉
1. 福祉(介護の仕事以外)	34.0	40.0	32.0
2. 医療	25.4	8.7	30.9
3. 農業、林業、漁業	2.6	4.5	2.0
4. 建設業	1.6	1.6	1.6
5. 製造業(メーカー)	2.5	1.3	2.9
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	0.2	0.0	0.2
7. 情報通信業(通信・インターネット、メディア、情報サービスなど)	2.7	2.9	2.7
8. 運輸業(鉄道、バス・タクシー、トラックなど)、郵便業	1.5	1.3	1.6
9. 金融業、保険業	0.5	1.0	0.3
10. 不動産業、物品賃貸業	0.9	1.3	0.7
11. 教育、学習支援業	14.0	10.6	15.1
12. 保安の職業(自衛官・警察官・消防員や警備など)	1.8	1.3	2.0
13. 販売業(アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス)	7.5	5.8	8.1
14. 飲食サービス業、宿泊業	11.0	12.3	10.6
15. 生活関連サービス業、娯楽業(クリーニング、理美容、旅行業など)	5.1	2.6	5.9
16. 専門・技術サービス業、学術研究(法律、会計、デザイン事務所など)	5.0	3.2	5.6
17. サービス業(他に分類されるものを除く)(廃棄物処理業、自動車整備業など)	1.6	2.3	1.4
18. 公務(他に分類されるものを除く)	3.8	5.5	3.3
19. 就職先候補として考えているのは「介護の仕事」のみ	5.1	9.4	3.7
20. その他	8.5	7.7	8.8
21. 無回答	13.6	18.4	12.0
全体 (n数)	1,866	439	1,427

表 102 将来したい仕事の中に「介護の仕事」が入っている理由【学生・生徒（学校）】
（実際の回答の一部を掲載） ※今年度新規

【学んだことを活かしたい】

- 学校で学んだことを活かして介護の仕事をしたと思った
- 介護の勉強をしていく中で、介護は奥が深くてすごくやりがいのある仕事だなと感じるようになったから。せっかく学んで身につけた技術を使っていきたいと思うから。

【人を支えられる・やりがい】

- その方の生活を一番近くで支えられるという素敵な職業に惹かれました
- 高齢者の人生の最後に立ち会い「人生楽しかった」と思って欲しいから
- 誰かの役に立ちたいから
- 利用者さんにとって家族の次に近い存在であり、一人ひとりに寄り添える介護福祉士の仕事に魅力を感じるから
- 人を支えることはやりがいがあると思うから

【実習やアルバイトでの経験による動機付け】

- 実習で介護を学ぶ上で楽しさも経験したし、その方が望むことを実現できた時の達成感があったから
- 介護施設でのアルバイトの経験から、利用者さんの笑顔や感謝の言葉を身近で感じ、こんなにも笑顔や感謝が溢れる職業はほかにないと感じたからです

【身近な介護職の影響】

- 姉が介護をしていて楽しそうだから
- 親戚が介護の仕事をしており私もやりたいと思ったから

【家族の介護への備え】

- 家族に将来介護が必要になる人が出た時に、自分で介護を行うことができるようにしたいと思ったから
- 将来、介護職のノウハウが生活に活用できると考えているから

【安定性】

- 高齢化が進む日本で、介護は必ず必要とされる仕事
- 介護福祉士の資格を持っていると全国どこでも仕事が見つかると思ったから

【個人的な志向・適正】

- 介護という仕事は私にとっては好きなことなので仕事にしたい
- 小学5年生の時、祖父の介護施設に行き、介護職さんが笑顔で話しかけてきてくれたり、てきぱきと仕事をしていたところにすごく憧れたからです
- 介護の仕事が好きだから、世界で一番いい仕事だから

表 103 将来したい仕事の中に、いまは「介護の仕事」は入っていないが、以前は「介護の仕事」をしたいと考えていたことがある場合、その理由

【学生・生徒（学校）】

（実際の回答の一部を掲載） ※今年度新規

【他職種への志望転換】

- 最初は高校に入学するときは、「福祉は介護しかない」と軽い気持ちでしたが、いざ入学してみてたくさんの人と関わり、色々な世界を見て考えが変わったから
- 介護福祉士にはできない医療的ケアが多いため、多くの医療的ケアができ、人との関わりが深い仕事として看護師を目指しているから
- 福祉について学ぶ中で社会福祉士という仕事に興味をもったから

※事務局補足：上記の他、具体の職業として保育士、理学療法士、作業療法士、美容師なども挙げられた一方、単に「他にやりたいことがある」との記載も多かった

【労働条件への懸念】

- 実習でやりがいはあったが、大変で収入が少ないと知ったから
- 介護現場で少しの間働き、仕事の大変さ、給料の低さを実感したから

【仕事内容の大変さへの懸念】

- 排泄介助が苦手であること、また、責任感が伴うため私にとって大きなストレスがかかってしまうと感じたため

【適正への不安】

- 実技授業で体がキツいため、体力も力もない自分には向いてないと思った
- 施設で実習させてもらううちに、精神的な面で、自分にはあまりあっていないと思うようになったため

表 104 将来したい仕事の中に、「介護の仕事」は入っていないし、いままで「介護の仕事」をしたいと考えたことはない場合、その理由【学生・生徒（学校）】
（実際の回答の一部を掲載） ※今年度新規

【他職種への志望】

- 小さい頃から理学療法士に憧れを抱いていたから
- 昔から看護師になりたいと思っているから
- 小さい頃から保育士としての道を歩んでいきたいと考えていたから

※事務局補足：上記の他、具体の職業として作業療法士、社会福祉士、美容師なども挙げられた一方、単に「他にやりたいことがある」との記載も多かった

【労働条件への懸念】

- 介護はメンタル、力仕事なのにまだまだ仕事に見合わないお給料なため。仕事自体はいい仕事だと思う。
- 高齢者に関わる仕事に就きたいとは考えていますが、介護職は仕事量が多いのに給料が低いので、職にしたいとは思えないから
- 仕事内容の大変さに対して、手取りや休日が少なそうなイメージがあるから

【仕事内容の大変さへの懸念】

- 体力的や精神的な問題できつと感じたから
- 実際に実習に行き、身体への負担などを学び仕事にしたいとは思わなかった

【適正への不安】

- 実習に行って自分には合わないと思ったから
- メンタルと体が弱いので向いていないと思う

【資格取得希望のみ】

- 資格が欲しかったので。資格として使うかはまだわかりません。

⑥介護の道に進むことについて相談した時の相手の反応【介護職】

介護の仕事に就くことについて、誰かに相談した際の反応について、介護職では「(反対されたことが) ある」が51.1%である。

反対した人は「親」が50.0%と最も多く、反対された主な理由としては、給与面や、精神的・体力的に大変な仕事であることが挙げられている。

表 105 介護の仕事に就くことについて相談した際に、反対された経験の有無【介護職】
※今年度新規

Q34	介護の仕事に就くことについて誰かに相談した際、反対された経験はありますか。	R7 (Q34)	R6 (Q37)	R5
1	ある	51.1	N/A	N/A
2	ない	48.9	N/A	N/A
	全体	364	N/A	N/A

表 106 反対した人【介護職】 ※今年度新規

Q35	反対した人はだれですか。	R7 (Q35)	R6	R5
1	親	50.0	N/A	N/A
2	親以外の親族	28.0	N/A	N/A
3	友人(介護福祉士養成施設、福祉系高等学校の生徒・卒業生)	30.1	N/A	N/A
4	友人(介護福祉士養成施設、福祉系高等学校の生徒・卒業生ではない)	25.8	N/A	N/A
5	介護職員	10.8	N/A	N/A
6	通っている学校の教員	7.0	N/A	N/A
7	その他	4.3	N/A	N/A
	全体	186	N/A	N/A

表 107 反対の理由【介護職】
(実際の回答の一部を掲載) ※今年度新規

<p>【給与面の懸念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 給料が安いのに仕事内容は大変 ➤ 給料が安いから男性は結婚できない ➤ 転職した場合給与面での低下があるのが、明白だったから <p>【職務内容の懸念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 精神的苦痛や肉体的疲労を溜めてしまう仕事だから

⑦介護の道に進むことについて相談した時の相手の反応【学生（WEB）、学生・生徒（学校）】

親に対して介護の仕事に就きたいと思っていることを相談したときの、相手の反応は、学生（WEB）では「応援」が66.1%、「反対」が24.2%であるのに対し、学生・生徒（学校）では「応援」が85.3%、「反対」が3.3%である。

表 108 介護の仕事に就きたいと思っていることを相談したときの相手の反応【学生（WEB）】

Q8	介護の仕事に就きたいと思っていることについて相談した時に、応援/反対した人を選んでください。	R7 全体 (Q8)	1	2	3	4	5	6	7
			親	親以外の親族	友人(介護福祉士養成施設、福祉系高等学校の生徒)	友人(介護福祉士養成施設、福祉系高等学校の生徒ではない)	介護職員	通っている学校の教員	その他
Q8S1	応援	62	66.1	30.6	38.7	32.3	25.8	37.1	9.7
Q8S2	反対	62	24.2	25.8	14.5	17.7	12.9	14.5	43.5
Q8S3	どちらともいえない	62	32.3	16.1	22.6	27.4	19.4	21.0	24.2
Q8S4	相談していない	62	12.9	25.8	27.4	24.2	37.1	25.8	48.4

表 109 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思っていることを相談したときの相手の反応（親）【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

【介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思ったときに、誰かに相談したことがある方のみ】

Q14 相談したときの相手の反応を教えてください。(親)	全体	養成校	高校福祉
応援	85.3	76.1	88.9
反対	3.3	6.4	2.1
どちらともいえない	10.2	14.4	8.5
相談していない	0.9	2.1	0.4
無回答	0.3	1.1	0.0
全体 (n数)	658	188	470

表 110 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思っていることを相談したときの相手の反応（親以外の親戚）【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

【介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思ったときに、誰かに相談したことがある方のみ】

Q15 相談したときの相手の反応を教えてください。(親以外の親戚)	全体	養成校	高校福祉
応援	62.8	56.4	65.3
反対	3.3	5.3	2.6
どちらともいえない	7.6	10.1	6.6
相談していない	21.0	23.9	19.8
無回答	5.3	4.3	5.7
全体 (n数)	658	188	470

表 111 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思っていることを相談したときの相手の反応（介護福祉を学んでいる/学んだことがある友人）【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

【介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思ったときに、誰かに相談したことがある方のみ】

Q16 相談したときの相手の反応を教えてください。(介護福祉を学んでいる/学んだことがある友人)	全体	養成校	高校福祉
応援	50.2	48.4	50.9
反対	2.9	3.2	2.8
どちらともいえない	7.0	11.2	5.3
相談していない	34.0	33.0	34.5
無回答	5.9	4.3	6.6
全体 (n数)	658	188	470

表 112 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思っていることを
相談したときの相手の反応（介護福祉を学んでいる/学んだことがない友人）

【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

【介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思ったときに、誰かに相談したことがある方のみ】

Q17 相談したときの相手の反応を教えてください。 (介護福祉を学んでいない/学んだことがない友人)	全体	養成校	高校福祉
応援	52.9	48.9	54.5
反対	4.0	5.9	3.2
どちらともいえない	10.8	16.0	8.7
相談していない	25.5	24.5	26.0
無回答	6.8	4.8	7.7
全体 (n数)	658	188	470

表 113 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思っていることを
相談したときの相手の反応（介護職員）

【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

【介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思ったときに、誰かに相談したことがある方のみ】

Q18 相談したときの相手の反応を教えてください。(介護職員)	全体	養成校	高校福祉
応援	45.6	45.7	45.5
反対	1.5	1.6	1.5
どちらともいえない	6.2	11.2	4.3
相談していない	40.3	37.2	41.5
無回答	6.4	4.3	7.2
全体 (n数)	658	188	470

表 114 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思っていることを
相談したときの相手の反応（通っている学校の教員）

【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

【介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思ったときに、誰かに相談したことがある方のみ】

Q19 相談したときの相手の反応を教えてください。(通っている学校の教員)	全体	養成校	高校福祉
応援	71.0	73.9	69.8
反対	0.9	2.7	0.2
どちらともいえない	6.1	7.4	5.5
相談していない	16.3	11.7	18.1
無回答	5.8	4.3	6.4
全体 (n数)	658	188	470

表 115 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思っていることを
相談したときの相手の反応（その他の人）

【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

【介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいたいと思ったときに、誰かに相談したことがある方のみ】

Q20 相談したときの相手の反応を教えてください。(その他の人)	全体	養成校	高校福祉
応援	20.7	22.9	19.8
反対	1.4	2.7	0.9
どちらともいえない	7.4	12.2	5.5
相談していない	46.2	49.5	44.9
無回答	24.3	12.8	28.9
全体 (n数)	658	188	470

また、学校調査の学生・生徒に対して、介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいと思っていることを誰かに相談したことで、気持ちが変わったかどうか尋ねたところ、「介護について勉強したり、介護の仕事をしたりしようという気持ちが強くなった」が最も多く、54.6%である。

また、相談した相手の反応⁸によって、相談後に気持ちがどのように変化しているかを確認するため、クロス集計も実施した。介護の道に進むことについて、誰かに相談したことがある658人のうち、相手からの反応が「応援のみ」であった人が567人で86.2%を占めているものの、その中で「応援のみ」された人と「応援も反対もされた」人の気持ちの変化を確認すると、「応援のみ」された人の方が、「介護について勉強したり、介護の仕事をしたりしようという気持ちが強くなった」割合が高い。

表 116 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしたいと思っていることを誰かに相談したことで、気持ちが変わったか
【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

Q21 相談したことで、気持ちは変わりましたか。	全体	養成校	高校福祉
1. 介護について勉強したり、介護の仕事をしたりしようという気持ちが強くなった	54.6	58.5	53.0
2. 介護について勉強したり、介護の仕事をしたりしようとする事について迷い始めた	21.0	15.4	23.2
3. 介護について勉強したり、介護の仕事をしたりしようとする事をやめることにした	1.5	0.5	1.9
4. 特に気持ちは変わらなかった	22.8	25.0	21.9
5. 無回答	0.2	0.5	0.0
全体 (n数)	658	188	470

表 117 相談した相手の反応別
介護の道に進むことについて、誰かに相談したことで気持ちが変わったか
【学生・生徒（学校）】 ※今年度新規

		全体	Q21. 介護の道に進むことについて、誰かに相談したことで、気持ちが変わったか				
			1. 介護について勉強したり、介護の仕事をしたりしようという気持ちが強くなった	2. 介護について勉強したり、介護の仕事をしたりしようとする事について迷い始めた	3. 介護について勉強したり、介護の仕事をしたりしようとする事をやめることにした	4. 特に気持ちは変わらなかった	5. 無回答
全体		658	359	138	10	150	1
		-	54.6	21.0	1.5	22.8	0.2
Q20. 相手の反応	応援のみ	567	57.7	19.4	0.7	22.0	0.2
	反対のみ	7	28.6	14.3	14.3	42.9	0.0
	応援も反対もされた	69	39.1	34.8	5.8	20.3	0.0
	その他	15	20.0	20.0	6.7	53.3	0.0

⁸ 親、親以外の親族、友人（介護福祉を学んでいる/学んだことがある）、友人（介護福祉を学んでいる/学んだことがない）、介護職員、通っている学校の教員、その他のそれぞれの反応について、「応援」と「反対」の両方の反応があった場合は「応援も反対もされた」に、「応援」はされて「反対」はされていない場合は「応援のみ」、「反対」はされて「応援」はされていない場合は「反対のみ」、「応援」も「反対」もされていない場合（どちらともいえない反応など）を「その他」に分類した。

⑧介護の道に進むことについて相談した時にかけられた言葉【学生・生徒（学校）】

学校調査の学生・生徒に対し、介護の道に進むことについて、誰かに相談したときに、相手からかけられた言葉について尋ねた。

応援してもらったときに相手からかけられた言葉で、心に残ったものは、相談者の適正や能力を肯定的にとらえるものや、また、介護の仕事の価値を認めるものが挙げられた。

一方で、反対されたときに記憶に残った言葉は、給与など労働条件を懸念する言葉や仕事内容の大変さに言及するものが挙げられた。また、仕事内容の大変さのうちでは、介護職の身体的負担の大きさを踏まえて、介護職に対する相談者の適性について懸念を伝えるものもあった。

表 118 介護の道に進むことについて応援されたときに、
相手からかけられた言葉で心に残ったもの【学生・生徒（学校）】
(実際の回答の一部を掲載) ※今年度新規

【頑張れとの励まし】

- 頑張れ
- いつでも応援してるよ

【相談者の適正】

- あなたは人の心に寄り添うのが得意だったり、人の相談に乗るのが上手いから、介護の仕事すごく合ってると思うよ
- あんたは優しいから大丈夫
- 君ならできる、周りをよく観察する力があるから一人一人よく見ておいで
- あなたならできるよ

【自己決定の尊重】

- 自分で選んだ道だから頑張るなさい
- 進みたい道に進めば良いよ

【介護の仕事の社会的価値・意義の認容】

- 介護職は必要とされる仕事、とてもやりがいのある仕事
- 介護は人の人生に寄り添うことのできるとてもすごい仕事

【介護現場からの歓迎】

- 待ってるよ (※事務局補足：介護施設職員からかけられた言葉)

表 119 介護の道に進むことについて反対されたときに、
相手からかけられた言葉で記憶に残ったもの【学生・生徒（学校）】
（実際の回答の一部を掲載） ※今年度新規

【労働条件への懸念】

- 介護は給料少ないし、重労働だから、もっと安心して働ける場所にしない
- 給料と仕事の内容が見合っていない

【仕事内容の大変さへの懸念】

- 労働と給料が見合っていないし、ストレスが溜まりやすい。続けられる自信と覚悟がないならやめときなさい。
- 「もっと安全な道を選んでほしい」と言われた。家族の気持ちがわかって、少し胸が痛くなりました。

【適正への懸念】

- 辛いんだよ、身体が弱いんだからやめときなよ
- 絶対に出来ない、体疲れるよ

【他の職種の勧め】

- 介護福祉士より看護師の方がいいよ。看護師の方が給料が高いし偉いから。
- 仕事は福祉だけではないし若いからもっといろんなことを学んだほうがいい

⑨子ども/友人が「介護の仕事に就きたい」といった場合、どのように対応するか【介護職、学生（WEB）、保護者】

【対応】

介護職では、「他の仕事の検討をすすめる」が42.0%（前回比+5.9pt）と最も多く、次いで「積極的に応援したいと思う」が41.7%（前回比-10.0pt）、「反対する」が16.3%（前回比+4.1pt）である。

保護者では、「他の仕事の検討をすすめる」が46.4%（前回比-0.6pt）と最も多く、次いで「積極的に応援したいと思う」が32.8%（前回比-4.4pt）、「反対する」が20.8%（前回比+5.0pt）である。

また、学生（WEB）に対しては友人が介護の仕事に就くことを希望した際の対応を尋ねたところ、「積極的に応援したいと思う」が51.4%（前回比+1.0pt）で最も多く、「他の仕事の検討をすすめる」が32.2%（前回比-1.6pt）、「反対する」が16.3%（前回比+0.5pt）である。

表 120 子どもが「介護の仕事に就きたい」といった場合、どのように対応するか【介護職】

Q37	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。（お子さんがいらっしゃらない方は、「もしも子どもがいたら」と仮定してご回答ください。）	R7	R6	R5
		(Q36)	(Q5)	(Q5)
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	41.7	51.7	51.7
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	42.0	36.1	36.8
3	本人の希望があったとしても反対する	16.3	12.2	11.5
	全体	902	1,000	1,000

表 121 子どもが「介護の仕事に就きたい」といった場合、どのように対応するか【保護者】

Q14	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R7	R6	R5
		(Q14)	(Q15)	(Q14)
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	32.8	37.2	38.8
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	46.4	47.0	43.6
3	本人の希望があったとしても反対する	20.8	15.8	17.6
	全体	500	500	500

表 122 友人が「介護の仕事に就きたい」といった場合、どのように対応するか【学生（WEB）】

Q23	友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R7	R6	R5
		(Q23)	(Q19)	(Q17)
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	51.4	50.4	54.2
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	32.2	33.8	28.0
3	本人の希望があったとしても反対する	16.3	15.8	17.8
	全体	459	500	500

【その理由】

表 123 介護職の回答
(主なものを抜粋し、実際の回答を掲載)

子どもへの対応	そのような対応をする理由
<p>本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う</p>	<p>【本人の希望と意志の尊重】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本人の人生だから • 本人の意思を尊重したい <p>【やりがいと仕事の価値】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 誇りを持てる仕事だから • やりがいがあり、得たことを先の未来で活かせる機会の多い仕事だと思うから。 <p>【業界の需要と安定性】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 安定性は抜群だから。食いつぶれが無いから。 • これから重要になるだろうから
<p>本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないかと伝える</p>	<p>【給料と待遇の問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 介護の仕事は、やりがいがある、誇りに思う、というような綺麗ごとばかりの仕事ではない。仕事の内容に伴うような報酬を得られないばかりか責任が重すぎる。 • 介護の仕事は肉体的にきつく、社会的な評価も低いため、体に負担が掛かる割には、給与面に反映されていない • まだ待遇の悪さや社会的地位の低さが解消されていない <p>【仕事内容の大変さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 体力的・精神的負担があり、特に精神的負担がとても大きい • 人間関係、精神的、肉体的に厳しい <p>【他の経験を積んでほしい】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 若いうちは他の経験をした方が良いと思う。何歳からでもできる仕事なので。 <p>【将来性への懸念】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 長く続けられる仕事ではない • 体力的な事を考えると、定年まで働けるかという自信はないので、それなら他の仕事についてもらいたい
<p>本人の希望があったとしても反対する</p>	<p>【給与と待遇の不満】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 給与水準が低く、精神的負担が大きいから • 社会的地位も賃金も低い。勉強して社会的地位の高い仕事に就く方が悩みは少ない。 <p>【仕事の過酷さと現実】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 家庭を支えられる仕事ではない • 余程の覚悟がないと務まらない

表 124 保護者からの回答
(主なものを抜粋し、実際の回答を掲載)

子どもへの対応	そのような対応をする理由
<p>本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う</p>	<p>【本人の希望と意志の尊重】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本人が希望するということは、よく考えて決めたことだから応援はしたい • やりたいことであればよい <p>【やりがいと成長の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会貢献になるから • 大切な仕事で、なかなかやり手がない現場だと思うが、本人が希望するなら、人のためになる仕事なので応援できる <p>【業界の需要と安定性】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会で必要とされるお仕事だと思うので、大変だと思いますが、本人が望むのであれば応援したいと思います • これからの高齢化社会、この仕事が無くなることはないため
<p>本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える</p>	<p>【労働条件への懸念】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 業務内容が過酷な割に給与水準が低いと思うから • 長時間勤務で休みをとりにくいから <p>【身体的・精神的負担への懸念】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 就職先は多いが重労働で精神的にも肉体的にも過酷だから • 体力的、精神的に強さが必要であるため <p>【将来への心配】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本人の希望であれば、絶対反対というわけではないが、給与や、自分の健康、自分の家族を支えていくための将来設計も含めてトータルで考えて結論を出すように念押しする • 子どもの身体と将来が心配 <p>【具体の事例に基づく心配】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自身の母が介護職の経験があり、体力・金銭面、人間関係、休みのとりにくさ等、良い話はひとつも聞いたことがないから • 複数の友人が介護の仕事に就いていて、生半可な気持ちでは続けていくのが大変そうな印象を持っているため
<p>本人の希望があったとしても反対する</p>	<p>【仕事に対するイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大変な仕事だから • 将来性がない <p>【労働条件への懸念】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 給料が低くきつい仕事だから <p>【身体的負担への心配】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 体力仕事だから • 体を壊してしまいそう

表 125 学生からの回答
(主なものを抜粋し、実際の回答を掲載)

友人への対応	そのような対応をする理由
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	<p>【本人の意思と自由の尊重】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本人がやりたいことを否定するつもりはない <p>【応援とサポートの姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 友達がやろうとしていることだから応援してあげたい • 頑張ってもらいたいから <p>【やりがいと仕事の魅力】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 働くことができる場所が多くて、介護の仕事をすることによって社会に貢献することができると思ったから • 介護の仕事は、人と関わることがほとんどだから、大変だしストレスも溜まると思うけど、人の為になる仕事で、すごく魅力的だと思うし、人の夢を壊したくないから
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	<p>【給料と待遇の問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大変で休みもあんまりないから • 肉体労働で大変だから <p>【仕事のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • まだ若いし最初から介護職に行く必要はないと思う <p>【本人の適正への疑問】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 未経験から始める場合、仕事が合わなかった時に路頭に迷うから
本人の希望があつたとしても反対する	<p>【仕事のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブラックなイメージ • 良い話を聞かないから • 大変そう <p>【給与と待遇の不満】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 激務なのに給与が安い • 労働環境の悪さ

⑩子どもに就いて欲しい業種【保護者】

子どもに就いて欲しい業種については、「特に考えていない」が41.0%（前回比-3.6pt）と最も多く、次いで「製造業（メーカー）」が16.4%（前回比+2.4pt）、「医療」が13.8%、「公務（他に分類されるものを除く）」が13.6%（前回比-1.4pt）である。「福祉（介護の仕事）」を選んだ人は1.0%（前回比-3.8pt）である。

表 126 子どもに就いて欲しい業種【保護者】

Q2	子どもに就いて欲しい業種を教えてください。	R7 (Q2)	R6 (Q4)	R5 (Q3)
1	福祉(介護の仕事)	1.0	4.8	3.4
2	福祉(介護の仕事以外)	2.4	13.8	11.0
3	医療	13.8	N/A	N/A
4	農業、林業、漁業	2.6	3.6	2.0
5	鉱業、採石業、砂利採取業	N/A	1.2	0.8
6	建設業	4.4	4.4	5.0
7	製造業(メーカー)	16.4	14.0	16.2
8	電気・ガス・熱供給・水道業	3.6	5.0	3.6
9	情報通信業(通信・インターネット、メディア、情報サービスなど)	11.2	12.6	10.0
10	運輸業(鉄道、バス・タクシー、トラックなど)、郵便業	2.2	3.2	3.6
11	金融業、保険業	4.8	7.6	6.0
12	不動産業、物品賃貸業	3.0	2.4	2.4
13	教育、学習支援業	7.4	7.0	7.0
14	保安の職業(自衛官・警察官・消防員や警備など)	3.0	N/A	N/A
15	販売業(アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス)	1.8	7.0	6.6
16	飲食サービス業、宿泊業	1.8	2.6	2.2
17	生活関連サービス業、娯楽業(クリーニング、理美容、旅行業など)	2.6	3.2	2.8
18	専門・技術サービス業、学術研究(法律、会計、デザイン事務所など)	11.2	9.6	9.2
19	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	N/A	4.0	4.0
20	サービス業(他に分類されるものを除く)(廃棄物処理業、自動車整備業など)	2.8	5.4	6.4
21	公務(他に分類されるものを除く)	13.6	15.0	14.2
22	その他	0.8	0.4	0.8
23	特に考えていない	41.0	44.6	35.6
	全体	500	500	500

⑪学生が介護業界に就職する場合に、教員が懸念・心配していること

介護福祉について学んでいる学生が介護業界に就職する場合に、心配なこと、懸念していることの有無について、「(心配なこと、懸念していることが) ある」教員は76.4%である。

心配なこと、懸念していることの内容は、「精神的に大変なこと」が49.3%と最も多く、次いで「労働内容に給与が見合っていないこと」が40.7%、「社会的に評価が低いこと」が40.0%である。

表 127 介護福祉について学んでいる学生が介護業界に就職する場合に、心配なこと、懸念していることの有無【教員】 ※今年度新規

Q8 介護福祉について学んでいる学生が介護業界に就職する場合に、心配なこと・懸念していることはありますか。	全体	養成校	高校福祉
1. ある	76.4	81.8	72.9
2. ない	7.1	3.6	9.4
3. どちらとも言えない	16.4	14.5	17.6
全体 (n数)	140	55	85

表 128 心配なこと・懸念していることの内容【教員】 ※今年度新規

【心配なこと・懸念していることがある方のみ】

Q9 心配なこと・懸念していることを教えてください。	全体	養成校	高校福祉
1. 体力的に大変なこと	27.1	23.6	29.4
2. 精神的に大変なこと	49.3	45.5	51.8
3. 労働内容に給与が見合っていないこと	40.7	45.5	37.6
4. 社会的に評価が低いこと	40.0	45.5	36.5
5. その他	20.0	29.1	14.1
6. 無回答	0.0	0.0	0.0
全体 (n数)	107	45	62

<ヒアリング調査>

ヒアリング調査では、介護の仕事のイメージに関して、以下の指摘がなされた。

- 福祉系高校の生徒は、中学生のときに福祉系高校に進むと進路を決めているくらいなので、介護職に対してポジティブなイメージを持っている生徒が多い。こうした生徒たちの周りには、自身が介護職に就いているなどの理由から、介護職に対してポジティブなイメージを持っている保護者がいることも多い。
- 介護を学んでいた学生が看護師や理学療法士等に進路変更する主な理由は、実習現場での介護職の地位・他職種との関係性の影響も大きいと感じる。実習先の介護職の言動により、学生が「介護職より看護職の方が偉い」と感じ、看護職に進路変更した事例を目にしたこともある。学生が誰とかかわるか、どう介護に接触するか、ということが進路選択に大きな影響を持っているようである。

イ. 介護の仕事の魅力をお届けの対象

<アンケート調査>

①介護との関わり【SCR調査】

介護との関わりは、「介護との関わりや介護への関心はない」が最も多く、65.1%である。

介護の関わりがある人の中では、「親や家族などの介護のことに関心がある」が11.9%で最も多く、次いで「自分の親や家族などの介護をしている（したことがある）」が11.2%である。身近に介護職がいるかどうかでは、「介護の仕事に就いている（就いていた）親族がいる」は2.4%、「介護の仕事に就いている（就いていた）友人がいる」は1.9%である。

表 129 介護との関わり【SCR調査】

Q3	あなたと介護との関わりについて、以下から当てはまるものを全てお選びください。		
		N	%
1	現在、介護の仕事をしている	1146	3.2
2	過去に介護の仕事をしたことがある	1110	3.1
3	介護の仕事に関する研修を受けたことがある	1071	3.0
4	介護の仕事に就いている(就いていた)親族がいる	874	2.4
5	介護の仕事に就いている(就いていた)友人がいる	675	1.9
6	介護の現場でボランティアをしている(したことがある)	396	1.1
7	介護の現場で実習に参加している(したことがある)	539	1.5
8	介護の現場で職場体験・インターンシップに参加している(したことがある)	294	0.8
9	介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)※研修を除く	648	1.8
10	自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	4020	11.2
11	自分の親族内での介護(親が祖父母の介護をしているシーンなど)を見たことがある	2306	6.4
12	自分が介護される立場である(だったことがある)	305	0.8
13	親や家族などの介護のことに関心がある	4295	11.9
14	自分の介護のことに関心がある	3010	8.4
15	その他	79	0.2
16	該当するものはない(介護との関わりや介護への関心はない)	23447	65.1
	全体	36011	100.0

②介護の仕事への理解度【学生（WEB）、保護者】

介護の仕事について「具体的な仕事内容を知っている」と回答した人は、学生（WEB）で14.6%（前回比+0.2pt）、保護者で20.0%（前回比+2.8pt）にとどまる。

表 130 介護の仕事への理解度【学生（WEB）】

Q11	介護の仕事について、どれくらい知っていますか。	R7 (Q11)	R6 (Q8)	R5 (Q8)
1	具体的な仕事内容を知っている	14.6	14.4	17.0
2	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	52.9	61.2	52.8
3	まったく知らない	32.5	24.4	30.2
	全体	459	500	500

表 131 介護の仕事への理解度【保護者】

Q6	介護の仕事について、どれくらい知っていますか。	R7 (Q6)	R6 (Q8)	R5 (Q8)
1	具体的な仕事内容を知っている	20.0	17.2	18.6
2	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	52.4	53.4	58.0
3	まったく知らない	27.6	29.4	23.4
	全体	500	500	500

③介護の仕事への関心【学生（WEB）、保護者】

介護の仕事に「関心がある（もっと知りたいと思う）」と回答した人は、学生（WEB）で16.1%（前回比+0.7pt）、保護者で9.8%（前回比-2.8pt）である。

「関心はない（特に知りたいとは思わない）」と回答した人は学生では54.2%（前回比-0.2pt）、保護者では59.0%（前回比+0.8pt）である。

表 132 介護の仕事への関心【学生（WEB）】

Q15	介護の仕事に関心がありますか。	R7 (Q15)	R6 (Q12)	R5 (Q12)
1	関心がある(もっと知りたいと思う)	16.1	15.4	19.0
2	関心はない(特に知りたいとは思わない)	54.2	54.4	45.8
3	どちらともいえない	29.6	30.2	35.2
	全体	459	500	500

表 133 介護の仕事への関心【保護者】

Q7	介護の仕事に関心がありますか。	R7 (Q7)	R6 (Q9)	R5 (Q9)
1	関心がある(もっと知りたいと思う)	9.8	12.6	12.8
2	関心はない(特に知りたいとは思わない)	59.0	58.2	54.2
3	どちらともいえない	31.2	29.2	33.0
	全体	500	500	500

④介護に関する授業、ボランティアや学生時代の職場体験・インターンシップなどの経験【学生（WEB）】

学生（WEB）のうち、介護に関する授業、ボランティアや学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護サービスが提供されている様子を見たことの経験を尋ねたところ、「いずれも経験がない」が最も多く、43.3%（前回比-6.2pt）で最も多く、次いで「学校で介護についての授業を受けたことがある」が17.9%（前回比-2.5pt）、「介護の現場でボランティアをしたことがある」が11.8%（前回比+4.2pt）、「介護の現場で実習に参加したことがある」が10.0%、「介護の現場で職場体験・インターンシップに参加したことがある」が8.5%である。

また、介護サービスが提供されている様子を見た際に感じたことは、「介護の仕事は大変そうだと感じた」が34.7%で最も多く、次いで「介護職員が親切だった、優しかった」が32.9%である。

表 134 学校で介護についての授業を受けたり、介護の現場でボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどをしたりした経験【学生（WEB）】

Q12	介護に関する授業、ボランティアや学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護サービスが提供されている様子を見たことがありますか。	R7 (Q12)	R6 (Q9)	R5 (Q9)
1	学校で介護についての授業を受けたことがある	17.9	19.4	18.6
2	介護の現場でボランティアをしたことがある	11.8	7.6	14.4
3	介護の現場で実習に参加したことがある	10.0	9.0	13.4
4	介護の現場で職場体験・インターンシップに参加したことがある	8.5	N/A	N/A
5	介護の現場でアルバイトをしたことがある	2.8	3.0	N/A
6	上記のいずれも経験がない	43.4	49.6	42.4
7	覚えていない	19.0	18.0	21.2
	全体	459	500	500

表 135 介護サービスが提供されている様子を見た際に感じたこと【学生（WEB）】
※今年度新規

Q13	介護サービスが提供されている様子を見た際に感じたことを教えてください。	R7 (Q13)	R6	R5
1	サービスの内容の質が高いと感じた	18.5	N/A	N/A
2	介護職員が親切だった、優しかった	32.9	N/A	N/A
3	介護職員の仕事は魅力的だと感じた	21.4	N/A	N/A
4	ICTやロボットの活用など、生産性向上が進んでいると感じた	22.5	N/A	N/A
5	サービスの内容の質が低いと感じた	17.3	N/A	N/A
6	介護職員が不親切だった	13.9	N/A	N/A
7	介護の仕事は大変そうだと感じた	34.7	N/A	N/A
8	ICTやロボットの活用など、生産性向上が進んでいないと感じた	5.2	N/A	N/A
9	その他	1.2	N/A	N/A
	全体	173	N/A	N/A

⑤介護サービスが提供されている様子を見た経験【保護者】

保護者のうち、家族の介護、ボランティアや学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護サービスが提供されている様子を見たことがある人は17.2%（前回比±0）である。

また、介護サービスが提供されている様子を見た際に感じたことは、「介護の仕事は大変そうだと感じた」が47.7%（前回比-3.5pt）で最も多く、次いで「介護職員が親切だった、優しかった」が33.7%（前回比-11.6pt）である。

表 136 家族の介護、ボランティアや学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護サービスが提供されている様子の有無【保護者】

Q4	家族の介護、ボランティアや学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護サービスが提供されている様子を見たことがありますか。	R7 (Q4)	R6 (Q6)	R5 (Q6)
1	ある	17.2	17.2	16.4
2	ない	82.8	82.8	83.6
	全体	500	500	500

表 137 介護サービスが提供されている様子を見た際に感じたこと【保護者】

Q5	介護サービスが提供されている様子を見た際に感じたことを教えてください。	R7 (Q5)	R6 (Q7)	R5 (Q7)
1	サービスの内容の質が高いと感じた	22.1	N/A	N/A
2	介護職員が親切だった、優しかった	33.7	45.3	43.9
3	介護職員の仕事は魅力的だと感じた	18.6	12.8	18.3
4	ICTやロボットの活用など、生産性向上が進んでいると感じた	14.0	10.5	N/A
5	サービスの内容の質が低いと感じた	11.6	N/A	N/A
6	介護職員が不親切だった	12.8	N/A	N/A
7	介護の仕事は大変そうだと感じた	47.7	51.2	45.1
8	ICTやロボットの活用など、生産性向上が進んでいないと感じた	15.1	N/A	N/A
	施設の雰囲気が明るいと感じた	N/A	19.8	29.3
	施設が綺麗だと感じた	N/A	31.4	34.1
	施設の雰囲気が暗いと感じた	N/A	14.0	19.5
	施設が汚いと感じた	N/A	9.3	11.0
9	その他	2.3	-	-
	全体	86	86	82

<ヒアリング調査>

ヒアリング調査では、介護の仕事の魅力を届ける対象に関して、以下の指摘がなされた。

- 教員や保護者など、生徒の周りの大人たちに関しては、魅力発信等事業で小中学校にアプローチしていることの効果は感じており、以前より介護福祉について理解のある小中学校の教員は多いように思う。一方で、小中学校の保護者の介護福祉に対する理解はまだ広まっていないと感じる。
- 介護職を養成すること自体も大事だが、生徒が介護の仕事に進むにあたり、教員や保護者からの賛同が得られない、いわゆる「教員の壁」「保護者の壁」がある。そのため、学校のPTAや保護者会で保護者向けに入門的研修のサマリーのようなものを実施する機会を設け、「こういう仕事がある」と保護者に理解いただくなど、まずは福祉や介護に関心を持つ人の裾野を広げていくことが重要ではないか。
- 入門的研修は、初任者研修実施校や科目設置校の校舎でも実施可能である。研修で用いるベッドは保健室のベッドを活用し、車椅子は近隣施設等から借用することで対応できる。以前、学校での入門的研修を企画・開催したことがあるが、当初最も反対したのは校内の教員で、仕事が増えることを理由に懸念を示していた。しかし、当校所在自治体では、市町村が入門的研修の企画を行っているため、学校としては入門的研修の場所貸しと参加者募集を担うだけで、実際の研修実施と修了書発行は市町村が行う。そのため、現場教員の負担は非常に少ない。また、入門的研修を受けた生徒については、校内の進路部と連携して、大学進学にあたって必要となる調査書に入門的研修を修了したことを記入してもらうように工夫したことが、生徒たちが入門的研修に関心を持つきっかけになったようだ。
- 生徒たちの学びのために施設を訪問する取組もあるが、新型コロナウイルス感染症の流行以降、生徒たちが実習等で施設に行くのは引き続きハードルが高く、調整が大変であるため、魅力発信等事業でも行われているような出前授業の取組はありがたい。なお、出前授業の直後は介護の仕事に関心を持っていた生徒たちも、時間が経つと熱が冷めてしまうため、定期的に出前授業の機会があるといいかもしれない。出前授業で生徒たちが介護の仕事に興味関心を持ったときに、「この介護職のようにするためには、こういう研修・学校がある」ということを示すことができると良いのではないか。生徒の関心が強い時期に次のステップを示すことができないと、生徒の気持ちが離れてしまうため、進路として選ばなくなってしまう。
- 福祉科がある学校のうち、福祉科の先生方が積極的に校内発信をしている学校では、普通科の先生方の中で福祉科に対する理解が進み、福祉科の応援団になってくれるため、校舎での入門的研修の実施や、出前授業のような校外との連携がうまくいっている傾向にある。
- 今後、高校時代に受けた入門的研修等を、大学や専門学校が単位として認定するなど、高校、大学・専門学校の連携が進むと良い。制度をうまく活用して、福祉の道を選ぶ生徒を増やすことにつなげられないかと考えている。

ウ. 介護職のセルフプライド

<アンケート調査>

①介護の仕事に対するポジティブ/ネガティブなイメージ【介護職（再掲）】

介護職自身の介護の仕事に対するイメージは、ポジティブなイメージでは「社会的意義が大きい（社会の役に立つことができる）」が最も多く41.2%、次いで「やりがいがある」が29.2%であるなど、SCR調査の回答よりも、具体的なポジティブなイメージが選択されている割合が高く、また、特に社会的意義を感じていることがわかった。一方で、ネガティブなイメージについてみると、「給与が低い」が57.5%、「体力的負担が大きい」が50.6%、「精神的負担が大きい」が43.8%、「社会的評価が低い」が40.7%であるなど、SCR調査と同様に具体かつ強固なネガティブなイメージを持っていることがうかがえる。

表 138 介護の仕事に対するポジティブなイメージ【介護職】 ※今年度新規

SCR4	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ポジティブなイメージ)	R7 (Q4)	R6	R5
1	社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)	41.2	N/A	N/A
2	社会的評価が高い	14.3	N/A	N/A
3	やりがいがある	29.2	N/A	N/A
4	かっこいい	7.0	N/A	N/A
5	クリエイティブである	6.9	N/A	N/A
6	仕事内容が楽しい	11.1	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かしやすい	19.2	N/A	N/A
8	昇進やキャリアアップの機会が多い	5.2	N/A	N/A
9	未経験でも始められる	22.2	N/A	N/A
10	雇用が安定している	16.6	N/A	N/A
11	職場の人間関係が良い	7.5	N/A	N/A
12	給与が良い	3.7	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	10.1	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	6.2	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がある	6.7	N/A	N/A
16	家族に介護が必要になったときに頼りたい	19.1	N/A	N/A
17	その他	0.9	N/A	N/A
18	ポジティブなイメージは特いない	20.6	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

表 139 介護の仕事に対するネガティブなイメージ【介護職】 ※今年度新規

SCR5	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ネガティブなイメージ)	R7 (Q5)	R6	R5
1	社会的意義が小さい(社会の役に立つことができない)	13.3	N/A	N/A
2	社会的評価が低い	40.7	N/A	N/A
3	やりがいがない	14.4	N/A	N/A
4	仕事内容が楽しくない	19.8	N/A	N/A
5	専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	10.3	N/A	N/A
6	昇進やキャリアアップの機会が少ない	17.1	N/A	N/A
7	未経験で就職するにはハードルが高い	10.0	N/A	N/A
8	雇用が安定していない	11.6	N/A	N/A
9	職場の人間関係が悪い	22.5	N/A	N/A
10	体力的負担が大きい	50.6	N/A	N/A
11	精神的負担が大きい	43.8	N/A	N/A
12	給与が低い	57.5	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	19.1	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	10.1	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がない	12.2	N/A	N/A
16	その他	1.0	N/A	N/A
17	ネガティブなイメージは特いない	7.8	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

②現在の職場での業務内容・働き方で、満足している項目/不満がある項目【介護職】

満足している項目では、「通勤時の利便性」が59.2%、「業務内容（仕事のやりがい）」が58.6%、「勤務時間の融通の利きやすさ」が48.2%であった。一方で、不満がある項目は「給与水準」が48.7%と最も多かった。

表 140 現在の職場での業務内容・働き方で、満足している項目/不満がある項目【介護職】

Q15	現在の職場(勤務先)での業務内容・働き方に対して、満足している項目/不満がある項目について教えてください。(各項目について当てはまるものをすべて選んでください)	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			業務内容(仕事のやりがい)	通勤時の利便性	給与水準	キャリアアップ・スキルアップの機会	勤務時間の融通の利きやすさ	休暇の取りやすさ	職場の雰囲気・人間関係	福利厚生の実実度	経営の安定度	その他	満足している/不満がある項目はない
R7Q15S1	満足している	902	58.6	59.2	29.8	34.6	48.2	46.9	47.3	32.2	35.0	22.6	10.0
R7Q15S2	不満がある	902	27.2	21.8	48.7	34.0	22.8	26.6	25.6	35.9	31.5	27.8	20.3
R6	満足している	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
R6	不満がある	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
R5	満足している	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
R5	不満がある	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

③介護の仕事をしていて「良かった」と感じる事【介護職】

「良かった」と感じていることは、「給与」が突出して低く、5.8%である。最も多かったのは「利用者や利用者の家族から感謝されること」で37.3%、次いで「社会的意義が大きいこと（社会の役に立つことができること）」が34.1%である。

表 141 介護の仕事をしている中で「良かった」と感じる事（介護の仕事の魅力だと思うこと）【介護職】

Q27	介護の仕事をしている中で「良かった」と感じる事（介護の仕事の魅力だと思うこと）を教えてください。	R7 (Q27)	R6 全体 (Q30)	1	2	3	4	5
				とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	社会的意義が大きいこと(社会の役に立つことができること)	34.1	1.000	18.8	40.7	32.4	5.5	2.6
2	社会的に評価されていること	17.0	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
3	やりがいがあること	31.3	1.000	16.9	40.2	33.6	6.1	3.2
4	利用者や利用者の家族から感謝されること	37.3	1.000	20.7	37.9	33.0	5.9	2.5
5	仕事内容自体が楽しいこと	13.3	1.000	12.5	31.2	40.4	10.9	5.0
6	介護の現場で自分の人生経験を活かせること	15.3	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かすことができる(身に付けられること)	18.4	1.000	13.3	36.2	39.9	7.3	3.3
8	給与が良いこと	5.8	1.000	6.9	21.0	41.4	18.3	12.4
9	勤務日や勤務時間の融通が利くこと	15.7	1.000	11.3	31.7	42.7	9.0	5.3
10	未経験でも始めやすいこと	23.6	1.000	15.4	35.6	39.9	6.0	3.1
11	就職先・転職先が見つかりやすいこと	20.6	1.000	17.3	34.8	41.2	4.1	2.6
12	その他	2.5	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体	902						
Q27	介護の仕事をしている中で「良かった」と感じる事（介護の仕事の魅力だと思うこと）を教えてください。	R5 全体 (Q29)	1	2	3	4	5	
								とてもあてはまる
1	社会的意義が大きいこと(社会の役に立つことができること)	1.000	21.0	39.3	32.0	4.7	3.0	
2	社会的に評価されていること	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	
3	やりがいがあること	1.000	20.3	39.3	31.4	5.5	3.5	
4	利用者や利用者の家族から感謝されること	1.000	22.7	36.5	33.3	4.5	3.0	
5	仕事内容自体が楽しいこと	1.000	13.5	32.9	40.5	7.9	5.2	
6	介護の現場で自分の人生経験を活かせること	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	
7	資格や専門知識を活かすことができる(身に付けられること)	1.000	16.4	34.4	39.7	6.2	3.3	
8	給与が良いこと	1.000	9.8	19.7	39.8	16.7	14.0	
9	勤務日や勤務時間の融通が利くこと	1.000	14.1	31.5	38.5	8.8	7.1	
10	未経験でも始めやすいこと	1.000	15.8	35.8	36.7	7.7	4.0	
11	就職先・転職先が見つかりやすいこと	1.000	16.8	37.0	38.7	4.5	3.0	
12	その他	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	
	全体							

※令和6年度以前は設問形式が異なっているが、参考として掲載。

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度および令和6年度の調査結果を、下段には令和5年度の調査結果を掲載している。

④介護の仕事に就いていることを誇りに思うかどうか【介護職】

【介護職に就いていることを誇りに感じるか】

介護の仕事に就いていることについて「誇りに感じる」は38.2%（前回比-5.3pt）であり、「誇りに感じてはいない」が28.3%（前回比+3.1pt）である。

表 142 介護の仕事に就いていることを誇りに感じるか【介護職】

Q28	介護の仕事に就いていることを誇りに感じていますか。	R7 (Q28)	R6 (Q32)	R5 (Q32)
1	誇りに感じる	38.2	43.5	41.7
2	誇りに感じてはいない	28.3	25.2	26.8
3	どちらともいえない	33.5	31.3	31.5
	全体	902	1,000	1,000

【その理由】

上記設問の回答理由（自由記述）に関する分析結果は以下のとおり。

（「誇りに感じる」を選んだ理由）

「社会に貢献していると実感できる」や「誰かの支えになっていることを実感できる」というように社会的意義や社会貢献を実感できることを挙げた回答が多かった。また、利用者や家族から感謝されることや、仕事のやりがいを挙げる回答もあった。

（「誇りに感じてはいない」を選んだ理由）

「資格を取得しているにも関わらず、給与が低い」や「業務の内容に対して給与が低く、生活が安定しない」など、給与や待遇に関するネガティブな回答が多く見られた。さらに、「社会的評価が低い」や「誰にでもできる仕事だと思われている」のように社会的地位や周囲からの評価の低さを挙げるものや、「人手不足により休みがとりにくい」といった人材不足に関する指摘もあった。

（「どちらともいえない」を選んだ理由）

「どちらともいえない」を選んでいるものの、給与の低さや社会的評価の低さ、誰にでもできる仕事だと思われていることといった不満に関連する回答が多かった。「意義のある仕事だが、社会的評価が低すぎるのが不満」や、「自分では誇りを持っているが、社会的地位が低く、見下されていると感じる」、「利用者から感謝の言葉をもらうとうれしいが、体力的にはきつい」のように、仕事内容に意義ややりがいを感じる一方で、社会的評価の低さや、業務内容の大変さを感じ、不満も抱えている回答がみられた。

表 143 介護の仕事に就いていることを誇りに感じているかどうか【介護職】
(主なものを抜粋し、実際の回答を掲載)

介護の仕事に就いていることへの感じ方	その理由
誇りに感じる	<p>【社会的意義と人助けの実感】</p> <ul style="list-style-type: none"> • これからの日本の超高齢化社会では必要不可欠な仕事だから • いずれは皆通る道の手助けが出来る • 社会貢献できている。人と人との関わりを大切にできる <p>【感謝されること】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ありがとう」がよく聞ける職場だから • 利用者さんの喜ぶ顔を見ると、やっけて良かったなと思う <p>【自己成長】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高齢化社会で役に立つことができ、自身のスキルアップにもつながると思う • 介護技術を学べるのはもちろんですが利用者様から教えてもらうことが多く、自分の人生の学びにもなるから
誇りに感じてはいない	<p>【給与・待遇の不満】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 給与水準が他業界と比較して低く、社会的地位も低く感じる • 給与面でも安く、休みも取りにくいので人としてあまりいい生活はできていない <p>【社会的地位と評価の低さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 利用者以外に誰にも評価されず、社会的地位もかなり低い • 誰にでもできると思われている <p>【精神的・肉体的負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 精神的に負担が大きく、利用者や家族に感謝されないことも多い。訴訟になるリスクもある。 • やる事が多すぎて、自分自身が崩壊しそう
どちらともいえない	<p>【給与・待遇の不満】</p> <ul style="list-style-type: none"> • やりがいのある部分もあるが、待遇や環境面で限界を感じ、とても人に勧めたりは出来ないから • 個人的には嫌いな仕事ではないし、楽しいと思える部分もあるが、誇れるほどのポジティブさは持てない。 <p>【社会評価の低さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 仕事には意義はあるが、社会的評価が低すぎるのが不満 • いまだ 3K 職業と言われる <p>【精神的・肉体的負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ありがとう」を言われればうれしいが、体力的にも身体的にもキツイときがあるから。

⑤ 転職意向、転職を検討している理由【介護職】

「転職は考えていない」人が最も多く、53.4%（前回比-1.7pt）であるが、「転職活動をしている（情報収集等を始めている）」人は20.2%（前回比+1.6pt）、「転職を検討している（情報収集等は始めている）」人は26.4%（前回比-0.1pt）である。

現在転職を検討している理由は、「給与が低いから」が最も多く46.4%（前回比-1.5pt）、次いで「負担の大きい仕事だから」が36.2%（前回比-3.7pt）、「仕事にやりがいを感じないから」が24.8%（前回比+0.1pt）である。

一方で、転職先として考えている業種は「福祉（介護の仕事）」が最も多く43.3%（前回比-9.9pt）、次いで「福祉（介護の仕事以外）」が22.1%（前回比-7.7pt）である。

表 144 現在の転職意向の有無【介護職】

Q19	現在の転職意向の有無を教えてください。	R7 (Q19)	R6 (Q20)	R5 (Q19)
1	転職活動をしている(情報収集等を始めている)	20.2	18.6	20.5
2	転職を検討している(情報収集等は始めている)	26.4	26.3	25.5
3	転職は考えていない	53.4	55.1	54.0
	全体	902	1,000	1,000

表 145 現在転職を検討している理由【介護職】

Q20	現在転職を検討している理由を教えてください。(上位5つまで)	R7 (Q20)	R6 (Q21)	R5 (Q20)
1	仕事にやりがいを感じないから	24.8	24.7	26.7
2	負担の大きい仕事だから	36.2	39.9	41.3
3	自分の資格・スキルを生かすことができないから	18.8	21.4	24.1
4	通勤が不便だから	19.3	19.4	17.4
5	給与が低いから	46.4	47.9	45.7
6	勤務時間に融通が利かないから	11.4	9.6	12.6
7	休暇が取りにくいから	14.8	16.5	20.2
8	職場の人間関係が悪いから	20.7	22.0	18.7
9	勤務環境に不満があったから	13.8	16.7	19.3
10	企業・事業所の理念が合わないから	10.0	8.9	10.2
11	会社の将来性・安定性に不安があるから	10.5	12.2	13.3
12	雇用形態(正社員/契約社員/派遣社員)を変えたいから	4.5	8.7	7.2
13	定年を迎えた、または契約期間が満了となるから	2.6	3.1	3.5
14	結婚や出産等の環境の変化がある(あった)から	3.6	4.9	7.0
15	配偶者の転勤等により、勤務地を変えたいから	2.9	3.3	2.2
16	他のキャリアを歩みたいから(他にやりたい仕事があるから)	5.7	N/A	N/A
17	その他	2.4	2.4	2.8
	全体	420	449	460

表 146 転職先として考えている業種【介護職】

Q21	転職先として考えている業種を教えてください。	R7 (Q22)	R6 (Q22)	R5 (Q21)
1	福祉(介護の仕事)	43.3	53.2	49.3
2	福祉(介護の仕事以外)	22.1	29.8	27.4
3	医療	15.7	N/A	N/A
4	農業、林業、漁業	4.3	11.4	8.4
	鉱業、採石業、砂利採取業	N/A	4.2	3.3
5	建設業	7.1	4.9	4.6
6	製造業(メーカー)	8.8	9.8	8.0
7	電気・ガス・熱供給・水道業	6.4	4.0	3.3
8	情報通信業(通信・インターネット、メディア、情報サービスなど)	6.9	8.5	5.4
9	運輸業(鉄道、バス・タクシー、トラックなど)、郵便業	6.0	4.9	4.3
10	金融業、保険業	5.2	3.3	2.8
11	不動産業、物品賃貸業	3.6	4.2	3.0
12	教育、学習支援業	6.0	5.6	6.1
13	保安の職業(自衛官・警察官・消防員や警備など)	4.0	N/A	N/A
14	販売業(アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス)	7.4	5.1	4.8
15	飲食サービス業、宿泊業	6.7	9.6	6.3
16	生活関連サービス業、娯楽業(クリーニング、理美容、旅行業など)	6.7	9.8	10.0
17	専門・技術サービス業、学術研究(法律、会計、デザイン事務所など)	6.0	4.0	3.0
	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	N/A	4.9	4.8
18	サービス業(他に分類されるものを除く)(廃棄物処理業、自動車整備業など)	9.0	13.1	10.0
19	公務(他に分類されるものを除く)	3.6	4.2	2.2
20	その他	0.2	1.1	0.9
21	特に決めていない	12.1	11.1	10.0
	全体	420	449	460

⑥介護の仕事の魅力発信に関する意欲・スキル【介護職】

介護の仕事の魅力⁹を周囲に発信することへの意欲について、魅力発信にポジティブな人（発信したいと思う/やや思う）は33.9%（前回比-2.2pt）であり、ネガティブな人（発信したいとは全く思わない/あまり思わない）は30.8%（前回比+2.5pt）、「どちらともいえない」と回答した人は35.4%（前回比-0.2pt）である。

魅力発信のスキルの有無については「とてもある/ややある」と回答した人が32.6%（前回比-1.5pt）、「どちらともいえない」が31.6%（前回比-2.4pt）、「あまりない/全くない」が35.8%（前回比+3.9pt）である。

魅力発信の機会の有無については、「ない」が53.7%（前回比±0.0pt）で最も多く、次いで「どちらともいえない」が20.3%（前回比-4.2pt）、「ある」が26.1%（前回比+4.3pt）である。

表 147 介護の仕事の魅力⁹を周囲に伝えたい・発信したいと思うか【介護職】

Q30	介護の仕事の魅力 ⁹ を周囲(求職者・新入社員・後輩など)に伝えたい・発信したいと思いませんか	R7 (Q30)	R6 (Q34)	R5
1	とても思う	13.1	10.8	N/A
2	やや思う	20.8	25.3	N/A
3	どちらともいえない	35.4	35.6	N/A
4	あまり思わない	15.9	14.3	N/A
5	全く思わない	14.9	14.0	N/A
	全体	902	1000	N/A

表 148 介護の仕事の魅力⁹を周囲に伝える力がどれくらいあると思うか【介護職】

Q31	介護の仕事の魅力 ⁹ を周囲(求職者・新入社員・後輩など)に伝える力が(ご自身に)どのくらいあると思いませんか？	R7 (Q31)	R6 (Q35)	R5
1	とてもある	12.1	10.4	N/A
2	ややある	20.5	23.7	N/A
3	どちらともいえない	31.6	34.0	N/A
4	あまりない	19.3	16.6	N/A
5	まったくない	16.5	15.3	N/A
	全体	902	1000	N/A

表 149 介護の仕事の魅力⁹を周囲に伝える機会があるか【介護職】

Q32	介護の仕事の魅力 ⁹ を周囲(求職者・新入社員・後輩など)に伝える機会がありますか？	R7 (Q32)	R6 (Q36)	R5
1	ある	26.1	21.8	N/A
2	ない	53.7	53.7	N/A
3	どちらともいえない	20.3	24.5	N/A
	全体	902	1000.0	N/A

⁹ 求職者、新入社員、後輩など。

エ. 介護の仕事の魅力を発信することによる影響

<アンケート調査>

①介護の仕事へのポジティブなイメージ形成に影響を与えたもの【介護職、学生（WEB）、保護者】

介護職では「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」が29.8%（前回比+2.7pt）で最も多く、次いで「身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと」が23.6%（前回比-2.0pt）、「介護に関する研修に参加したこと」が15.6%（前回比-2.7pt）である。

学生では、「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」が18.1%（前回比+3.7pt）で最も多く、次いで「親族から聞いた話」が14.6%（前回比-1.8pt）、「身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと」が12.9%（前回比+0.9pt）である。

保護者では、「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」が16.0%（前回比-1.0pt）で最も多く、次いで「親族から聞いた話」が14.4%（前回比+3.0pt）、「身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと」が13.4%（前回比-4.4pt）である。

これらの結果を踏まえると、介護の様子を見ることや介護職の話聞くことなどが介護の仕事に関する良いイメージの形成につながりやすいといえる。

表 150 介護の仕事へのポジティブなイメージ形成に影響を与えたもの【介護職】

Q25	介護の仕事に関するポジティブなイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R7	R6	R5
		(Q25)	(Q28)	(Q27)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	23.6	25.6	26.8
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	29.8	27.1	28.2
3	親族から聞いた話	12.7	13.2	14.8
4	知人・友人から聞いた話	13.9	15.5	13.1
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	8.3	9.8	12.1
6	介護に関する研修に参加したこと(入門的研修、初任者研修など)	15.6	18.3	N/A
7	介護の仕事の実習や職場体験、インターンに参加したこと	7.8	10.2	N/A
8	介護の現場で実習に参加したこと	11.1	N/A	N/A
9	介護の現場で職場体験・インターンシップに参加したこと	5.1	N/A	N/A
10	介護の現場でボランティア活動(有償/無償)をしたこと	6.0	7.5	N/A
11	介護の現場でアルバイトをしたこと	5.5	5.8	N/A
12	介護に関するイベント	3.8	5.5	10.5
13	介護に関するテレビ番組	7.1	11.7	12.8
14	介護に関するラジオ番組	3.2	4.1	5.5
15	介護に関する新聞記事・広告	3.3	6.0	6.0
16	介護に関する雑誌記事	3.4	5.4	5.2
17	介護に関する書籍・漫画	4.4	5.3	5.1
18	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	4.8	5.9	7.1
19	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	5.7	5.8	6.2
20	介護に関する映画	4.3	4.1	3.4
21	その他	0.9	0.7	1.2
22	わからない	8.6	8.9	11.8
23	介護の仕事に対してポジティブなイメージを持っていない	24.2	18.1	18.7
	全体	902	1,000	1,000

表 151 介護の仕事へのポジティブなイメージ形成に影響を与えたもの【学生（WEB）】

Q21	介護の仕事に関するポジティブなイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R7	R6	R5
		(Q21)	(Q17)	(Q15)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	12.9	12.0	12.8
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	18.1	14.4	19.0
3	親族から聞いた話	14.6	16.4	16.2
4	知人・友人から聞いた話	7.8	10.8	9.0
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	9.4	11.6	10.8
6	介護に関する研修に参加したこと(入門的研修、初任者研修など)	6.8	5.2	N/A
7	介護の仕事の実習や職場体験、インターンに参加したこと	3.7	6.6	N/A
8	介護の現場で実習に参加したこと	2.4	N/A	N/A
9	介護の現場で職場体験・インターンシップに参加したこと	1.5	N/A	N/A
10	介護の現場でボランティア活動(有償/無償)をしたこと	2.0	3.0	N/A
11	介護の現場でアルバイトをしたこと	1.5	1.0	N/A
12	介護に関するイベント	2.2	1.8	8.8
13	介護に関するテレビ番組	5.2	13.2	15.2
14	介護に関するラジオ番組	1.3	0.4	2.8
15	介護に関する新聞記事・広告	2.0	3.2	5.0
16	介護に関する雑誌記事	1.1	0.6	2.4
17	介護に関する書籍・漫画	2.6	2.2	3.4
18	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	3.3	6.0	4.0
19	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	5.2	5.2	5.4
20	介護に関する映画	1.5	1.4	2.0
21	その他	-	0.2	0.2
22	わからない	11.5	10.8	11.4
23	介護の仕事に対してポジティブなイメージは持っていない	35.3	33.6	33.6
	全体	459	500	500

表 152 介護の仕事へのポジティブなイメージ形成に影響を与えたもの【保護者】

Q12	介護の仕事に関するポジティブなイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R7	R6	R5
		(Q12)	(Q13)	(Q12)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	13.4	17.8	17.8
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	16.0	17.0	21.0
3	親族から聞いた話	14.4	11.4	10.6
4	知人・友人から聞いた話	8.4	8.8	10.2
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	5.4	2.0	2.6
6	介護に関する研修に参加したこと(入門的研修、初任者研修など)	4.4	6.0	N/A
7	介護の仕事の実習や職場体験、インターンに参加したこと	4.4	4.6	N/A
8	介護の現場でボランティア活動(有償/無償)をしたこと	1.4	4.0	N/A
9	介護の現場でアルバイトをしたこと	1.2	3.4	N/A
10	介護に関するイベント	1.6	2.4	4.6
11	介護に関するテレビ番組	12.6	15.6	22.0
12	介護に関するラジオ番組	2.0	1.2	2.0
13	介護に関する新聞記事・広告	3.4	6.0	8.4
14	介護に関する雑誌記事	3.0	3.6	4.2
15	介護に関する書籍・漫画	1.8	2.6	3.4
16	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	4.2	6.8	8.0
17	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	3.4	3.6	4.4
18	介護に関する映画	1.2	0.8	1.4
19	その他	0.6	1.0	0.6
20	わからない	9.4	12.8	10.4
21	介護の仕事に対してポジティブなイメージは持っていない	40.0	33.4	30.6
	全体	500	500	500

②介護業界で働くことを考え始めた、介護福祉について勉強しようと思ったきっかけ【介護職、学生・生徒（学校）】

介護職が介護業界で働くことを考え始めた時期は、「就職後（転職先として介護業界で働くことを検討した）」が61.3%（前回比+1.8pt）と最も多い。また、介護業界で働くことを考え始めたきっかけは「身近な人の介護をしたこと、見たこと」が28.4%（前回比+3.8pt）で、次いで「就職先を探している時に介護の仕事に関する求人情報が目に入ったこと」が27.9%（前回比+1.3pt）であった。

表 153 介護業界で働くことを考え始めた時期【介護職】

Q10	介護業界で働くことを考え始めた時期を教えてください。	R7 (Q10)	R6 (Q24)	R5 (Q23)
1	中学生以下の時	3.3	6.1	5.8
2	高校生・高専生の時	15.7	13.8	15.5
3	専門学校生・短大生・大学生・大学院生の時(就職活動より前)	9.3	9.1	12.5
4	専門学校生・短大生・大学生・大学院生の時(就職活動を始めた後)	10.3	11.5	9.3
5	就職後(転職先として介護業界で働くことを検討した)	61.3	59.5	56.9
	全体	902	1,000	1,000

表 154 介護業界で働くことを考え始めたきっかけ【介護職】

Q11	介護業界で働くことを考え始めたきっかけを教えてください。	R7 (Q11)	R6 (Q25)	R5 (Q24)
1	身近な人の介護をしたこと、見たこと	28.4	24.6	30.7
2	身近に介護の仕事をしている人がいたこと	19.1	23.2	25.9
3	職場体験・インターンシップなどで介護施設を訪問したこと	11.2	11.0	17.9
4	介護に関する授業を受けたこと	10.8	15.9	17.5
5	介護に関する研修(入門的研修、初任者研修など)を受けたこと	13.2	16.0	N/A
6	介護の現場でボランティア活動(有償/無償)をしたこと	10.5	10.6	N/A
7	家族や友人、知人から勧められたこと	16.6	N/A	N/A
8	新聞や雑誌、インターネット等で介護の仕事について知ったこと	6.9	12.0	17.0
9	就職先を探している時に介護の仕事に関する求人情報が目に入ったこと	27.9	26.6	N/A
10	その他	6.7	7.7	15.1
	全体	902	1,000	1,000

また、学校調査の学生・生徒が介護福祉について勉強をしようと思ったきっかけは、「家族や親せきに介護の仕事をしている人がいたこと」が最も多く32.9%、「家族や友人、知人から介護福祉を学ぶことや、介護の仕事を勧められたこと」が29.3%、「家族や親せきの介護をしたこと、見たこと」が28.9%であった。

表 155 介護福祉について勉強をしようと思ったきっかけ【学生・生徒（学校）】
※今年度新規

Q6 介護福祉について勉強をしようと思ったきっかけはなんですか。	全体	養成校	高校福祉
1. 家族や親せきの介護をしたこと、見たこと	28.9	31.9	27.9
2. 家族や親せきに介護の仕事をしている人がいたこと	32.9	22.3	36.4
3. 職場体験やインターンシップなどで介護施設に行ったこと	11.6	16.8	9.9
4. 介護について授業を受けたこと	11.3	14.8	10.2
5. 介護について研修(入門的研修、初任者研修など)を受けたこと	2.7	6.5	1.5
6. 介護施設でボランティア活動(お給料あり/なし)をしたこと	6.7	11.3	5.2
7. 家族や友人、知人から介護福祉を学ぶことや、 介護の仕事を勧められたこと	29.3	26.5	30.2
8. 新聞や雑誌、インターネット等で介護の仕事について知ったこと	9.6	9.4	9.7
9.その他	17.3	14.5	18.2
10.無回答	0.3	0.3	0.3
全体 (n数)	1,253	310	943

③介護の仕事を選んだ理由【介護職】

介護職が介護の仕事を選んだ理由は、「人の役に立つ仕事だと思ったから」が34.5%で最も多く、次いで「やりがいのある仕事だと思ったから」が29.0%である。

表 156 介護の仕事を選んだ理由【介護職】

Q12	介護の仕事を選んだ理由を教えてください。(上位5つまで)	R7 (Q12)	R6 全体 (Q12)	1	2	3	4	5
				とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	社会的な意義が大きい仕事だと思ったから	23.8	1,000	18.8	34.7	30.5	10.7	5.3
2	やりがいのある仕事だと思ったから	29.0	1,000	20.6	40.9	25.9	8.7	3.9
3	人の役に立つ仕事だと思ったから	34.5	1,000	21.8	43.9	23.5	7.4	3.4
4	資格や専門知識を活かすことができる仕事だと思ったから	22.0	1,000	18.1	42.1	30.4	6.3	3.1
5	介護の現場で自分の人生経験を活かせるのではないかと考えたから	12.2	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
6	自分に向いている仕事だと思ったから	16.5	1,000	16.5	34.1	38.1	9.1	4.2
7	自分にもできる仕事だと思ったから	20.7	1,000	16.5	42.2	32.3	6.3	2.7
8	ワークライフバランスを確保しながら働ける業界だと思ったから	8.1	1,000	13.3	29.9	40.3	11.1	5.4
9	今後成長していく業界だと思ったから	10.3	1,000	13.7	34.4	38.6	8.9	4.4
10	雇用不安の少ない業界だと思ったから	16.1	1,000	18.4	36.0	35.9	6.1	3.6
11	家族など身近な人が介護の仕事に就いていたから	8.3	1,000	11.2	23.2	36.4	14.4	14.8
12	高齢者と接するのが好きだから	9.3	1,000	13.4	29.5	40.1	10.3	6.7
13	地元で働きたい/地元で貢献したいから	9.4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
14	その他	4.4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体	902						

Q12	介護の仕事を選んだ理由を教えてください。(上位5つまで)	R5 全体 (Q10)	1	2	3	4	5
			とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	社会的な意義が大きい仕事だと思ったから	1,000	22.4	33.2	29.9	8.2	6.3
2	やりがいのある仕事だと思ったから	1,000	22.6	40.4	25.4	6.5	5.1
3	人の役に立つ仕事だと思ったから	1,000	24.3	38.7	27.1	5.1	4.8
4	資格や専門知識を活かすことができる仕事だと思ったから	1,000	19.8	38.1	29.8	6.9	5.4
5	介護の現場で自分の人生経験を活かせるのではないかと考えたから	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
6	自分に向いている仕事だと思ったから	1,000	18.8	33.6	35.3	6.5	5.8
7	自分にもできる仕事だと思ったから	1,000	17.0	41.9	33.1	3.9	4.1
8	ワークライフバランスを確保しながら働ける業界だと思ったから	1,000	14.2	29.2	40.4	9.3	6.9
9	今後成長していく業界だと思ったから	1,000	14.9	33.6	38.2	8.0	5.3
10	雇用不安の少ない業界だと思ったから	1,000	17.0	37.1	35.4	5.6	4.9
11	家族など身近な人が介護の仕事に就いていたから	1,000	12.4	23.1	33.8	13.6	17.1
12	高齢者と接するのが好きだから	1,000	15.9	27.9	40.3	8.2	7.7
13	地元で働きたい/地元で貢献したいから	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
14	その他	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体						

※令和6年度以前は設問形式が異なっているが、参考として掲載。

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度および令和6年度の調査結果を、下段には令和5年度の調査結果を掲載している。

④介護業界への就職の仕方【介護職】

②に関連して、介護業界への就職の仕方を見ると、「新卒で他の業界に就職し、介護業界に転職してきた」が最も多く、54.1%と半数以上を占める。次いで「新卒からずっと介護業界」が27.2%である。

表 157 介護業界への就職の仕方【介護職】 ※今年度新規

Q16	ご自身の介護業界への就職の仕方について教えてください。回答の際は、以下例示を参考に選択肢をお選びください。 例1:新卒で介護業界に就職し、育児等の家庭の事情で仕事を離れた後、再度介護職として働いている場合は、「新卒からずっと介護業界」を選択 例2:新卒ですぐ就職していない場合(無職の期間があった場合)などは、「その他」を選択	R7	R6	R5
		(Q16)		
1	新卒からずっと介護業界	27.2	N/A	N/A
2	新卒で介護業界に就職し、他の業界に転職したものの、介護業界に戻ってきた	13.7	N/A	N/A
3	新卒で他の業界に就職し、介護業界に転職してきた	54.1	N/A	N/A
4	その他	5.0	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

⑤介護の仕事に向いている人【教員】

学校調査で、教員に対して介護の仕事に向いている人を尋ねたところ、「人とかかわるのが好きな人」が80.7%で最も多く、次いで「利用者に寄り添う気持ちがある人」が79.3%、「人に興味がある人」が72.9%である。

表 158 介護の仕事に向いている人【教員】 ※今年度新規

Q7 介護の仕事に向いている人はどのような人ですか。	全体	養成校	高校福祉
1. 人とかかわるのが好きな人	80.7	72.7	85.9
2. 人に興味がある人	72.9	76.4	70.6
3. 相手に何かをして喜んでもらうことが好きな人	60.7	54.5	64.7
4. コミュニケーション能力が高い人	51.4	49.1	52.9
5. 素直な人	60.7	60.0	61.2
6. 気持ちの切り替えがうまい人	50.0	47.3	51.8
7. 介護の仕事に対する意欲が高い人	57.9	52.7	61.2
8. 利用者に寄り添う気持ちがある人	79.3	70.9	84.7
9. その他	12.9	14.5	11.8
10. 無回答	2.9	5.5	1.2
全体 (n数)	140	55	85

(3) まとめ

アンケート調査およびヒアリング調査の結果の概要は以下のとおりである。なお、今年度の新設設問により明らかになったポイントには、下線を付している。

①介護の仕事に対するイメージ

介護の仕事に対するイメージについて、SCR調査でポジティブなイメージを尋ねたところ、「ポジティブなイメージは特にない」が38.5%と最も多く選択されており、次いで「社会的意義が大きい（社会の役に立つことができる）」が37.3%であった。これに対し、ネガティブなイメージを尋ねた結果では、「体力的負担が大きい」が56.7%、「給与が低い」が48.3%、「精神的負担が大きい」が47.8%であった。このことから、一般的に、介護の仕事に対する明確なポジティブなイメージが形成されていない一方で、ネガティブなイメージはより具体的かつ強固に持たれていることがうかがえる。

学生（WEB）、学生・生徒（学校）、保護者に対し、介護の仕事を就職先として魅力的だと思うかどうか尋ねたところ、学生（WEB）で17.6%であるのに対し、学生・生徒（学校）では62.4%である。また、保護者では7.4%であった。魅力的だと思うと回答した学生（WEB）、保護者に対し、その理由を尋ねたところ、ともに社会的意義があることや、仕事へのニーズがあることが挙げられた。

学生・生徒（学校）に対し、将来したい仕事の中に、「介護の仕事」が入っているか尋ねたところ、「将来したい仕事の中に、「介護の仕事」が入っている」と回答した人は47.8%に及ぶ。その一方で、「将来したい仕事の中に、いまは「介護の仕事」は入っていないが、以前は「介護の仕事」をしたいと考えていたことがある」と回答し、介護の仕事を目指したことがあるものの、進路を変更した人も21.4%いることがわかった。また、「将来したい仕事の中に、「介護の仕事」は入っていないし、いままで「介護の仕事」をしたいと考えたことはない」は18.6%で、介護福祉を学ぶ学生・生徒の中に、介護の仕事を目指したことがない学生・生徒が含まれることもわかった。介護の仕事を目指したことがあるものの、進路を変更した人の理由としては、他職種に志望を転換するものや、介護職の労働条件への懸念、仕事内容の大変さへの懸念、自身の適正への不安などが挙げられた。

また、学生・生徒が介護の道に進むことについて相談した時の保護者の反応は、学生（WEB）では「応援」が66.1%、「反対」が24.2%であったのに対し、学生・生徒（学校）では「応援」が85.3%、「反対」が3.3%であった。

②介護との関わり、介護の仕事への理解

介護との関わりは、「介護の仕事に就いている（就いていた）親族がいる」が2.4%、「介護の仕事に就いている（就いていた）友人がいる」が1.9%で、また、「自分の親族内での介護を見たことがある」が6.4%、「親や家族などの介護のことに関心がある」が11.9%にとどまるなど、全体的に介護に関心がある人や、介護職と関わりがある人の割合は少ない。

また、介護の仕事への理解度では、学生（WEB）では「何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない」が52.9%と最も多く、次いで「まったく知らない」が32.5%であった。保護者でも「何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない」が52.4%と最も多く、次いで「まったく知らない」が27.6%であった。

さらに、ヒアリング調査では、介護職を養成すること自体も大事だが、生徒が介護の仕事に進むにあたり、教員や保護者からの賛同が得られないいわゆる「教員の壁」「保護者の壁」があるため、学校のPTAや保護者会で保護者向けに入門的研修のサマリーのようなものを実施する機会を設け、「こういう仕事がある」と保護者に理解いただくなど、まずは福祉や介護に関心を持つ人の裾野を広げていくことが重要であるとの指摘がなされた。

③介護職のセルフプライド、仕事への満足度等

介護職自身の介護の仕事に対するイメージは、ポジティブなイメージでは「社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)」が最も多く41.2%、次いで「やりがいがある」が29.2%であるなど、SCR調査の回答よりも、具体のポジティブなイメージが選択されている割合が高く、また、特に社会的意義を感じていることがわかった。一方で、ネガティブなイメージについてみると、「給与が低い」が57.5%、「体力的負担が大きい」が50.6%、「精神的負担が大きい」が43.8%、「社会的評価が低い」が40.7%であるなど、SCR調査と同様に具体的かつ強固なネガティブなイメージを持っていることがうかがえる。

また、介護職のうち、介護の仕事に就いていることについて「誇りに感じる」人は38.2%であり、「誇りに感じてはいない」人が28.3%、「どちらともいえない」人が33.5%である。「誇りに感じる」理由は、社会的意義や社会貢献を実感できることを挙げる回答や、利用者や家族から感謝されること、仕事のやりがいを挙げる回答もあった。「誇りに感じない」理由は、給与や待遇に関するネガティブな回答や、社会的地位や周囲からの評価の低さを挙げるものが多かった。「どちらともいえない」理由は、仕事内容に意義ややりがいを感じる一方で、社会的評価の低さや、業務内容の大変さを感じ、不満も抱えている回答がみられた。

介護職が現在の職場での業務内容・働き方で、満足している項目では、「通勤時の利便性」が59.2%、「業務内容(仕事のやりがい)」が58.6%、「勤務時間の融通の利きやすさ」が48.2%であった。一方で、不満がある項目は「給与水準」が48.7%と最も多かった。

また、介護職のうち、53.4%は転職を考えており、その理由は「給与が低いから」が46.4%であった。その一方で、転職先の業界は「介護の仕事」が43.3%と最も多く、業界外への転職はそれほど多くないことがうかがわれる。

以上より、介護職は介護の仕事に対して、社会的意義の大きさややりがいを感じると同時に、給与が低いことや、体力的負担・精神的負担の大きさ、社会的評価の低さに不満を抱えていることがうかがわれる。

④介護の道に進んだきっかけ

介護職が介護業界で働くことを考え始めた時期は、「就職後(転職先として介護業界で働くことを検討した)」が61.3%と最も多かった。また、介護業界で働くことを考え始めたきっかけは「身近な人の介護をしたこと、見たこと」が28.4%で、次いで「就職先を探している時に介護の仕事に関する求人情報が目に入ったこと」が27.9%であった。

また、学校調査の学生・生徒が介護福祉について勉強をしようと思ったきっかけは、「家族や親せきに介護の仕事をしている人がいたこと」が最も多く32.9%、「家族や友人、知人から介護福祉を学ぶことや、介護の仕事を勧められたこと」が29.3%、「家族や親せきの介護をしたこと、見たこと」が28.9%であった。

介護職も学校調査の学生も、身近で介護の仕事とかかわる機会があったことや、近い関係性の人から介護の仕事を勧められたことが介護の道へ進むきっかけとなっていることがうかがわれる。

⑤介護の仕事に対するポジティブなイメージ形成に影響を与えたもの

介護の仕事に対してポジティブなイメージを持っている人について、そのイメージ形成に影響を与えたものは、介護職、学生（WEB）、保護者いずれも、「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」や「身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと」が多く選ばれていた。学生（WEB）および保護者ではこれらに加えて「親族から聞いた話」が選ばれており、さらに、保護者では「介護に関するテレビ番組」も選ばれていた。

介護の仕事に対するポジティブなイメージ形成には、介護職自身が介護の仕事に対してポジティブなイメージを持ち、生き活きと介護サービスを提供することができおり、なおかつその旨を発信していることが重要であると考えられる。

Ⅲ. 考察

1. 魅力発信等事業における今後の事業間連携や評価

本節では、今後の事業間連携等事業が実施すべき取組について考察する。はじめに魅力発信等事業での望ましい発信や協力体制について検討し、その後事業間連携等事業がそれらを実現するために行う取組を考察する。あわせて、事業間連携等事業が実施する評価分析の取組方法も考察する。

(1) 魅力発信等事業での望ましい発信・協力体制

ア. ポジティブなイメージ形成のために必要と考えられる発信

<介護の仕事のイメージに係る現状>

介護の仕事のイメージについて、ポジティブなイメージ、ネガティブなイメージの両方をWEBモニターアンケートにて調査したところ、ポジティブなイメージについては「特にない」が38.5%と最も多く、次いで「社会的意義が大きい（社会の役に立つことができる）」が37.3%であった。これに対し、ネガティブなイメージは「体力的負担が大きい」が56.7%、「給与が低い」が48.3%、「精神的負担が大きい」が47.8%であった。また、年齢が高いほど、ポジティブなイメージとして「社会的意義が大きい（社会の役に立つことができる）」を選んでいる割合が高くなっていった一方、ネガティブなイメージとして「社会的評価が低い」、「給与が低い」を選んでいる割合も高くなっていった。また、ネガティブなイメージのうち、「体力的負担が大きい」、「精神的負担が大きい」、「給与が低い」の3項目は、いずれの項目についても、40代以上の回答者のうち約5～6割から選択されていた。

また、介護職を対象としたWEBモニターアンケートでは、介護の仕事に就くことを周囲に相談した人のうち約5割が周囲に反対された経験があることが明らかになった。さらに、教員アンケート¹⁰では介護福祉を学んでいる学生が介護業界に就職する場合に「心配・懸念がある」と回答した教員が7～8割程度であった。このように、介護業界への入職のハードルとして周囲からの反対が一定存在すること、さらに福祉系の授業を受け持つ教員の目線でも学生の介護業界への入職に対する心配・懸念があることがうかがえた。

これらの結果を踏まえると、介護の仕事に対する明確なポジティブなイメージは十分に形成されていない一方で、ネガティブなイメージは具体的かつ強固に持たれていることがうかがえる。そのため、介護の仕事のイメージに係る第一想起（人々が「介護の仕事」という言葉を聞いたときに最初に思い浮かべるイメージ）がポジティブなものとなることを目指して、幅広い層を対象とした魅力発信を継続的に行っていく必要がある。

<ポジティブなイメージの形成に効果的なこと>

各種アンケート調査のいずれにおいても、介護の仕事に対するポジティブなイメージ形成に影響を与えたものとして「実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話」や「身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと」が多く選ばれており、介護職自身

¹⁰ 教員向けアンケートは、日本介護福祉士養成施設協会加盟校で介護福祉士養成課程の授業を受け持つ教員55人、全国福祉高等学校長会加盟校で教科福祉の授業を受け持つ教員83人より回答を得た。

の言葉を聞いたり、身近な人の生活が介護によって支えられていることを知ったりすることがポジティブなイメージ形成につながることを示された。

このことを踏まえると、介護の仕事に対してポジティブなイメージを持つ人を多く増やしていくためには、まず介護職が自身の仕事に対して誇りを持ちながら生き活きと介護サービスを提供していること、そして介護の仕事の魅力を周囲に伝えることに対して前向きであることが重要である。しかし、世間一般では介護そのものや介護職との接点がない人、介護の仕事への関心や仕事内容に関する知識がない人も多い。そのため、介護職自身を感じている（あるいは自ずと発する）介護の仕事の魅力をより多くの人に届けるためには、介護業界全体として魅力発信を推し進めていく必要があるほか、魅力発信等事業や都道府県事業において発信の回数や規模を広げていくための取組（発信機会の創出や既に発信された情報の拡散等）を行うことが望ましい。

イ. 発信を届けるための実施主体での協力体制

介護職による自身の仕事への誇り（セルフプライド）の発信や実際の介護現場での様子が、介護の仕事への入職可能性がある人やその周囲の人（保護者や親族、友人・知人や学校教員等）へより届くための魅力発信等事業における実施主体の取組・体制について検討する。

ポジティブなイメージ形成に寄与する介護職によるセルフプライドや介護現場の様子の発信には、リアリティのある情報として介護職の声を聴き手へ直接届ける取組や、介護現場を直接訪問し現場を見る・知る取組が有効と考えられるが、こうしたセルフプライドの発信や介護現場を訪問する取組は、スピーカーである介護職の熱量や介護現場の空気感など、その場の参加者でないと伝わりづらい情報があるため、少～中人数を対象とした活動となりやすい。例えば、株式会社朝日新聞社の小中高生向けの介護のしごとの魅力について伝える出張授業では参加者数は60～300人、株式会社マガジンハウスの介護事業所視察ツアー「ケアするしごとツアー」の参加者数は約40名であった。しかしながら、本事業のターゲットとなる介護の仕事への無関心層や介護の仕事に興味・関心を持ち始めた層は、そのような小～中規模イベントの情報を入手しにくく、情報を入手しても参加するほどの意欲は高くないと考えられる。また、全国規模での介護のしごとの魅力発信が求められる本事業においては、上記規模では十分でないという評価もあり得る。

そこで、ふだん介護職や介護サービスとの接点が少ないものの、上記のようなイベントで語られるメッセージに共感する背景を持つ層に対し、介護職発信を促す実施主体が他の実施主体の協力を得るなどしてマスメディア・ソーシャルメディアを活用して、発信規模の拡大も図ることが望ましい。規模を広げることで熱量や空気感が伝えきれなくなることも想定されるが、まずは情報を届けて興味・関心を持ってもらい、そこからイベント等への参加につなげて認知獲得や情緒的価値の伝達を図ることも重要と考える。

上記を踏まえると、今後の魅力発信等事業は、介護職による発信を推進する主体と、介護職による発信を内容にあわせて適切な層にリーチさせることができる主体で連携して魅力発信を進めていく、今年度と類似の体制の継続が望ましいと考えられる。すなわち、一部の実施主体（今年度事業では「介護職発信事業」相当）が介護職による魅力発信の推進（例：セルフプライドを発信する場の提供、介護職自身が魅力発信を行う意欲の介護業界内での醸成）を実施し、マスメディアやソーシャルメディアを活用して広く発信力を持つ実施主体

(今年度では「全国へ向けた情報発信事業」および「WEBを活用した広報事業」相当)が介護職による魅力発信の取組を広く展開していくことが想定される。

ウ. 発信・協力に関連して留意が必要な事項

上記した発信・協力を進める場合、以下3点に留意が必要と考えられる。

1点目は、介護職発信を行う実施主体と、その発信を行う実施主体によるコミュニケーションが円滑に進まないことが想定されることである。魅力発信等事業は事業構造上、各実施主体が独立して実施計画を検討・提案して採択される。各実施主体が計画を十分にすり合わせない場合、実施主体間で制作や広報のスケジュールのずれが生じ、結果として適切な時期に情報を届けることが難しくなる可能性がある。

2点目は、介護業界内でのセルフプライド向上のために、介護業界内にも向けた魅力発信や魅力発信コンテンツ作成時の協力依頼も重要と考えられるが、採択された実施主体によっては業界団体・職能団体との関係が十分でなく、円滑な広報協力や取材協力等の依頼が難しい可能性があることである。

3点目は、これまでの複数年にわたる魅力発信等事業での過去の成果物やアンケート等から見えた発信のポイントと考えられる点を引き継いでいくことである。毎年度、事業実施主体が公募される魅力発信等事業においては、ある年度にポジティブなイメージ形成に有効なコンテンツが制作されたり、発信のポイントがまとめられたりしても、それらが引き継がれず有効活用されない可能性がある。魅力発信等事業が効果を上げていくためには、過去に効果を上げたコンテンツやポイントに学ぶこと、必要に応じて許諾の範囲で二次利用も検討することが重要と考えられるため、これらも引き継がれるように留意していくことが必要である。

(2) 効果的な発信に向けた今後の事業間連携等事業の取組案

上記(1)ウを考慮し、情報発信事業の実施主体が作成したコンテンツをより多くの人に届ける支援を行うため、今後の事業間連携等事業が実施しうる支援の方向性として、実施主体間のコミュニケーション円滑化支援、情報発信事業が行う発信の支援の2つが挙げられる。

まず、実施主体間のコミュニケーションを円滑にするための取組として、今年度の事業間連携等事業が実施した実施主体間でのミーティングの継続・強化が挙げられる。今年度は、事業開始直後に一度、すべての実施主体が参加する実施主体ミーティングを開催して連携の可能性について議論を行い、その後は各実施主体の状況に応じて随時打合せの場を設けた。

今後、実施主体同士の連携をより確実に実現するためには、事業開始直後の実施主体ミーティングの回数を増加させ、実施主体間の事業計画やより効果的な発信に向けた連携方法について集中的に討議を行うことが有効と考えられる。また、事業開始直後に挙げた連携案の実現に向け、各実施主体とミーティングを随時設定し、連携に向けた検討の進捗や課題の有無のフォローアップを行うこともあわせて考えられる。

次に、情報発信事業が行う発信の広報支援として、今年度の事業間連携等事業では、事業間連携会議の開催、過年度の介護職等アンケートを踏まえた魅力発信のヒントの共有、ニュースレター等における各実施主体の取組紹介、業界団体・職能団体が持つ広報媒体リストの作成および実施主体への配布を行った。なお、広報媒体リストの活用状況は、実施主体と業界団体・職能団体のメールでのやり取りに事業間連携等事業実施主体のメールアドレスを含めてもらうことで把握した。

これらの取組は、自治体や業界団体・職能団体を通じ、より多くの人に実施主体の取組を届けるために有効と考えられるため、今後も継続することが望ましい。なお、業界団体・職能団体との連携に関しては、実施主体の必要に応じて事業間連携等事業から積極的に業界団体・職能団体への取次希望の確認や、連携の提案を行うことが望ましい。

また、各実施主体がつながりのあるインフルエンサー（影響力を持つ人物）を他の実施主体の取組や魅力発信等事業全体に巻き込むなど、コンテンツの拡散力を高める提案も行っていくことも一案である。

(3) 今後の評価のあり方

ア. 今年度の取組の成果

<評価の枠組みの周知>

実施主体による事業効果の分析等を支援するため、事業効果分析および報告書作成について実施主体向けの説明会を6月下旬に実施し、事業効果分析を依頼している背景、その実施方法・ポイント、報告書に記載すべき項目について説明した。加えて、令和6年度に作成した「基礎からわかる！介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き」を参考資料として配布し、評価に関する基礎的な知識を伝えた。

また、情報発信事業の各実施主体の成果を俯瞰するためには、統一された様式を基に成果を確認し、評価することが望ましい。そのため、令和6年度から引き続き、事業間連携等事業から情報発信事業の各実施主体に対して、事業内容や成果をまとめるための様式（事業効果分析計画・実績記入用フォーマット）を提供することにより、各実施主体の実施事業の成果・今後の課題などを整理し、評価を行うための土台を整えた。

<事業間連携による効果の可視化>

前述の様式について、令和6年度に使用した項目を基本としつつ、今年度は新たに「他実施主体や業界・職能団体等との連携」の欄に、連携による効果を記載する欄を設けた。これにより、各実施主体が行った活動を単体で評価するだけでなく、事業間連携により生まれた相乗効果、来年度以降に活かせるような相乗効果を生み出すに至った事業間の役割分担や補完関係、広報チャンネルを一定程度可視化することができた。その中には、事業間連携等事業の支援により実現した連携も含まれる。

また、昨年度「コンテンツが掲載されたURLなど」としていた欄を「二次利用可能なコンテンツと利用範囲」に修正し、利用可否・利用範囲・留意事項（ダウンロード禁止、無断転写禁止、閲覧期限等）を整理できるようにした。事業間連携等事業として他実施主体や業界・職能団体・自治体等が利用できるコンテンツを一覧化することで、年度を跨いだコンテンツの活用や、地域・対象層・媒体等を踏まえた横展開が進めやすくなると思う。

「全国へ向けた情報発信」と「WEBを活用した広報事業」には「介護職発信事業」が作成したコンテンツを広く国民に発信するという役割が期待されている。事業効果分析を通じて具体的な相乗効果を整理することで、各社単独のアウトプットやアウトカムにとどまらず、魅力発信等事業全体としての成果を取りまとめることができた。

<事業効果分析に関するタイムリーな情報把握・フィードバックの実施>

情報発信事業の実施主体は事業効果の分析等を実施し、各々が実施した事業への自己評価を行う必要があるが、事業効果分析の実施には評価に関する専門的知識が求められる。その専門性の部分について事業間連携等事業が情報発信事業へのサポートを行うことにより、各実施主体の実施事業に係る事業効果分析の質の向上に貢献した。具体的には、各実施主体

から共有された事業効果分析計画の内容を確認し、アウトプットやアウトカムの内容そのものや、アウトカムを測定するための指標の内容・測定方法などについて助言を行った。

また、事業間連携等事業において設置する評価分析WGの委員にも助言を仰ぎ、専門的な知見から各社へのフィードバックをお伝えした。

令和6年度の事業効果分析における課題であった「タイムリーな情報把握・フィードバックの実施」については、①年度当初の段階で事業効果分析計画・実績の提出時期を示し、各実施主体と合意すること（各実施主体の都合を踏まえ、適宜提出日は個別に調整）、②令和7年度に新規参画した実施主体への個別フォロー（事業効果分析計画を作成中の段階でオンラインミーティングの実施し、助言する等）、③各実施主体の企画委員会へのオブザーブ参加により改善することができた。

定期的なフォローアップを行うことで、各実施主体から弊社に気軽に効果分析のアンケート調査設計等の相談がもちかけられるような関係性構築にもつながり、より適当な効果測定の実現に寄与することができた。

このような成果があった一方で、事業効果分析に関しては以下の課題が発生した。課題と対応案については以下で記載する。なお、以下の対応案は魅力発信等事業が今後も今年度と同様の事業構造・事業区分名にて維持されることを前提としている。

イ. 今年度の取組の中で生じた課題

<事業効果分析に係る実施主体の負荷>

上記「成果」で記載したとおり、今年度は事業効果分析における「タイムリーな情報把握・フィードバック」を実現することを念頭に置いていた。事業効果の可視化および期中の活動内容の振り返りに寄与することを目的に、実施主体に対して、年間3回（7月末・10月末・1月末）の事業効果分析計画・実績記入用フォーマットの提出を依頼するなど、定期的な状況の確認・助言を行った。

具体的には、各実施主体の事業計画を早期に把握し、実施主体間の連携を促進するため、事業効果分析フォーマットの初回提出を7月末に設定した。併せて、事業間連携等事業および評価分析WG委員からのフィードバックを踏まえ記載内容をブラッシュアップのうえ、9月上旬には実施主体間で相互に共有した。

7月末時点では、企画内容の具体化やターゲットへのリーチ方法、アウトカムの測定方法等が未確定の項目も多く、記載が「検討中」にとどまるケースが散見された。その結果、連携検討に必要な情報粒度が十分に揃わないまま共有に進む場面もあり、実施主体側においても記載・更新の負荷が生じた可能性がある。

また、各実施主体には年3回の様式記入自体の負荷がかかっていた側面もある。各実施主体の繁忙期を勘案した提出期日の調整や、電話・メール・オンラインミーティングを通じたフォローアップ等の工夫は行っていたものの、それぞれの活動と並行して事業効果分析を行うことについて、求められる丁寧さとのバランスを取りながら進めていく必要があると考える。

ウ. 次年度以降の改善案

<魅力発信等事業における事業効果分析の期待役割の再整理>

魅力発信等事業の事業効果分析は、令和4年度の「介護のしごと魅力発信等事業の評価分析に関する調査研究事業」を皮切りに本格化した。魅力発信等事業は継続的な実施によって効果が見込める性質の事業であることから、「魅力発信等事業によってどのような効果が上がっているか」を対外的に説明できることの重要性が高くなる傾向にあった。

一方で、今後は、実施主体にかかる負荷とのバランスも踏まえて、改めて事業効果分析が果たすべき役割や位置づけについて検討することが必要だと考える。また、評価分析の役割の1つである「魅力発信等事業の成果の可視化」についても、現在のような緻密なデータ収集・評価以外の方法についても検討することが望ましい。

<実施主体のフォローアップ方法・伝え方における工夫>

今年度、アウトカム・アウトプットの設定およびその達成状況の確認においては、適宜オンラインミーティングを活用しつつ、基本的には各実施主体が事業効果分析フォーマットに各自で記載する運用としていた。本フォーマットは、各項目の定義や記入例を冒頭に明示するなどの工夫を行ってきたものの、事業効果分析の経験が十分でない実施主体にとっては、「初回記入時に情報量が多くて入力に戸惑った」「アウトプットとアウトカムの差異が不明瞭で記入しづらい」といった意見も寄せられ、記載内容の整理や表現に一定の負担が生じている状況が見受けられた。

これらを踏まえ、今後は、弊社が聞き取り内容を基にフォーマットへの記載を一部支援することや、事業効果分析フォーマットに特化した説明の場を設けるなど、実施主体の理解を促し、記入負担を軽減するための工夫を検討する必要がある。実施主体間連携の観点でのフォローアップの意味も込めて、各実施主体との定期的なタッチポイントを設定し、進捗・課題管理を実施することも一案であると考ええる。

また、情報発信事業と介護職発信事業との連携を円滑に進める観点から、各事業の目標や指標を一覧で把握できる資料を作成・共有することを求める声や、動画コンテンツ等においては、年度末に成果物を集約し、一括してアンケート調査等を実施することで、実施主体および連携先双方の負担を軽減できる可能性を示唆する意見もあった。

さらに、動機付けの観点でも工夫の余地はある。今年度も、「実施主体が自らの取り組みを客観的に振り返る機会になること」や「年度末の報告書で活用いただけること」など、評価を行うことのメリットの説明に努めていたが、今後はより意義を感じてもらいやすいような説明をし、目線を合わせながら納得感をもって取り組んでもらえるようになることが大切だと考える。

<事業効果分析計画・実績記入用フォーマットの更新>

今年度使用した様式は、「企画背景」「ターゲット」から「アウトプット指標」「アウトカム指標」に至るまで、正確な事業効果分析のために必要な項目を網羅的に設定していた。い

ずれも重要な項目ではあるが、実施主体からは、「記入項目が過度に細分化されているように感じる」「Excelファイルの入力項目が多く、行や列が多くて使いづらい」「表示固定により表示範囲が狭くなって記入が難しい」といった意見も寄せられた。これらを踏まえ、今後は、より優先度の高い項目に絞って簡素化する、タブ分け等によるExcelフォーマット自体の構成上の工夫を行うことが考えられる。また、ロジックモデル上、または予算やリーチ数の多い活動など、特に重要な取組に限定して記載を求めるなど、実施主体の負担軽減と効果的な事業効果分析の両立を図るための運用改善について検討していくことが望ましい。

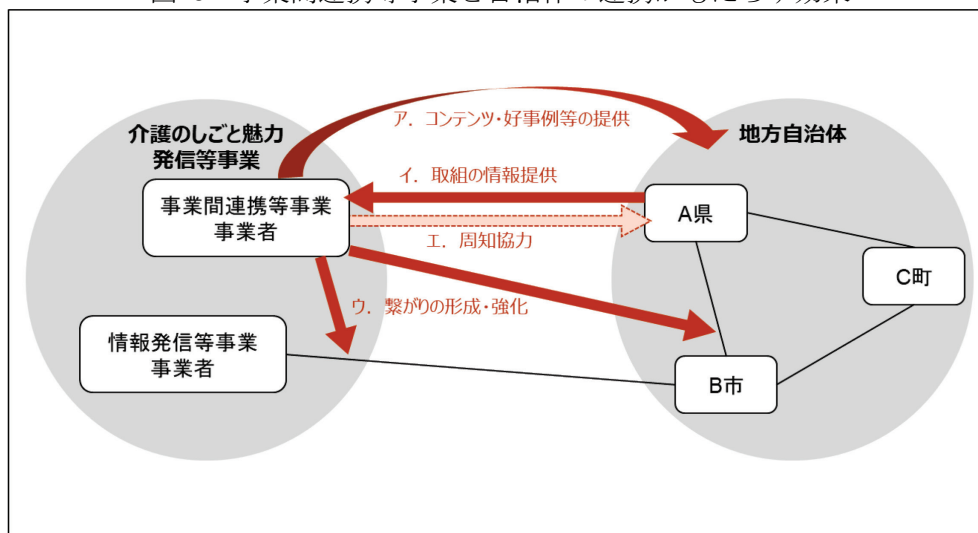
2. 事業間連携等事業と自治体の連携

本節では、事業間連携等事業と自治体の連携について考察するにあたり、まず、事業間連携等事業と自治体の連携がもたらす効果について改めて整理する。その次に、今後自治体との連携を更に推進するために必要と考えられる取組を記載する。

(1) 事業間連携等事業と自治体の連携がもたらす効果

図 8に示すとおり、事業間連携等事業と自治体の連携により、自治体には「ア. 自治体で活用可能なコンテンツ・他自治体の好事例等の獲得（自治体のインプット取得）」、「ウ. 自治体同士、または自治体と実施主体のつながりの形成・強化（自治体のリレーション形成・強化）」、「エ. 自治体における魅力発信の取組の拡散（自治体のアウトプット拡散）」という3つの効果が、魅力発信等事業の実施主体には「イ. 自治体における魅力発信の取組事例やニーズの収集（実施主体のインプット取得）」という効果があると考えられる。アからエはいずれも魅力発信等事業および自治体事業の事業効果の向上に資することから、今後も強化されることが望ましい。

図 8 事業間連携等事業と自治体の連携がもたらす効果



ア. 【自治体】自治体で活用可能なコンテンツ・他自治体の好事例等の獲得（自治体のインプット取得）

魅力発信等事業の実施主体が作成したコンテンツの多くは自治体等による二次利用が可能であるため、事業間連携等事業が自治体にこれらのコンテンツを紹介することで、自治体における魅力発信の取組の更なる充実が期待される。また、他の自治体における魅力発信の好事例や、発信をより効果的にするための発信の仕方・発信チャンネル選択の考え方などのノウハウを伝えることにより、自治体が介護の仕事の魅力を発信する力が高まると考えられる。

イ. 【魅力発信等事業】自治体における魅力発信の取組事例やニーズの収集（実施主体のインプット取得）

自治体における魅力発信の取組事例が魅力発信等事業の実施主体に共有されることにより、実施主体がコンテンツを制作する際の取材先候補となったり、自治体向けのイベントを実施する際の検討材料となったりすると考えられる。

ウ.【自治体】自治体同士、または自治体と実施主体のつながりの形成・強化（自治体のリレーション形成・強化）

事業間連携等事業が自治体を対象としたイベント・会議を実施することにより、近隣自治体や類似の取組を行っている自治体との横のつながり、魅力発信等事業の実施主体と自治体のつながりが形成・強化されると考えられる。新たな連携が生まれることで、自治体による魅力発信の取組の拡散力向上や、新たな取組の創出につながることが期待される。

エ.【自治体】自治体における魅力発信の取組の拡散（自治体のアウトプット拡散）

魅力発信等事業に共有された自治体における魅力発信の取組は、実施主体が保有するメディアで発信されたり、事業間連携等事業経由で他の自治体や業界団体・職能団体等に共有されたりすることにより、より広範囲に届くと考えられる。

ただし、自治体が行う魅力発信の取組のメインターゲットはその自治体の住民であるケースが多いと考えられるため、効果は副次的なものにとどまると考えられる。

（２）自治体との連携を更に推進するための取組案

今後、事業間連携等事業と自治体の連携効果を更に高めるため、前項で整理した4つの効果のうち、効果が副次的なものにとどまると考えられる「エ.【自治体】自治体における魅力発信の取組の拡散」を除いた、ア～ウの3点の効果を高める取組案を検討する。

ア.【自治体】自治体で活用可能なコンテンツ・他自治体の好事例等の獲得

今年度の事業間連携等事業では、自治体で活用可能なコンテンツや他自治体の好事例、ノウハウ等を自治体に届けるための取組として、魅力発信サミットにおける現役介護職員および自治体職員による講演・座談会の実施、ニュースレターや事業間連携会議における実施主体作成コンテンツの紹介を行った。また、事業間連携会議においては、事業間連携等事業が毎年実施しているアンケート調査・ヒアリング調査の結果から得られた示唆を紹介する時間を設けた。このような自治体へのコンテンツや好事例等紹介の効果をより高める取組として、情報をより多くの人に届ける方向性、よりニーズに合った情報を届ける方向性の2つが考えられる。

今後の取組には、情報をより多くの人に届けるために、魅力発信サミットを今年度に引き続き対面・オンラインのハイブリッド開催とする、アーカイブ配信を行う、情報発信事業の実施主体と連携して動画または採録記事を配信するといった取組が考えられる。また、より自治体のニーズに合った情報を届けるため、魅力発信サミットをテーマ別に複数回開催することも一案である。

イ.【魅力発信等事業】自治体における魅力発信の取組事例やニーズの収集

今年度の事業間連携等事業では、ニュースレターにおける都道府県からの掲載希望募集、魅力発信サミットおよび事業間連携会議におけるディスカッションを通じて、自治体における魅力発信の取組事例やニーズの収集を行ってきた。これらを通じた情報収集をより一層推進するためには、自治体の担当者からより積極的に情報を提供してもらうための取組が必要である。

ニュースレターにおける掲載希望の募集については、今年度の前半は都道府県から情報提供が寄せられない点が課題であったが、魅力発信サミットでの案内、ニュースレター紙面での周知を行うことで、12月号以降は複数の自治体から情報が寄せられた。このことを踏まえると、自治体は担当者が定期的に替わるため、年度当初は情報提供の仕方、提供された情報の活用方法や掲載によって得られる効果等を丁寧に案内すること、投稿募集を目立つ場所に掲載することが有効と考えられる。

また、今年度の事業間連携会議では自治体職員を含めたディスカッションを実施したが、自治体職員は傍聴者として参加する人が多かった。自治体職員により活発に意見交換に参加し、所属する自治体の事例やニーズを話してもらうためには、自治体職員がより主体的に発言可能なディスカッションテーマの設定を検討すべきと考えられる。

ウ.【自治体】自治体同士や自治体と実施主体のつながりの形成・強化

今年度の事業間連携等事業では、自治体同士や、自治体と実施主体のつながりの形成・強化のため、魅力発信サミットにおいて参加者交流・意見交換の時間を設けた。また、参加者向けの事後アンケートにおいて実施主体とのコンタクトを希望した参加者に対しては、個別に取次ぎを行った。これらの取組により、今年度は複数の連携実績が生まれた。

交流を魅力発信サミット内での一時的なものにとどめないよう、参加者同士のつながりの形成を一層促進し、具体的な連携につなげるために、魅力発信サミットを関東近郊以外の地域で開催し、同地域内の自治体、業界団体・職能団体、養成校等の連携を促すことも検討すべきと考えられる。また、「ア.【自治体】自治体で活用可能なコンテンツ・他自治体の好事例等の獲得」で述べた、魅力発信サミットのテーマ別複数回開催に関連して、複数の主体による連携をテーマにした回を設けることも一案である。その場合、サミット開催後も適宜メールやオンライン会議でフォローを行う等、実際に連携の取組が実施されるまで支援を行うことで、更に実効性が高まると考えられる。

IV. 取りまとめ

本章では、事業間連携等事業の取組を振り返り、今後の事業間連携等事業での課題・取組案についてまとめる。

事業間連携等事業の取組

事業間連携等事業は、魅力発信等事業全体の「イベント、テレビ、WEB等を活かした取組を通じて、全国に向けた情報発信を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たに関心を持ち、理解を高めるとともに、その仕事の魅力を感じられるようにすること」という目標の達成に資するため、情報発信事業の実施主体が、他の実施主体や都道府県事業との連携を図ることなどにより、魅力発信等事業の事業効果の最大化を図ることを目的として実施した。

事業目的の達成のため、主に①情報発信事業の実施主体間および情報発信事業と都道府県事業の連携を図る取組、②事業効果の分析、③介護の仕事に関するアンケート調査およびヒアリング調査を実施した。なお、①の具体的な取組としては、(1) 事業間連携会議の開催、(2) 実施主体ミーティングの開催、(3) 魅力発信サミットの開催、(4) 介護のしごと魅力発信等事業ニュースレターの発行を行った。

今後の事業間連携等事業の課題・取組案

今後の事業間連携等事業の課題・取組案について検討するにあたって、まず、介護の仕事に関するアンケート調査・ヒアリング調査の結果を基に、魅力発信等事業での望ましい発信や協力体制について検討した。

介護の仕事のイメージに関するWEBモニターアンケートの結果からは、介護職自身の言葉を聞いたり、身近な人の生活が介護によって支えられていることを知ったりすることが、ポジティブなイメージの形成に効果的であることが示されている。世間一般では介護そのものや介護職との接点がない人、介護の仕事への関心や仕事内容に関する知識がない人も多いため、介護業界全体として魅力発信を推し進めていく必要があるほか、魅力発信等事業や都道府県事業において発信の回数や規模を広げていくための取組を行うことが望ましい。したがって、今後の魅力発信等事業は、介護職による発信を推進する主体と、介護職による発信を内容にあわせて適切な層にリーチさせることができる主体で連携して魅力発信を進めていく、今年度と類似の体制の継続が望ましいと考えられる。

なお、このような体制で発信・協力を進める場合、以下3点に留意が必要と考えられる。

- 介護職発信を行う実施主体と、その発信を行う実施主体によるコミュニケーションが円滑に進まないことが想定されること
- 採択された実施主体によっては業界団体・職能団体との関係が十分でなく、円滑な広報協力や取材協力等の依頼が難しい可能性があること
- これまでの複数年にわたる魅力発信等事業での過去の成果物やアンケート等から見えた発信のポイントと考えられる点を引き継いでいくこと

そのため、事業間連携等事業は、以下の2つの方向性から引き続き支援を行うことが望ましい。

- 実施主体間のコミュニケーション円滑化支援（例：実施主体ミーティングの継続・強化）
- 情報発信事業が行う発信の支援（例：事業間連携会議の開催、ニュースレター等における各実施主体の取組紹介、業界団体・職能団体が持つ広報媒体リストの実施主体への配布）

続いて、情報発信事業の事業効果の測定・分析支援について、今年度の取組の成果と課題を考察した。

今年度の成果として、評価の枠組みの周知や事業間連携による効果の可視化、事業効果分析に関するタイムリーな情報把握・フィードバックの実施ができたことが挙げられる。特に、各実施主体が事業内容や成果をまとめるための様式について、今年度は新たに連携による効果を記載する欄を設け、事業間連携により生まれた相乗効果等を一定程度可視化することができた。また、タイムリーな情報把握・フィードバックの実施は令和6年度の課題であったが、年度当初における事業効果分析計画・実績の提出時期の合意、令和7年度に新規参画した実施主体への個別フォロー、各実施主体の企画委員会へのオブザーブ参加により改善することができた。

一方、今年度生じた課題として、事業効果分析に係る実施主体の負荷が挙げられる。そのため、今後は以下のような対応を検討していく必要があると考えられる。

- 魅力発信等事業における事業効果分析の期待役割の再整理
－実施主体にかかる負荷とのバランスも踏まえて、改めて事業効果分析が果たすべき役割や位置づけについて検討することが必要と考えられる
- 実施主体のフォローアップ方法・伝え方における工夫
－聞き取り内容を基にしたフォーマットへの記載支援、事業効果分析フォーマットに特化した説明の場の設定等、実施主体の理解を促し、記入負担を軽減するための工夫を検討する必要がある
- 事業効果分析計画・実績記入用フォーマットの更新
－フォーマットを簡素化する、特に重要な取組に限定して記載を求める、タブ分け等使いやすさを高める工夫を行う等の取組が考えられる

最後に、事業間連携等事業と自治体の連携に関して、連携がもたらす効果と、連携を推進するために必要と考えられる取組について考察を行った。

事業間連携等事業と自治体の連携による効果および各効果を高めるための取組案としては、以下が考えられる。なお、墨付き括弧内は効果の対象を示す。

- **【自治体】**自治体で活用可能なコンテンツ・他自治体の好事例等の獲得
→情報発信事業と連携した魅力発信サミットの動画・採録記事配信、魅力発信サミットのテーマ別開催
- **【魅力発信等事業】**自治体における魅力発信の取組事例やニーズの収集
→都道府県へのニュースレター掲載希望募集に関する案内方法の工夫、事業間連携会議におけるディスカッションテーマ設定の工夫
- **【自治体】**自治体同士または自治体と実施主体のつながりの形成・強化
→魅力発信サミットの関東近郊以外の地域での開催
- **（【自治体】自治体における魅力発信の取組の拡散）※副次的な効果**

付属資料 1. 事業間連携等事業 ロジックモデル・評価デザイン

(ロジックモデル)

No.	活動	アウトプット(目標)	直接アウトカム(令和7年度中の達成を目指す)	中間アウトカム (令和8年度以降、2~3年以内の達成を目指す)	最終アウトカム (明確な達成時期は未設定、長期間で達成を目指す)
1	事業間連携会議の開催	・開催回数:3回	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業) (1)国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)のニーズに基づき、連携支援が提供されること。 (2)介護職発信事業が制作したコンテンツが、情報発信事業各社のコンテンツと合わせて全国に発信されること。 【補足】(1)(2)は活動#2「実施主体間の連携に係る会議・個別調整」と合わせて達成を目指すアウトカム。 ②業界団体・職能団体 (1)業界団体・職能団体が国事業とも連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じること。 (2)業界団体・職能団体が国事業と連携した介護のしごとの魅力発信に向けて、具体的な実施イメージを持てること。 ③自治体 (1)自治体が介護のしごとの魅力発信の実施に役立つヒントを得ること。 ④国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)介護のしごとの魅力発信を実施するための協議や相談をすること。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体 (1)事業間連携により事業効果が向上すること(=事業実施主体による介護のしごとの魅力発信が、広報の強化/優良な取材先の獲得/同一ターゲットへの相互の働きかけ等により、効果的になること)。 【補足】活動#2「実施主体間の連携に係る会議・個別調整」と合わせて達成を目指すアウトカム。 ②自治体 (1)自治体が事業間連携会議で得たヒントを所属自治体の介護のしごとの魅力発信に取り入れること。	国および都道府県において、より効果的な介護の魅力発信が実施され、介護の仕事の魅力的だと感じる人(*)の数が増えること。 *介護の仕事について、以下のような観点で良い印象を持つ人の数を指す。 ・社会的意義の大きさ ・社会的評価の高さ ・やりがいの大きさ ・仕事内容の楽しさ ・資格や専門知識の活かしやすさ ・昇進やキャリアアップの機会の多さ⇒キャリア選択の多様性 ・体力的負担の軽さ ・精神的負担の軽さ ・給与の良さ ・勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ ・働きやすさ ・就職しやすさ ・業界の未来(成長性)
2	実施主体間の連携に係る会議・個別調整	・実施主体会議(旧称:オフトラック会議):3回/社/事業期間中 ①キックオフ(実施計画確認) ②期中(進捗確認) ③年度末成果確認 【補足1】期中の進捗確認は主に事業間連携会議にて行う想定。 【補足2】実施主体会議は形式に拘らず、メールによるコンタクトも回数に含むものとする	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業) (1)国事業の実施主体が広報等での課題を抱えた際に、事業間連携事業の実施主体が協力することで、集客やコンテンツ周知等のためのより効果的な広報や、共同での取り組みに向けた話し合いの場(メールによる仲介を含む)を持つこと。 (2)国事業の実施主体の支援ニーズが満たされること。 (3)「介護職発信」事業が制作したコンテンツが、情報発信事業各社のコンテンツと合わせて全国に発信されること。 【補足】(2)(3)は活動#1「事業間連携会議」と合わせて達成を目指すアウトカム。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体 (1)事業間連携により事業効果が向上すること(=事業実施主体による介護のしごとの魅力発信が、広報の強化/優良な取材先の獲得/同一ターゲットへの相互の働きかけ等により、効果的になること)。 【補足】活動#1「事業間連携会議」と合わせて達成を目指すアウトカム。	国および都道府県において、より効果的な介護の魅力発信が実施され、介護の仕事の魅力的だと感じる人の数が増えること。
3	介護のしごと魅力発信サミットの開催	・開催回数:1回 ・参加者数(一般参加者):140人(オンライン100名、対面40人) 【補足】 過去目標:R4...120人、R5...70人、R6...70 過去実績:R4...178人、R5...71人、R6...45 R4の参加形式はオンライン(144人)または現地(34人)。 R5・R6の参加形式は現地のみ。	①自治体 (1)自治体が介護のしごとの魅力発信に取り組み必要性の理解度が高まること。 (2)自治体の介護のしごとの魅力発信に係る事業の実施に向けたモチベーションが高まること。 (3)自治体が他自治体の取り組みや介護職による現場の声等に触れることで、所属自治体の事業計画立案に役立つヒントを得ること。 (4)国事業のコンテンツ・媒体を今後の事業検討に活用したいと思うこと。 ②国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業) (1)オウンドメディアでの記事候補・取材先候補等として都道府県の取組を知ること。	①自治体 (1)自治体が魅力発信サミットで得たヒントや繋がりを活用し、毎年の都道府県事業の企画・立案に反映すること。 ②国事業の実施主体 (1)オウンドメディアでの記事・取材先として都道府県を取り上げること。	国および都道府県において、より効果的な介護の魅力発信が実施され、介護の仕事の魅力的だと感じる人の数が増えること。
4	ニュースレター	・発信回数:6回(7月~12月)	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)互いの取り組みを把握すること。 ②国民(主に求職者や未就業者) (1)国事業全体の情報を整理して、ハローワーク等へのニュースレターの設置を通じて、介護の仕事に就く可能性のある人がイベントやコンテンツ等の情報を知ること。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)ニュースレターを見て得た介護のしごとの魅力発信の手法や活用可能なコンテンツのヒントを活用し、毎年の魅力発信の企画・立案に反映すること。また、記事取材先とすること。	国および都道府県において、より効果的な介護の魅力発信が実施され、介護の仕事の魅力的だと感じる人の数が増えること。

(評価デザイン (1/2))

No.	活動	アウトカム		評価指標	判断基準(目標値/状態)	データ収集方法	データ収集時期
		種類	内容				
1	全活動共通	最終	国および都道府県において、より効果的な介護の魅力発信が実施され、介護の仕事の魅力的だと感じる人(*)の数が増えること。 *介護の仕事について、以下のような観点で良い印象を持つ人の数を指す。 社会的意義の大きさ、やりがいの大きさ、仕事内容の楽しさ、資格や専門知識の活かしやすさ、昇進やキャリアアップの機会の多さ、体力的負担、精神的負担、給与、勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ、働きやすさ、業界の未来(成長性)	介護の仕事の魅力的だと感じる人の数。	N/A ※最終アウトカムは、個々の活動の直接・中間アウトカムの積みあがりであるため、最終アウトカム単独での評価は行わない(直接・中間アウトカムが達成されていれば最終アウトカムも達成されると推定する)ため	N/A	N/A
2	事業間連携会議の開催	直接①	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業) (1)国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)のニーズに基づき、連携支援が提供されること。 (2)介護職発信事業が制作したコンテンツが、情報発信事業各社のコンテンツと合わせて全国に発信されること。 【補足】(1)(2)は活動#2「実施主体間の連携に係る会議・個別調整」と合わせて達成を目指すアウトカム。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業) (1)国事業の実施主体が、「自分たちにとって必要な支援を受けることができた」と感じたかどうか。 (2)介護職発信事業が制作したコンテンツが、情報発信事業各社のコンテンツと合わせて全国に周知された件数。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業) (1)アンケート回答者(国事業の実施主体)の80%以上が、「とてもそう思う(5)」「ややそう思う(4)」と回答すること。 加えて、「必要な支援を受けることができた」例を定性情報として収集する。 (2)各介護職発信事業者につき1件以上、情報発信事業のコンテンツと合わせたコンテンツ周知が行われること。	国事業の実施主体を対象としたアンケート調査	第3回事業間連携会議開催日 ・2026年2月頃
3	事業間連携会議の開催	直接②	②業界団体・職能団体 (1)業界団体・職能団体が国事業とも連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じること。 (2)業界団体・職能団体が国事業と連携した介護のしごとの魅力発信に向けて、具体的な実施イメージを持っていること。	②業界団体・職能団体 (1)-1 業界団体・職能団体が国事業とも連携して介護のしごとの魅力発信に取り組みたいと感じたかどうか。 (1)-2 業界団体・職能団体が各団体内における会議で、国事業に関する情報共有や国事業との連携に関する検討を実施したかどうか。 (2) 業界団体・職能団体が国事業と連携した介護のしごとの魅力発信を検討するにあたり、関係者と顔の見える関係ができたかどうか。	②業界団体・職能団体 (1)-1 アンケート回答者(業界団体・職能団体)の70%以上が、「とてもそう思う(5)」「ややそう思う(4)」と回答すること。 (1)-2 アンケート回答者(業界団体・職能団体)の70%以上が、「実施した」「まだ実施していないが、実施予定がある」と回答すること。 (2) アンケート回答者(業界団体・職能団体)の70%以上が会議構成を問う設問において「国事業との連携を検討するにあたり、関係者と顔の見える関係ができた」と回答すること。	業界団体・職能団体を対象としたアンケート調査	第1回事業間連携会議開催日 ・2025年7月頃 第2回事業間連携会議開催日 ・2025年10月頃(書面開催の場合は実施しない) 第3回事業間連携会議開催日 ・2026年2月頃
4	事業間連携会議の開催	直接③	③自治体 (1)自治体が介護のしごとの魅力発信の実施に役立つヒントを得ること。	③自治体 (1)自治体が介護のしごとの魅力発信の実施に役立つヒントを得たと感じたかどうか。	③自治体 (1)アンケート回答者(自治体)の80%以上が、「ヒントを得た」と回答すること。	自治体を対象としたアンケート調査	第1回事業間連携会議開催日 ・2025年7月頃 第2回事業間連携会議開催日 ・2025年10月頃(書面開催の場合は実施しない) 第3回事業間連携会議開催日 ・2026年2月頃
5	事業間連携会議の開催	直接④	④国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)介護のしごとの魅力発信を実施するための協議や相談をすること。	④国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)国事業の実施主体と業界団体・職能団体・自治体の間で介護のしごとの魅力発信に関連する協議や相談をしたかどうか。	④国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)アンケート回答者(国事業の実施主体)の60%が業界団体・職能団体・自治体と協議や相談をしたと回答すること。	国事業の実施主体、業界団体・職能団体、自治体を対象としたアンケート調査	第3回事業間連携会議開催日 ・2026年2月頃
6	事業間連携会議の開催	中間①	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体 (1)事業間連携により事業効果が向上すること(=事業実施主体による介護のしごとの魅力発信が、広報の強化/優良な取材先の獲得/同一ターゲットへの相互の働きかけ等により、効果的になること)。 【補足】活動#2「実施主体間の連携に係る会議・個別調整」と合わせて達成を目指すアウトカム。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体 (1)国事業の実施主体が「事業間連携の働きにより、事業効果が向上した」と感じたかどうか。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体 (1)アンケート回答者(国事業の実施主体、業界団体・職能団体)の50%以上が「そう思う(5)」「ややそう思う(4)」と回答すること。	国事業の実施主体と業界団体・職能団体を対象としたアンケート調査	第3回事業間連携会議開催日 ・2026年2月頃
7	事業間連携会議の開催	中間②	②自治体 (1)自治体が事業間連携会議で得たヒントを所属自治体の介護のしごとの魅力発信に取り入れること。	②自治体 (1)自治体が事業間連携会議で得たヒントを所属自治体の介護のしごとの魅力発信に取り入れたかと思ったかどうか。	②自治体 (2)アンケート回答者(自治体)のうち、70%以上が事業間連携会議で得たヒントを所属自治体の魅力発信に取り入れたかという設問に対して「とても思う」「思う」と回答すること。	自治体を対象としたアンケート調査	第3回事業間連携会議開催日 ・2026年2月頃
8	実施主体間の連携に係る会議・個別調整	直接①	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業) (1)国事業の実施主体が広報等での課題を抱えた際に、事業間連携事業の実施主体が協力することで、集客やコンテンツ周知等のためのより効果的な広報や、共同での取り組みに向けた話し合いの場(メールによる仲介を含む)を持つこと。 (2)国事業の実施主体の支援ニーズが満たされること。 (3)「介護職発信」事業が制作したコンテンツが、情報発信事業各社のコンテンツと合わせて全国に発信されること。 【補足】(2)(3)は活動#1「事業間連携会議」と合わせて達成を目指すアウトカム。	①国事業の実施主体 (1)国事業の実施主体が広報等での課題を抱えた際に、事業間連携事業の実施主体が設定した話し合いの場(メールによる仲介を含む)の数。 (2)国事業の実施主体が、「自分たちにとって必要な支援を受けることができた」と感じたかどうか。 (3)「介護職発信」事業が制作したコンテンツが、情報発信事業各社のコンテンツと合わせて全国に周知された件数。	①国事業の実施主体 (1)各国事業の実施主体につき3回以上の話し合いの場が持たれること。 (2)アンケート回答者(国事業の実施主体)の90%以上が、「とてもそう思う(5)」「ややそう思う(4)」と回答すること。 加えて、「必要な支援を受けることができた」例を定性情報として収集する。 (3)各介護職発信事業者につき1件以上、情報発信事業のコンテンツと合わせたコンテンツ周知が行われること。	・国事業の各実施主体との連絡調整の実績 ・国事業の実施主体を対象としたアンケート調査	第3回事業間連携会議開催日 ・2026年2月頃
9	実施主体間の連携に係る会議・個別調整	中間①	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体 (1)事業間連携により事業効果が向上すること(=事業実施主体による介護のしごとの魅力発信が、広報の強化/優良な取材先の獲得/同一ターゲットへの相互の働きかけ等により、効果的になること)。 【補足】活動#1「事業間連携会議」と合わせて達成を目指すアウトカム。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体 (1)国事業の実施主体が「事業間連携の働きにより、事業効果が向上した」と感じたかどうか。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体 (1)アンケート回答者(国事業の実施主体、業界団体・職能団体)の50%以上が「そう思う(5)」「ややそう思う(4)」と回答すること。	国事業の実施主体と業界団体・職能団体を対象としたアンケート調査	第3回事業間連携会議開催日 ・2026年2月頃

(評価デザイン (2/2))

No.	活動	アウトカム		評価指標	判断基準(目標値/状態)	データ収集方法	データ収集時期
		種類	内容				
10	介護のしごと魅力発信サミットの開催	直接①	①自治体 (1)自治体が介護のしごとの魅力発信に取り組む必要性の理解度が高まること。 (2)自治体の介護のしごとの魅力発信に係る事業の実施に向けたモチベーションが高まること。 (3)自治体から他自治体の取り組みや介護職による現場の声等に触れることで、所属自治体の事業計画立案に役立つヒントを得ること。 (4)国事業のコンテンツ・媒体を今後の事業検討に活用したいと思うこと。	①自治体 (1)自治体が介護のしごとの魅力発信に取り組む必要性の理解度が高まったかどうか。 (2)自治体の介護のしごとの魅力発信に係る事業の実施に向けたモチベーションが高まったかどうか。 (3)自治体が「介護のしごとの魅力発信」の事業計画立案に役立つヒントを得られたかどうか。 (4)国事業のコンテンツ・媒体を今後の事業検討に活用したいと思うかどうか。	①自治体 (1)アンケート回答者(自治体)の70%以上が、「介護のしごとの魅力発信」に取り組む必要性を「再確認できた」と回答すること。 (2)アンケート回答者(自治体)の70%以上が、サミットへの参加によってモチベーションが「とても高まった(5)」「やや高まった(4)」と回答すること。 (3)アンケート回答者(自治体)の70%以上が、サミットへの参加によって「介護のしごとの魅力発信」に係る事業計画立案に役立つヒントを得られた」と回答すること。 (4)アンケート回答者(自治体)の70%以上が、「とても思う(5)」「やや思う(4)」と回答すること。	自治体職員を対象としたアンケート調査	サミット開催直後 ・2025年10月
11	介護のしごと魅力発信サミットの開催	直接②	②国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業) (1)オウンドメディアでの記事候補・取材先候補等として都道府県の取組を知ること。	②国事業の実施主体 (1)国事業の実施主体が、オウンドメディアでの記事候補・取材先候補等として都道府県の取組を知ることができたかどうか。	②国事業の実施主体 (1)アンケート回答者(国事業の実施主体)の70%以上が、オウンドメディアでの記事候補・取材先候補等として都道府県の取組を「知ることができた」と回答すること。	国事業の実施主体を対象としたアンケート調査	サミット開催直後 ・2025年10月
12	介護のしごと魅力発信サミットの開催	中間①	①自治体 (1)自治体がサミットで得たヒントや繋がりを活用し、毎年の都道府県事業の企画・立案に反映すること。	③自治体 (1)自治体が、サミットで得たヒントや繋がりを活用し、来年度以降の都道府県事業の企画・立案に反映したいと思うかどうか。	③自治体 (1)アンケート回答者(自治体)の70%以上が、サミットで得たヒントや繋がりを活用し、来年度以降の都道府県事業の企画・立案に反映したいと思うかどうかという設問に対し、「とても思う(5)」「やや思う(4)」と回答すること。	自治体職員を対象としたアンケート調査	サミット開催直後 ・2025年10月
13	介護のしごと魅力発信サミットの開催	中間②	②国事業の実施主体 (1)オウンドメディアでの記事・取材先として都道府県を取り上げること。	②国事業の実施主体 (1)オウンドメディアでの記事・取材先として都道府県を取り上げた件数。	②国事業の実施主体 (1)各国事業の実施主体につき1件以上、オウンドメディアでの記事・取材先として都道府県を取り上げること。	国事業の実施主体を対象としたアンケート調査	サミット開催直後 ・2025年10月
14	ニュースレター	直接①	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)他の実施主体や自治体の取り組みを把握すること。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)ニュースレターから他の実施主体や自治体の取組を把握することができたか。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)アンケート回答者のうち、70%以上がニュースレターから他の実施主体や自治体の取組を「把握することができた」と回答する。	国事業の実施主体、業界団体・職能団体、自治体を対象としたアンケート調査	第3回事業関連連携会議開催日 ・2026年2月頃
15	ニュースレター	直接②	②国民(主に求職者や未就業者) (1)国事業全体の情報を整理して、ハローワーク等へのニュースレターの設置を通して、介護の仕事に就く可能性のある人がイベントやコンテンツ等の情報を知ること。	②国民(主に求職者や未就業者) (1)ニュースレターの設置を通して、介護の仕事に就く可能性のある人が、介護関連情報(イベントやコンテンツ等)に触れる機会が増えること。	②国民(主に求職者や未就業者) (1)-1 ニュースレター配布先の団体種別数(情報発信事業の実施主体、全国ハローワーク、業界団体・職能団体、都道府県・市区町村等)。	ニュースレターの発行実績の整理	各ニュースレター発行時(7月~12月)
16	ニュースレター	中間①	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)ニュースレターを見て得た介護のしごとの魅力発信の手法や活用可能なコンテンツのヒントを活用し、毎年の魅力発信の企画・立案に反映すること。また、記事取材先とすること。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)ニュースレターを見て得たヒントを活用し、毎年の介護のしごとの魅力発信の企画・立案に反映したいと思うか。	①国事業の実施主体(情報発信事業・介護職発信事業)と業界団体・職能団体・自治体 (1)設問No14①(1)(セルフ18)で「ニュースレターから介護のしごとの魅力発信を行う手法や活用できるコンテンツのヒントを得られた」と回答したもののうち、70%がニュースレターから得られたヒントを「魅力発信の企画・立案に反映したい」と回答する。	国事業の実施主体、業界団体・職能団体、自治体を対象としたアンケート調査	第3回事業関連連携会議開催日 ・2026年2月頃

2025年7月7日更新版

令和7年度
介護のしごと魅力発信等事業
事業間連携等事業

事業効果分析 及び 報告書作成について

PwCコンサルティング合同会社



目次

- 事業効果分析をお願いする背景
- 事業効果分析の実施方法
- 事業効果分析のポイント
- 事業効果分析に関するQ&A
- 報告書に記載いただきたい項目
- 事業効果分析フォーマット提出スケジュール

事業効果分析をお願いする背景

- 魅力発信等事業では、「厚生労働省様及び事業間連携等事業(PwC)と協議の上、事業効果の分析等を行うこと」が実施要項にて定められております。
- 魅力発信等事業は国の補助金を用いて実施されている事業であるため、事業の実施によってどのような効果があげることができたのかを国民に説明できるようにする責任があります。（報告書は厚生労働省HPにて一般公開されます。）
- また、魅力発信等事業は継続的な実施によって効果が見込める性質の事業ですが、来年度以降も引き続き予算を獲得するためには「魅力発信等事業によってどのような効果があがっているか」を対外的に説明できることが重要です。

実施要項（4 事業内容）より抜粋

④事業効果の分析等

- 事業実施に当たっては、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課（以下「当課」という。）及び事業間連携等事業の実施主体と協議の上、アウトカムの測定指標や測定方法を設定し、これに沿って実施事業の自己評価を行うとともに、事業間連携等事業等で実施する事業全体の効果分析の取組に協力するなど、個々の事業及び全体の事業効果の最大化に向け取り組むこと。
- 自己評価にあたっては、事業実施における課題を整理するとともに、企画委員等の専門的・技術的助言も参考に、課題解決に向けた分析・考察を加えること。

⑤成果の報告事業効果の分析等

- 報告書については、次に掲げる内容を盛り込んだものとし、報告書の概要と併せて、補助事業完了日の属する年度の翌年度4月末日までに電子媒体（USBメモリを除く）により当課に提出すること。
 - 事業全体の経過
 - 事業効果の評価・分析

PwC

3

実施主体の皆様へのお願い

皆様へ

- 事業効果分析についてのご質問・お悩みなどございましたら、いつでもPwCにご連絡ください。
- 恐れ入りますが、以下3点、ご協力いただけますと幸いです。
 - 企画提案時からの計画変更、および事業期間中の計画変更は厚生労働省様へのご報告に加え、PwCへもご共有いただけますと、事業間連携の調整上、大変助かります。
 - 事業効果分析の実施計画について年度途中にPwCからお伺いする可能性がございます。
 - 各実施主体の企画委員の方に、他実施主体の事業内容や背景、成果物に興味を持っていただくこと等を目的に、事業効果分析フォーマットを実施主体間で共有させていただきますと幸いです。

情報発信事業（全国へ向けた情報発信事業/WEBを活用した広報事業）の実施主体様へ

- 情報発信事業（介護職発信事業）のコンテンツ発信について、アウトプットやアウトカムの測定にご協力いただけますと幸いです。

情報発信事業（介護職発信事業）の実施主体様へ

- コンテンツ発信について他実施主体（全国へ向けた情報発信事業/WEBを活用した広報事業）にご依頼される場合は、アウトプット・アウトカムの測定方法についてご依頼先の実施主体とご協議いただけますと幸いです。

実施要項（4 事業内容）より抜粋

<R7より情報発信事業（全国へ向けた情報発信事業/WEBを活用した広報事業）の実施主体の事業内容として新規に追加された内容>

④事業効果の分析等

- また、介護職発信事業との連携した情報発信にあたっては、企画内容等を踏まえ、事業効果の分析をどのように行うかについても、密に連携を取りながら実施すること。
- （WEBを活用した広報事業限定）さらに、介護職発信事業の企画内容について、WEB広告等を活用し発信する場合は、その効果分析についてもあわせて行うこと。

PwC

4

事業効果分析の実施方法

フェーズ	時期 (目安)	実施いただきたい事項
STEP1. 事業の計画	7～8月	<ul style="list-style-type: none"> どのような事業を実施するかを検討し、評価デザインを作成する。具体的には、以下の項目について検討を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 各活動の背景と取組内容【ニーズ評価】※継続事業の場合は、過年度の振り返りも含む 各活動のターゲットとターゲット層設定理由【ニーズ評価】 各活動の実施予定時期、回数・規模など 各活動で達成したいアウトカム（ターゲットに対してどのような変化を起こすか） 上記アウトカムを測るための方法 ※例：アンケート調査、インタビュー調査、モニター調査など 上記アウトカムを測るための指標 ※例：イベントによって介護の仕事に関心を持った人の割合 など 上記アウトカムの達成有無を判断するための基準（価値判断基準） 他実施主体や業界・職能団体等との連携内容、方法、効果測定方法 二次利用可能なコンテンツの検討
STEP2. 事業の実施 (アウトカムの測定)	9～12月	<ul style="list-style-type: none"> 各活動において、アウトカムの評価に用いる各指標を測定する。 各活動において、狙っていたターゲットにリーチできているかを確認する。
STEP3. 評価結果の まとめ ・ 報告書作成	1～3月	<ul style="list-style-type: none"> 以下の各項目について、理由とともに振り返りを行う。また、その内容を報告書に記載する。 <ul style="list-style-type: none"> 各活動が、計画通りの内容・回数・規模で実施できたか否か【プロセス評価】 各活動において、想定通りのターゲットにリーチできたか否か 各活動において、想定通りの効果が出たか（ターゲットに変化が起きたか）【セオリー評価・アウトカム評価】 各活動において、他実施主体や業界・職能団体等との連携により、想定通りの相乗効果が出たか 事業全体として、想定通りの効果が出たか（ターゲットに変化が起きたか）【セオリー評価・アウトカム評価】 ※想定通りの効果が出なかった場合、以下のどちらの理由によるものか振り返りを行い、報告書に記載する。 <ol style="list-style-type: none"> ①計画通りに事業が実施できなかったから <ul style="list-style-type: none"> →例：屋外でのイベントが雨天で中止となってしまった など ②（計画通りに実施できたが）活動内容自体が狙っていた効果を出すためにそぐわないものだったから <ul style="list-style-type: none"> →例：イベントで発信した内容では介護の仕事に関心を持ってもらうことができなかった、介護に関心が無い人向けの活動だったが、もともと関心が高い人ばかりが参加していた など

5

事業効果分析のポイント

既に事業実施の段階に進まれているかと存じますので、参加者向けアンケート調査項目の検討時や、事業の成果を振り返る際に可能な範囲で参考にしていただけますと幸いです。

①価値判断の基準を設定すること

- 効果評価の指標だけでなく、目標の達成度合いを判断するための価値判断の基準を設定することが望ましいとされています。

(価値判断基準の例)

- ✓ イベントの効果測定の際に、「イベントに参加者のうち、70%以上の人々が『イベントによって介護の仕事に対する関心が高まった。』と回答すること」を目標（価値判断基準）として設定した。
- ✓ 広告の効果測定の際に、「広告接触者のうち介護への関心が高い人の割合（%）が、広告非接触者よりも20ポイント以上高いこと」を目標（価値判断基準）として設定した。
(広告接触者の介護への関心の高さが広告接触による効果なのかを判断するため、広告接触前の状態も調査することが望ましい)

②対照群の設定や前後比較の実施

- 活動の成果を正確に測るためには、コンテンツ接触前後での比較や、対照群（イベントに参加していない人や、コンテンツに接触していない人など）との比較を行うなど、「本当に今回の活動による効果なのか」が分かる方法で効果評価を行うことが望ましいとされています。

(調査手法の例)

- ✓ イベントに参加した人と参加していない人の両方にアンケートを実施し、回答結果を比較する。
- ✓ イベント参加者に対して、イベント参加前後でアンケートを実施し、回答結果を比較する。
(事後アンケートのみの場合、「イベント参加によって介護の仕事への関心が高まったか」という質問にするなど、活動による効果なのかを特定できるような工夫を行う。)

③ターゲットに対するリーチ度合いの測定

- 活動の振り返りの際には「狙ったターゲットに対してアプローチできていたかどうか」や「ターゲットの母集団のうちどれくらいの人にアプローチできていたか」を確認することが望ましいとされています

(確認手法の例)

- ✓ 「介護に関心を持っていなかった人に新たに関心を持ってもらうこと」が目的のイベントにおいて、参加者の介護への関心有無（イベント申込時）をアンケート等で把握し、介護に関心を持っていなかった人が参加していたかどうかを確認する。
(イベント参加後ではなく、イベント参加前の状況を把握することが重要です。)

PwC

6

事業効果分析に関するQ&A①

Question	Answer
<ul style="list-style-type: none"> なぜ事業効果分析（評価）を行う必要があるのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力発信等事業は国の公費を用いて実施するものであるため、本事業の実施によってどのような効果があげることができたのかを国民に説明できるようにすることが望ましいです。（本事業の報告書は厚生労働省HPにて一般公開されます） また、魅力発信等事業は継続的な実施によって効果が見込める性質の事業ですが、来年度以降も引き続き予算を獲得するためには「魅力発信等事業によってどのような効果があがっているか」を対外的に説明できることが重要です。 何が達成できたか、できなかったか、それぞれの理由（促進要因・阻害要因）を振り返ることで事業の改善につなげることができます。 実施主体の皆様のお立場では「半年度事業」となっているところご負担をおかけしてしまい恐縮ですが、魅力発信等事業の継続的な発展のためにお力添えいただけますと幸いです。
<ul style="list-style-type: none"> 1つの活動が複数のアウトカムに紐づくと考えられるが、全てのアウトカムについて測定すべきか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての項目について測定が可能であれば、全項目について測定いただけますと幸いです。（例：アンケートで各アウトカムに関する設問を入れるなど） 全項目の測定が難しい場合は、特に重要だと考えるアウトカムに絞って測定をお願いします。その場合、測定対象とするアウトカムが特に重要であるとお考えになった理由についてもご記載ください。
<ul style="list-style-type: none"> YouTubeでの動画配信など、コンテンツ接触者を対象とした調査を行うことができない場合はどうすれば良いのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 調査会社や関係者、業界団体などに協力を仰いでモニター調査を実施し、「動画のメッセージが意図したとおり伝わっているか」を確認することが一案です。また、可能でしたら「動画がターゲットに実際にリーチできているのか否か」を確認いただければと思います。 上記のような方法も難しい場合はアウトカム指標の測定のみでも差支えございませんが、報告書には「その動画が狙っているアウトカムの達成に貢献すると考えられる理由」及び「アウトカム評価が困難であった理由」を必ずご記載いただけますと幸いです。

PwC

7

事業効果分析に関するQ&A②

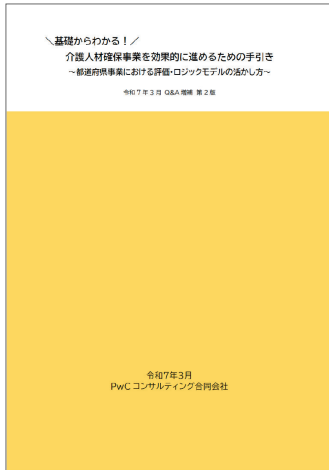
Question	Answer
<ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業（全国へ向けた情報発信事業/WEBを活用した広報事業）と介護職発信事業の連携を、どのように進めていくとよいのか？ 	<p>コンテンツ作成者（介護職発信事業など）が主体となり、以下のように取り組みを進めることが望ましいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な意見交換：実施主体間で計画・進捗や課題を共有するミーティングを設定し、相互に連携・改善策を検討します。その際、PwCもオブザーバー参加させていただきますと幸いです。 企画段階早期の情報共有：介護職発信事業のコンテンツ内容（例：動画、イベント、記事など）を事前に情報発信事業側と共有し、ターゲットリーチ手段や発信方法、アウトカムの測定方法*のすり合わせを行います。 *コンテンツ視聴者からのフィードバックをアウトカム指標として設定する場合、コンテンツ視聴者へのアンケート/ヒアリング調査が可能かどうか等を事前把握する必要があります。 発信後の効果測定の協働：情報発信事業側へ発信後のリーチ数や反応（PV数、SNSシェア数など）の共有を依頼し、それをもとに介護職発信事業側にて総合的に評価を行います。 →詳細について、次のQ&Aも参照してください。
<ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業（全国へ向けた情報発信事業/WEBを活用した広報事業）と介護職発信事業の連携事業について、どのような観点から評価分析を行うとよいのか？ 	<p>評価の観点は様々ですが、以下のような例があります。</p> <p><介護職発信事業が作成したコンテンツを情報発信事業のWeb・メディアで発信する場合></p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信事業に関する評価：主に「ターゲット層に十分にリーチできたか」という観点から評価を行います。（指標の例：PV数やSNSでの拡散状況、検索流入など） 介護職発信事業に関する評価：コンテンツの内容がアウトカム達成に繋がるものだったかという観点から評価します。主に情報発信事業が取得したデータ（発信後のリーチ数やコンテンツ視聴者へのアンケート/ヒアリング結果など）を通じて、コンテンツがターゲットにどのような変化をもたらしたかを総合的に把握することが重要です。 <p>上記評価を踏まえ、可能な範囲で連携による相乗効果の評価を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ作成者による評価の観定の例：情報発信事業の所有チャンネルに掲載したコンテンツと掲載していないコンテンツで、再生回数、平均視聴時間に差があったか等 コンテンツ発信者による評価の関連の例：自社チャンネルへの流入が増加したか等 <p>その他の例として、<介護職発信事業がつながりを持つ介護職を情報発信事業のイベントに派遣する場合>には、介護職・イベント開催者それぞれに「連携によりどのような効果があったか」をヒアリングすること等が考えられます。</p>

8

(参考)事業効果分析に関する手引き

- 令和6年度にPwCが作成した「基礎からわかる！介護人材確保事業を効果的に進めるための手引き（増補版）」に、評価に関するよくある悩みのQ&Aを掲載しています。ぜひご覧ください。

手引き表紙・URL



URL : <https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/track-record/assets/pdf/nursing-care2025-02.pdf>

(PwC HPIに掲載されています。)

PwC

掲載されているQ&A (P.22-26よりQuestionを抜粋)

1. 事業の企画・公募

- 既に事業が始まっている場合でも、ロジックモデルは活用できますか。
- ロジックモデルは財政当局への予算要求においてどのように活用できるのでしょうか。
- そもそも、なぜ事業効果の分析・評価を行う必要があるのでしょうか。
- 事業数が多く、一つ一つの事業について評価デザインを考えるのが難しい場合は、どうすれば良いのでしょうか。
- ロジックモデルを作成してみたいが、関係者を集めてワークショップを開催し、合意形成することが現実的に困難です。このような場合どのようにロジックモデルを作成すれば良いのでしょうか。
- 最終アウトカム、中間アウトカム、直接アウトカムは、それぞれおよそ何年後に実現することを目指して設定するのが良いでしょうか。設定の考え方の例について教えてください。
- 定性的な内容を評価指標に設定しても良いですか。
- 何を根拠としてアウトカム達成有無の判断基準を設定すれば良いのでしょうか。
- 事業のターゲット層が広い場合、どのようにアウトプットとアウトカムを設定するのが良いですか。

2. 事業の実施期間中

- 1つの事業が複数のアウトカムに紐づくことがあります。その場合、すべてのアウトカムについて効果測定をするべきですか。
- SNSやWeb記事・動画による情報発信では視聴回数などを測ることはできますが、コンテンツ接触者の変化を調査することが困難です。コンテンツ接触者の意識変容・行動変容などをアウトカムとしていた場合、どのような方法であれば効果測定をすることができるのでしょうか。

3. 事業終了後の振り返り・改善

- アウトカムに複数の活動が紐づいている場合、どの活動によってアウトカム向上に効果がもたらされたのかが分かりません。

9

報告書に記載いただきたい項目①(項目一覧)

重要

上手いことのみではなく、思ったよりも上手くいかなかったことも記載をお願いします。(この方法では上手くいかないとは分かるのが価値の1つです！)

項目	記載いただきたい事項
各活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容、活動実施の背景（その活動が必要だと考えた理由）、ターゲット設定理由 達成を目指したアウトカム①（別記4にて紐づけたアウトカム） <ul style="list-style-type: none"> 公募・交付申請の際の「別記4」から変更がある場合、その旨を理由とともに記載ください。 達成を目指したアウトカム②（アウトカムの詳細） <ul style="list-style-type: none"> その活動によって、誰がどのような状態になることを目指すのか詳細をご記載ください。 その活動によって、狙ったアウトカムが達成できると考えられる理由、エビデンス（もしあれば） 利用媒体・アプローチ方法 実施期間（計画および実績）
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ターゲット設定（年代、介護経験、介護の仕事に関する認知度合い・興味関心の有無など） 想定通りのターゲットにリーチできたか否か、リーチできなかった理由
各活動のアウトプットに関する評価結果	<ul style="list-style-type: none"> アウトプット（指標、計画または目標） アウトプット（実績） <ul style="list-style-type: none"> 【例①】イベント：開催回数、参加者数 など 【例②】動画配信：動画本数、再生回数 など 【例③】WEB記事：PV数、UU数、リンクのクリック数 など 上記数値（実績）の計測方法、計測日 上記数値（実績）と計画との比較結果、実績が計画を上回った/下回った理由
各活動のアウトカムに関する評価結果	<ul style="list-style-type: none"> アウトカムの測定結果（事業効果分析の結果） アウトカムの測定方法（事業効果分析のプロセス） <ul style="list-style-type: none"> 【例①】アンケート：実施タイミング、実施方法（WEB/紙）、対象者、回答者数 など 【例②】ヒアリング：実施タイミング、実施方法（対面/オンライン）、対象者 など 上記測定結果と目標値との比較結果、目標値を上回った/下回った理由（考察）
他実施主体との連携事項	<ul style="list-style-type: none"> 他実施主体や業界団体・職能団体などと連携した内容（もしあれば） 連携により期待される相乗効果、実際に起こった相乗効果
二次利用可能なコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 二次利用可能なコンテンツと利用範囲（留意事項） コンテンツの入手方法、入手期限、URL等の閲覧期限 など

10

報告書に記載いただきたい項目②(事業効果分析計画記入用フォーマットとの対応表)

現在、評価分析WG委員にご相談してフォーマットを最終調整中です。最終版フォーマットを7月初旬に共有いたします。

重要

項目	記載いただきたい事項	フォーマットの項目
各活動の概要	・ 活動内容	・ 企画背景および取組内容 (D列)
	・ 活動実施の背景 (その活動が必要だと考えた理由)	・ 企画提案時、別記4に紐づけたアウトカム (Z列)
	・ 達成を目指したアウトカム	・ アウトカムの詳細 (AA列)、指標 (AB列)、目標 (AC列)
	・ その活動によって、狙ったアウトカムが達成できると考えられる理由、エビデンス (もしあれば)	・ 企画背景および取組内容 (D列)
	・ 利用媒体・アプローチ方法	・ 企画背景および取組内容 (D列) ※媒体名等詳細 ・ 利用媒体・アプローチ方法 (F~O列) ※星取り表
各活動のターゲットに関する評価結果	・ 実施期間 (計画および実績)	・ 計画 (P列)、実績 (Q列)、進捗 (R列)
	・ ターゲット設定	・ ターゲット層 (S列)
	・ 想定通りのターゲットにリーチできたか否か ・ リーチできた/できなかった理由	・ ターゲット層にリーチするための工夫 (T列) ・ ターゲットへのリーチに関する振り返り (U列)
各活動のアウトプットに関する評価結果	・ アウトプット (計画または目標)	・ アウトプット指標 (V列)、計画・目標値 (W列)
	・ アウトプット (実績) ※PV数など計測日によって数値が変動するものは計測日も記載	・ アウトプットの実績値 (X列)
	・ 上記数値 (実績) と計画との比較結果	・ アウトプットに関する振り返り (Y列)
	・ 実績が計画を上回った/下回った理由	
各活動のアウトカムに関する評価結果	・ アウトカムの測定結果 (事業効果分析の結果)	・ アウトカムの測定結果 (AD列) ・ コンテンツ接触者や企画委員からの感想/反応 (AG列)
	・ アウトカムの測定方法 (事業効果分析のプロセス)	・ アウトカム測定のタイミング・測定方法 (AE列) ・ アウトカムの測定対象および対象者数 (AF列)
	・ 上記測定結果と目標値との比較結果 ・ 目標値を上回った/下回った理由 (考察)	・ アウトカムに関する振り返り (AH列)
	・ 他実施主体や業界団体との連携内容	・ 他実施主体や業界団体との連携内容 (AI列)
他実施主体等との連携事項	・ 連携により期待される相乗効果、実際に起こった相乗効果	・ 期待される相乗効果 (AJ列)、実際に起こった相乗効果 (AK列)
二次利用可能なコンテンツ	・ 二次利用可能なコンテンツ	・ 二次利用可能なコンテンツ (AL列)
	・ コンテンツ利用の留意点	・ 留意点 (AM列)、入手方法や期限等 (AN列)

PwC

11

事業効果分析フォーマット提出スケジュール

- ・ 提出は、事業期間中、3回 (7月末/9~10月/1~2月) を予定しております。
- ・ 事業期間中、ニーズに応じて評価分析や活動実施に関する相談の場を設け、事業効果の可視化・改善に向けた取り組みを共に進めて参ります。

年間スケジュール

時期	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
提出時期・目的		①提出 ★			②提出 ★				③提出 ★	
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業効果を適切に捉えるための初期計画 ✓ 企画提案書からの計画変更の有無の確認 			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 初回提出内容への評価分析委員からのコメントを踏まえ、内容をブラッシュアップ ✓ 実施計画の変更の有無の確認 				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業の進捗確認 ✓ 目標達成度の確認 ✓ 事業完了に向けた振り返りと成果の整理 	
評価分析WG			▲		▲				▲	
実施主体会議	(必要時に適宜実施)	△	△	△	△	△	△	△	△	△
【参考】事業間連携関連		事業間連携会議① ★	月次ニュースレター ★		介護のしごと魅力発信サミット 10/3(金) @大手町 ★		事業間連携会議② ★		事業間連携会議③ ★	

PwC

12

(ご参考)PwCコンサルティング担当者一覧

所掌事務	担当者名	連絡先 (全員共通)
統括	古屋 智子	
事業間連携 (事業間連携会議・魅力発信サミット・連携支援) に関すること	一二三 達哉 安澤 悠夏	
評価分析の支援に関すること	池田 真由 多田 恭子	jp_kaignomiryoku@pwc.com
調査 (アンケート・ヒアリング) に関すること	初見 歌奈子 熊本 奈那子	

弊社担当者からご連絡を差し上げたときは、上記所掌にこだわらずに当該担当者へお返事をいただければ幸いです。
※弊社コンタクト先に困った場合は名宛なくメールなどをいただくことで問題ございません。内部で調整します。

Thank you

www.pwc.com/jp

© 2025 PwC Consulting LLC. All rights reserved.
PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.
This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.

付属資料3. 介護のしごとと魅力発信等事業ニュースレター

7月号

No. 1
July
2025

令和7年度介護のしごとと魅力発信等事業 ニュースレター

なるほどカイゴ

厚生労働省補助事業「介護のしごとと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と発信のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通じて、介護のしごとの魅力を伝えたい。キャリア・進路の選択の一助として、介護のしごとの魅力を伝えてみませんか？

社会福祉学生ヒーローズ in H.C.R.開催！

福祉に関する活動を行う学生たちが、国際福祉機器展(H.C.R.)に登場。日頃取り組んでいる福祉活動をプレゼン形式で発表します。福祉に興味のある方、学生のリアルな声を聞いてみたい方、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

【開催概要】
開催日:2025年10月9日(木)13:00~14:00
会場:東京ビッグサイト 西展示ホールAトリウム 特設ステージ (東京都江東区有明3-11-1)
H.C.R.2025 第52回国際福祉機器展 & フォーラム内
入場料:無料
入場方法:事前登録制

主催:社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国社会福祉法人経営者協議会



「KAIGO PRIDEアンバサダー養成研修」今年度も実施！

現役介護職が自らの言葉で介護の魅力発信する「KAIGO PRIDEアンバサダー養成研修」が、今年度も全国7地域で開催されます。自身の仕事への誇りや魅力を言語化し、仲間とともに発信力を高める内容で、今年度からは「チーム参加」枠と「学生アンバサダー研修(オンライン)」も新たにスタートします。研修スケジュールは8月上旬に当法人ホームページにて公開予定。詳細はリンク先をご覧ください。

主催:一般社団法人KAIGO PRIDE



第15回オールジャパンコンテスト参加者募集！

2025年10月4日(土)、東京ビッグサイトに開催されます。(前夜祭は10月3日(金)18:00~)選手出場締切は、8月15日(金)までとなっております。是非ご応募ください。

主催:第15回オールジャパンコンテスト実行委員会

社会福祉HERO'Sちゃんねる by 全国社会福祉法人経営者協議会

福祉の魅力や現場のリアルを伝えるYouTubeチャンネルにて動画コンテンツを配信しています。若手職員や学生の声、現場での取組など、福祉の“今”を知ることができます。ぜひチャンネル登録のうえご覧ください。

運営:社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国社会福祉法人経営者協議会

介護のしごとと魅力発信等事業とは

この事業は、厚生労働省が実施する「介護のしごとと魅力発信等事業」の一環として、介護のしごとの魅力を伝えることにより、多くの人が、福祉・介護の仕事について関心を持ち、進路を定めることにもつながることを目指しています。また、介護のしごとの魅力を伝えることで、介護のしごとの魅力を伝えることにもつながることを目指しています。また、介護のしごとの魅力を伝えることにもつながることを目指しています。

9月号1 ページ目

No. 2
September
2025
Page 1

令和7年度介護のしごとと魅力発信等事業 ニュースレター

なるほどカイゴ

厚生労働省補助事業「介護のしごとと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と発信のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通じて、介護のしごとの魅力を伝えたい。キャリア・進路の選択の一助として、介護のしごとの魅力を伝えてみませんか？

介護・福祉に特化したコミュニティ型オンラインスクール KAIGO LEADERS SCHOOL 開校！

KAIGO LEADERS SCHOOLは介護・福祉の領域で活躍する「先輩」が仲間と共に学び、成長することを目的としたスクールです。スクール開校初めのプログラムでは、「介護の仕事の魅力発信」に焦点を当てた3つの講座をスタート。介護の仕事の魅力や自らのSNSや社内外のメディアで主体的に発信するスキルや、地域の人と新たな関係性を築く「場づくり」の企画・運営スキルの習得を目指します。

〇コース一覧

- SNS講座:介護の仕事の魅力をSNSとショート動画で届けるための実践型講座です。言葉にできなかった思いや価値を可視化し、共感を呼ぶストーリーを発信していきます。
- ライティング講座:介護の仕事の魅力を「文章」で伝える実践型講座です。届けたい思いを持つ人が、相手に伝わり心に届く文章を書くスキルを身につけます。
- 場づくり講座:介護の仕事の魅力を「場づくり」を通じて地域の人々へ届ける実践型講座です。

主催:株式会社Blanket



「介護のしごとと魅力発信サミット」参加申込受付中！

「介護のしごとの魅力はどんなもの？」
「他の自治体はどう魅力を発信している？」
介護のしごとの魅力発信に携わる方で、こんな疑問を持ったことはありませんか。こうした悩みに関する自治体の方向性情報交換イベント「介護のしごとと魅力発信サミット」を開催します。

介護職が語る魅力、自治体による魅力発信事例、魅力発信のためのコンテンツを紹介します。他の自治体の方向性情報交換の機会も設けますので、ヒントを得る機会となるはずですよ。対面・オンラインのどちらでもご参加いただけます。ぜひお申し込みください。

主催:PwCコンサルティング合同会社



「社会福祉HERO'S 2025」社会福祉学生ヒーローズ賞募集開始！

社会福祉の魅力を全国に広めたい！ そんな熱い思いを持った若手スタッフが集まるプレゼンコンテスト、それが「社会福祉HERO'S」！今年もいよいよ、プレゼンターの募集がスタートしました。あなたの思いとアイデアを、ステージで発表してください！

さらに、「社会福祉学生ヒーローズ賞」も同時募集！高校・大学・専門学校などで、福祉の魅力を伝えるクリエイティブな活動をしている団体・サークルを大募集します。受賞団体には、「社会福祉HERO'S 2025」のイベントで賞状を贈呈します。

みなさまのご応募、お待ちしております！

【開催概要】
開催日:2026年1月28日(水)
会場:渋谷ストリームホール (東京都渋谷区渋谷3丁目21-3)
※イベントの詳細はWebサイトをご覧ください

主催:社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国社会福祉法人経営者協議会



9月号2 ページ目

No. 2
September
2025
Page 2

令和7年度介護のしごとと魅力発信等事業 ニュースレター

なるほどカイゴ

厚生労働省補助事業「介護のしごとと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と発信のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通じて、介護のしごとの魅力を伝えたい。キャリア・進路の選択の一助として、介護のしごとの魅力を伝えてみませんか？

KAIGO PRIDEアンバサダー養成研修会 全国9会場で開催！

現役介護職が自らの言葉で介護の魅力発信する「KAIGO PRIDEアンバサダー養成研修会」が、令和7年度も全国で開催されます。これまでに全国で300名を超える仲間が誕生し、現場のリアルな声が多く共感を呼び、介護への理解や人材確保につながる力を示してきました。

本研修では、自身の仕事への誇りや魅力を言語化し、発信の方法を学びます。今年度からは、同じ組織の仲間と学べる「チーム参加枠」を新設。施設長・現場主任・新人職員など異なる立場での参加や、社内研修としての活用もおすすめです。仲間と共に取り組むことで安心して学べます。

【開催概要】
開催日時・場所:
9/11(木)北海道
9/24(水)京都府
9/25(木)山梨県
10/7(火)静岡県
10/8(水)東京都
10/15(水)香川県
10/16(木)鹿児島県
10/20(月)新潟県
10/21(火)火山県

※受付9:40・研修10:00~16:00・昼休憩1時間
※詳細はWebサイトをご覧ください

参加費用:無料
参加対象:現役介護職
参加方法:各会場の専用申込フォームより先着順で受付(個人参加枠は定員に達し次第締切。その後チーム参加のみ受付)

主催:一般社団法人KAIGO PRIDE



「介護のしごとと魅力発信サミット」参加申込受付中！

「介護のしごとの魅力はどんなもの？」
「他の自治体はどう魅力を発信している？」
介護のしごとの魅力発信に携わる方で、こんな疑問を持ったことはありませんか。こうした悩みに関する自治体の方向性情報交換イベント「介護のしごとと魅力発信サミット」を開催します。

介護職が語る魅力、自治体による魅力発信事例、魅力発信のためのコンテンツを紹介します。他の自治体の方向性情報交換の機会も設けますので、ヒントを得る機会となるはずですよ。対面・オンラインのどちらでもご参加いただけます。ぜひお申し込みください。

主催:PwCコンサルティング合同会社



「社会福祉HERO'S 2025」社会福祉学生ヒーローズ賞募集開始！

社会福祉の魅力を全国に広めたい！ そんな熱い思いを持った若手スタッフが集まるプレゼンコンテスト、それが「社会福祉HERO'S」！今年もいよいよ、プレゼンターの募集がスタートしました。あなたの思いとアイデアを、ステージで発表してください！

さらに、「社会福祉学生ヒーローズ賞」も同時募集！高校・大学・専門学校などで、福祉の魅力を伝えるクリエイティブな活動をしている団体・サークルを大募集します。受賞団体には、「社会福祉HERO'S 2025」のイベントで賞状を贈呈します。

みなさまのご応募、お待ちしております！

【開催概要】
開催日:2026年1月28日(水)
会場:渋谷ストリームホール (東京都渋谷区渋谷3丁目21-3)
※イベントの詳細はWebサイトをご覧ください

主催:社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国社会福祉法人経営者協議会



No. 3 October 2025 Page 1

なるほどカイゴ

令和7年度介護/しごとと魅力発信等事業 ニュースレター

厚生労働省補助事業「介護のしごとと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と見のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通じて、介護のしごとの魅力を伝えたい。キャリア・道徳の選択の一つとして、介護のしごとのをそいでみませんか？

介護・福祉に特化したKAIGO LEADERS SCHOOL アーカイブコースの受講生募集！

現役介護職員の方向け

KAIGO LEADERS SCHOOLは、介護・福祉の領域で活躍するプレイヤーが共に学び、「介護の仕事の魅力」を社会に届ける力を育むためのスクールです。一人ひとりが自分の言葉で思い・価値を発信し、地域や社会との新しいつながりを生み出そうと目指します。

現在、アーカイブコース受講生を募集中です。講義動画をオンラインでいつでも視聴可能ですが（課題提出・振り返りなし）。

▼講座一覧▼（複数の講座を視聴可能）

- 1 SNS講座** 介護の仕事の魅力をSNSとショート動画で届けるための実践型講座。言葉にできない思いや価値を可視化し、共感を呼びストーリーを発信していきます。
- 2 ライティング講座** 介護の仕事の魅力や「文章」で伝える実践型講座。届けたい思いを持つ人が、相手に伝わり心に響く文章を書きスキルを身につけます。
- 3 場づくり講座** 介護の仕事の魅力や「場づくり」を通じて地域のみなさんに届ける実践型講座。

【開催概要】
配信期間：2025年10月半ば～2026年3月（予定）
参加費用：無料
募集対象：介護の仕事に従事する方
募集方法：[エディットフォーム](#)に必要事項を入力

主催：株式会社Blanket

「介護のしごとと魅力発信等事業」とは
イベント、展示、Web配信などを通じて、各地で開催されることにより、多くの人が、福祉・介護の仕事について関心を持ち、進路を考えることにもつながる機会が広がります。また、地域や社会とのつながりも生まれることが期待されています。

お問い合わせ先：PwCコンサルティング株式会社 介護事業部 ika@pwc.com

No. 3 October 2025 Page 2

なるほどカイゴ

令和7年度介護/しごとと魅力発信等事業 ニュースレター

KAIGO PRIDEアンバサダー養成研修会 参加者募集！

現役介護職員の方向け

今年度もKAIGO PRIDEアンバサダー養成研修会を全国各地で実施しています。9月からスタートし、10月以降も各地で開催予定です。介護の魅力を自らの言葉で伝え、力を継ぎ、仲間と学び合う場として、多くの現役介護職が参加しています。

本研修は、介護職の魅力を社会に届ける「アンバサダー」の育成を目的とし、令和7年度も全国各地で実施されています。すでに9月には旭川・京都・富山での研修を終え、多くの参加者から「自分の仕事を誇り直さなきゃよかった」との声が寄せられました。

10月以降は、静岡・東京・香川・鹿児島・新潟・山形の6会場で開催されます。今年度は新たにチーム参加枠が設けられ、同じ事業所や同じ法人の仲間と共に参加できる点も特徴です。立場を超えて学び合うことで、法人や施設全体の魅力発信にもつながります。

「介護の魅力を言葉にして伝えてみたい」「仲間とともに活動したい」という方は、ぜひこの機会にご参加ください。

【開催概要】
開催日時・場所：10/7(火)静岡 10/8(水)東京都 10/15(水)香川 10/16(木)鹿児島 10/20(月)新潟 10/21(火)山形
※受付9:40、研修10:00～16:00 昼休憩1時間
※詳細は[Web7.16](#)をご確認ください

参加費用：無料
募集対象：現役介護職
募集方法：各会場の専用申込フォームより先着順で受付（個人参加時は定員に達し次第締め切り。その後はチーム参加のみ受付）

主催：一般社団法人KAIGO PRIDE

「The VOICE of KAIGO」シリーズ YouTubeで配信中！

現役介護職アンバサダーがオンラインで集まり、介護の魅力や社会的テーマを語り合う「The VOICE of KAIGO」ZoomでのトークをYouTubeでライブ配信し、アーカイブも公開します。全国の介護職が日々の気づきや経験を語り合い、その声を社会に届けるオンラインコンテンツです。今年度は各地域のアンバサダーが中心となり、地域版のトークシリーズとして実施します。トークテーマは、それぞれの地域のアンバサダー自身が決定。現場での課題や取組、地域性に根ざしたテーマをもとに、介護という職業の魅力や可能性を発信します。災害対応や地域共生社会、ICTや外国人材など、多様な切り口で介護の価値を伝えたい。ぜひチャンネル登録のうえ、ご視聴ください。

【概要】
形式：ZoomでのトークをYouTubeライブで配信（後日アーカイブ公開）
頻度：月2回配信（年度内15回を予定）
視聴方法：[KAIGO PRIDE公式YouTubeチャンネル](#)

主催：一般社団法人KAIGO PRIDE

No. 4 November 2025 Page 1

なるほどカイゴ

令和7年度介護/しごとと魅力発信等事業 ニュースレター

厚生労働省補助事業「介護のしごとと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と見のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通じて、介護のしごとの魅力を伝えたい。キャリア・道徳の選択の一つとして、介護のしごとのをそいでみませんか？

雑誌「POPEYE」にタイアップ記事 「介護の仕事のことをちゃんと知ってみたいか？」掲載！

雑誌「POPEYE」11月号（10月9日発売号）に、介護のしごとと魅力発信等事業 タイアップ記事「介護の仕事のことをちゃんと知ってみたいか？」が掲載されました。

介護の現場で働く若者たちを、進化している働く意識や現場の雰囲気について取材しています。

「高齢者がいきいきと暮らす日々を支える、そういう仕事にどんなやりがいがあるのだろう。実際に取材をすると、働く若者たちは穏やかで、確かに充実した顔をしていた。さらに、介護に関わる仕事はクエティティブの領域にもどんどん広がっている。働く意識も現場の雰囲気も多様に進化している介護のことを、僕たちはもっと知るべきだ。」（記事本文より引用）

記事は公式WebページPOPEYE Webにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

Web記事は [こちら](#)

主催：株式会社マガジハウス

雑誌「anan」にタイアップ記事 「自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。」掲載！

雑誌「anan」2466号（10月8日発売号）に、介護のしごとと魅力発信等事業 タイアップ記事「自分の存在が価値になる。個性を活かせる介護のしごと。」が掲載されました。

誌面には、元乃木坂46の山崎怜奈さんによる「世代の垣根を越えた、多世代が共生できる地域に開かれた福祉施設」をコンセプトにした複合型福祉施設「深川いんあみち」の取材記事や、風光明媚な景色と歴史的可及が広がる「鶴の浦」で地域に根付いた介護に取り組む事業所に魅力を感じ移住してきた方の、海風を感じながら仕事現場にお馴染みになった記事などが掲載されています。

記事は公式Webページanan Webにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

Web記事は [こちら](#)

主催：株式会社マガジハウス

「介護のしごとと魅力発信等事業」とは
イベント、展示、Web配信などを通じて、各地で開催されることにより、多くの人が、福祉・介護の仕事について関心を持ち、進路を考えることにもつながる機会が広がります。また、地域や社会とのつながりも生まれることが期待されています。

お問い合わせ先：PwCコンサルティング株式会社 介護事業部 ika@pwc.com

No. 4 November 2025 Page 2

なるほどカイゴ

令和7年度介護/しごとと魅力発信等事業 ニュースレター

ショートムービー「もう一步」ティザーサイト公開！

厚生労働省「介護のしごとと魅力発信等事業（情報発信事業）」の一環として制作されたショートムービー「もう一步」のティザーサイトが公開中。

本作は、父の代に憧れた実家が、在宅施設かという正解のない介護の選択に葛藤しながら、介護職との出会いを通して「その人らしさ」を取り戻していき姿を描いた物語です。誰もが直面する介護の場面をテーマに、家族と介護職、それぞれの視点から「もう一步」を踏み出す瞬間を映し出しています。

現役介護職がストーリー監修に関わり、現場の声をもとに制作された作品であり、ティザーサイトではストーリーや作品紹介、制作情報に加え、映画制作に協力した全国のKAIGO PRIDEアンバサダーからのコメントも掲載されています。

ショートムービー「もう一步」は、2025年11月に公開予定です。

ティザーサイトは [こちら](#)

主催：一般社団法人KAIGO PRIDE

The VOICE of KAIGO in LIVE Vol.11, Vol.12 アーカイブ公開！

介護の現場で働く人々が、自らの言葉で「介護の魅力」を語るトークライブシリーズ「The VOICE of KAIGO in LIVE」が、9月に配信されたVol.11およびVol.12のアーカイブが公開されました。

Vol.11は、九州チャプターが企画した「介護はクエティティブ！～発想一つで変わる介護の現場～」。日常のケアに潜む「むらさき」や「エゴ」が現場をどう変えるのか、3名のアンバサダーがリアルに語りました。

Vol.12は、関東チャプターによる「熱心の介護～広がる可能性と未来～」。東京・千葉・神奈川で活動する3名の若手介護職が、多様な人々が暮らす心なななでの課題と工夫、介護の新しいかたちを語りました。

それぞれの地域で介護に携わるアンバサダーたちの言葉から、介護の現場にある創造性や多様性、そして新たな可能性が伝わります。ぜひご覧ください。

Vol.11は [こちら](#) Vol.12は [こちら](#)

主催：一般社団法人KAIGO PRIDE

介護・福祉に特化したKAIGO LEADERS SCHOOL まだ間に合う！アーカイブコース受付中！

KAIGO LEADERS SCHOOLは、介護・福祉の現場で活躍するプレイヤーが学び、「介護の仕事の魅力」を社会へ届ける力を育むスクールです。自分の言葉で思い・価値を発信し、地域や社会との新しいつながりを生み出そうと目指します。

実践コースの応募は締め切りでしたが、アーカイブコースは募集中です。講義動画は順次公開され、オンラインでいつでも視聴可能ですが（課題提出・振り返りはありません）。

好きな時間に繰り返し視聴できるため、忙しい方や自分のペースで学びたい方におすすめです。ぜひお申し込みください。

お申し込みは [こちら](#)

【開催概要】
配信期間：2026年3月まで
参加費用：無料
募集対象：福祉・介護の仕事に従事する方
募集期間：2026年2月まで
募集方法：[エディットフォーム](#)に必要事項を入力

主催：株式会社Blanket

No. 5 November 2025 Page 1

なるほどカイゴ

厚生労働省補助事業「介護のしごと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と発見のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通して、介護のしごとの魅力を伝えたい。キャリア・進路の選択の一つとして、介護のしごとの魅力を伝えてみませんか？

介護の仕事魅力発信ポータル「知る。わかる。介護のしごと」がリニューアル！

介護に関する仕事の最新情報と魅力を発信することを目的に、人気マンガ家とのタイアップコンテンツ、現役職員や転職者リアルな声など、多様なコンテンツを掲載するポータルサイトを。さらに、全国の都道府県が実施する魅力発信の取り組みや支援制度、公的求人サイト情報も網羅し、介護に関する仕事への理解促進を図ります。

ポータルサイトは [こちら](#)

主催：楽天グループ株式会社

KAIGO PRIDE学生アンバサダー オンライン養成研修会 福祉系学生 開催日決定！

KAIGO PRIDEでは、現役の介護職を対象に実施してきた「アンバサダー養成研修会」を、今年度から初めて学生向けに開催します。本研修は、介護や福祉の仕事の意義を理解し、自らの言葉でその魅力を発信できる人材を育てることを目的としたプログラムです。対象は、介護・福祉系の大学・短期大学・専門学校・高等学校に在籍する学生で、介護の魅力や福祉の仕事に関心を持ち、発信や表現に意欲のある方を募集します。研修では、介護の魅力を言語化するワークや、発信のマインドセットを学ぶ講義などを通して、福祉を学ぶ中で感じてきた思いや気づきを言葉にし、仲間と共有しながら自分自身にある介護の魅力を発見していきます。これまでで全国で300名を超えるアンバサダーが誕生し、各地で介護の魅力を伝えてきました。その新たな一歩として、学生の皆さんが未来の担い手として声を上げるきっかけをつくりたい。

【開催概要】
開催日時：
11月29日（土）9:00-12:15 12月13日（土）9:00-12:15
11月30日（日）13:00-16:15 1月10日（土）9:00-12:15
12月10日（水）18:00-21:15
参加費：無料
詳細・申し込みは [公式サイト](#)から

主催：一般社団法人KAIGO PRIDE

No. 5 November 2025 Page 2

なるほどカイゴ

スペシャル動画コンテンツ 「介護のしごときっかけファイル-介護職に就いた、ワタシの理由-」公開中！

介護職に転職した人の転職のきっかけや、転職前と今の気持ち、生活の変化をインタビュー動画としました。元主婦・元清掃業の営業職、元ラーメン店長、元物流業の方の4本の動画を公開しました。

全ての動画は二次利用可能ですので、さまざまな機会にご活用ください。

動画視聴は [こちら](#)

主催：楽天グループ株式会社

短編映画「もう一步」公開！

KAIGO PRIDEが制作した短編映画「もう一步」が11月11日公開されました。誰もが描く「介護の選択」を描く、家族と介護職の物語。現役介護職からストーリー監修にも関わった「現場の声から生まれた映画」です。全国各地で上映イベントを実施しますので、是非をお楽しみください。

【開催概要】
上映イベントスケジュール：
12月14日 イオンモール大日(大阪府)
12月27日 イオンモール福岡伊都(福岡県)
1月12日 イオンモールとなみ(富山県)
2月1日 岡山県立図書館(岡山県)
2月6日 なみasteア(福岡県)
2月7日 白石区役所市民ホール(北海道)
2月14日 春山公会堂(福島県)
2月25日-27日 東京ビッグサイト東ホール(東京都)
2月28日 メルカつきまち(長崎県)
3月1日 守口市図書館円形ホール(大阪府)
参加費：無料

主催：一般社団法人KAIGO PRIDE

都道府県からの掲載希望を募集中！

動画やイベント、ポータルサイトなど、どんな内容も大歓迎です。本誌への取組掲載をご希望の都道府県の方は、こちらのフォーム、または右のQRコードより情報提供をお願いします。

[こちら](#)

No. 6 December 2025 Page 1

なるほどカイゴ

厚生労働省補助事業「介護のしごと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と発見のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通して、介護のしごとの魅力を伝えたい。キャリア・進路の選択の一つとして、介護のしごとの魅力を伝えてみませんか？

「社会福祉HERO'S 2025」イベント 開催！

社会福祉の魅力を全国に発信する若手スタッフのプレゼンコンテスト「社会福祉HERO'S」が、今年も開催！会場観覧とYouTube配信に加え、特別ゲストも登場予定です。また初の試みとして、登壇者決定までの審査の様子をSNSで公開します！ベストHERO'S賞を決めるのは皆さんの一票。ぜひ応援のほど、よろしくお祈りします！

実施日時：2025年11月28日(水)
場所：渋谷ストリームホール(東京都渋谷区渋谷3丁目21-3)
詳細は [ホームページ](#)にてご確認ください。

2025.11.28(水) 渋谷ストリームホールにて開催
YouTube同時配信

主催：全国社会福祉法人経営者協議会

介護・福祉のケアに触れよう！4都県の現場をめぐる「ケアするしごとツアー」2025年12月スタート！

「暮らしとケア」を体感するツアー「ケアするしごとツアー」が、福祉をたずねるクリエイティブマガジン(こここ)と、介護に関心を持つ人の学びのコミュニティ(KAIGO LEADERS)(運営：株式会社Blanket)によって実施されます。今年度のツアーで訪れるのは、広島、宮城、東京、神奈川にある4つのユニークな介護・福祉事業所です。施設の代表の方や現場で働く方のお話を伺う時間のほか、施設の見学時間が設けられています。ケアのあり方から、自分自身の暮らしや生き方を考えるための新しい視点を得られるツアーです。

【開催概要】
開催日：2025年12月26日(月)・2月12日(木)
時間：各回10:00~16:00(Zoom開催)
参加費：無料(見学先での宿泊・交通費は参加者の自己負担)
定員：各回15名(応募者多数の場合、介護・福祉職を未経験の方を優先的にご案内)

主催：株式会社マガジンハウス

一般向けオンライン アンバサダー養成研修会を1月より開催！

全国で開催したKAIGO PRIDEアンバサダー養成研修会に参加できなかった方の要望を受け、オンラインの一般向け研修会を開催します。研修では、介護の魅力ややりがい、自分の言葉で表現、発信する力を育みます。グループワークや対話を通して、全国の仲間とつながり、学び合える構成です。どなたでも参加できる学びの場です。

【開催概要】
開催日：2026年1月26日(月)・2月12日(木)
時間：各回10:00~16:00(Zoom開催)
参加費：無料
対象：介護職・福祉関係者・介護の魅力発信に関心のある方

2026.1.26(月) 開催分 [こちら](#)
2026.2.12(木) 開催分 [こちら](#)

主催：一般社団法人KAIGO PRIDE

No. 6 December 2025 Page 2

なるほどカイゴ

短編映画「もう一步」完成披露試写会を開催、YouTubeで公開中！

短編映画「もう一步」がYouTubeで公開中。本作は、父の変化に揺れる家族が、介護職との出会いを通して「その人らしさ」を取り戻していく物語。現役介護職が監修に携わり、現場の声から生まれた作品です。11月10日に東京・お台場のユナイテッドシネマアークアキオお台場で完成披露試写会を開催。参加者からは「映像が美しく、心に残った」「誰もが共感できるやさしい物語」「介護への見方が変わった」といった声が寄せられました。12月には大阪・福岡で上映イベントを開催予定で、1月以降も全国各地での上映を予定しています。

【開催概要】
12月14日(日) 大塚・イオンモール大塚(大塚市守口市)
12月27日(土) 福岡・イオンモール福岡伊都(福岡市西区)
参加費無料・事前申し込み不要

主催：一般社団法人KAIGO PRIDE

anan × POPEYE × こここ 介護のしごとについての連携冊子 全国の書店(ブックファースト・リブロ等)にて配布！

雑誌「anan」・「POPEYE」に掲載された介護のしごとに関する記事、ウェブマガジン「こここ」連載のダイジェストとリンクをまとめたスペシャルブックレットを、全国の書店(ブックファースト・リブロ等)を中心に、雑誌・書籍の購入者へ会計時に無料配布します。

配布時期：2025年11月11日(火)開始(書店により前後)
配布方法：会計時に手渡し配布、ラック設置等
配布数量：10,000部

主催：株式会社マガジンハウス

まだ間に合う！KAIGO LEADERS SCHOOL アーカイブコース受付中！キックオフレポート公開！

KAIGO LEADERS SCHOOLは、介護・福祉の現場で活躍するプレイヤーがとらえ、介護の現場で活躍する力を得るスクールです。ひとりひとりが自分の言葉で社会へ届ける力を、地域や社会との新しいつながりを生み出すことを目指します。公式サイトでは講義動画の一部を公開し、スクールの雰囲気や体感できます。作家・岸田美さんが登壇したキックオフレポートも公開していますのでぜひご覧ください。

現在、アーカイブコースは引き続き募集中です。好きな時間に繰り返し視聴できるため、忙しい方や自分のペースで学びたい方におすすめです。ぜひこの機会にお申し込みください。

【募集要項】
- 募集期日：2026年2月末まで
- 定員：介護の仕事に従事する方は全員受講可能
- 募集方法：【アーカイブコース】公式サイトのエントリーフォームに必要事項を入力

公式サイトは [こちら](#)

主催：株式会社Blanket

No. 6
December
2025
Page 3

令和7年度介護のしごと魅力発信等事業 ニュースレター

なるほどカイゴ

自治体発！ 介護のしごとの魅力発信の取組

各自治体から寄せられた介護のしごとの魅力発信に関する取組(イベント・Webコンテンツ制作等)を紹介し、ぜひ、足を運んだり、Webサイトにアクセスしたりして介護のしごに慣れてみてください。

宮城県 JKとおばあちゃん、魂が入れ替わった!? 笑って泣ける『制服と介護』 ショートドラマ公開中!

宮城県の「令和7年度宮城県介護イメージアップ実施業務」の一環として制作したショートドラマ『制服と介護』が、宮城県公式Instagram/TikTok/YouTubeにて公開中。

誰かの立場になって初めて見える世界がある。魂の入れ替わりという不思議な体験を通して描かれるのは、世にも価値観も違った『僕』の物語。笑って、泣いて、少し心が温かくなるショートドラマです。

宮城県では、「介護は単に利用者のお世話をするだけの仕事ではなく、個性を活かし、相手と自分だけの寄り添い方を生み出すクリエイティブな仕事」として介護の魅力を発信しています。

ショートドラマの他、いきなり東北産メンバーの介護現場の方々へのインタビュー記事や宮城県出身の音楽ユニット「MELOGAPPA」が歌う「介護オリジナルソング」も公式サイトにて掲載していますので、ぜひご覧ください!

公式サイトはこちら

東京都文京区 「オラキオの介護すてき発見!!」YouTubeにて公開中!

介護の魅力ってなんだろう?? 介護の仕事って実際にどんなことをしているの?? そんな疑問にお答えべく、前編と中編では、文京区内の介護サービス事業所に所属する若手介護職員の働く様子を通して、仕事内容をわかりやすく紹介しています。若手介護職員の意外な表情や本音が聞けちゃっかも!! 後編では、文京区内の介護サービス事業所で働いている職員の方向けの文京区独自事業を紹介!

介護業界を盛り上げるお笑い芸人のオラキオさん、さわやか五郎さん上々軍団と一緒に、介護のすてきを発見してみませんか?? ぜひご覧ください!

動画視聴はこちら

都道府県からの掲載希望を募集中!

動画やイベント、ポータルサイトなど、どんな内容も大歓迎です。本レターへの取組掲載をご希望の都道府県の方は、こちらのフォーム、または右の二次元コードより情報提供をお願いします。

No. 7
January
2026
Page 1

令和7年度介護のしごと魅力発信等事業 ニュースレター

なるほどカイゴ

厚生労働省補助事業「介護のしごと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と発見のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通して、介護のしごとの魅力をお伝えします。ぜひ、足を運んだり、Webサイトにアクセスしたりして介護のしごに慣れてみてください。

福祉をたずねるクリエイティブマガジン(こここ) “自分らしく生きる”を支えることと連載記事公開中!

福祉をたずねるクリエイティブマガジン(こここ)にて、連載記事が公開中です。(～Vol.30) 介護施設の実践やそこで働く人、ケアや思いをテーマにしたカルチャーコンテンツなど、「介護の世界」を語ります。「自分らしく生きる」を支える人、仕事、かまひ、まなざし、葛藤に、出会っていきましょう。

読者アンケート実施中! アンケートにお答えくださった方から抽選で5名様に、こここなインピンでも紹介した「ダブデビ・デザイン」のアートハンカチSquareをプレゼントいたします。アンケート申込期限:2026年2月28日(土) 賞品発送:2026年3月予定

主催:株式会社マガジンハウス

【最近の掲載記事】

- Vol.27 介護施設の実践やそこで働く人、ケアや思いをテーマにしたカルチャーコンテンツなど、「介護の世界」を語ります。
- Vol.28 介護施設の実践やそこで働く人、ケアや思いをテーマにしたカルチャーコンテンツなど、「介護の世界」を語ります。
- Vol.29 介護施設の実践やそこで働く人、ケアや思いをテーマにしたカルチャーコンテンツなど、「介護の世界」を語ります。
- Vol.30 介護施設の実践やそこで働く人、ケアや思いをテーマにしたカルチャーコンテンツなど、「介護の世界」を語ります。

連載記事はこちら

短編映画「もう一步」全国各地で上映イベントを開催中!

誰もが直面する「介護の選択」を描く、家族と介護職の短編映画「もう一步」(制作:一般社団法人KAIGO PRIDE)の上映会を開催しています。上映会では映画の上映に加え、KAIGO PRIDEアンバサダーによるトークショーを実施。現役介護職が登壇し、日々の現場で感じていることや介護に向き合う中で抱えている、自身の目標が語られます。

2025年12月14日(日)には大阪・イオンモール大田(大阪府大田区) 12月27日(土)には福岡・イオンモール福岡伊勢原(福岡県伊勢原市)にてイベントを開催。会場からは「映画とトークを通して介護を身近に感じられた」といった声も寄せられました。今回は1月から2月上旬までの開催情報をお知らせします。

映画とトークを通して、介護の現場で働く人の思いや視点に触れられる機会となっています。ぜひ足を運んでください。

【開催日程】※いずれも2026年
1月12日(月) イオンモールとみなみ(富山県)
2月1日(日) 岡山県立図書館(岡山県)
2月6日(金) なみきスタジオ(福岡県)
2月7日(土) 白区役所市民ホール(北海道)

【参加費】無料
【事前申し込み】不要

主催:一般社団法人KAIGO PRIDE

「介護のしごと魅力発信等事業」とは

イベント、テレビ、Web等を組み合わせた取組を通じて、各地に特化した取組を行うことにより、多くの国民が、福祉・介護の仕事について新たな関心をもち、理解を高めることにもつながる取組が実施される予定です。本レターは、厚生労働省補助事業「令和7年度介護のしごと魅力発信等事業(介護職魅力発信等事業)」を活用し、PwCコンソリテイトドが制作しています。

制作費:お問い合わせ先: PwCコンソリテイトド株式会社公共事業部 (jp.kaispin@pwc.com)

No. 7
January
2026
Page 2

令和7年度介護のしごと魅力発信等事業 ニュースレター

なるほどカイゴ

『anan』『POPEYE』『こここ』による福祉・介護をテーマにしたスペシャルブックレットがダウンロード可能!

マガジンハウス『anan』『POPEYE』『こここ』編集部が、全国さまざまな介護・高齢者ケアに関わる仕事場(施設・事業所)と働く人を取材した記事をまとめた、スペシャルブックレットです。

『anan』『POPEYE』本誌に掲載された介護のしごと魅力発信等事業 タイアップ記事のほか、福祉をたずねるクリエイティブマガジン(こここ)の連載「自分らしく生きるを支えること」の記事が掲載されています。

PDFデータがポータルサイトよりダウンロード可能です。右下のリンク先下部のダウンロードはこちらからご覧ください。

ポータルサイトはこちら

自治体発！ 介護のしごとの魅力発信の取組

各自治体から寄せられた介護のしごとの魅力発信に関する取組(イベント・Webコンテンツ制作等)を紹介し、ぜひ、足を運んだり、Webサイトにアクセスしたりして介護のしごに慣れてみてください。

栃木県 栃木県介護の魅力発信動画「ミドル世代転職～このままでいいの?～」 YouTubeにて公開中!

介護のイメージアップと、「とちぎ介護人材育成認定制度」の周知促進の動画を制作しました。テーマは「ミドル世代転職～このままでいいの?～」です。今回は第1弾「男性転職編」。ショート動画は第3弾まで企画しています。

「とちぎ介護人材育成認定制度」は、人材育成や職場定着に切り組む介護事業所を単独認証し、公表する制度です。4分野16項目の認証基準すべてをクリアし、「3つ星」を取得した法人で連絡会を開催し、制度の発展や周知、介護のイメージアップなど様々なテーマについて検討しています。

本動画は、シナリオの作成、撮影から編集まで全て3つ星法人連絡会のメンバーと事務局で行いました。出演者は実際に施設で働く職員です。

(Story) 営業職を20年近く続けてきた主人公「認証基大」は社会人人生の折り返しにさしかかり、毎日の繰り返しの疑問を抱いていた。やりがいとは何なのか、そんな自問自答をする転職活動で介護の仕事と出会い、生き生きと活躍する現在までを描く。

動画視聴はこちら

その他の介護の魅力発信動画はこちら

都道府県からの掲載希望を募集中!

動画やイベント、ポータルサイトなど、どんな内容も大歓迎です。本レターへの取組掲載をご希望の都道府県の方は、こちらのフォーム、または右の二次元コードより情報提供をお願いします。

No. 8 February 2026 Page 1

なるほどカイゴ

令和7年度介護のしごと魅力発信等事業 ニュースレター

厚生労働省補助事業「介護のしごと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と題のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通して、介護のしごとの魅力を伝えます。キャリア・進路の選択の一助として、介護のしごとの魅力をお伝えします。

2月22日(日)開催!
KAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025 ~ケアの魅力、ここから広がる~

「伝える力が介護の未来をつくる。」
介護の現場には、まだ社会に届いていない魅力や物語が数多くあります。それらは、日々のケアの中で生まれる気づきや感情、そして現場に立つ人々の声から始まります。このたびはKAIGO LEADERS SCHOOL AWARD 2025を開催します。4か月にわたり、ライティング・SNS・場づくりを学んできた介護職員たちの成果を表彰するとともに、ゲストトークでは「伝えること」が表現することがケアや現場にもたらす可能性を探ります。ゲストは五人、漫画家の矢野龍渓氏、兵庫県立大学 環境人間学部 教授の竹内真由美氏をお迎えします。介護の現場から生まれた言葉や表現が、ここから、社会へと広がっていく一日、ぜひ会場で、その瞬間に立ち会ってください。

【日時】2026年2月22日(日)13:00~(開演12:30)
【開催形式】会場+オンライン配信 (ハイブリッド開催)
【会場】SHIBUYA QWS スクラブルホール (渋谷スクランブルスクエア15階)
【参加費】無料(事前申込制)

主催：株式会社blanket

映画「もう一步」YouTube再生回数124万回突破!

映画「もう一步」が、YouTubeでの再生回数124万回を突破しました。公開から約1か月半という短期間で、多くの方に視聴され、共感とともに広がりを見せています。再生回数という数値以上に、「多くの方に作品が届いた」という事実そのものを、私たちは大きな成果として受け止めています。本作は、KAIGO PRIDEのクリエイティブチームのみで完結したものではありません。ストーリー構築の段階から現役介護職の方に助言をいただき、多くにも、ライターや編集現場にも立ち会っていただき、細部にわたる確認を重ねながら制作されました。

現在展開されているアンパサダーによる上映会では、映画の鑑賞に加え、現役介護職によるトークなども行われ、作品の背景や現場の視点に直接触れる機会となっています。映画鑑賞体験に加え、現場の現場に触れる機会として、ぜひ各地の上映会に足をお運びください。

【今後の上映スケジュール】
2月6日(金) なみスクエア(福岡早稲田市)
2月7日(土) Spacethe 大塚51(北海道札幌市)
2月14日(土) 駒込会館(福島県山形市)
2月15日(日) 日本福祉大学 早田キャンパス(愛知県半田市)
2月26日(木) 東海ビッグサイト(東京都江東区)
2月28日(土) メルカつさまち(長崎県長崎市)
3月1日(日) 守口市図書館 丹形ホール(大阪府守口市)

お問い合わせは
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
株式会社blanket

「介護のしごと魅力発信等事業」とは
イベント、アニメ、Web配信 などの取組を通じて、各地に特化した情報発信を行うことにより、多くの団体が、福祉・介護の現場について発信し、社会を驚かせることにもつながる取組を実施し、介護のしごとの魅力を伝える取組です。

本ニュースレターは、厚生労働省補助事業「令和7年度介護のしごと魅力発信等事業(映画制作等事業)」を活用して、PwCコンサルティング合同会社が制作しました。

お問い合わせ先: PwCコンサルティング合同会社 編集部 (pwkagoinfo@pwc.com)

No. 8 February 2026 Page 2

なるほどカイゴ

令和7年度介護のしごと魅力発信等事業 ニュースレター

福祉をたずねるクリエイティブマガジン(ここ)にて、連載記事が公開中です。介護施設の実践やそこで働く人、ケアや老いをテーマにしたカルチャーコンテンツなど、「介護の世界」を訪ねます。「自分らしく生きる」を支える人、仕事、ふるまい、まなざし、葛藤に、出会ってみませんか。

読者アンケート実施中! アンケートにお答えくださった方から抽選で5名様は、ここなIPPINでも紹介した(ダブティ・デザイン)のアートハンカチ「Square world」をプレゼントいたします。

アンケート申込期限:2026年2月28日(土)
賞品発送:2026年3月予定

Vol.31 掲載画像
Vol.32 掲載画像

連載記事は
こちら

【最近の掲載記事】
・「自分らしく生きる」を支える人、仕事、ふるまい、まなざし、葛藤に、出会ってみませんか。
・「介護の世界」を訪ねます。
・「自分らしく生きる」を支える人、仕事、ふるまい、まなざし、葛藤に、出会ってみませんか。

自治体発! 介護のしごとの魅力発信の取組

各自治体から選り出された介護のしごとの魅力発信に関する取組(イベント・Webコンテンツ制作等)を紹介し、ぜひ、足を運んだり、Webサイトへアクセスしたりして介護のしごに魅かれてみてください。

秋田県 「LINK WALK in 秋田」動画を秋田県公式YouTubeチャンネルで公開中!

令和7年10月25日に開催した「LINK WALK in 秋田」の動画を、秋田県公式YouTubeチャンネルで公開しています。現役介護職やボランティアなど利用者様々々によるフットボールゲームイベントは、プロバスケットボールゲーム会場という特別な会場で開催されました。

メクアアプリには、化粧品会社や理髪業団体からの協力もいただき、業界の枠を越え介護という仕事のすばらしさを発信しました。当日のイベントの様子や、出演者の介護に対する熱い思いなどを収録しておりますので、是非ご覧ください。

動画は
こちら

No. 9 March 2026 Page 1

なるほどカイゴ

令和7年度介護のしごと魅力発信等事業 ニュースレター

厚生労働省補助事業「介護のしごと魅力発信等事業」の採択団体などが、「なるほど」と題のある福祉・介護のイベントやWebコンテンツを通して、介護のしごとの魅力を伝えます。キャリア・進路の選択の一助として、介護のしごとの魅力をお伝えします。

今年度最終号となる3月号では、令和7年度「介護のしごと魅力発信等事業」の採択団体で作成したコンテンツを一挙にご紹介します。

動画 ポータルサイト その他

短編映画「もう一步」
by 一般社団法人KAIGO PRIDE
誰もが直面する「介護の選択」を描く、家族と介護職の物語。現役介護職らがストーリー監修にも関わった現場の声から生まれた映画です。動画はこちら

技能五輪全国大会 エキシション「介護」職種に挑む高校生に密着!
by 株式会社朝日新聞社
技能五輪全国大会 エキシション「介護」職種に高校生が挑戦! 全国で介護・福祉を学ぶ仲間との思いも共有し、大会に向けて奮闘する姿に密着しました。動画はこちら

全国技能五輪「介護」職種に密着! 高校生に密着!
by 株式会社朝日新聞社
技能五輪全国大会 エキシション「介護」職種に高校生が挑戦! 全国で介護・福祉を学ぶ仲間との思いも共有し、大会に向けて奮闘する姿に密着しました。動画はこちら

介護のしごとPR動画
by 社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国社会福祉法人経営者協議会
「案外知らない! 介護のしごとの魅力」を紹介するモンショウコミックです。動画はこちら

介護職は 機械や仲間と 繋がる現場
by 株式会社朝日新聞社
「案外知らない! 介護のしごとの魅力」を紹介するモンショウコミックです。動画はこちら

介護職って 資格なし からもOK
by 株式会社朝日新聞社
「案外知らない! 介護のしごとの魅力」を紹介するモンショウコミックです。動画はこちら

能登 福祉と復興の記録
by 社会福祉法人全国社会福祉協議会
全国社会福祉法人経営者協議会
能登では、人と人とのつながりが、つくづくる災害に強い新しいまちづくりがはじまっています。社会福祉法人で働くスタッフが、地域の再生を志すたドキュメンタリーです。動画はこちら

「介護のしごと魅力発信等事業」とは
イベント、アニメ、Web配信 などの取組を通じて、各地に特化した情報発信を行うことにより、多くの団体が、福祉・介護の現場について発信し、社会を驚かせることにもつながる取組を実施し、介護のしごとの魅力を伝える取組です。

本ニュースレターは、厚生労働省補助事業「令和7年度介護のしごと魅力発信等事業(映画制作等事業)」を活用して、PwCコンサルティング合同会社が制作しました。

お問い合わせ先: PwCコンサルティング合同会社 編集部 (pwkagoinfo@pwc.com)

No. 9 March 2026 Page 2

なるほどカイゴ

令和7年度介護のしごと魅力発信等事業 ニュースレター

動画 ポータルサイト その他

The VOICE of KAIGO
by 一般社団法人KAIGO PRIDE
現役介護職アンパサダーがオンラインで集まり、介護の魅力や社会的テーマを語り合う様子をライブ配信。アーカイブも公開しています。動画はこちら

介護のしごときっかけファイル「介護職に就いた、ワタシの理由」
by 株式会社PwC
介護職に就いた人の経験のきっかけや、経路前と今の気持ち、生活の変化をインタビュー動画としました。動画はこちら

介護の仕事魅力発信ポータル「知る。わかる。介護のしごと」
by 楽天グループ株式会社
介護に関わる仕事の最新情報と魅力を発信することを目的に、人気マンガ家とのタイアップコンテンツ、経験職や読者のリアルな声など、多様なコンテンツを掲載するポータルサイトです。動画はこちら

これからKAIGO
by 株式会社朝日新聞社
アクティブシニアの方や子育てを続けた方、第2の人生のスタートを控えたミドル層の方を主な対象に多種多様な仕事や働き方、そして仕事の魅力を伝えることに、介護事業者の方に「多様な働き方ができる職場づくりのヒント」や「PwCソリューションの先進事例」など有益な情報をお伝えします。動画はこちら

「自分たちの」もっと繋がる
これからKAIGO
by 株式会社朝日新聞社
「自分たちの」もっと繋がる。動画はこちら

クリエイティブマガジン(ここ)連載「自分らしく生きる」を支えるしごと
by 株式会社マガジンハウス
福祉をたずねるクリエイティブマガジン(ここ)にて、連載記事が公開中。介護施設の実践やそこで働く人、ケアや老いをテーマにしたカルチャーコンテンツなど、「介護の世界」を訪ねます。動画はこちら

福祉・介護をテーマにしたスペシャルブックレット
by 株式会社マガジンハウス
マガジンハウス「anan」「POPEYE」編集部が、全国でさまざまな介護・福祉施設に取材した仕事場(施設・事業所)と働く人々の取材した記事をもとめた、スペシャルブックレットです。ダウンロードはこちら

「介護のしごと魅力発信等事業」とは
イベント、アニメ、Web配信 などの取組を通じて、各地に特化した情報発信を行うことにより、多くの団体が、福祉・介護の現場について発信し、社会を驚かせることにもつながる取組を実施し、介護のしごとの魅力を伝える取組です。

本ニュースレターは、厚生労働省補助事業「令和7年度介護のしごと魅力発信等事業(映画制作等事業)」を活用して、PwCコンサルティング合同会社が制作しました。

お問い合わせ先: PwCコンサルティング合同会社 編集部 (pwkagoinfo@pwc.com)

No. 9
March
2026
Page 3

なるほどカイゴ

令和7年度介護のしくみと魅力発信事業「ユニークシニア」

令和7年度コンテンツ総集編

動画
ポータルサイト
その他

KAIGO LEADERS SCHOOL受講生による作品

by 株式会社Blanket

KAIGO LEADERS SCHOOLの受講生が4か月かけて「介護・福祉の仕事の魅力伝える」ことに挑戦。現場で働く介護職員である受講生の様々な視点からアウトプットが展開されました。

●SNS講座
介護・福祉の仕事に熱心を持ってもらうことを目的に、仕事魅力を短い動画で伝えた作品を作成

作品は
[こちら](#)

●ライティング講座
「介護のしごとが教えてくれたこと」をテーマに書かれたエッセイ記事とインタビュー記事を作成

作品は
[こちら](#)

●講座内容のショート動画
プロのライター、動画編集者やコミュニティデザイナーによる講座内容の一部をショート動画で紹介

●場づくり講座
介護・福祉と地域の住民が関わりを通じて仕事の魅力が伝わっていくような取り組みを企画・実施

動画は
[こちら](#)

漫画「君の旅が、どうか」

by 深天グループ株式会社

道徳に悩む高校生・冬月透真は、力強い歌声を持つバンドのボーカル・重と出会う。やがて透真は、彼女の意外な一面を知ること。働くことの意味、そして「介護のしごとの本質」を問うかける物語。彼女との出会いが、透真たちの心にどんな影響を与えるのか。

マンガは
[こちら](#)

**2040年のサバイバル
—介護の未来編—**

by 株式会社朝日新聞社

大人気シリーズ「リバイバル」を活用したオリジナル冊子。子どもたちの関心が高い「ロボット」や最新技術を切り口に、福祉・介護について楽しく学べます。

冊子は
[こちら](#)

付属資料 4. 「介護の仕事に関するアンケート調査」集計表

1. WEBモニター調査

(1) スクリーニング調査

表 159 職業

Q1	あなたのご職業について、最も当てはまるものをお選びください。	R7 (Q1)	R6 (Q1)	R5 (Q1)
1	会社員(正社員)	34.6	36.3	38.5
2	会社員(契約社員など)	6.1	6.5	N/A
3	会社役員・経営者	1.9	1.7	1.6
4	パート・アルバイト	15.9	17.9	17.3
5	専業主婦・主夫	11.5	11.1	12.0
6	自営業	6.3	5.5	6.0
7	公務員	2.8	2.5	3.0
8	学生(中学生)	0.1	0.1	0.3
9	学生(福祉系の高校生)	0.0	0.0	0.1
10	学生(上記以外の高校生、高専生)	0.5	0.7	1.3
11	学生(福祉系の専門学校生、短大生、大学生、大学院生)	0.3	0.3	0.5
12	学生(上記以外の専門学校生、短大生、大学生、大学院生)	0.9	1.0	1.7
13	無職	17.8	15.2	15.1
14	その他	1.3	1.1	2.7
	全体	36011	40,813	36,000

表 160 子ども(就職前)の人数

Q2	子ども(就職前)の人数について、お答えください。就職前のお子さんがいらっしゃらない場合は「0(ゼロ)」を入力してください。								
		全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
	R7(Q2)	36011	36011	16503	0.46	0.924	0	20	0
	R6(Q2)	40,813	40,813	20,188	0.49	0.928	0	15	0
	R5(Q2)	36,000	36,000	18,035	0.50	0.937	0	20	0

表 161 介護との関わり

Q3	あなたと介護との関わりについて、以下から当てはまるものを全てお選びください。	R7 (Q3)	R6 (Q3)	R5 (Q3)
1	現在、介護の仕事をしている	3.2	3.4	3.5
2	過去に介護の仕事をしたことがある	3.1	3.3	3.3
3	介護の仕事に関する研修を受けたことがある	3.0	2.9	N/A
4	介護の仕事に就いている(就いていた)親族がいる	2.4	2.6	3.3
5	介護の仕事に就いている(就いていた)友人がいる	1.9	2.3	2.4
6	介護の現場でボランティアをしている(したことがある)	1.1	1.2	1.4
7	介護の現場で実習に参加している(したことがある)	1.5	1.6	1.9
8	介護の現場で職場体験・インターンシップに参加している(したことがある)	0.8	N/A	N/A
9	介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)※研修を除く	1.8	2.2	2.6
10	自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	11.2	10.8	9.5
11	自分の親族内での介護(親が祖父母の介護をしているシーンなど)を見たことが	6.4	6.7	6.3
12	自分が介護される立場である(だったことがある)	0.8	0.8	0.8
13	親や家族などの介護のことに関心がある	11.9	12.5	12.1
14	自分の介護のことに関心がある	8.4	8.3	7.6
15	その他	0.2	0.2	0.3
16	該当するものはない(介護との関わりや介護への関心はない)	65.1	64.8	65.8
	全体	36011	40,813	36,000

表 162 介護の仕事に対するポジティブなイメージ

Q4	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ポジティブなイメージ)	R7 (Q4)	R6	R5
1	社会的意義が大きい	37.3	N/A	N/A
2	社会的評価が高い	9.1	N/A	N/A
3	やりがいがある	8.7	N/A	N/A
4	かっこいい	2.5	N/A	N/A
5	クリエイティブである	1.9	N/A	N/A
6	仕事内容が楽しい	1.6	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かしやすい	8.3	N/A	N/A
8	昇進やキャリアアップの機会が多い	1.4	N/A	N/A
9	未経験でも始められる	8.1	N/A	N/A
10	雇用が安定している	6.1	N/A	N/A
11	職場の人間関係が良い	1.1	N/A	N/A
12	給与が良い	1.6	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	1.4	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	3.0	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がある	4.8	N/A	N/A
16	家族に介護が必要になったときに頼りたい	27.7	N/A	N/A
17	その他	0.8	N/A	N/A
18	ポジティブなイメージは特いない	38.5	N/A	N/A
	全体	36011	N/A	N/A

表 163 介護の仕事に対するネガティブなイメージ

Q5	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ネガティブなイメージ)	R7 (Q5)	R6	R5
1	社会的意義が小さい	2.8	N/A	N/A
2	社会的評価が低い	26.1	N/A	N/A
3	やりがいがない	6.4	N/A	N/A
4	仕事内容が楽しくない	17.7	N/A	N/A
5	専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	3.4	N/A	N/A
6	昇進やキャリアアップの機会が少ない	10.2	N/A	N/A
7	未経験で就職するにはハードルが高い	11.7	N/A	N/A
8	雇用が安定していない	8.3	N/A	N/A
9	職場の人間関係が悪い	12.0	N/A	N/A
10	体力的負担が大きい	56.7	N/A	N/A
11	精神的負担が大きい	47.8	N/A	N/A
12	給与が低い	48.3	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	18.3	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	5.5	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がない	4.3	N/A	N/A
16	その他	0.4	N/A	N/A
17	ネガティブなイメージは特いない	19.9	N/A	N/A
	全体	36011	N/A	N/A

(2) 介護職

表 164 介護の仕事に対するポジティブなイメージ

SCR4	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ポジティブなイメージ)	R7 (Q4)	R6	R5
1	社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)	41.2	N/A	N/A
2	社会的評価が高い	14.3	N/A	N/A
3	やりがいがある	29.2	N/A	N/A
4	かっこいい	7.0	N/A	N/A
5	クリエイティブである	6.9	N/A	N/A
6	仕事内容が楽しい	11.1	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かしやすい	19.2	N/A	N/A
8	昇進やキャリアアップの機会が多い	5.2	N/A	N/A
9	未経験でも始められる	22.2	N/A	N/A
10	雇用が安定している	16.6	N/A	N/A
11	職場の人間関係が良い	7.5	N/A	N/A
12	給与が良い	3.7	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	10.1	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	6.2	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がある	6.7	N/A	N/A
16	家族に介護が必要になったときに頼りたい	19.1	N/A	N/A
17	その他	0.9	N/A	N/A
18	ポジティブなイメージは特いない	20.6	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

表 165 介護の仕事に対するネガティブなイメージ

SCR5	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ネガティブなイメージ)	R7 (Q5)	R6	R5
1	社会的意義が小さい(社会の役に立つことができない)	13.3	N/A	N/A
2	社会的評価が低い	40.7	N/A	N/A
3	やりがいがない	14.4	N/A	N/A
4	仕事内容が楽しくない	19.8	N/A	N/A
5	専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	10.3	N/A	N/A
6	昇進やキャリアアップの機会が少ない	17.1	N/A	N/A
7	未経験で就職するにはハードルが高い	10.0	N/A	N/A
8	雇用が安定していない	11.6	N/A	N/A
9	職場の人間関係が悪い	22.5	N/A	N/A
10	体力的負担が大きい	50.6	N/A	N/A
11	精神的負担が大きい	43.8	N/A	N/A
12	給与が低い	57.5	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	19.1	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	10.1	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がない	12.2	N/A	N/A
16	その他	1.0	N/A	N/A
17	ネガティブなイメージは特いない	7.8	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

表 166 兼業・副業の有無

Q1	兼業または副業の有無を教えてください。	R7 (Q1)	R6 (Q1)	R5 (Q1)
1	あり(介護系)	55.0	53.4	N/A
2	あり(介護系以外)	6.3	5.4	N/A
3	なし	38.7	41.2	N/A
	全体	902	1,000	N/A

表 167 現在の年収

Q2	現在の年収を教えてください。(兼業・副業を含む)	R7 (Q2)	R6 (Q2)	R5 (Q2)
1	100万円未満	6.9	7.7	6.4
2	100～200万円未満	12.7	11.8	13.5
3	200～300万円未満	12.7	16.3	15.7
4	300～400万円未満	19.2	20.3	20.8
5	400～500万円未満	17.2	13.6	11.6
6	500～600万円未満	8.6	8.8	8.4
7	600～700万円未満	4.3	3.3	4.1
8	700～800万円未満	2.8	2.1	2.7
9	800万円以上	3.1	3.8	4.2
10	回答しない	12.4	12.3	12.6
	全体	902	1,000	1,000

表 168 現在の勤務地

Q3	勤務地を教えてください。	R7 (Q3)	R6 (Q5)	R5 (Q3)
1	北海道	5.4	5.5	5.1
2	青森県	0.8	1.1	1.2
3	岩手県	1.1	1.3	0.9
4	宮城県	1.2	1.8	2.0
5	秋田県	1.1	0.7	0.7
6	山形県	0.9	0.8	1.1
7	福島県	1.2	0.6	1.4
8	茨城県	1.6	2.0	2.0
9	栃木県	1.4	1.5	0.8
10	群馬県	1.6	2.0	1.6
11	埼玉県	6.0	4.7	6.0
12	千葉県	4.1	5.0	3.4
13	東京都	13.1	11.1	12.1
14	神奈川県	6.5	5.3	5.6
15	新潟県	1.6	1.1	1.6
16	富山県	1.4	1.2	1.2
17	石川県	0.4	0.8	0.8
18	福井県	0.3	0.4	0.2
19	山梨県	0.2	0.5	0.4
20	長野県	1.1	1.6	1.4
21	岐阜県	2.0	1.3	1.8
22	静岡県	1.8	2.2	1.8
23	愛知県	7.0	6.8	7.3
24	三重県	1.1	1.6	1.7
25	滋賀県	0.8	1.0	0.7
26	京都府	1.2	2.5	2.5
27	大阪府	10.2	9.2	8.8
28	兵庫県	5.5	5.2	5.5
29	奈良県	1.6	1.1	1.3
30	和歌山県	0.6	0.4	0.4
31	鳥取県	0.2	0.7	0.5
32	島根県	0.9	1.1	0.6
33	岡山県	1.2	1.9	1.3
34	広島県	2.7	3.7	3.2
35	山口県	0.4	0.9	1.0
36	徳島県	1.1	1.5	1.1
37	香川県	0.3	0.6	0.4
38	愛媛県	1.0	1.0	0.8
39	高知県	0.3	0.8	0.5
40	福岡県	4.0	3.3	3.7
41	佐賀県	0.3	0.4	0.2
42	長崎県	0.9	1.1	1.2
43	熊本県	1.0	0.4	1.0
44	大分県	0.7	0.5	0.8
45	宮崎県	0.1	0.4	0.9
46	鹿児島県	1.4	0.8	0.8
47	沖縄県	0.6	0.6	0.7
	全体	902	1,000	1,000

表 169 雇用形態

Q5	現在の雇用形態を教えてください。	R7 (Q5)	R6 (Q7)	R5 (Q5)
1	正規職員	68.8	68.2	70.3
2	契約職員(有期労働)	4.5	5.8	4.6
3	パートタイム職員(短時間労働)	23.5	22.6	21.6
4	派遣職員(派遣会社が雇用)	3.1	3.4	3.5
	全体	902	1,000	1,000

表 170 事業所の種類

Q6	現在勤務している事業所の種類を教えてください。	R7 (Q6)	R6 (Q8)	R5 (Q6)
1	施設系(特別養護老人ホームなど)	36.7	36.9	34.4
2	居住系(有料老人ホーム、サ高住など)	15.9	14.4	14.2
3	通所系	14.1	15.5	14.7
4	訪問系	10.8	9.5	10.4
5	居宅介護支援事業所	4.2	5.1	4.5
6	医療関係	6.9	8.0	10.0
7	障害者・障害児福祉関係	8.2	8.0	8.9
8	その他	3.3	2.6	2.9
	全体	902	1,000	1,000

表 171 職位・職階

Q7	現在の職場での職位・職階を教えてください。	R7 (Q7)	R6 (Q9)	R5 (Q7)
1	経営層	3.3	3.9	4.1
2	管理職	12.2	9.3	10.5
3	主任・(サブ)リーダーなどの職場のまとめ役	14.6	13.7	13.9
4	一般職	65.3	70.0	66.6
5	その他	4.5	3.1	4.9
	全体	902	1,000	1,000

表 172 業務内容

Q8	現在の業務内容を教えてください。	R7 (Q8)	R6 (Q10)	R5 (Q8)
1	マネジメント(経営関連)	15.1	13.5	13.3
2	現場でのチームマネジメント	19.0	18.3	17.5
3	他職員への指導	22.8	22.5	21.7
4	利用者のケアのマネジメント(ケアプラン・介護計画の作成等)	22.8	20.2	19.8
5	利用者の介護	64.5	69.7	65.4
6	介護の周辺業務(介護助手など)	24.7	27.4	27.0
7	その他	7.2	4.6	7.6
	全体	902	1,000	1,000

表 173 保育資格等

Q9	保育資格等(業務に関連するもの)を教えてください。	R7 (Q9)	R6 (Q11)	R5 (Q9)
1	介護に関する入門的研修	14.6	12.0	12.7
2	介護職員初任者研修(またはホームヘルパー2級)	34.8	37.3	33.6
3	介護福祉士実務者研修	22.0	18.5	19.5
4	生活援助従事者研修	6.3	6.3	6.5
5	社会福祉主事任用資格	11.1	10.9	11.4
6	介護福祉士	44.9	47.3	44.2
7	認定介護福祉士	4.4	3.8	4.0
8	介護支援専門員(ケアマネジャー)	15.6	15.7	13.1
9	社会福祉士	9.3	7.9	7.1
10	理学療法士(PT)	4.8	4.5	4.0
11	作業療法士(OT)	4.0	3.8	3.6
12	言語聴覚士(ST)	2.8	3.0	2.2
13	精神保健福祉士	3.7	3.0	2.0
14	正看護師	7.6	9.5	7.9
15	准看護師	4.0	3.2	3.9
16	保健師	3.3	2.7	2.5
17	保育士	2.8	2.8	3.3
18	その他	3.0	1.9	3.2
19	特になし	10.6	8.9	10.9
	全体	902	1,000	1,000

表 174 介護業界で働くことを考え始めた時期

Q10	介護業界で働くことを考え始めた時期を教えてください。	R7 (Q10)	R6 (Q24)	R5 (Q23)
1	中学生以下の時	3.3	6.1	5.8
2	高校生・高専生の時	15.7	13.8	15.5
3	専門学校生・短大生・大学生・大学院生の時(就職活動より前)	9.3	9.1	12.5
4	専門学校生・短大生・大学生・大学院生の時(就職活動を始めた後)	10.3	11.5	9.3
5	就職後(転職先として介護業界で働くことを検討した)	61.3	59.5	56.9
	全体	902	1,000	1,000

表 175 介護業界で働くことを考え始めたきっかけ

Q11	介護業界で働くことを考え始めたきっかけを教えてください。	R7 (Q11)	R6 (Q25)	R5 (Q24)
1	身近な人の介護をしたこと、見たこと	28.4	24.6	30.7
2	身近に介護の仕事をしている人がいたこと	19.1	23.2	25.9
3	職場体験・インターンシップなどで介護施設を訪問したこと	11.2	11.0	17.9
4	介護に関する授業を受けたこと	10.8	15.9	17.5
5	介護に関する研修(入門的研修、初任者研修など)を受けたこと	13.2	16.0	N/A
6	介護の現場でボランティア活動(有償/無償)をしたこと	10.5	10.6	N/A
7	家族や友人、知人から勧められたこと	16.6	N/A	N/A
8	新聞や雑誌、インターネット等で介護の仕事について知ったこと	6.9	12.0	17.0
9	就職先を探している時に介護の仕事に関する求人情報が目に入ったこと	27.9	26.6	N/A
10	その他	6.7	7.7	15.1
	全体	902	1,000	1,000

表 176 介護の仕事を選んだ理由（上位5つまで）

Q12	介護の仕事を選んだ理由を教えてください。(上位5つまで)	R7 (Q12)	R6 全体 (Q12)	1	2	3	4	5
				とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	社会的な意義が大きい仕事だと思ったから	23.8	1,000	18.8	34.7	30.5	10.7	5.3
2	やりがいのある仕事だと思ったから	29.0	1,000	20.6	40.9	25.9	8.7	3.9
3	人の役に立つ仕事だと思ったから	34.5	1,000	21.8	43.9	23.5	7.4	3.4
4	資格や専門知識を活かすことができる仕事だと思ったから	22.0	1,000	18.1	42.1	30.4	6.3	3.1
5	介護の現場で自分の人生経験を活かせるのではないかと考えたから	12.2	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
6	自分に向いている仕事だと思ったから	16.5	1,000	16.5	34.1	36.1	9.1	4.2
7	自分にもできる仕事だと思ったから	20.7	1,000	16.5	42.2	32.3	6.3	2.7
8	ワークライフバランスを確保しながら働ける業界だと思ったから	8.1	1,000	13.3	29.9	40.3	11.1	5.4
9	今後成長していく業界だと思ったから	10.3	1,000	13.7	34.4	38.6	8.9	4.4
10	雇用不安の少ない業界だと思ったから	16.1	1,000	18.4	36.0	35.9	6.1	3.6
11	家族など身近な人が介護の仕事に就いていたから	8.3	1,000	11.2	23.2	36.4	14.4	14.8
12	高齢者と接するのが好きだから	9.3	1,000	13.4	29.5	40.1	10.3	6.7
13	地元で働きたい/地元で貢献したいから	9.4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
14	その他	4.4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体	902						

Q12	介護の仕事を選んだ理由を教えてください。(上位5つまで)	R5 全体 (Q10)	1	2	3	4	5
			とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	社会的な意義が大きい仕事だと思ったから	1,000	22.4	33.2	29.9	8.2	6.3
2	やりがいのある仕事だと思ったから	1,000	22.6	40.4	25.4	6.5	5.1
3	人の役に立つ仕事だと思ったから	1,000	24.3	38.7	27.1	5.1	4.8
4	資格や専門知識を活かすことができる仕事だと思ったから	1,000	19.8	38.1	29.8	6.9	5.4
5	介護の現場で自分の人生経験を活かせるのではないかと考えたから	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
6	自分に向いている仕事だと思ったから	1,000	18.8	33.6	35.3	6.5	5.8
7	自分にもできる仕事だと思ったから	1,000	17.0	41.9	33.1	3.9	4.1
8	ワークライフバランスを確保しながら働ける業界だと思ったから	1,000	14.2	29.2	40.4	9.3	6.9
9	今後成長していく業界だと思ったから	1,000	14.9	33.6	38.2	8.0	5.3
10	雇用不安の少ない業界だと思ったから	1,000	17.0	37.1	35.4	5.6	4.9
11	家族など身近な人が介護の仕事に就いていたから	1,000	12.4	23.1	33.8	13.6	17.1
12	高齢者と接するのが好きだから	1,000	15.9	27.9	40.3	8.2	7.7
13	地元で働きたい/地元で貢献したいから	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
14	その他	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体						

※令和6年度以前は設問形式が異なっているが、参考として掲載。

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度および令和6年度の調査結果、下段には令和5年度の調査結果を掲載している。

表 177 現在の職場（勤務先）を選んだ理由（上位5つまで）

Q13	現在の職場（勤務先）を選んだ理由を教えてください。(上位5つまで)	R7 (Q13)	R6 全体	1	2	3	4	5
				とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	通勤に便利だから	53.3	1,000	30.4	35.5	23.6	6.9	3.6
2	給与が良かったから	19.6	1,000	11.7	28.3	35.6	15.4	9.0
3	キャリアアップ・スキルアップができるから	18.4	1,000	9.7	22.8	45.7	13.1	8.7
4	勤務時間に融通が効きそうだったから	22.1	1,000	15.7	33.4	35.3	10.0	5.6
5	休暇が取りやすそうだったから	17.6	1,000	14.0	29.7	39.6	11.0	5.7
6	職場の雰囲気・人間関係が良さそうだったから	22.1	1,000	13.6	31.2	42.5	8.1	4.6
7	福利厚生が整ってそうだったから	14.4	1,000	11.7	26.6	43.6	10.7	7.4
8	経費が安定していそうだったから	16.2	1,000	11.4	31.3	42.9	8.9	5.5
9	知人や友人が在籍していたから	10.3	1,000	11.0	20.4	36.1	13.5	19.0
10	その他	4.7	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体	902						

Q13	現在の職場（勤務先）を選んだ理由を教えてください。(上位5つまで)	R5 全体	1	2	3	4	5
			とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	通勤に便利だから	1,000	29.3	33.8	25.2	6.4	5.3
2	給与が良かったから	1,000	12.8	27.9	36.6	13.7	9.0
3	キャリアアップ・スキルアップができるから	1,000	12.1	21.9	43.0	14.1	8.9
4	勤務時間に融通が効きそうだったから	1,000	17.2	31.4	36.4	9.4	5.6
5	休暇が取りやすそうだったから	1,000	13.1	29.1	39.9	11.2	6.7
6	職場の雰囲気・人間関係が良さそうだったから	1,000	14.8	31.0	41.2	7.3	5.7
7	福利厚生が整ってそうだったから	1,000	13.1	28.5	41.1	10.0	7.3
8	経費が安定していそうだったから	1,000	12.2	30.9	41.0	9.9	6.0
9	知人や友人が在籍していたから	1,000	10.9	19.1	36.2	11.7	22.1
10	その他	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体						

※令和6年度以前は設問形式が異なっているが、参考として掲載。

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度および令和6年度の調査結果、下段には令和5年度の調査結果を掲載している。

表 178 現在の職場（勤務先）を知ったきっかけ

Q14	現在の職場（勤務先）を知ったきっかけを教えてください。	R7 (Q14)	R6 (Q16)	R5 (Q14)
1	親族や知人の紹介	29.4	31.8	31.3
2	勤務先事業所のHP	14.1	17.7	18.3
3	就活サイトや転職サイトなどのWEBサイト（事業所HPを除く）	21.6	22.3	26.5
4	実習、インターンシップ	11.3	10.3	N/A
5	ボランティア	6.7	7.9	N/A
6	合同企業説明会	7.4	8.5	11.2
7	新聞、折込チラシ、フリーペーパー	12.3	12.5	12.2
8	人材紹介会社（転職エージェント等）	11.5	15.7	14.7
9	職業安定所（ハローワーク）	20.2	25.2	23.2
10	その他	3.9	4.1	5.9
	全体	902	1,000	1,000

表 179 現在の職場（勤務先）での業務内容・働き方の満足度

Q15	現在の職場（勤務先）での業務内容・働き方に対して、満足している項目/不満がある項目について教えてください。（各項目について当てはまるものをすべて選んでください）	全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			業務内容 (仕事の やりがい)	通勤時の 利便性	給与水準	キャリア アップ・ス キルアップ の機会	勤務時間 の融通の 利きやす さ	休暇の取 りやすさ	職場の雰 囲気・人 間関係	福利厚生 の充実度	経営の安 定度	その他	満足して いる/不 満がある 項目はな い
R7	満足している	902	58.6	59.2	29.8	34.6	48.2	46.9	47.3	32.2	35.0	22.6	10.0
R7	不満がある	902	27.2	21.8	48.7	34.0	22.8	26.6	25.6	35.9	31.5	27.8	20.3
R6	満足している	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
R6	不満がある	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
R5	満足している	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
R5	不満がある	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

表 180 介護業界への就職の仕方

Q16	ご自身の介護業界への就職の仕方について教えてください。回答の際は、以下例示を参考に選択肢をお選びください。 例1：新卒で介護業界に就職し、育児等の家庭の事情で仕事を離れた後、再度介護職として働いている場合は、「新卒からずっと介護業界」を選択 例2：新卒ですぐ就職していない場合（無職の期間があった場合）などは、「その他」を選択	R7 (Q16)	R6	R5
1	新卒からずっと介護業界	27.2	N/A	N/A
2	新卒で介護業界に就職し、他の業界に転職したものの、介護業界に戻ってきた	13.7	N/A	N/A
3	新卒で他の業界に就職し、介護業界に転職してきた	54.1	N/A	N/A
4	その他	5.0	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

表 181 介護業界内での転職回数

Q17	介護業界内での転職回数を教えてください。	全体	統計量母 数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
		902	902	2178	2.41	3.038	0	50	2
		1,000	1,000	2,055	2.06	2.231	0	20	1
		1,000	1,000	1,992	1.99	2.238	0	25	1

表 182 介護業界内での転職回数

NQ17T 1	介護業界内での転職回数を教えてください。	R7 (NQ17T1)	R6 (Q18T1)	R5 (Q4t3sa)
1	0回	21.0	28.6	28.0
2	1回	23.2	21.6	24.3
3	2回	17.8	16.0	17.2
4	3回以上	38.0	33.8	30.5
	全体	902	1,000	1,000

表 183 働いたことがある業種

Q18	これまでに働いたことがある業種を教えてください。	R7 (Q18)	R6 (Q19)	R5 (Q16)
1	福祉(介護の仕事)	62.1	71.2	46.9
2	福祉(介護の仕事以外)	17.7	25.6	19.3
3	医療	19.3	N/A	N/A
4	農業、林業、漁業	2.4	4.6	7.5
5	鉱業、採石業、砂利採取業	N/A	1.5	2.1
6	建設業	5.4	4.8	6.1
7	製造業(メーカー)	12.6	11.6	15.2
8	電気・ガス・熱供給・水道業	2.2	1.5	2.0
9	情報通信業(通信・インターネット、メディア、情報サービスなど)	4.8	4.9	3.9
10	運輸業(鉄道、バス・タクシー、トラックなど)、郵便業	4.2	5.4	4.2
11	金融業、保険業	3.9	4.3	4.4
12	不動産業、物品賃貸業	1.7	2.0	1.6
13	教育、学習支援業	5.1	5.1	3.9
14	保安の職業(自衛官・警察官・消防員や警備など)	2.0	N/A	N/A
15	販売業(アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス)	12.0	8.0	7.9
16	飲食サービス業、宿泊業	14.1	9.9	10.6
17	生活関連サービス業、娯楽業(クリーニング、理美容、旅行業など)	4.8	3.3	7.5
18	専門・技術サービス業、学術研究(法律、会計、デザイン事務所など)	3.3	1.8	2.9
19	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	N/A	1.8	1.3
20	サービス業(他に分類されるものを除く)(廃棄物処理業、自動車整備業など)	7.6	18.0	17.5
21	公務(他に分類されるものを除く)	2.1	3.2	4.3
22	その他	4.4	2.6	3.0
	全体	902	1000	1000

表 184 現在の転職意向の有無

Q19	現在の転職意向の有無を教えてください。	R7 (Q19)	R6 (Q20)	R5 (Q19)
1	転職活動をしている(情報収集等を行っている)	20.2	18.6	20.5
2	転職を検討している(情報収集等は始めている)	26.4	26.3	25.5
3	転職は考えていない	53.4	55.1	54.0
	全体	902	1,000	1,000

表 185 転職を検討している理由(上位5つまで)

Q20	現在転職を検討している理由を教えてください。(上位5つまで)	R7 (Q20)	R6 (Q21)	R5 (Q20)
1	仕事にやりがいを感じないから	24.8	24.7	26.7
2	負担の大きい仕事だから	36.2	39.9	41.3
3	自分の資格・スキルを生かすことができないから	18.8	21.4	24.1
4	通勤が不便だから	19.3	19.4	17.4
5	給与が低いから	46.4	47.9	45.7
6	勤務時間に融通が利かないから	11.4	9.6	12.6
7	休暇が取りにくいから	14.8	16.5	20.2
8	職場の人間関係が悪いから	20.7	22.0	18.7
9	勤務環境に不満があったから	13.8	16.7	19.3
10	企業・事業所の理念が合わないから	10.0	8.9	10.2
11	会社の将来性・安定性に不安があるから	10.5	12.2	13.3
12	雇用形態(正社員/契約社員/派遣社員)を変えたいから	4.5	8.7	7.2
13	定年を迎えた、または契約期間が満了となるから	2.6	3.1	3.5
14	結婚や出産等の環境の変化がある(あった)から	3.6	4.9	7.0
15	配偶者の転勤等により、勤務地を変えたいから	2.9	3.3	2.2
16	他のキャリアを歩みたいから(他にやりたい仕事があるから)	5.7	N/A	N/A
17	その他	2.4	2.4	2.8
	全体	420	449	460

表 186 転職先として考えている業種

Q21	転職先として考えている業種を教えてください。	R7 (Q22)	R6 (Q22)	R5 (Q21)
1	福祉(介護の仕事)	43.3	53.2	49.3
2	福祉(介護の仕事以外)	22.1	29.8	27.4
3	医療	15.7	N/A	N/A
4	農業、林業、漁業	4.3	11.4	8.4
	鉱業、採石業、砂利採取業	N/A	4.2	3.3
5	建設業	7.1	4.9	4.6
6	製造業(メーカー)	8.8	9.8	8.0
7	電気・ガス・熱供給・水道業	6.4	4.0	3.3
8	情報通信業(通信・インターネット、メディア、情報サービスなど)	6.9	8.5	5.4
9	運輸業(鉄道、バス・タクシー、トラックなど)、郵便業	6.0	4.9	4.3
10	金融業、保険業	5.2	3.3	2.8
11	不動産業、物品賃貸業	3.6	4.2	3.0
12	教育、学習支援業	6.0	5.6	6.1
13	保安の職業(自衛官・警察官・消防員や警備など)	4.0	N/A	N/A
14	販売業(アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス)	7.4	5.1	4.8
15	飲食サービス業、宿泊業	6.7	9.6	6.3
16	生活関連サービス業、娯楽業(クリーニング、理美容、旅行業など)	6.7	9.8	10.0
17	専門・技術サービス業、学術研究(法律、会計、デザイン事務所など)	6.0	4.0	3.0
	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	N/A	4.9	4.8
18	サービス業(他に分類されるものを除く)(廃棄物処理業、自動車整備業など)	9.0	13.1	10.0
19	公務(他に分類されるものを除く)	3.6	4.2	2.2
20	その他	0.2	1.1	0.9
21	特に決めていない	12.1	11.1	10.0
	全体	420	449	460

表 187 スポットワークアプリでの介護アルバイト経験の有無

Q22	現在の事業所で働くより前に、スポットワークアプリで介護のアルバイトをしたことがありますか。	R7 (Q22)	R6 (Q23)	R5
1	ある(現在勤めている事業所でスポットワークをしていた)	18.7	15.6	N/A
2	ある(現在勤めている事業所以外でスポットワークをしていた)	13.7	9.4	N/A
3	ない	71.7	75.0	N/A
	全体	902	1000	N/A

表 188 身近な人が介護を必要としたときの支え合いについて

Q23	将来、自分や家族など身近な人が介護を必要としたとき、どのような支え合いが理想だと思いますか。(自分/家族など身近な人それぞれについて当てはまるものを1つ選んでください)	R7 全体 (Q23)	1	2	3	4	5
			家族で支え合いたい	家族で支え合うことを中心に、必要などころは介護サービスに任せたい	介護サービスを中心に、家族で支え合えるところは任せたい	介護サービスに任せたい	わからない
Q23S1	自分が介護を必要としたとき	902	21.7	17.0	17.7	21.6	22.0
Q23S2	家族など身近な人が介護を必要としたとき	902	21.1	25.3	19.1	13.9	20.7
Q23	将来、自分や家族など身近な人が介護を必要としたとき、どのような支え合いが理想だと思いますか。(自分/家族など身近な人それぞれについて当てはまるものを1つ選んでください)	R6 全体	1	2	3	4	5
			家族で支え合いたい	家族で支え合うことを中心に、必要などころは介護サービスに任せたい	介護サービスを中心に、家族で支え合えるところは任せたい	介護サービスに任せたい	わからない
Q23S1	自分が介護を必要としたとき	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q23S2	家族など身近な人が介護を必要としたとき	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度の調査結果、下段には令和6年度および令和5年度の調査結果を掲載している。

表 189 介護の仕事に対するイメージ

Q24	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R7 全体 (Q24)	1					2					3					4					5					無回答
			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い						
Q24S1	社会的意義の大きさ(社会の役に立つことができる)	901	25.1	36.1	22.9	2.7	0.4	12.9																				
Q24S2	社会的評価の高さ	901	12.0	25.9	24.4	14.8	10.1	12.9																				
Q24S3	やりがいの大きさ	901	16.2	32.9	28.5	6.9	2.7	12.9																				
Q24S4	かっこよさ	901	7.2	16.5	32.6	19.4	11.3	12.9																				
Q24S5	クリエイティブさ	901	7.5	17.9	35.1	16.9	9.8	12.9																				
Q24S6	仕事内容の楽しさ	901	9.2	24.6	32.1	14.4	6.8	12.9																				
Q24S7	資格や専門知識の活かしやすさ	901	14.4	36.2	29.2	6.0	1.3	12.9																				
Q24S8	昇進やキャリアアップの機会の多さ	901	9.3	22.9	35.0	13.3	6.7	12.9																				
Q24S9	未経験での始めやすさ	901	17.6	33.2	27.9	6.2	2.2	12.9																				
Q24S10	雇用の安定について	901	15.8	31.9	30.0	7.2	2.3	12.9																				
Q24S11	職場の人間関係について	901	9.9	22.9	35.0	12.9	6.5	12.9																				
Q24S12	体力的負担について	901	9.1	17.9	22.9	21.5	15.8	12.9																				
Q24S13	精神的負担について	901	8.7	17.4	26.0	20.2	14.9	12.9																				
Q24S14	給与について	901	5.8	20.0	23.8	18.3	19.3	12.9																				
Q24S15	勤務日や勤務時間に融通の利きやすさ 働きやすさ	901	10.7	29.4	32.0	10.4	4.7	12.9																				
Q24S16	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上への取組	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A																				
Q24S17	業界の成長性・将来性	901	6.4	18.1	36.5	15.8	10.3	12.9																				
			7.2	27.3	36.5	10.7	5.4	12.9																				
Q24	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R6 全体 (Q27)	1					2					3					4					5					無回答
			とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	とても良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	とても悪い	
Q24S1	社会的意義の大きさ(社会の役に立つことができる)	1,000	17.5	37.7	37.7	4.4	2.7	1,000	20.6	36.1	36.3	4.4	2.6															
Q24S2	社会的評価の高さ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A															
Q24S3	やりがいの大きさ	1,000	16.6	38.7	35.0	6.7	3.0	1,000	18.4	37.8	35.5	4.5	3.8															
Q24S4	かっこよさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A															
Q24S5	クリエイティブさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A															
Q24S6	仕事内容の楽しさ	1,000	12.7	30.7	42.0	9.5	5.1	1,000	12.7	31.1	41.3	9.1	5.8															
Q24S7	資格や専門知識の活かしやすさ	1,000	12.9	36.3	40.9	6.9	3.0	1,000	15.4	35.1	40.8	5.9	2.8															
Q24S8	昇進やキャリアアップの機会の多さ	1,000	9.8	23.5	47.8	13.1	5.8	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A															
Q24S9	未経験での始めやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A															
Q24S10	雇用の安定について	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A															
Q24S11	職場の人間関係について	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A															
Q24S12	体力的負担について	1,000	8.9	22.4	36.7	19.1	12.9	1,000	10.9	22.7	36.4	16.7	13.3															
Q24S13	精神的負担について	1,000	8.5	22.3	37.5	19.1	12.6	1,000	10.1	22.0	36.8	18.4	12.7															
Q24S14	給与について	1,000	7.6	21.2	38.3	20.9	12.0	1,000	8.9	23.3	37.5	16.9	13.4															
Q24S15	勤務日や勤務時間に融通の利きやすさ 働きやすさ	1,000	11.6	31.8	42.1	9.5	5.0	1,000	12.9	32.7	38.3	9.6	6.5															
Q24S16	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上への取組	1,000	10.0	30.7	44.2	10.1	5.0	1,000	12.6	31.1	41.6	8.3	6.4															
Q24S17	業界の成長性・将来性	1,000	6.9	15.6	45.6	16.7	15.2	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A															
			11.0	25.9	46.2	11.4	5.5	1,000	12.5	30.4	43.7	7.6	5.8															

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度の調査結果、下段には令和6年度および令和5年度の調査結果を掲載している。

表 190 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの

Q25	介護の仕事に関するポジティブなイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R7 介護職 (n=902)	R6 (Q28)	R5 (Q27)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	23.6	25.6	26.8
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	29.8	27.1	28.2
3	親族から聞いた話	12.7	13.2	14.8
4	知人・友人から聞いた話	13.9	15.5	13.1
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	8.3	9.8	12.1
6	介護に関する研修に参加したこと(入門的研修、初任者研修など)	15.6	18.3	N/A
7	介護の仕事の実習や職場体験、インターンに参加したこと	7.8	10.2	N/A
8	介護の現場で実習に参加したこと	11.1	N/A	N/A
9	介護の現場で職場体験・インターンシップに参加したこと	5.1	N/A	N/A
10	介護の現場でボランティア活動(有償/無償)をしたこと	6.0	7.5	N/A
11	介護の現場でアルバイトをしたこと	5.5	5.8	N/A
12	介護に関するイベント	3.8	5.5	10.5
13	介護に関するテレビ番組	7.1	11.7	12.8
14	介護に関するラジオ番組	3.2	4.1	5.5
15	介護に関する新聞記事・広告	3.3	6.0	6.0
16	介護に関する雑誌記事	3.4	5.4	5.2
17	介護に関する書籍・漫画	4.4	5.3	5.1
18	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	4.8	5.9	7.1
19	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	5.7	5.8	6.2
20	介護に関する映画	4.3	4.1	3.4
21	その他	0.9	0.7	1.2
22	わからない	8.6	8.9	11.8
23	介護の仕事に対してポジティブなイメージは持っていない	24.2	18.1	18.7
	全体	902	1,000	1,000

表 191 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものとして、
印象に残ったこと
(主なものを抜粋)

- 利用者に感謝されること
- 人生の最後を支える仕事であること
- 実習やボランティアをして想像より大変だがやりがいのある仕事だと思えた
- 介護は家族の力だけでは限界を迎える事も多いので、絶対になくってはならない仕事だと思った

表 192 介護の仕事をしている中で「良かった」と感じること
(介護の仕事の魅力だと思うこと)

Q27	介護の仕事をしている中で「良かった」と感じること(介護の仕事の魅力だと思うこと)を教えてください。	R7 (Q27)	R6 全体 (Q30)	1	2	3	4	5
				とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
	1 社会的意義が大きいこと(社会の役に立つことができること)	34.1	1,000	18.8	40.7	32.4	5.5	2.6
	2 社会的に評価されていること	17.0	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	3 やりがいがあること	31.3	1,000	16.9	40.2	33.6	6.1	3.2
	4 利用者や利用者の家族から感謝されること	37.3	1,000	20.7	37.9	33.0	5.9	2.5
	5 仕事内容自体が楽しいこと	13.3	1,000	12.5	31.2	40.4	10.9	5.0
	6 介護の現場で自分の人生経験を活かせること	15.3	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	7 資格や専門知識を活かすことができる(身に付けられる)こと	18.4	1,000	13.3	36.2	39.9	7.3	3.3
	8 給与が良いこと	5.8	1,000	6.9	21.0	41.4	18.3	12.4
	9 勤務日や勤務時間の融通が利くこと	15.7	1,000	11.3	31.7	42.7	9.0	5.3
	10 未経験でも始めやすいこと	23.6	1,000	15.4	35.6	39.9	6.0	3.1
	11 就職先・転職先が見つかりやすいこと	20.6	1,000	17.3	34.8	41.2	4.1	2.6
	12 その他	2.5	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体	902						

Q27	介護の仕事をしている中で「良かった」と感じること(介護の仕事の魅力だと思うこと)を教えてください。	R5 全体 (Q29)	1	2	3	4	5
			とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
	1 社会的意義が大きいこと(社会の役に立つことができること)	1,000	21.0	39.3	32.0	4.7	3.0
	2 社会的に評価されていること	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	3 やりがいがあること	1,000	20.3	39.3	31.4	5.5	3.5
	4 利用者や利用者の家族から感謝されること	1,000	22.7	36.5	33.3	4.5	3.0
	5 仕事内容自体が楽しいこと	1,000	13.5	32.9	40.5	7.9	5.2
	6 介護の現場で自分の人生経験を活かせること	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	7 資格や専門知識を活かすことができる(身に付けられる)こと	1,000	16.4	34.4	39.7	6.2	3.3
	8 給与が良いこと	1,000	9.8	19.7	39.8	16.7	14.0
	9 勤務日や勤務時間の融通が利くこと	1,000	14.1	31.5	38.5	8.8	7.1
	10 未経験でも始めやすいこと	1,000	15.8	35.8	36.7	7.7	4.0
	11 就職先・転職先が見つかりやすいこと	1,000	16.8	37.0	38.7	4.5	3.0
	12 その他	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
	全体						

※令和6年度以前は設問形式が異なっているが、参考として掲載。

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度および令和6年度の調査結果、下段には令和5年度の調査結果を掲載している。

表 193 介護の仕事に就いていることを誇りに感じているか否か

Q28	介護の仕事に就いていることを誇りに感じていますか。	R7 (Q28)	R6 (Q32)	R5 (Q32)
1	誇りに感じる	38.2	43.5	41.7
2	誇りに感じてはいない	28.3	25.2	26.8
3	どちらともいえない	33.5	31.3	31.5
	全体	902	1,000	1,000

表 194 介護の仕事に就いていることを誇りに感じる/感じてはいない理由
(主なものを抜粋)

Q28 の回答	理由
誇りに感じる	<ul style="list-style-type: none"> • これからの日本の超高齢化社会では必要不可欠な仕事だから • 「ありがとう」がよく聞ける職場だから • 高齢化社会で役に立つことができ、自身のスキルアップにもつながると思う
誇りに感じてはいない	<ul style="list-style-type: none"> • 給与水準が他業界と比較して低く、社会的地位も低く感じる • 誰にでもできると思われている • 精神的に負担が大きく、利用者や家族に感謝されないことも多い。訴訟になるリスクもある。

表 195 介護の仕事の魅力を周囲（求職者・新入社員・後輩など）に伝えたい・発信したいか否か

Q30	介護の仕事の魅力を周囲(求職者・新入社員・後輩など)に伝えたい・発信したいと思いますか	R7 (Q30)	R6 (Q34)	R5
1	とても思う	13.1	10.8	N/A
2	やや思う	20.8	25.3	N/A
3	どちらともいえない	35.4	35.6	N/A
4	あまり思わない	15.9	14.3	N/A
5	全く思わない	14.9	14.0	N/A
	全体	902	1000	N/A

表 196 介護の仕事の魅力を周囲（求職者・新入社員・後輩など）に伝える力が（ご自身に）あるか

Q31	介護の仕事の魅力を周囲(求職者・新入社員・後輩など)に伝える力が(ご自身に)どのくらいあると思いますか？	R7 (Q31)	R6 (Q35)	R5
1	とてもある	12.1	10.4	N/A
2	ややある	20.5	23.7	N/A
3	どちらともいえない	31.6	34.0	N/A
4	あまりない	19.3	16.6	N/A
5	まったくない	16.5	15.3	N/A
	全体	902	1000	N/A

表 197 介護の仕事の魅力を周囲（求職者・新入社員・後輩など）に伝える機会があるか否か

Q32	介護の仕事の魅力を周囲(求職者・新入社員・後輩など)に伝える機会がありますか？	R7 (Q32)	R6 (Q36)	R5
1	ある	26.1	21.8	N/A
2	ない	53.7	53.7	N/A
3	どちらともいえない	20.3	24.5	N/A
	全体	902	1000.0	N/A

表 198 介護職に就職する前に周囲へ相談した経験の有無

Q33	介護の仕事に就職する前に、介護の仕事に就くことについて、誰かに相談したことはありますか。	R7 (Q33)	R6	R5
1	ある	40.4	N/A	N/A
2	ない	59.6	N/A	N/A
	全体	902	N/A	N/A

表 199 介護職になることを周囲に反対された経験の有無

Q34	介護の仕事に就くことについて誰かに相談した際、反対された経験はありますか。	R7 (Q34)	R6 (Q37)	R5
1	ある	51.1	N/A	N/A
2	ない	48.9	N/A	N/A
	全体	364	N/A	N/A

表 200 反対した人

Q35	反対した人はだれですか。	R7 (Q35)	R6	R5
1	親	50.0	N/A	N/A
2	親以外の親族	28.0	N/A	N/A
3	友人(介護福祉士養成施設、福祉系高等学校の生徒・卒業生)	30.1	N/A	N/A
4	友人(介護福祉士養成施設、福祉系高等学校の生徒・卒業生ではない)	25.8	N/A	N/A
5	介護職員	10.8	N/A	N/A
6	通っている学校の教員	7.0	N/A	N/A
7	その他	4.3	N/A	N/A
	全体	186	N/A	N/A

表 201 反対の理由

- 給料が安いのに仕事内容は大変
- 精神的苦痛や肉体的疲労を溜めてしまう仕事だから

表 202 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応

Q37	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。(お子さんがいらっしゃらない方は、「もしも子どもがいたら」と仮定してご回答ください。)	R7 (Q36)	R6 (Q5)	R5 (Q5)
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	41.7	51.7	51.7
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	42.0	36.1	36.8
3	本人の希望があったとしても反対する	16.3	12.2	11.5
	全体	902	1,000	1,000

表 203 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応の理由
(主なものを抜粋)

Q36 の回答	理由
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	<ul style="list-style-type: none"> • 本人の人生だから • 誇りを持てる仕事だから • 安定性は抜群だから。食いつぶれが無いから。
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	<ul style="list-style-type: none"> • 介護の仕事は、やりがいがある、誇りに思う、というような綺麗ごとばかりの仕事ではない。仕事の内容に伴うような報酬を得られないばかりか責任が重すぎる。 • 体力的・精神的負担があり、特に精神的負担がとて大きい • 若いうちは他の経験をした方が良いと思う。何歳からでもできる仕事なので。 • 長く続けられる仕事ではない
本人の希望があったとしても反対する	<ul style="list-style-type: none"> • 給与水準が低く、精神的負担が大きいから • 家庭を支えられる仕事ではない

(3) 学生

表 204 介護の仕事に対するポジティブなイメージ

SCR 4	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ポジティブなイメージ)	R7 (Q4)	R6	R5
1	社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)	22.7	N/A	N/A
2	社会的評価が高い	9.8	N/A	N/A
3	やりがいがある	12.4	N/A	N/A
4	かっこいい	6.1	N/A	N/A
5	クリエイティブである	5.4	N/A	N/A
6	仕事内容が楽しい	3.3	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かしやすい	9.8	N/A	N/A
8	昇進やキャリアアップの機会が多い	4.1	N/A	N/A
9	未経験でも始められる	6.5	N/A	N/A
10	雇用が安定している	4.6	N/A	N/A
11	職場の人間関係が良い	2.0	N/A	N/A
12	給与が良い	3.3	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	2.2	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	4.8	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がある	5.9	N/A	N/A
16	家族に介護が必要になったときに頼りたい	16.3	N/A	N/A
17	その他	-	N/A	N/A
18	ポジティブなイメージは特いない	42.3	N/A	N/A
	全体	459	N/A	N/A

表 205 介護の仕事に対するネガティブなイメージ

SCR 5	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ネガティブなイメージ)	R7 (Q5)	R6	R5
1	社会的意義が小さい(社会の役に立つことができない)	3.1	N/A	N/A
2	社会的評価が低い	14.4	N/A	N/A
3	やりがいがない	9.4	N/A	N/A
4	仕事内容が楽しくない	19.2	N/A	N/A
5	専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	6.1	N/A	N/A
6	昇進やキャリアアップの機会が少ない	9.8	N/A	N/A
7	未経験で就職するにはハードルが高い	10.0	N/A	N/A
8	雇用が安定していない	10.2	N/A	N/A
9	職場の人間関係が悪い	9.2	N/A	N/A
10	体力的負担が大きい	38.6	N/A	N/A
11	精神的負担が大きい	34.2	N/A	N/A
12	給与が低い	27.9	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	10.0	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	3.7	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がない	5.2	N/A	N/A
16	その他	-	N/A	N/A
17	ネガティブなイメージは特いない	27.7	N/A	N/A
	全体	459	N/A	N/A

表 206 学部・学科

Q1	現在通っている学部・学科を教えてください。	R7 %	R6 (Q1)	R5 (Q1)
1	普通科	63.8	65.4	69.4
2	総合学科	4.1	5.0	N/A
3	福祉系の学科(介護福祉)	3.3	3.2	4.6
4	福祉系の学科(介護福祉以外)	2.4	N/A	N/A
5	保健・医療系の学科	9.6	10.4	10.6
6	その他	16.8	16.0	15.4
	全体	459	500	500

表 207 学年

Q2	現在の学年を教えてください。								
		全体	統計量母数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
R7(Q2)		459	459	1171	2.55	1.152	0	6	3
R6(Q2)		500	500	1272	2.54	1.111	1	6	3
R5(Q2)		500	500	1255	2.51	1.142	1	6	3

表 208 学年

NQ2 T1	現在の学年を教えてください。	R7	R6	R5
		(NQ2T1)	(NQ2T1)	(NQ3T1)
1	1年生	20.6	21.8	22.6
2	2年生	28.9	26.2	27.4
3	3年生	27.0	30.6	31.4
4	4年生以上	23.5	21.4	18.6
	全体	456	500	500

表 209 留学生であるか否か

Q3	あなたは留学生ですか。	R7 (Q3)	R6	R5
1	留学生である	2.2	N/A	N/A
2	留学生ではない	97.8	N/A	N/A
	全体	459	N/A	N/A

表 210 将来の就職先についての検討の有無

Q4	将来の就職先について検討したことがありますか。	R7 (Q4)	R6	R5
1	検討したことがある	51.6	N/A	N/A
2	検討したことがない	48.4	N/A	N/A
	全体	459	N/A	N/A

表 211 (検討したことがある場合) 就職先候補への介護職の有無

Q5	検討したことがある場合、就職先の候補に介護の仕事は入っていますか。	R7 (Q5)	R6	R5
1	現在の就職先候補に「介護の仕事」が入っている	11.4	N/A	N/A
2	現在の就職先候補に「介護の仕事」は入っていないが、過去に「介護の仕事」を就職先候補として考えたことがある	22.8	N/A	N/A
3	現在の就職先候補に「介護の仕事」は入っておらず、過去に「介護の仕事」を就職先候補として考えたこともない	65.8	N/A	N/A
	全体	237	N/A	N/A

表 212 介護職以外に就職先として考えている業界・興味がある業界

Q6	「介護の仕事」以外に、就職先として考えている業界・興味がある業界を教えてください。	R7 (Q6)	R6 (Q5)	R5 (Q4)
1	福祉(介護の仕事以外)	13.5	16.2	13.4
2	医療	19.4	N/A	N/A
3	農業、林業、漁業	3.8	4.4	2.2
4	鉱業、採石業、砂利採取業	N/A	2.4	0.8
5	建設業	5.1	2.0	2.2
6	製造業(メーカー)	11.0	4.8	6.8
7	電気・ガス・熱供給・水道業	3.4	1.2	2.0
8	情報通信業(通信・インターネット、メディア、情報サービスなど)	13.5	6.8	5.2
9	運輸業(鉄道、バス・タクシー、トラックなど)、郵便業	2.1	3.4	1.8
10	金融業、保険業	8.4	4.0	3.8
11	不動産業、物品賃貸業	4.6	2.2	1.2
12	教育、学習支援業	11.0	8.6	7.4
13	保安の職業(自衛官・警察官・消防員や警備など)	3.0	N/A	N/A
14	販売業(アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス)	6.8	4.4	3.2
15	飲食サービス業、宿泊業	9.7	4.6	4.0
16	生活関連サービス業、娯楽業(クリーニング、理美容、旅行業など)	8.0	3.2	3.6
17	専門・技術サービス業、学術研究(法律、会計、デザイン事務所など)	13.1	5.0	3.6
18	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	N/A	2.8	2.4
19	サービス業(他に分類されるものを除く)(廃棄物処理業、自動車整備業など)	6.8	8.4	7.0
20	公務(他に分類されるものを除く)	15.2	10.0	8.8
21	その他	5.1	3.0	3.8
22	就職先候補として考えているのは「介護の仕事」のみ	8.4	N/A	N/A
	全体	237	500	500

表 213 介護の仕事に就きたいと思っていることを周囲へ相談した経験の有無

Q7	介護の仕事に就きたいと思っていることについて、誰かに相談したことはありますか。	R7 (Q7)	R6	R5
1	ある	76.5	N/A	N/A
2	ない	23.5	N/A	N/A
	全体	81	N/A	N/A

表 214 (相談したことがある場合) 応援/反対した人

Q8	介護の仕事に就きたいと思っていることについて相談した時に、応援/反対した人を選んでください。	R7 全体 (Q8)	1	2	3	4	5	6	7
			親	親以外の 親族	友人(介 護福祉士 養成施 設、福祉 系高等学 校の生徒 ではない)	友人(介 護福祉士 養成施 設、福祉 系高等学 校の生徒 ではない)	介護職員	通ってい る学校の 教員	その他
Q8S1	応援	62	66.1	30.6	38.7	32.3	25.8	37.1	9.7
Q8S2	反対	62	24.2	25.8	14.5	17.7	12.9	14.5	43.5
Q8S3	どちらともいえない	62	32.3	16.1	22.6	27.4	19.4	21.0	24.2
Q8S4	相談していない	62	12.9	25.8	27.4	24.2	37.1	25.8	48.4

Q8	介護の仕事に就きたいと思っていることについて相談した時に、応援/反対した人を選んでください。	R6 全体	1	2	3	4	5	6	7
			親	親以外の 親族	友人(介 護福祉士 養成施 設、福祉 系高等学 校の生徒 ではない)	友人(介 護福祉士 養成施 設、福祉 系高等学 校の生徒 ではない)	介護職員	通ってい る学校の 教員	その他
Q8S1	応援	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q8S2	反対	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q8S3	どちらともいえない	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q8S4	相談していない	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度の調査結果、下段には令和6年度および令和5年度の調査結果を掲載している。

表 215 就職先選びの際に重視すること（上位5つまで）

Q9	就職先選びの際に重視することを教えてください。（上位5つまで）	R7 (Q9)	R6 (Q6)	R5 (Q6)
1	社会的意義が大きいこと	18.7	15.4	17.2
2	社会的な評価が高いこと	14.8	12.0	12.4
3	やりがいがあること	37.9	38.8	43.8
4	人の役に立てること	23.3	27.0	31.4
5	仕事内容自体が楽しいこと	26.8	33.8	34.2
6	資格や専門知識を活かすことができる(身に付けられる)こと	20.3	22.6	20.6
7	昇進やキャリアアップの機会が多いこと	8.3	8.6	N/A
8	体力的負担が軽いこと	13.7	18.2	16.0
9	精神的負担が軽いこと	18.3	25.8	21.2
10	給与が良いこと	35.9	46.8	42.4
11	勤務時間に融通が利くこと	18.5	19.0	19.0
12	休暇が取りやすいこと	21.8	29.6	27.6
13	未経験でも始めやすいこと	10.2	14.2	11.6
14	就職しやすいこと	12.2	15.8	19.0
15	ICTやロボットなどの活用が進んでいること	6.8	6.8	N/A
16	その他	1.1	0.8	2.0
	全体	459	500	500

表 216 就職先選びの際に特に参考とする情報源（上位3つまで）

Q10	就職先選びの際に特に参考にする(参考にしたい)情報を教えてください。（上位3つまで）	R7 (Q10)	R6 (Q7)	R5 (Q7)
1	親族の意見	37.9	41.4	41.4
2	学校の先生の意見	26.8	29.0	30.0
3	学校の就職課やキャリアサポートセンターの意見	28.1	28.2	29.6
4	知人・友人の意見	25.5	25.2	26.0
5	新卒向けの就職情報サイト	29.8	29.8	28.0
6	個別の企業・各種団体等のホームページ	23.5	24.6	25.2
7	合同企業説明会	19.4	16.6	16.4
8	その他	1.3	2.2	2.0
	全体	459	500	500

表 217 介護の仕事に対する理解度

Q11	介護の仕事について、どれくらい知っていますか。	R7 (Q11)	R6 (Q8)	R5 (Q8)
1	具体的な仕事内容を知っている	14.6	14.4	17.0
2	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	52.9	61.2	52.8
3	まったく知らない	32.5	24.4	30.2
	全体	459	500	500

表 218 介護についての授業、介護の現場でのボランティアや実習、職場体験・インターンシップなどの経験の有無

Q12	介護に関する授業、ボランティアや学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護サービスが提供されている様子を見たことがありますか。	R7 (Q12)	R6 (Q9)	R5 (Q9)
1	学校で介護についての授業を受けたことがある	17.9	19.4	18.6
2	介護の現場でボランティアをしたことがある	11.8	7.6	14.4
3	介護の現場で実習に参加したことがある	10.0	9.0	13.4
4	介護の現場で職場体験・インターンシップに参加したことがある	8.5	N/A	N/A
5	介護の現場でアルバイトをしたことがある	2.8	3.0	N/A
6	上記のいずれも経験がない	43.4	49.6	42.4
7	覚えていない	19.0	18.0	21.2
	全体	459	500	500

表 219 介護サービスが提供されている様子を見た際に感じた印象

Q13	介護サービスが提供されている様子を見た際に感じたことを教えてください。	R7 (Q13)	R6	R5
1	サービスの内容の質が高いと感じた	18.5	N/A	N/A
2	介護職員が親切だった、優しかった	32.9	N/A	N/A
3	介護職員の仕事は魅力的だと感じた	21.4	N/A	N/A
4	ICTやロボットの活用など、生産性向上が進んでいると感じた	22.5	N/A	N/A
5	サービスの内容の質が低いと感じた	17.3	N/A	N/A
6	介護職員が不親切だった	13.9	N/A	N/A
7	介護の仕事は大変そうだと感じた	34.7	N/A	N/A
8	ICTやロボットの活用など、生産性向上が進んでいないと感じた	5.2	N/A	N/A
9	その他	1.2	N/A	N/A
	全体	173	N/A	N/A

表 220 就職イベント等における「介護の仕事」への接触経験の有無

Q14	就職イベント等で「介護の仕事」に関する説明を聞いたり、見たりしたことはありますか。	R7 (Q14)	R6 (Q11)	R5 (Q11)
1	学内の就職イベント等で聞いたり、見たりしたことがある	11.8	11.8	13.4
2	学外の就職イベント等で聞いたり、見たりしたことがある	22.0	18.6	20.4
3	就職イベント等で「介護の仕事」に関する説明を聞いたり、見たりしたことはない	68.6	72.2	69.8
	全体	459	500	500

表 221 介護の仕事への関心

Q15	介護の仕事に関心がありますか。	R7 (Q15)	R6 (Q12)	R5 (Q12)
1	関心がある(もっと知りたいと思う)	16.1	15.4	19.0
2	関心はない(特に知りたいとは思わない)	54.2	54.4	45.8
3	どちらともいえない	29.6	30.2	35.2
	全体	459	500	500

表 222 介護の仕事は就職先として魅力的だと感じるか否か

Q16	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	R7 (Q16)	R6 (Q13)	R5 (Q13)
1	思う	17.6	15.6	19.0
2	思わない	53.4	51.8	45.0
3	どちらともいえない	29.0	32.6	36.0
	全体	459	500	500

表 223 介護の仕事を就職先として魅力的だと感じる理由
(主なものを抜粋)

- ほかの人の役に立つことができるところが魅力的だと思ったから
- 求人数が多いこと
- 将来性がある。キャリアアップしやすい。

表 224 特に関心がある分野

Q18	特に関心がある分野を教えてください。	R7 (Q18)	R6 (Q15)	R5
1	高齢者介護	55.6	69.2	N/A
2	障害者介護	30.9	30.8	N/A
3	その他	-	1.3	N/A
4	まだ分からない	21.0	15.4	N/A
	全体	81	78	N/A

表 225 身近な人が介護を必要としたときの支え合いについて

Q19	将来、自分や家族など身近な人が介護を必要としたとき、どのような支え合いが理想だと思いますか。(自分/家族など身近な人それぞれについて当てはまるものを1つ選んでください)	R7 全体 (Q19)	1	2	3	4	5
			家族で支え合いたい	家族で支え合うことを中心に、必要などころは介護サービスに任せたい	介護サービスを中心に、家族で支え合えるところは担いたい	介護サービスに任せたい	介護サービスに任せたい
Q19S1	自分が介護を必要としたとき	459	14.2	17.6	14.6	17.4	36.2
Q19S2	家族など身近な人が介護を必要としたとき	459	14.8	20.0	18.5	12.0	34.6

Q19	将来、自分や家族など身近な人が介護を必要としたとき、どのような支え合いが理想だと思いますか。(自分/家族など身近な人それぞれについて当てはまるものを1つ選んでください)	R6 全体	1	2	3	4	5	R5 全体	1	2	3	4	5
			家族で支え合いたい	家族で支え合うことを中心に、必要などころは介護サービスに任せたい	介護サービスを中心に、家族で支え合えるところを担いたい	介護サービスに任せたい	わからない		家族で支え合いたい	家族で支え合うことを中心に、必要などころは介護サービスに任せたい	介護サービスを中心に、家族で支え合えるところを担いたい	介護サービスに任せたい	わからない
Q19S1	自分が介護を必要としたとき	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q19S2	家族など身近な人が介護を必要としたとき	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度の調査結果、下段には令和6年度および令和5年度の調査結果を掲載している。

表 226 介護の仕事に対するイメージ

Q20	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R7 全体 (Q20)	1	2	3	4	5	無回答
			とても良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	とても悪い	
Q20S1	社会的意義の大きさ(社会の役に立つことができる)	459	24.4	28.5	21.6	4.1	0.4	20.9
Q20S2	社会的評価の高さ	459	10.7	31.4	26.6	8.1	2.4	20.9
Q20S3	やりがいの大きさ	459	11.3	32.7	25.9	6.8	2.4	20.9
Q20S4	かっこよさ	459	8.1	26.8	28.3	12.9	3.1	20.9
Q20S5	クリエイティブさ	459	7.2	19.8	29.8	15.9	6.3	20.9
Q20S6	仕事内容の楽しさ	459	5.9	20.3	27.0	16.1	9.8	20.9
Q20S7	資格や専門知識の活かしやすさ	459	10.5	30.5	29.2	7.0	2.0	20.9
Q20S8	昇進やキャリアアップの機会の多さ	459	5.9	19.6	33.8	15.3	4.6	20.9
Q20S9	未経験での始めやすさ	459	11.5	23.7	29.2	10.9	3.7	20.9
Q20S10	雇用の安定について	459	10.0	24.8	31.8	10.2	2.2	20.9
Q20S11	職場の人間関係について	459	7.0	21.8	34.2	12.4	3.7	20.9
Q20S12	体力的負担について	459	8.1	14.8	20.0	21.1	15.0	20.9
Q20S13	精神的負担について	459	6.3	17.9	21.6	21.4	12.0	20.9
Q20S14	給与について	459	5.4	16.6	28.1	20.5	8.5	20.9
Q20S15	勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ	459	7.2	17.2	33.3	14.6	6.8	20.9
Q20S16	働きやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q20S17	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上への取組	459	5.9	25.1	34.4	9.8	3.9	20.9
Q20S18	業界の成長性・将来性	459	10.2	25.1	32.9	8.1	2.8	20.9

Q20	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R6 全体 (Q16)	1	2	3	4	5	R5 全体 (Q14)	1	2	3	4	5
			とても良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	とても悪い		とても良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	とても悪い
Q20S1	社会的意義の大きさ(社会の役に立つことができる)	500	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]	500	[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
Q20S2	社会的評価の高さ	N/A	27.4	34.6	29.2	5.2	3.6	N/A	27.0	31.6	33.6	5.6	2.2
Q20S3	やりがいの大きさ	500	18.8	36.4	32.8	8.8	3.2	500	20.8	33.0	37.4	5.8	3.0
Q20S4	かっこよさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q20S5	クリエイティブさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q20S6	仕事内容の楽しさ	500	9.0	17.6	35.6	25.4	12.4	500	6.8	15.6	43.8	21.4	12.4
Q20S7	資格や専門知識の活かしやすさ	500	16.2	32.4	37.4	10.2	3.8	500	15.6	33.8	39.8	7.4	3.4
Q20S8	昇進やキャリアアップの機会の多さ	500	7.4	19.0	46.0	19.8	7.8	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q20S9	未経験での始めやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q20S10	雇用の安定について	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q20S11	職場の人間関係について	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q20S12	体力的負担について	500	7.4	19.0	46.0	19.8	7.8	500	10.4	11.4	31.0	23.6	23.6
Q20S13	精神的負担について	500	12.8	14.4	26.0	20.6	26.2	500	9.4	13.2	32.2	22.8	22.4
Q20S14	給与について	500	12.4	13.8	28.0	23.6	22.2	500	6.4	14.2	41.4	21.2	16.8
Q20S15	勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ	500	6.0	16.0	36.4	27.2	14.4	500	6.6	13.8	45.0	20.8	13.8
Q20S16	働きやすさ	500	8.2	14.8	39.8	26.4	10.8	500	6.6	14.8	47.2	19.0	12.4
Q20S17	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上への取組	500	5.2	19.6	47.6	20.0	7.6	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q20S18	業界の成長性・将来性	500	7.0	16.2	40.6	26.2	10.0	500	10.8	26.2	44.6	11.0	7.4

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度の調査結果、下段には令和6年度および令和5年度の調査結果を掲載している。

表 227 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの

Q21	介護の仕事に関するポジティブなイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R7 (Q21)	R6 (Q17)	R5 (Q15)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	12.9	12.0	12.8
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	18.1	14.4	19.0
3	親族から聞いた話	14.6	16.4	16.2
4	知人・友人から聞いた話	7.8	10.8	9.0
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	9.4	11.6	10.8
6	介護に関する研修に参加したこと(入門的研修、初任者研修など)	6.8	5.2	N/A
7	介護の仕事の実習や職場体験、インターンに参加したこと	3.7	6.6	N/A
8	介護の現場で実習に参加したこと	2.4	N/A	N/A
9	介護の現場で職場体験・インターンシップに参加したこと	1.5	N/A	N/A
10	介護の現場でボランティア活動(有償/無償)をしたこと	2.0	3.0	N/A
11	介護の現場でアルバイトをしたこと	1.5	1.0	N/A
12	介護に関するイベント	2.2	1.8	8.8
13	介護に関するテレビ番組	5.2	13.2	15.2
14	介護に関するラジオ番組	1.3	0.4	2.8
15	介護に関する新聞記事・広告	2.0	3.2	5.0
16	介護に関する雑誌記事	1.1	0.6	2.4
17	介護に関する書籍・漫画	2.6	2.2	3.4
18	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	3.3	6.0	4.0
19	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	5.2	5.2	5.4
20	介護に関する映画	1.5	1.4	2.0
21	その他	-	0.2	0.2
22	わからない	11.5	10.8	11.4
23	介護の仕事に対してポジティブなイメージは持っていない	35.3	33.6	33.6
	全体	459	500	500

表 228 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものとして、
印象に残ったこと
(主なものを抜粋)

- 人の役に立ち、感謝されることを実感できそう
- 介護の仕事に対してやりがいを感じている点
- 介護の仕事は社会に必要とされている点が印象に残った
- 職員の方々も笑顔になっていること

表 229 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応

Q23	友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R7 (Q23)	R6 (Q19)	R5 (Q17)
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	51.4	50.4	54.2
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	32.2	33.8	28.0
3	本人の希望があったとしても反対する	16.3	15.8	17.8
	全体	459	500	500

表 230 友人が「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応の理由
(主なものを抜粋)

Q36 の回答	理由
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	<ul style="list-style-type: none"> • 本人がやりたいことを否定するつもりはない • 友達がやろうとしていることだから応援してあげたい • 働くことができる場所が多くて、介護の仕事をすることによって社会に貢献することができると思ったから
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	<ul style="list-style-type: none"> • 大変で休みもあんまりないから • まだ若いし最初から介護職に行く必要はないと思う • 未経験から始める場合、仕事が合わなかった時に路頭に迷うから
本人の希望があったとしても反対する	<ul style="list-style-type: none"> • ブラックなイメージ • 激務なのに給与が安い

(4) 保護者

表 231 介護の仕事に対するポジティブなイメージ

SCR4	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ポジティブなイメージ)	R7 (Q4)	R6	R5
1	社会的意義が大きい(社会の役に立つことができる)	34.8	N/A	N/A
2	社会的評価が高い	9.0	N/A	N/A
3	やりがいがある	9.2	N/A	N/A
4	カッコいい	3.4	N/A	N/A
5	クリエイティブである	2.2	N/A	N/A
6	仕事内容が楽しい	2.6	N/A	N/A
7	資格や専門知識を活かしやすい	9.4	N/A	N/A
8	昇進やキャリアアップの機会が多い	1.6	N/A	N/A
9	未経験でも始められる	9.2	N/A	N/A
10	雇用が安定している	5.2	N/A	N/A
11	職場の人間関係が良い	0.8	N/A	N/A
12	給与が良い	1.8	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きやすい	1.6	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上に取り組んでいる	1.6	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がある	4.8	N/A	N/A
16	家族に介護が必要になったときに頼りたい	23.4	N/A	N/A
17	その他	0.6	N/A	N/A
18	ポジティブなイメージは特いない	41.8	N/A	N/A
	全体	500	N/A	N/A

表 232 介護の仕事に対するネガティブなイメージ

SCR5	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(ネガティブなイメージ)	R7 (Q5)	R6	R5
1	社会的意義が小さい(社会の役に立つことができない)	3.2	N/A	N/A
2	社会的評価が低い	24.4	N/A	N/A
3	やりがいがない	7.4	N/A	N/A
4	仕事内容が楽しくない	16.8	N/A	N/A
5	専門性が身につかない(誰にでもできる仕事である)	5.4	N/A	N/A
6	昇進やキャリアアップの機会が少ない	9.0	N/A	N/A
7	未経験で就職するにはハードルが高い	9.8	N/A	N/A
8	雇用が安定していない	7.6	N/A	N/A
9	職場の人間関係が悪い	10.8	N/A	N/A
10	体力的負担が大きい	51.2	N/A	N/A
11	精神的負担が大きい	40.6	N/A	N/A
12	給与が低い	45.4	N/A	N/A
13	勤務日や勤務時間に融通が利きにくい	18.2	N/A	N/A
14	ICTやロボットなどが活用されていない(ICT導入が遅い)	4.2	N/A	N/A
15	業界の成長性・将来性がない	2.0	N/A	N/A
16	その他	0.2	N/A	N/A
17	ネガティブなイメージは特いない	23.0	N/A	N/A
	全体	500	N/A	N/A

表 233 世帯年収

Q1	世帯年収を教えてください。	R7 (Q1)	R6 (Q3)	R5 (Q2)
1	100万円未満	1.8	1.4	1.8
2	100~200万円未満	2.0	2.8	2.0
3	200~300万円未満	5.8	4.6	4.2
4	300~400万円未満	7.6	8.4	8.2
5	400~500万円未満	7.0	13.2	10.6
6	500~600万円未満	10.6	7.6	10.0
7	600~700万円未満	10.2	9.0	10.0
8	700~800万円未満	8.0	9.4	9.0
9	800万円以上	28.4	24.0	24.6
10	回答しない	18.6	19.6	19.6
	全体	500	500	500

表 234 子どもに就いて欲しい業種

Q2	子どもに就いて欲しい業種を教えてください。	R7 (Q2)	R6 (Q4)	R5 (Q3)
1	福祉(介護の仕事)	1.0	4.8	3.4
2	福祉(介護の仕事以外)	2.4	13.8	11.0
3	医療	13.8	N/A	N/A
4	農業、林業、漁業	2.6	3.6	2.0
5	鉱業、採石業、砂利採取業	N/A	1.2	0.8
6	建設業	4.4	4.4	5.0
7	製造業(メーカー)	16.4	14.0	16.2
8	電気・ガス・熱供給・水道業	3.6	5.0	3.6
9	情報通信業(通信・インターネット、メディア、情報サービスなど)	11.2	12.6	10.0
10	運輸業(鉄道、バス・タクシー、トラックなど)、郵便業	2.2	3.2	3.6
11	金融業、保険業	4.8	7.6	6.0
12	不動産業、物品賃貸業	3.0	2.4	2.4
13	教育、学習支援業	7.4	7.0	7.0
14	保安の職業(自衛官・警察官・消防員や警備など)	3.0	N/A	N/A
15	販売業(アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス)	1.8	7.0	6.6
16	飲食サービス業、宿泊業	1.8	2.6	2.2
17	生活関連サービス業、娯楽業(クリーニング、理美容、旅行業など)	2.6	3.2	2.8
18	専門・技術サービス業、学術研究(法律、会計、デザイン事務所など)	11.2	9.6	9.2
19	複合サービス事業(郵便局、農業協同組合など)	N/A	4.0	4.0
20	サービス業(他に分類されるものを除く)(廃棄物処理業、自動車整備業など)	2.8	5.4	6.4
21	公務(他に分類されるものを除く)	13.6	15.0	14.2
22	その他	0.8	0.4	0.8
23	特に考えていない	41.0	44.6	35.6
	全体	500	500	500

表 235 子どもが就職する際に気になること(上位3つまで)

Q3	子どもが就職する際に気になることを教えてください。(上位3つまで)	R7 (Q3)	R6 (Q5)	R5 (Q4)
1	給与が高いか	37.2	36.2	29.2
2	勤務時間に融通が利くか	19.8	23.0	17.4
3	勤務場所に融通が利くか	16.0	16.0	15.4
4	求人が多い職業か	2.2	2.0	1.8
5	資格取得などにより「手に職がつけられる」職業か	12.2	14.8	11.2
6	業務内容が本人の関心に沿っているか	30.0	33.8	37.0
7	やりがいがある職業か	30.4	39.0	40.2
8	精神的・肉体的負担が重くないか	30.0	34.8	38.0
9	将来性がある職業か	27.8	26.8	31.0
10	社会的ステータスが高い(イメージが良い)か	5.6	4.4	5.4
11	昇進やキャリアアップの機会が多いか	8.2	6.2	N/A
12	その他	0.4	0.2	2.2
	全体	500	500	500

表 236 家族の介護、ボランティアあるいは学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護施設などを訪問した経験の有無

Q4	家族の介護、ボランティアや学生時代の職場体験・インターンシップなどで介護サービスが提供されている様子を見たことがありますか。	R7 (Q4)	R6 (Q6)	R5 (Q6)
1	ある	17.2	17.2	16.4
2	ない	82.8	82.8	83.6
	全体	500	500	500

表 237 介護関係の施設・事業所を訪問した際に抱いた印象

Q5	介護サービスが提供されている様子を見た際に感じたことを教えてください。	R7 (Q5)	R6 (Q7)	R5 (Q7)
1	サービスの内容の質が高いと感じた	22.1	N/A	N/A
2	介護職員が親切だった、優しかった	33.7	45.3	43.9
3	介護職員の仕事は魅力的だと感じた	18.6	12.8	18.3
4	ICTやロボットの活用など、生産性向上が進んでいると感じた	14.0	10.5	N/A
5	サービスの内容の質が低いと感じた	11.6	N/A	N/A
6	介護職員が不親切だった	12.8	N/A	N/A
7	介護の仕事は大変そうだと感じた	47.7	51.2	45.1
8	ICTやロボットの活用など、生産性向上が進んでいないと感じた	15.1	N/A	N/A
	施設の雰囲気が明るいと感じた	N/A	19.8	29.3
	施設が綺麗だと感じた	N/A	31.4	34.1
	施設の雰囲気が暗いと感じた	N/A	14.0	19.5
	施設が汚いと感じた	N/A	9.3	11.0
9	その他	2.3	-	-
	全体	86	86	82

表 238 介護の仕事に関する理解度

Q6	介護の仕事について、どれくらい知っていますか。	R7 (Q6)	R6 (Q8)	R5 (Q8)
1	具体的な仕事内容を知っている	20.0	17.2	18.6
2	何となくのイメージはあるが、具体的な仕事内容については知らない	52.4	53.4	58.0
3	まったく知らない	27.6	29.4	23.4
	全体	500	500	500

表 239 介護の仕事への関心

Q7	介護の仕事に関心がありますか。	R7 (Q7)	R6 (Q9)	R5 (Q9)
1	関心がある(もっと知りたいと思う)	9.8	12.6	12.8
2	関心はない(特に知りたいとは思わない)	59.0	58.2	54.2
3	どちらともいえない	31.2	29.2	33.0
	全体	500	500	500

表 240 介護の仕事は就職先として魅力的だと感じるか否か

Q8	介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	R7 %	R5 (Q10)	R5 (Q10)
1	思う	7.4	7.2	8.4
2	思わない	60.4	58.6	54.6
3	どちらともいえない	32.2	34.2	37.0
	全体	500	500	500

表 241 介護の仕事を経験先として魅力的だと感じる理由
(主なものを抜粋)

- 人のためになるから
- これからの時代には欠かせない

表 242 身近な人が介護を必要としたときの支え合いについて

Q10	将来、自分や家族など身近な人が介護を必要としたとき、どのような支え合いが理想だと思いますか。(自分/家族など身近な人それぞれについて当てはまるものを1つ選んでください)	R7全体 (Q10)	1	2	3	4	5
			家族で支え合いたい	家族で支え合うことを中心に、必要などころは介護サービスに任せたい	介護サービスを中心に、家族で支え合えるところは担いたい	介護サービスに任せたい	介護サービスに任せたい
Q10S1	自分が介護を必要としたとき	500	16.8	16.2	18.8	21.0	27.2
Q10S2	家族など身近な人が介護を必要としたとき	500	17.8	20.4	20.8	14.8	26.2

Q10	将来、自分や家族など身近な人が介護を必要としたとき、どのような支え合いが理想だと思いますか。(自分/家族など身近な人それぞれについて当てはまるものを1つ選んでください)	R6全体	1	2	3	4	5	R5全体	1	2	3	4	5
			家族で支え合いたい	家族で支え合うことを中心に、必要などころは介護サービスに任せたい	介護サービスを中心に、家族で支え合えるところは担いたい	介護サービスに任せたい	わからない		家族で支え合いたい	家族で支え合うことを中心に、必要などころは介護サービスに任せたい	介護サービスを中心に、家族で支え合えるところは担いたい	介護サービスに任せたい	わからない
Q10S1	自分が介護を必要としたとき	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q10S2	家族など身近な人が介護を必要としたとき	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度の調査結果、下段には令和6年度および令和5年度の調査結果を掲載している。

表 243 介護の仕事に対するイメージ

Q11	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R7全体	1	2	3	4	5	無回答
			とても良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	とても悪い	
Q11S1	社会的意義の大きさ(社会役に立つことができる)	500	24.4	35.2	21.0	2.0	0.6	16.8
Q11S2	社会的評価の高さ	500	9.4	26.8	29.6	13.0	4.4	16.8
Q11S3	やりがいの大きさ	500	7.8	31.6	35.2	6.8	1.8	16.8
Q11S4	かっこよさ	500	6.2	18.4	37.4	16.8	4.4	16.8
Q11S5	クリエイティブさ	500	4.6	16.2	38.4	18.4	5.6	16.8
Q11S6	仕事内容の楽しさ	500	3.0	16.4	32.8	23.4	7.6	16.8
Q11S7	資格や専門知識の活かしやすさ	500	10.6	32.8	32.0	6.0	1.8	16.8
Q11S8	昇進やキャリアアップの機会の多さ	500	3.2	19.2	39.2	17.0	4.6	16.8
Q11S9	未経験での始めやすさ	500	7.4	29.0	35.4	9.2	2.2	16.8
Q11S10	雇用の安定について	500	7.6	31.4	32.0	8.6	3.6	16.8
Q11S11	職場の人間関係について	500	4.4	18.6	39.4	15.0	5.8	16.8
Q11S12	体力的負担について	500	6.8	16.4	20.6	19.8	19.6	16.8
Q11S13	精神的負担について	500	5.2	19.6	19.6	20.8	18.0	16.8
Q11S14	給与について	500	4.2	15.0	24.0	23.2	16.8	16.8
Q11S15	勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ	500	3.4	17.0	33.2	19.4	10.2	16.8
Q11S16	働きやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S16	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上への取組	500	2.8	19.8	43.2	11.8	5.6	16.8
Q11S17	業界の成長性・将来性	500	6.4	27.0	38.8	8.4	2.6	16.8

Q11	介護の仕事に対するイメージを教えてください。(各項目について当てはまるものを1つ選んでください)	R6全体 (Q12)	1	2	3	4	5	R5全体 (Q11)	1	2	3	4	5
			とても良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	とても悪い		とても良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	とても悪い
Q11S1	社会的意義の大きさ(社会役に立つことができる)	500	24.2	35.8	35.8	3.0	1.2	500	27.4	33.8	32.6	3.6	2.6
Q11S2	社会的評価の高さ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S3	やりがいの大きさ	500	10.6	34.6	45.8	6.6	2.4	500	14.8	30.2	44.6	6.0	4.4
Q11S4	かっこよさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S5	クリエイティブさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S6	仕事内容の楽しさ	500	3.8	14.0	49.0	22.2	11.0	500	4.4	12.8	47.6	22.0	13.2
Q11S7	資格や専門知識の活かしやすさ	500	11.4	33.8	46.0	6.8	2.0	500	11.2	30.6	48.2	5.6	4.4
Q11S8	昇進やキャリアアップの機会の多さ	500	4.2	16.8	53.0	19.6	6.4	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S9	未経験での始めやすさ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S10	雇用の安定について	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S11	職場の人間関係について	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S12	体力的負担について	500	10.4	14.6	28.8	21.8	24.4	500	10.2	9.6	28.0	25.0	27.2
Q11S13	精神的負担について	500	8.4	16.0	31.8	24.2	19.6	500	10.0	8.8	28.6	26.8	25.8
Q11S14	給与について	500	4.0	8.8	38.8	29.2	19.2	500	3.4	8.6	32.2	29.0	26.8
Q11S15	勤務日や勤務時間の融通の利きやすさ	500	4.2	10.8	48.2	24.8	12.0	500	2.6	10.0	42.6	28.6	16.2
Q11S16	働きやすさ	500	3.4	13.0	48.4	25.2	10.0	500	2.8	10.4	46.2	26.4	14.2
Q11S16	ICTやロボットなどの導入といった生産性向上への取組	500	3.6	14.0	54.6	19.0	8.8	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
Q11S17	業界の成長性・将来性	500	7.4	24.6	52.0	11.2	4.8	500	11.2	27.4	46.4	8.6	6.4

※見やすさの観点から表を分け、上段には令和7年度の調査結果、下段には令和6年度および令和5年度の調査結果を掲載している。

表 244 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたもの

Q12	介護の仕事に関するポジティブなイメージの形成に影響を与えたものを教えてください。	R7 (Q12)	R6 (Q13)	R5 (Q12)
1	身近な人が介護サービスを受けている様子を見たこと	13.4	17.8	17.8
2	実際に介護の現場で働いている・働いていた人からの話	16.0	17.0	21.0
3	親族から聞いた話	14.4	11.4	10.6
4	知人・友人から聞いた話	8.4	8.8	10.2
5	学校の先生から聞いた話、授業で聞いた話	5.4	2.0	2.6
6	介護に関する研修に参加したこと(入門的研修、初心者研修など)	4.4	6.0	N/A
7	介護の仕事の実習や職場体験、インターンに参加したこと	4.4	4.6	N/A
8	介護の現場でボランティア活動(有償/無償)をしたこと	1.4	4.0	N/A
9	介護の現場でアルバイトをしたこと	1.2	3.4	N/A
10	介護に関するイベント	1.6	2.4	4.6
11	介護に関するテレビ番組	12.6	15.6	22.0
12	介護に関するラジオ番組	2.0	1.2	2.0
13	介護に関する新聞記事・広告	3.4	6.0	8.4
14	介護に関する雑誌記事	3.0	3.6	4.2
15	介護に関する書籍・漫画	1.8	2.6	3.4
16	介護に関するWEBコンテンツ(記事)	4.2	6.8	8.0
17	介護に関するWEBコンテンツ(YouTube等の動画)	3.4	3.6	4.4
18	介護に関する映画	1.2	0.8	1.4
19	その他	0.6	1.0	0.6
20	わからない	9.4	12.8	10.4
21	介護の仕事に対してポジティブなイメージは持っていない	40.0	33.4	30.6
	全体	500	500	500

表 245 介護の仕事に関する良いイメージの形成に影響を与えたものとして、
印象に残ったこと
(主なものを抜粋)

- 誠実で一生懸命に介護されている姿に頭が下がる思いを抱いた
- 人と人との絆を築く事ができ、やりがいがある事
- 給料とかではなく一生懸命に取り組んでいる姿勢
- シニアの方々に希望と生きがいを与えていること

表 246 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応

Q14	あなたの子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合、どのように対応するかを教えてください。	R7 (Q14)	R6 (Q15)	R5 (Q14)
1	本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	32.8	37.2	38.8
2	本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	46.4	47.0	43.6
3	本人の希望があったとしても反対する	20.8	15.8	17.6
	全体	500	500	500

表 247 子どもが「介護の仕事に就きたい」と言った場合の対応の理由
(主なものを抜粋)

Q14 の回答	理由
本人の希望であれば、積極的に応援したいと思う	<ul style="list-style-type: none"> • 本人が希望するという事は、よく考えて決めたことだから応援はしたい • 社会貢献になるから • 社会で必要とされるお仕事だと思うので、大変だと思いますが、本人が望むのであれば応援したいと思います
本人の希望であれば応援したいが、「できれば他の仕事も検討したほうが良いのではないか」と伝える	<ul style="list-style-type: none"> • 業務内容が過酷な割に給与水準が低いと思うから • 就職先は多いが重労働で精神的にも肉体的にも過酷だから • 本人の希望であれば、絶対反対というわけではないが、給与や、自分の健康、自分の家族を支えていくための将来設計も含めてトータルで考えて結論を出すように念押しする • 自身の母が介護職の経験があり、体力・金銭面、人間関係、休みのとりにくさ等、良い話はひとつも聞いたことがないから
本人の希望があったとしても反対する	<ul style="list-style-type: none"> • 大変な仕事だから • 給料が低くきつい仕事だから • 体力仕事だから

2. 学校調査

(1) 教員アンケート

表 248 現在勤めている学校

Q1 現在勤めている学校	全体	養成校	高校福祉
1. 高校福祉(介護福祉士養成校)	49.3	14.5	71.8
2. 実務者研修、初任者研修実施校	14.3	0.0	23.5
3. 科目設置校	2.1	0.0	3.5
4. それ以外の高校・高専	0.7	0.0	1.2
5. 福祉系専門学校・短大	25.7	65.5	-
6. 福祉系大学・大学院	7.1	18.2	-
7. それ以外の専門学校・短大	0.7	1.8	-
全体 (n数)	140	55	85

表 249 教員としての経験年数

Q2 教員としての経験年数	全体	養成校	高校福祉
1. 5年未満	15.7	16.4	15.3
2. 5～10年未満	16.4	14.5	17.6
3. 10～20年未満	36.4	47.3	29.4
4. 20～30年未満	21.4	18.2	23.5
5. 30年以上	10.0	3.6	14.1
全体 (n数)	140	55	85

表 250 福祉の授業(※)の受け持ち有無

Q3 福祉の授業(※)の受け持ち有無	全体	養成校	高校福祉
1. 受け持っている	97.1	94.5	98.8
2. 受け持っていない	2.9	5.5	1.2
全体 (n数)	140	55	85

※養成校:介護福祉士養成課程の授業、高校福祉:教科福祉の授業

表 251 介護の仕事への就職経験の有無

Q4 介護の仕事への就職経験の有無について教えてください。	全体	養成校	高校福祉
1. あり	47.9	80.0	27.1
2. なし	49.3	14.5	71.8
全体 (n数)	136	52	84

表 252 介護の仕事の魅力だと感じる点や、
介護の仕事の魅力のなかで特に学生に響いていると感じる点
(主なものを抜粋)

- 介護の魅力は、利用者のために、学び続けながら試行錯誤し、自身やチームで考えたケアが利用者の生活を充実させることにつながり、笑顔を見ることができると。考えて創造し実践する過程として「介護過程」の内容やそれを実習で展開することで、学生に響いていると感じている。
- 言葉以外のアプローチで気持ちが伝わったと感じた瞬間は忘れられない。動けないはずの体を動かそうとしながら「ありがとう」と言われたときは鳥肌が立った。それは経験談として学生にも伝えている。
- 人の尊厳を守れるということ。人生の最後にどう過ごすのかを考え、支えられるところ。
- 介護福祉士国家資格を取得し、将来の生活設計を築けるよう「介護技術」のスキルアップを常に心がけてほしい。

表 253 (介護の仕事の就職経験がある場合) 合計勤続年数

Q6 合計勤続年数について教えてください。	全体	養成校	高校福祉
1. 5年未満	10.7	10.9	10.6
2. 5～10年未満	14.3	30.9	3.5
3. 10～20年未満	15.0	32.7	3.5
4. 20～30年未満	5.0	5.5	4.7
5. 30年以上	2.9	0.0	4.7
全体 (n数)	67	44	23

表 254 介護の仕事が向いている人はどのような人か

Q7 介護の仕事が向いている人はどのような人ですか。	全体	養成校	高校福祉
1. 人とかかわるのが好きな人	80.7	72.7	85.9
2. 人に興味がある人	72.9	76.4	70.6
3. 相手に何かをして喜んでもらうことが好きな人	60.7	54.5	64.7
4. コミュニケーション能力が高い人	51.4	49.1	52.9
5. 素直な人	60.7	60.0	61.2
6. 気持ちの切り替えがうまい人	50.0	47.3	51.8
7. 介護の仕事に対する意欲が高い人	57.9	52.7	61.2
8. 利用者に寄り添う気持ちがある人	79.3	70.9	84.7
9. その他	12.9	14.5	11.8
10. 無回答	2.9	5.5	1.2
全体 (n数)	140	55	85

表 255 介護福祉について学んでいる学生が介護業界に就職する場合に心配なこと/懸念していること

Q8 介護福祉について学んでいる学生が介護業界に就職する場合に、心配なこと・懸念していることはありますか。	全体	養成校	高校福祉
1. ある	76.4	81.8	72.9
2. ない	7.1	3.6	9.4
3. どちらとも言えない	16.4	14.5	17.6
全体 (n数)	140	55	85

表 256 心配なこと/懸念していること

Q9 心配なこと・懸念していることを教えてください。	全体	養成校	高校福祉
1. 体力的に大変なこと	27.1	23.6	29.4
2. 精神的に大変なこと	49.3	45.5	51.8
3. 労働内容に給与が見合っていないこと	40.7	45.5	37.6
4. 社会的に評価が低いこと	40.0	45.5	36.5
5. その他	20.0	29.1	14.1
6. 無回答	0.0	0.0	0.0
全体 (n数)	107	45	62

(2) 学生アンケート

表 257 学校

Q1 通っている学校	全体	養成校	高校福祉
1. 高校福祉(介護福祉士養成校)	63.4	21.9	77.1
2. 実務者研修、初任者研修実施校	8.0	0.3	10.5
3. 科目設置校	4.9	0.0	6.6
4. それ以外の高校・高専	4.4	0.0	5.8
5. 福祉系専門学校・短大	14.5	58.7	-
6. 福祉系大学・大学院	3.0	11.9	-
7. それ以外の専門学校・短大	1.0	4.2	-
8. それ以外の大学・大学院	0.7	2.9	-
全体 (n数)	1,253	310	943

表 258 学部・学科

Q2 通っている学部・学科(コース)	全体	養成校	高校福祉
1. 普通科	2.2	1.9	2.2
2. 総合学科	8.5	0.6	11.1
3. 福祉系の学科(介護福祉)	79.4	90.6	75.7
4. 福祉系の学科(介護福祉以外)	6.6	5.2	7.1
5. 保健・医療系の学科	0.4	0.0	0.5
6. その他	2.9	1.6	3.3
全体 (n数)	1,253	310	943

表 259 学年

Q3 学年	全体	養成校	高校福祉
1年生	29.4	46.8	23.6
2年生	36.6	43.9	34.3
3年生	32.5	4.5	41.7
4年生	0.6	2.3	0.0
エラー・無回答	0.8	2.6	0.2
全体 (n数)	1,251	310	941

表 260 年齢

Q4 年齢	全体	養成校	高校福祉
1. 10代	-	39.4	-
2. 20代	-	48.7	-
3. 30代	-	4.5	-
4. 40代以上	-	7.4	-
全体 (n数)	-	310	0

表 261 留学生か否か

Q5 留学生か否か	全体	養成校	高校福祉
1. 留学生である	5.9	19.0	1.6
2. 留学生ではない	94.1	81.0	98.4
全体 (n数)	1,253	310	943

表 262 介護福祉について勉強をしようと思ったきっかけ

Q6 介護福祉について勉強をしようと思ったきっかけはなんですか。	全体	養成校	高校福祉
1. 家族や親せきの介護をしたこと、見たこと	28.9	31.9	27.9
2. 家族や親せきに介護の仕事をしている人がいたこと	32.9	22.3	36.4
3. 職場体験やインターンシップなどで介護施設に行ったこと	11.6	16.8	9.9
4. 介護について授業を受けたこと	11.3	14.8	10.2
5. 介護について研修(入門的研修、初任者研修など)を受けたこと	2.7	6.5	1.5
6. 介護施設でボランティア活動(お給料あり/なし)をしたこと	6.7	11.3	5.2
7. 家族や友人、知人から介護福祉を学ぶことや、 介護の仕事を勧められたこと	29.3	26.5	30.2
8. 新聞や雑誌、インターネット等で介護の仕事について知ったこと	9.6	9.4	9.7
9. その他	17.3	14.5	18.2
10. 無回答	0.3	0.3	0.3
全体 (n数)	1,253	310	943

表 263 卒業後の進路

Q7 学校を卒業したあと、どうしたいですか。	全体	養成校	高校福祉
1. 働く	47.0	88.7	33.3
2. 学校で勉強を続ける	34.2	3.5	44.2
3. 迷っている・考えたことがない	14.8	7.1	17.3
4. その他	3.8	0.6	4.9
5. 無回答	0.2	0.0	0.3
全体 (n数)	1,253	310	943

表 264 将来したい仕事について考えたことがあるか否か

Q8 将来、どのような仕事をしたいか考えたことがありますか。	全体	養成校	高校福祉
1. 考えたことがある	88.1	86.1	88.8
2. 考えたことがない	11.8	13.9	11.1
3. 無回答	0.1	0.0	0.1
全体 (n数)	1,253	310	943

表 265 (将来したい仕事について考えたことがある場合)

「介護の仕事」が入っているか否か

Q9 将来したい仕事の中に、「介護の仕事」は入っていますか。	全体	養成校	高校福祉
1. 将来したい仕事の中に、「介護の仕事」が入っている	47.8	71.3	40.1
2. 将来したい仕事の中に、いまは「介護の仕事」は入っていないが、 以前は「介護の仕事」をしようと考えていたことがある	21.4	9.0	25.5
3. 将来したい仕事の中に、「介護の仕事」は入っていないし、いままで 「介護の仕事」をしようと考えたことはない	18.6	5.5	22.9
4. 無回答	0.3	0.3	0.3
全体 (n数)	1,104	267	837

表 266 将来したい仕事の中に「介護の仕事」が入っている/入っていない理由
(主なものを抜粋)

Q9の回答	理由
<p>将来したい仕事の中に、「介護の仕事」が入っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学校で学んだことを活かして介護の仕事をしたと思った • その方の生活を一番近くで支えられるという素敵な職業に惹かれました • 実習で介護を学ぶ上で楽しさも経験したし、その方が望むことを実現できた時の達成感があったから • 姉が介護をしていて楽しそうだから • 家族に将来介護が必要になる人が出た時に、自分で介護を行うことができるようにしたいと思ったから • 高齢化が進む日本で、介護は必ず必要とされる仕事 • 介護という仕事は私にとっては好きなことなので仕事にしたい
<p>将来したい仕事の中に、いまは「介護の仕事」は入っていないが、以前は「介護の仕事」をしたいと考えていたことがある</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 最初は高校に入学するときは、「福祉は介護しかない」と軽い気持ちでしたが、いざ入学してみたくさんの人と関わり、色々な世界を見て考えが変わったから • 実習でやりがいはあったが、大変で収入が少ないと知ったから • 排泄介助が苦手であること、また、責任感が伴うため私にとって大きなストレスがかかってしまうと感じたため • 実技授業で体がキツいため、体力も力もない自分には向いてないと思った
<p>将来したい仕事の中に、「介護の仕事」は入っていないし、いままで「介護の仕事」をしたいと考えたことはない</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 小さい頃から理学療法士に憧れを抱いていたから • 介護はメンタル、力仕事なのにまだまだ仕事に見合わないお給料なため。仕事自体はいい仕事だと思う。 • 体力的や精神的な問題できつと感じたから • 実習に行って自分には合わないと思ったから • 資格が欲しかったので。資格として使うかはまだわかりません。

表 267 (将来したい仕事について考えたことがある場合)
「介護の仕事」以外にしたい仕事

Q11 「介護の仕事」以外に、将来してみたい仕事はありますか。	全体	養成校	高校福祉
1. 福祉(介護の仕事以外)	34.0	40.0	32.0
2. 医療	25.4	8.7	30.9
3. 農業、林業、漁業	2.6	4.5	2.0
4. 建設業	1.6	1.6	1.6
5. 製造業(メーカー)	2.5	1.3	2.9
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	0.2	0.0	0.2
7. 情報通信業(通信・インターネット、メディア、情報サービスなど)	2.7	2.9	2.7
8. 運輸業(鉄道、バス・タクシー、トラックなど)、郵便業	1.5	1.3	1.6
9. 金融業、保険業	0.5	1.0	0.3
10. 不動産業、物品賃貸業	0.9	1.3	0.7
11. 教育、学習支援業	14.0	10.6	15.1
12. 保安の職業(自衛官・警察官・消防員や警備など)	1.8	1.3	2.0
13. 販売業(アパレルなど小売店やデパートでの販売やセールス)	7.5	5.8	8.1
14. 飲食サービス業、宿泊業	11.0	12.3	10.6
15. 生活関連サービス業、娯楽業(クリーニング、理美容、旅行業など)	5.1	2.6	5.9
16. 専門・技術サービス業、学術研究(法律、会計、デザイン事務所など)	5.0	3.2	5.6
17. サービス業(他に分類されるものを除く)(廃棄物処理業、自動車整備業など)	1.6	2.3	1.4
18. 公務(他に分類されるものを除く)	3.8	5.5	3.3
19. 就職先候補として考えているのは「介護の仕事」のみ	5.1	9.4	3.7
20. その他	8.5	7.7	8.8
21. 無回答	13.6	18.4	12.0
全体 (n数)	1,866	439	1,427

表 268 介護の仕事は就職先として魅力的だと思うか否か

Q12 介護の仕事は就職先として魅力的だと思いますか。	全体	養成校	高校福祉
1. 思う	62.4	65.2	61.5
2. 思わない	6.8	6.1	7.0
3. どちらともいえない	29.9	28.1	30.5
4. 無回答	0.9	0.6	1.0
全体 (n数)	1,253	310	943

表 269 介護福祉についての勉強や介護の仕事に就きたいと思っていることを周囲へ相談した経験の有無

Q13 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしりしよと思ったときに、誰かに相談しましたか。	全体	養成校	高校福祉
1. 相談したことがある	52.5	60.6	49.8
2. 相談したことはない	42.5	37.1	44.2
3. 介護福祉について勉強したり、介護の仕事をしりしよと考えたことがない	4.8	1.9	5.7
4. 無回答	0.2	0.3	0.2
全体 (n数)	1,253	310	943

表 270 (相談した経験がある場合) 親の反応

Q14 相談したときの相手の反応を教えてください。(親)	全体	養成校	高校福祉
応援	85.3	76.1	88.9
反対	3.3	6.4	2.1
どちらともいえない	10.2	14.4	8.5
相談していない	0.9	2.1	0.4
無回答	0.3	1.1	0.0
全体 (n数)	658	188	470

表 271 (相談した経験がある場合) 親以外の親戚の反応

Q15 相談したときの相手の反応を教えてください。(親以外の親戚)	全体	養成校	高校福祉
応援	62.8	56.4	65.3
反対	3.3	5.3	2.6
どちらともいえない	7.6	10.1	6.6
相談していない	21.0	23.9	19.8
無回答	5.3	4.3	5.7
全体 (n数)	658	188	470

表 272 (相談した経験がある場合) 介護福祉を学んでいる/学んだことのある友人の反応

Q16 相談したときの相手の反応を教えてください。 (介護福祉を学んでいる/学んだことがある友人)	全体	養成校	高校福祉
応援	50.2	48.4	50.9
反対	2.9	3.2	2.8
どちらともいえない	7.0	11.2	5.3
相談していない	34.0	33.0	34.5
無回答	5.9	4.3	6.6
全体 (n数)	658	188	470

表 273 (相談した経験がある場合) 介護福祉を学んでいない/学んだことのない友人の反応

Q17 相談したときの相手の反応を教えてください。 (介護福祉を学んでいない/学んだことがない友人)	全体	養成校	高校福祉
応援	52.9	48.9	54.5
反対	4.0	5.9	3.2
どちらともいえない	10.8	16.0	8.7
相談していない	25.5	24.5	26.0
無回答	6.8	4.8	7.7
全体 (n数)	658	188	470

表 274 (相談した経験がある場合) 介護職員の反応

Q18 相談したときの相手の反応を教えてください。(介護職員)	全体	養成校	高校福祉
応援	45.6	45.7	45.5
反対	1.5	1.6	1.5
どちらともいえない	6.2	11.2	4.3
相談していない	40.3	37.2	41.5
無回答	6.4	4.3	7.2
全体 (n数)	658	188	470

表 275 (相談した経験がある場合) 通っている学校の教員の反応

Q19 相談したときの相手の反応を教えてください。(通っている学校の教員)	全体	養成校	高校福祉
応援	71.0	73.9	69.8
反対	0.9	2.7	0.2
どちらともいえない	6.1	7.4	5.5
相談していない	16.3	11.7	18.1
無回答	5.8	4.3	6.4
全体 (n数)	658	188	470

表 276 (相談した経験がある場合) その他の人の反応

Q20 相談したときの相手の反応を教えてください。(その他の人)	全体	養成校	高校福祉
応援	20.7	22.9	19.8
反対	1.4	2.7	0.9
どちらともいえない	7.4	12.2	5.5
相談していない	46.2	49.5	44.9
無回答	24.3	12.8	28.9
全体 (n数)	658	188	470

表 277 (相談した経験がある場合) 相談したことによる気持ちの変化

Q21 相談したことで、気持ちは変わりましたか。	全体	養成校	高校福祉
1. 介護について勉強したり、介護の仕事をしりしようという気持ちが強くなった	54.6	58.5	53.0
2. 介護について勉強したり、介護の仕事をしりしようとするこについて迷い始めた	21.0	15.4	23.2
3. 介護について勉強したり、介護の仕事をしりしようとするこをやめることになった	1.5	0.5	1.9
4. 特に気持ちは変わらなかった	22.8	25.0	21.9
5. 無回答	0.2	0.5	0.0
全体 (n数)	658	188	470

表 278 応援してもらったときに心に残った言葉
(主なものを抜粋)

- いつでも応援してるよ
- あなたは人の心に寄り添うのが得意だったり、人の相談に乗るのが上手いから、介護の仕事すごく合ってると思うよ
- 自分で選んだ道だから頑張りなさい
- 介護職は必要とされる仕事、とてもやりがいのある仕事

表 279 反対されたときに記憶に残った言葉
(主なものを抜粋)

- 介護は給料少ないし、重労働だから、もっと安心して働ける場所にしない
- 労働と給料が見合っていないし、ストレスが溜まりやすい。続けられる自信と覚悟がないならやめときなさい。
- 辛いんだよ、身体が弱いんだからやめときなよ
- 介護福祉士より看護師の方がいいよ。看護師の方が給料が高いし偉いから。

付属資料5. 「介護の仕事に関するヒアリング調査」ヒアリング録

ヒアリング日時	2025年12月26日(金)14:00～16:00
ヒアリング開催方法	対面
ヒアリング対象者	全国福祉高等学校長会加盟校（介護職員初任者研修実施校） 教員

1. 高校生の介護の仕事への関心

(1) 福祉系高校と初任者研修実施校の生徒たちの違い

現在は、普通科の生徒に初任者研修を行う高校（初任者研修実施校）に勤務している。

福祉系高校（介護福祉士養成施設）の生徒たちは、中学生のときに福祉系高校に進むと進路を決めているくらいなので、介護職に対してポジティブなイメージを持っている生徒が多い。こうした生徒たちの周りには、自身が介護職に就いているなどの理由から、介護職に対してポジティブなイメージを持っている保護者がいることも多い。

一方で、現在着任している初任者研修実施校や科目設置校の生徒たちは、福祉系高校の生徒と比較すると、保護者が介護職であるという生徒が少ないためか、介護職に関する情報に触れる機会も少なかったようだ。そのためか、介護の仕事にそれほど魅力を感じるに至っていない様子である。「将来的に（介護福祉士）資格を取ることにつながるから」という理由で入学を決めた生徒が多く、なかには介護職が具体的にどのような仕事をするのか知らないまま入学する生徒もいる。介護の仕事の魅力を十分に感じる機会がないまま、介護職に就職している生徒もいるかもしれない。介護職に従事している大人が身近にいない生徒たちをどう介護職につなげるかが課題であると感じるため、そのヒントとして、今後の調査で、初任者研修実施校や科目設置校の生徒たちが、なぜ初任者研修実施校や科目設置校への進学を選んだのか調べていくと良いのではないかと。

(2) 介護を学んでいた生徒が進路変更をする理由

介護を学んでいた生徒が看護師や理学療法士等に進路変更する主な理由は、生徒が参加した実習現場での介護職の地位・他職種との関係性の影響も大きいと感じる。実習先の介護職の言動により、生徒が「介護職より看護職の方が偉い」と感じ、看護職に進路変更した事例を目にしたこともある。生徒が誰とかわかるか、どう介護に接触するか、ということが進路選択に大きな影響を持っているようである。

2. 入門的研修等を通じた、生徒たちや生徒の周りの大人たちへの働きかけ

(1) 生徒や生徒の周りの大人たち（教員・保護者）へのアプローチ

特に高校生や大学生に介護職の魅力を実感的に理解してもらうには、まず入門的研修を受講してもらうのが適しているのではないかと。入門的研修は受講時間21時間のため、3、4日で修了することができるうえ、研修の中で実際の介護職が話す時間も設けられている。前任校（高校）では入門的研修を普通科の生徒たちに受けてもらったことがある

が、「介護職の話聞いて介護福祉に興味を持った」、「こういう仕事があると知ることができた」という感想が寄せられた。

また、教員や保護者など、生徒の周りの大人たちに関しては、魅力発信等事業で小中学校にアプローチしていることの効果は感じており、以前より介護福祉について理解のある小中学校の教員は多いように思う。一方で、小中学校の保護者の介護福祉に対する理解はまだ広まっていないと感じる。介護職を養成すること自体も大事だが、生徒が介護の仕事に進むにあたり、教員や保護者からの賛同が得られない、いわゆる「教員の壁」「保護者の壁」がある。そのため、学校のPTAや保護者会で保護者向けに入門的研修のサマリーのようなものを実施する機会を設け、「こういう仕事がある」と保護者に理解いただくなど、まずは福祉や介護に関心を持つ人の裾野を広げていくことが重要ではないか。

(2) 学校校舎での入門的研修の実施

入門的研修は、初任者研修実施校や科目設置校の校舎でも実施可能である。研修で用いるベッドは保健室のベッドを活用し、車椅子は近隣施設等から借用することで対応できる。以前、学校での入門的研修を企画・開催したことがあるが、当初最も反対したのは校内の教員で、仕事が増えることを理由に懸念を示していた。しかし、当校所在自治体では、市町村が入門的研修の企画を行っているため、学校としては入門的研修の場所貸しと参加者募集を担うだけで、実際の研修実施と修了書発行は市町村が行う。そのため、現場教員の負担は非常に少ない。また、入門的研修を受けた生徒については、校内の進路部と連携して、大学進学にあたって必要となる調査書に入門的研修を修了したことを記入してもらうように工夫したことが、生徒たちが入門的研修に関心を持つきっかけになったようだ。

なお、研修の中で介護職の話聞く時間では、近年の報道の影響もあるのか、生徒たちは給与面を最も気にしており、手取り額について質問していた。高校生だからこその率直な質問である。研修後のアンケートでは「意外と給与が良いと分かった」という感想もあった。

(3) 出前授業の効果

生徒たちの学びのために施設を訪問する取組もあるが、新型コロナウイルス感染症の流行以降、生徒たちが実習等で施設に行くのは引き続きハードルが高く、調整が大変であるため、魅力発信等事業でも行われているような出前授業の取組はありがたい。例えば中学校では、期末考査の後にも授業が続くと聞くが、その間、成績処理をしながら授業をするのは教員にとって負担となっているため、その間に介護職が出前授業に来てくれると、教員にはありがたいし、生徒にも学びもある。なお、出前授業の直後は介護の仕事に関心を持っていた生徒たちも、時間が経つと熱が冷めてしまうため、定期的に出前授業の機会があるといいかもしれない。以前、出前授業の2か月後に、生徒たちに入門的研修の募集を行ったところ、多くの応募があった。出前授業で生徒たちが介護の仕事に興味関心を持つ

たときに、「この介護職のようになるためには、こういう研修・学校がある」ということを示すことができると良いのではないか。生徒の関心が強い時期に次のステップを示すことができないと、生徒の気持ちが離れてしまうため、進路として選ばなくなってしまいうだろう。

また、介護職に関心がある生徒が、施設の様子を見ることができる機会のひとつとして、高校生のアルバイトを募集してはどうかと施設に提案したことがある。定期考査中はシフトから外す、18時から20時まで2時間だけ働くなど、施設側も配慮をしてくれる。事前に入門的研修等で少しでも知識を持っていると、生徒側も「これならできるかも」と思える。

(4) 入門的研修等の校外との外部連携を行うためのポイント

先生方は忙しいとは思うものの、福祉科の生徒の学習発表会に普通科の教員を呼ぶなど、福祉科の教員が、校内の他の教員に向けて積極的に発信を行っている学校では、外部連携がうまくいっている。ひっそり発信するのではなく、「福祉科ではこんなことを行っている！」と積極的に発信するのが大事である。家庭科に福祉に関する内容も含まれるため、普通科の教員の中でも、特に家庭科教員がキーマンになるかもしれない。福祉科教員が家庭科教員に働きかけて、情報交換ができると良い。校内発信をして、福祉科が何をしているのか、介護福祉とは何か、普通科の教員に理解・応援いただくことが大事である。

3. 研修に関する高校、大学・専門学校の連携提案

入門的研修・初任者研修修了後、介護福祉士資格の取得までのフローが地続きになっていないように感じる。現任校の学生に初任者研修を受けさせているが、当校所在自治体には、介護福祉士資格に挑戦するにあたって、研修を修了したことを単位認定してくれるような進学先がない。そのため研修を修了したあと、介護・福祉について学問的に学びたいと考える生徒や、介護福祉士資格を取りたいと考える生徒に対して、次のステップが地続きに連なっていない。高校で受けた入門的研修等について、大学や専門学校などで単位認定する、あるいは入門的研修を受講していれば入学金の減免がされるなど、高校、大学・専門学校の連携が強化されると、高校で学んだあとの見通しが立ちやすくなるのではないか。また、福祉系高校の募集定員は都道府県が定めているが、当校所在自治体では福祉系高校の定員が年間数十名に限られる。そのため、福祉系高校だけで介護職志望者を受け入れることには限界があり、福祉系高校以外の高校に進学した生徒にどうアプローチするかが重要である。単位認定の仕組みがあれば、こうした生徒たちが学ぶ場をスムーズに提供できると考える。

また、現場では、初任者研修を修了した介護職と介護福祉士とでは給与が異なるが、介護福祉士資格を取得するための実務者研修を施設の福利厚生などで受講できるかということ、施設により差がある。そのため、現場で働く介護職が、実務者研修を受講しやすいよ

うに、実務者研修を受講できる大学、専門学校を増やし、受け皿を増やせると良いのではないか。制度をうまく活用して、福祉の道を選ぶ生徒を増やすことにつなげられないかと考えている。

4. その他

(1) 教員の懸念

□教員の懸念として、新型コロナウイルス感染症の影響で現場に出られなかった生徒たちのフォローが難しいという話を聞いたことがある。利用者とのコミュニケーションや職員同士の会話など、実習の場におけるコミュニケーションを学ぶ機会がなかった生徒たちにはフォローが必要である。いまの高校生はコミュニケーションに苦手意識のある生徒がいるようにも感じる。具体的には、困ったときに「困った」と言えない、初対面の人と話ができない、挨拶ができない、思いを伝えるのが苦手であるなど。自分の感情の表出ができないと、相手、ひいては利用者の感情を受け取ることができない。福祉系高校の生徒たちは、在学中の3年間で60日間ほど実習に行くため、実習の中でまずは挨拶をすることから練習を積めるが、初任者研修実施校や科目設置校の生徒たちはそういった機会がない。

(2) 自治体における福祉を学ぶ生徒・学生を増やすための取組

当校所在自治体ではないが、他の自治体では、地域医療介護総合確保基金を活用して、福祉を学ぶ高校生たちに「貸与」という形で制服や授業料を無料にしているそうだ。困窮した家庭の子どもたちでも、福祉について学びたいという気持ちがあれば、こうしたサポートのもと介護福祉士資格を取ることができる。

別添資料. 情報発信事業 事業効果分析計画・結果一覧

情報発信事業の事業効果分析計画・結果は Excel ファイルにて整理したため、本報告書内への掲載は割愛する。上記 Excel ファイルについては弊社ホームページに掲載予定のため、そちらを参照されたい。

令和7年度生活困窮者就労準備支援費等補助金（民間団体実施分）

厚生労働省 令和7年度介護のしごと魅力発信等事業
事業間連携等事業
報告書

令和8年3月

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー

TEL : 03-6257-0700 (代表)

Copyright (C) 2026 PwC Consulting LLC. All rights reserved.

本報告書の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。